

令和7年度
市民意識調査結果報告書

令和8年3月



目 次

1 調査の概要	1
2 調査結果	2
(1) 回答者属性	2
問 1 性別	2
問 2 年齢	2
問 3 居住地区	2
(2) 住みごこちや愛着等について	3
問 4 東近江市の住みごこち	3
問 5 東近江市に住み続けたいか	5
問 6 東近江市への愛着	7
問 7 東近江市を自慢できるか	9
問 8 「鈴鹿 10 座」の認知度	11
問 9 友人・知人に東近江市を紹介するところ	13
問 10 近江鉄道八日市駅周辺の訪問頻度	15
問 11 中心市街地（八日市駅周辺）が活性化するために必要なこと	17
(3) 健康や福祉について	19
問 12 かかりつけ医の有無	19
問 13 医療体制への満足度	21
問 14 健康づくりのために取り組んでいること	23
問 15 昨年度のがん検診受診状況	29
問 16 朝食を食べているか	37
問 17 朝食で「①主食」「②主菜」「③副菜」を食べる頻度	41
問 18 運動の実施頻度	45
問 19 不安、悩み、ストレスを感じたか	47
問 20 不安、悩み、ストレスは解消できているか	51
問 21 東近江市民の障害者に対する理解	53
問 22 障害者に対する理解に向けて今後特に力を入れるべきこと	55
(4) 環境や暮らしについて	57
問 23 市の自然環境保全の取組への満足度	57
問 24 自然との関わりの実感度	59
問 25 環境にやさしい取組の実践	61
問 26 東近江市の働く場所は十分か	63
問 27 男女の地位は平等になっているか	65
問 28 消費生活センターの認知度	70
問 29 市民生活相談課の認知度	72
問 30 市内の公共交通への満足度	74

問 31	近江鉄道について	76
問 32	近江鉄道の利用頻度	78
問 33	災害への備え	82
(5)	子育てや教育関連の取組について	84
問 34	子育てをするのに良い環境か	84
問 35	通学路の安全確保について	86
問 36	人権が尊重されるまちになっているか	88
問 37	人権に関する講座等への参加	90
(6)	都市整備について	92
問 38	市内の都市基盤整備に対する満足度	92
(7)	購買状況等について	101
問 39	食品や日用雑貨品、衣料品等の購入先	101
問 40	野菜等を購入する際の基準	106
問 41	市内の農産物直売所の利用状況	108
問 42	東近江市三方よし商品券（地域商品券）の利用状況	110
問 43	東近江市三方よし商品券が電子支払い可能になったら利用したいか	112
問 44	キャッシュレス決済の利用頻度	114
(8)	協働のまちづくりについて	122
問 45	協働のまちづくりができていますか	122
問 46	地域での住民同士の助け合いができていますか	124
問 47	地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加状況	126
問 48	多文化共生社会の実現	130
(9)	広報等の情報について	132
問 49	市の情報（お知らせ）の取得方法	132
問 50	「広報ひがしおうみ」を読んでいるか	135
問 51	「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度	139
問 52	「東近江市議会だより」を読んでいるか	148
問 53	「市議会本会議」の様子を見たことがあるか	150
(10)	市役所のサービスに関して	152
問 54	市役所のデジタルサービスについて	152
問 55	市役所職員の対応の印象	154
(11)	まちづくりに対する意見等について	156
問 56	まちづくりに対する意見や提案（自由記述）	156
3	総括	159
4	調査票	163

1 調査の概要

(1) 調査の目的

東近江市では、「うるおいとにぎわいのまち東近江市」を目指し、平成28年度に策定した「第2次東近江市総合計画」に基づき、まちづくりを進めています。住みよいまちを実現するために、市民の意識や生活スタイルなど、まちづくりに関する幅広い意見を聞くことを目的に、市民意識調査を実施しました。

(2) 調査対象

令和7年7月1日現在、東近江市在住の満18歳以上の市民3,055人を対象としました。（住民基本台帳から無作為抽出）

(3) 調査期間

令和7年7月16日から同年8月4日まで

(4) 調査方法


郵送による配布・回収、無記名

(5) 回収状況

調査票の配布数3,055件に対し、宛先不明として返送されてきた調査票が15件あり、到達した配布数は3,040件でした。回収した調査票数1,318件に対し、無効の調査票数は2件で、有効回収調査票数は1,316件、回収率は43.3%でした。

配 布			回 収			到達配布数に対する回収率
配布数	不到達数	到達配布数	回収調査票数	無効調査票数	有効回収調査票数	
3,055	15	3,040	1,318	2	1,316	43.3%

(6) 調査結果の表示方法

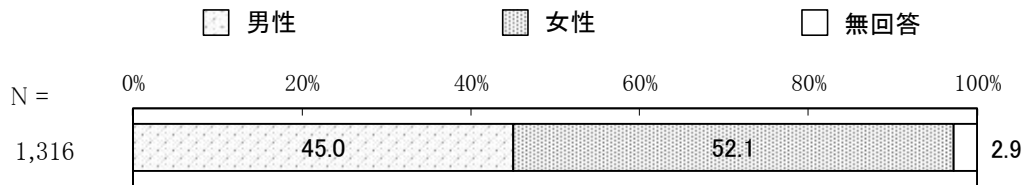
- ・回答は、各設問の有効回答数（N）を母数とした百分率（%）で示しています。また、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答の設問については、回答者が全体（N=1,316）に対してどのくらいの比率であるかという表記になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。ただし、分岐設問の場合は、Nの値が異なります。
- ・調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外の表（複数選択の設問）は、最も高い割合の回答（無回答を除く。）に  で網かけをしています。
- ・指定の回答数以上の回答や分岐設問等での誤った回答などは、「その他」の設問がある問は「その他」として、そのほかはすべて「無回答」として集計しています。
- ・性別や年代別、居住地区別の集計の場合、無回答を排除しているため、その有効回答数の合計と全体の有効回答数が合致しないことがあります。
- ・クロス集計結果は、有効回答数が非常に少ない場合、単純比較ができないためコメントから除外しています（例：年代別「10歳代」（N=7）、居住地区別「わからない」（N=2）など）。

2 調査結果

(1) 回答者属性

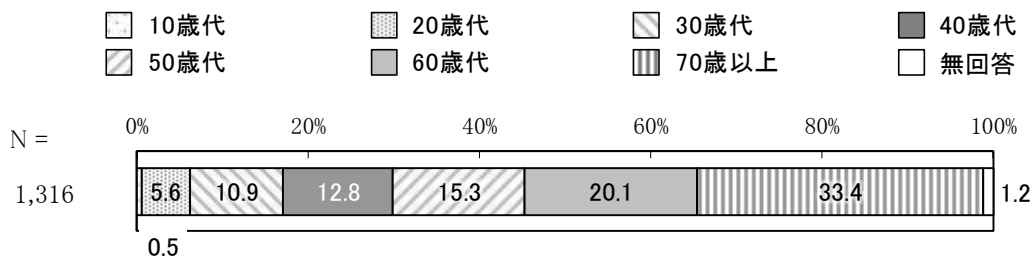
問1 性別

- 「男性」が45.0%、「女性」が52.1%で、女性が多くなっています。



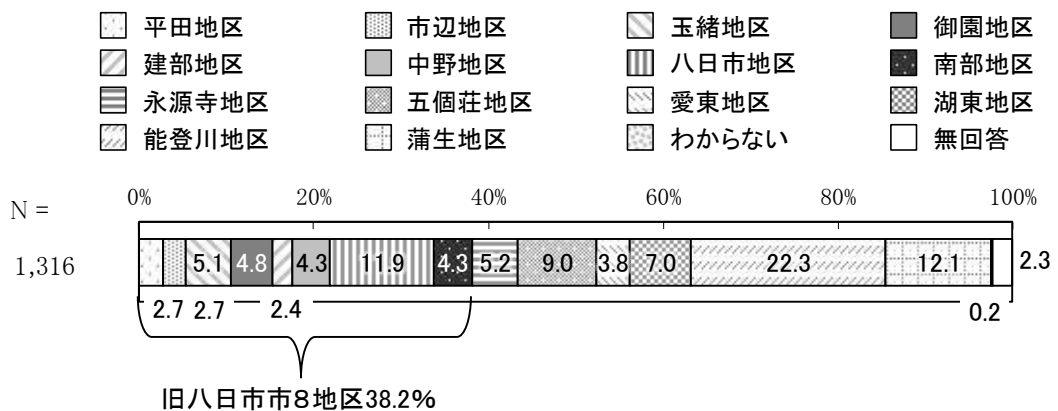
問2 年齢

- 年齢については、「70歳以上」が33.4%と最も多く、次いで「60歳代」が20.1%で、60歳以上が53.5%と半数以上を占めています。



問3 居住地区

- 居住地区については、「能登川地区」が22.3%と最も多く、次いで「蒲生地区」が12.1%、「八日市地区」が11.9%となっています。
- 旧八日市市の8地区を合計すると、38.2%となっています。

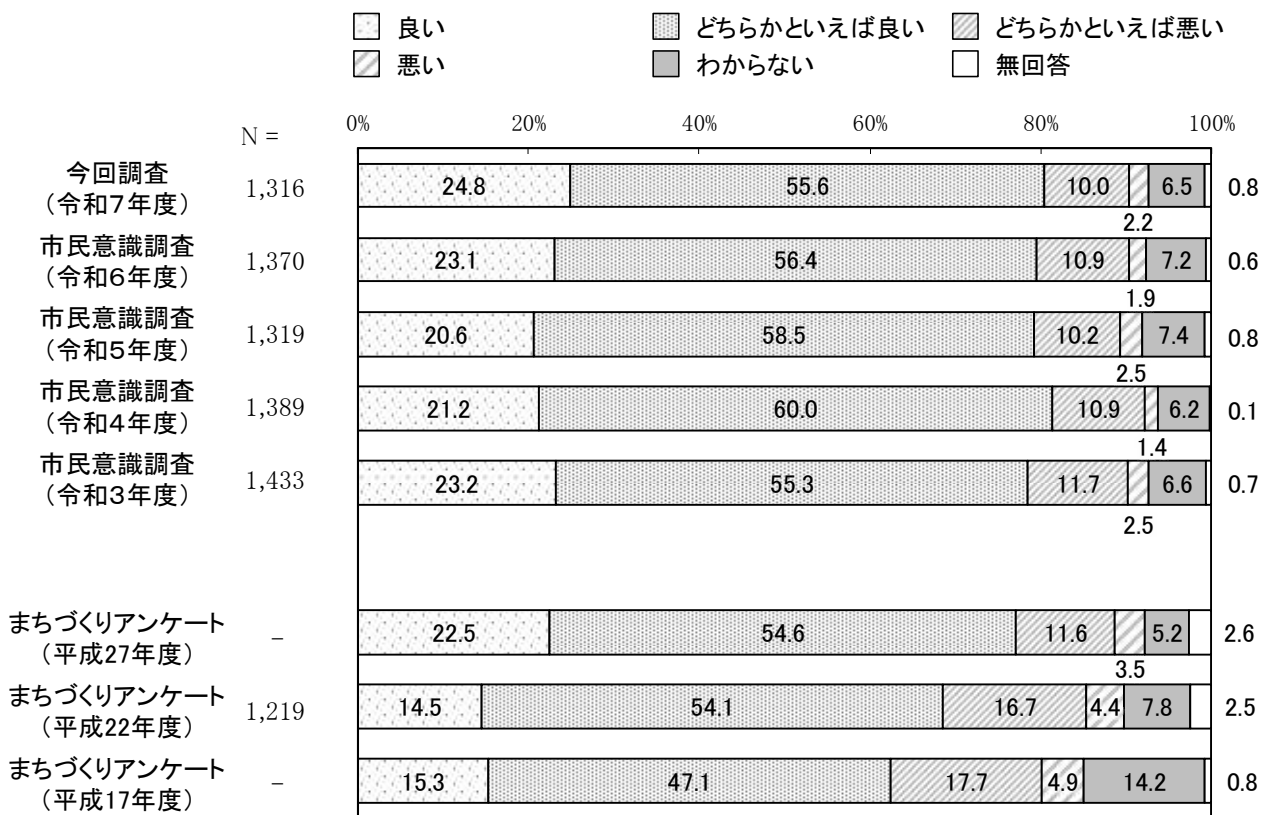


(2) 住みごこちや愛着等について

問4 あなたは、東近江市の住みごこちをどう思いますか。《○1つ》

8割が住みごこちが良い

- 東近江市の住みごこちについては、「良い」が24.8%、「どちらかといえば良い」が55.6%で、これらを合わせると80.4%となり、8割の人が住みごこちが良いと感じています。一方、「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせると12.2%となっています。
- 年代別では、住みごこちが良い（「良い」と「どちらかといえば良い」の合計）の割合が40歳代、60歳以上で8割を超えています。
- 居住地区別では、住みごこちが良い（前述）の割合が、建部地区で9割を超えている一方で、平田地区、蒲生地区、湖東地区、愛東地区で住みごこちが悪い（「どちらかといえば悪い」と「悪い」の合計）の割合が2割近く見られます。



単位：%

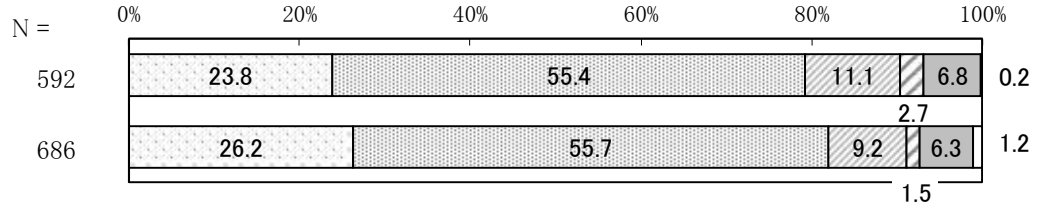
	良い*	悪い*	差
①今回調査(令和7年度)	80.4	12.2	68.2
②市民意識調査(令和6年度)	79.5	12.8	66.7
③市民意識調査(令和5年度)	79.1	12.7	66.4
④市民意識調査(令和4年度)	81.2	12.3	68.9
⑤市民意識調査(令和3年度)	78.5	14.2	64.3
①-⑤	1.9	-2.0	3.9
まちづくりアンケート(平成27年度)	77.1	15.1	62.0
まちづくりアンケート(平成22年度)	68.6	21.1	47.5
まちづくりアンケート(平成17年度)	62.4	22.6	39.8

* 良い:「良い」と「どちらかといえば良い」の合計

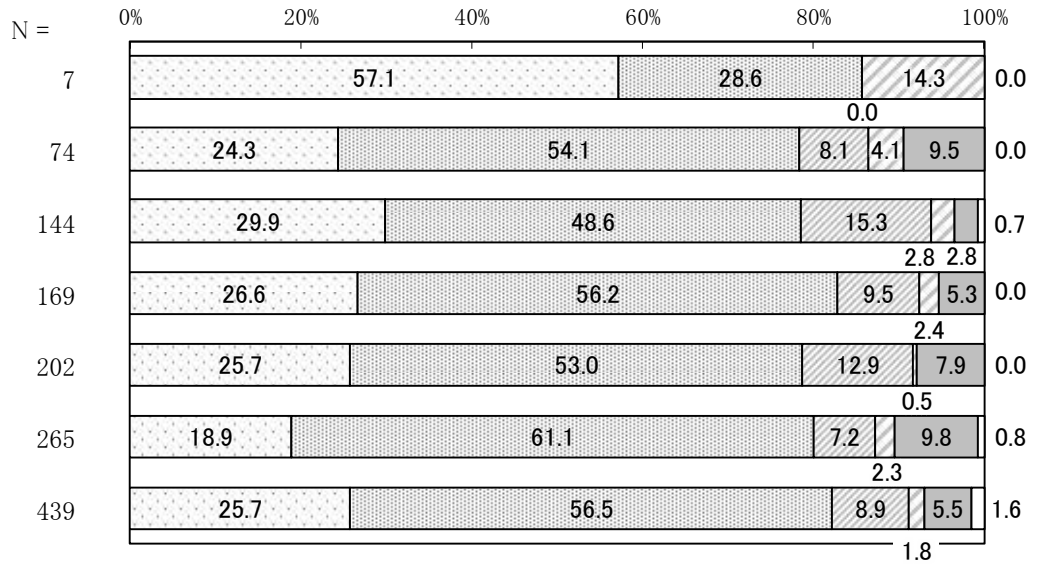
* 悪い:「どちらかといえば悪い」と「悪い」の合計

良い
 どちらかといえば良い
 どちらかといえば悪い
 悪い
 わからない
 無回答

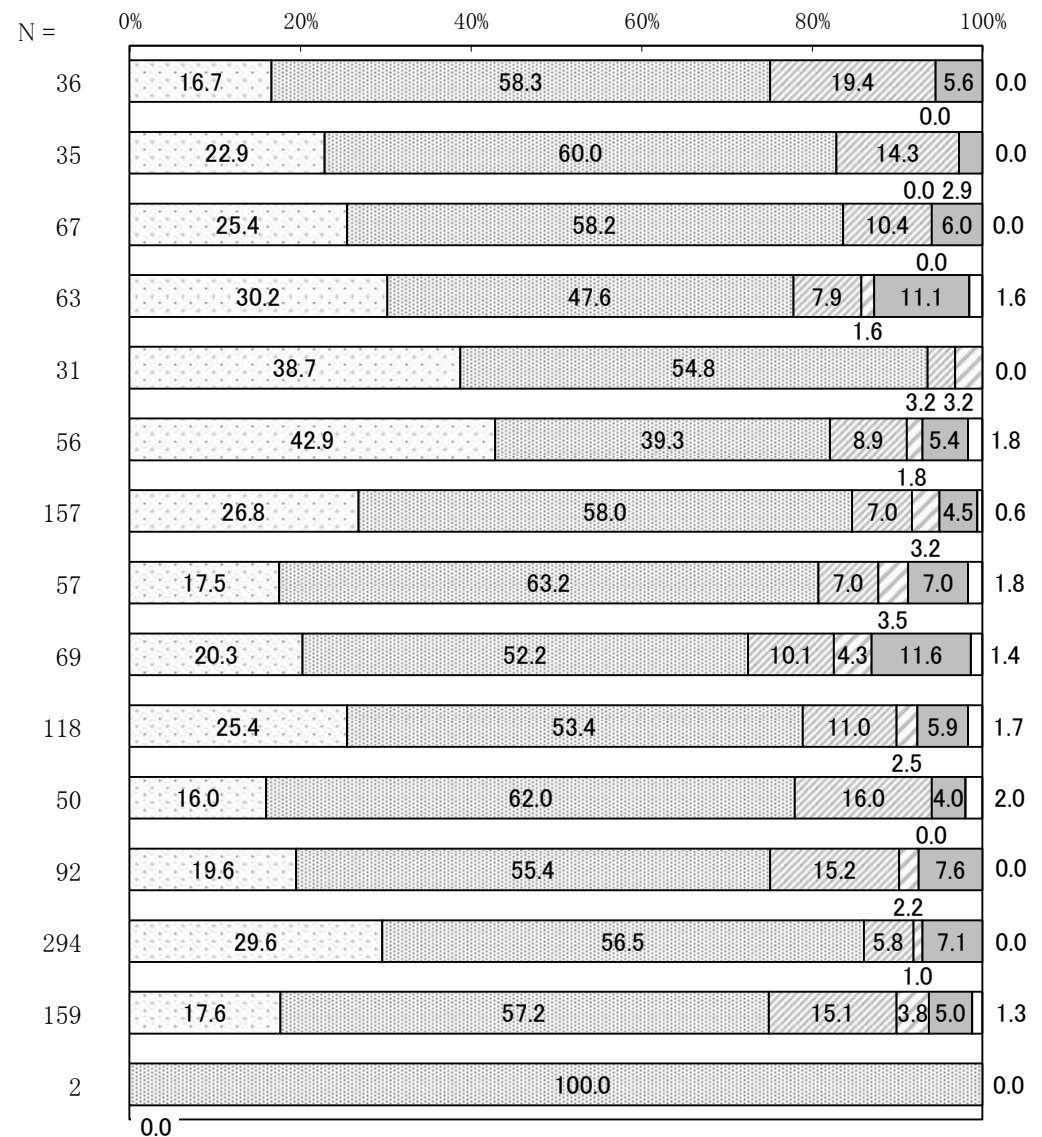
【性別】



【年代別】



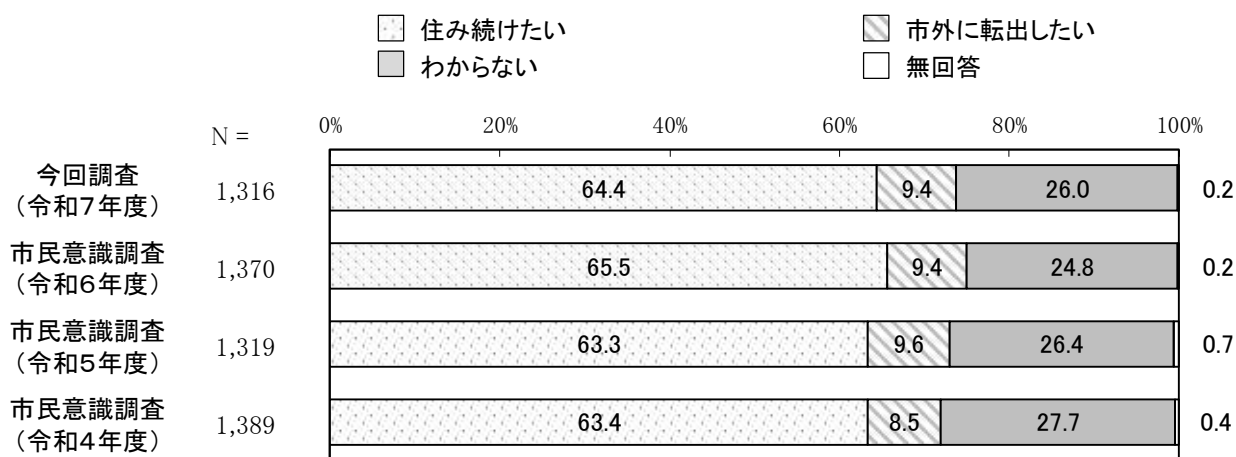
【居住地区別】



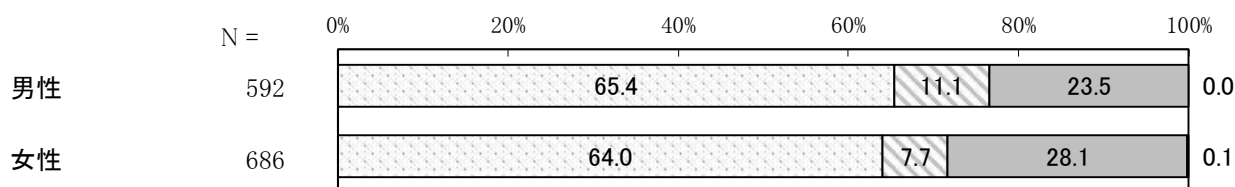
問5 あなたは、東近江市にずっと住み続けたいと思いますか。《○1つ》

6割以上が東近江市に住み続けたい

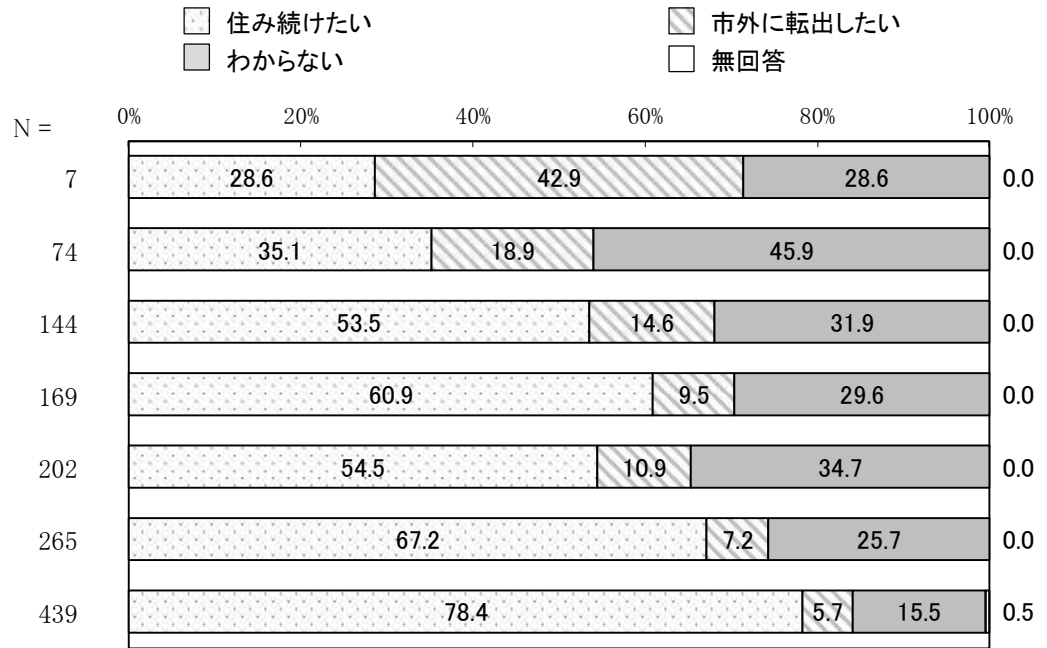
- ・ 東近江市にずっと住み続けたいかについては、「住み続けたい」が64.4%と6割以上の人が東近江市に住み続けたいと回答しています。一方、「市外に転出したい」は9.4%と1割未満ですが、「わからない」とする人は26.0%と3割近くいます。
- ・ 年代別では、おおむね年齢が上がるほど「住み続けたい」の割合が高くなる傾向があり、60歳代では7割近く、70歳以上は8割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、「住み続けたい」の割合が、建部地区、玉緒地区で8割前後と高い一方、南部地区、八日市地区で5割とほかの地区に比べ低くなっています。



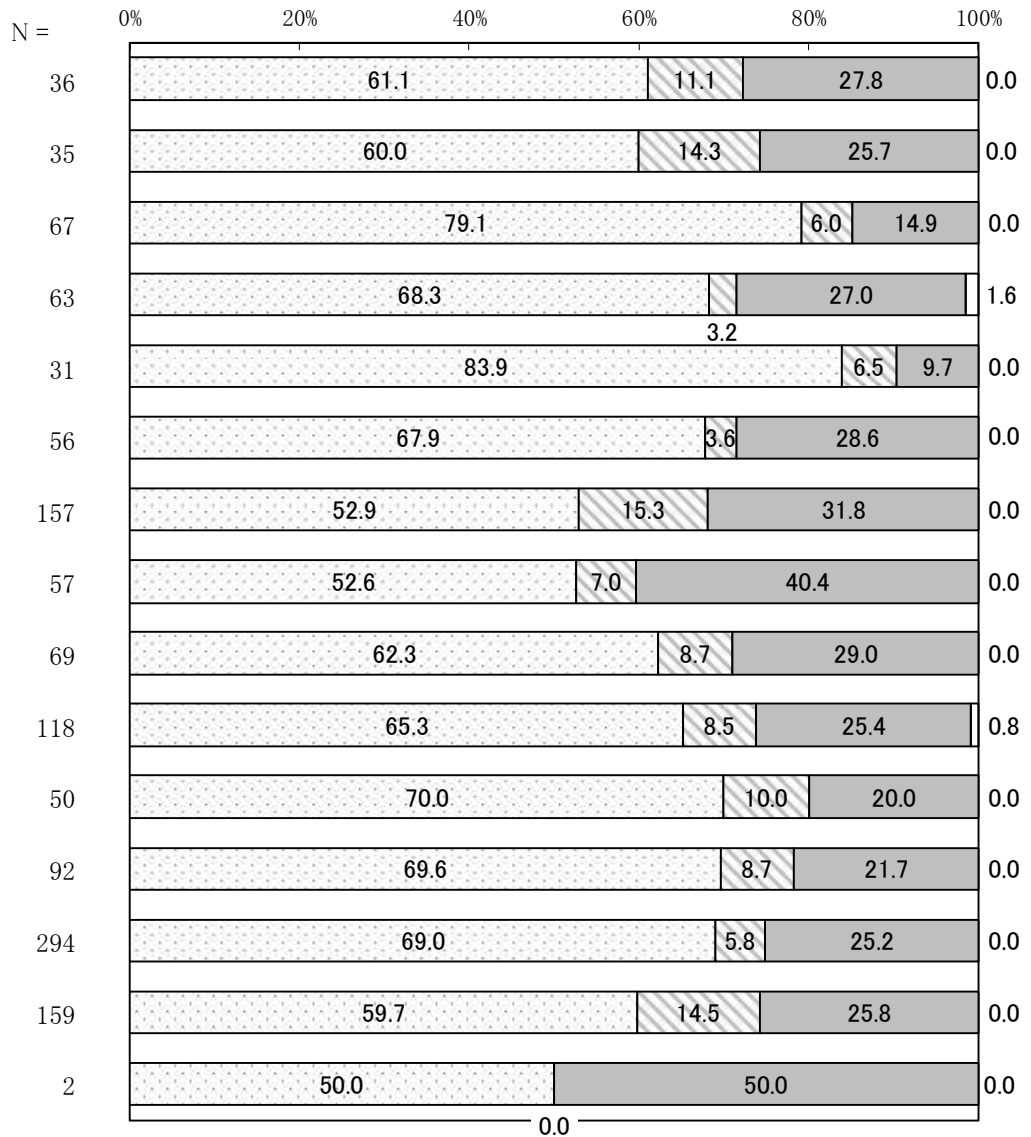
【性別】



【年代別】



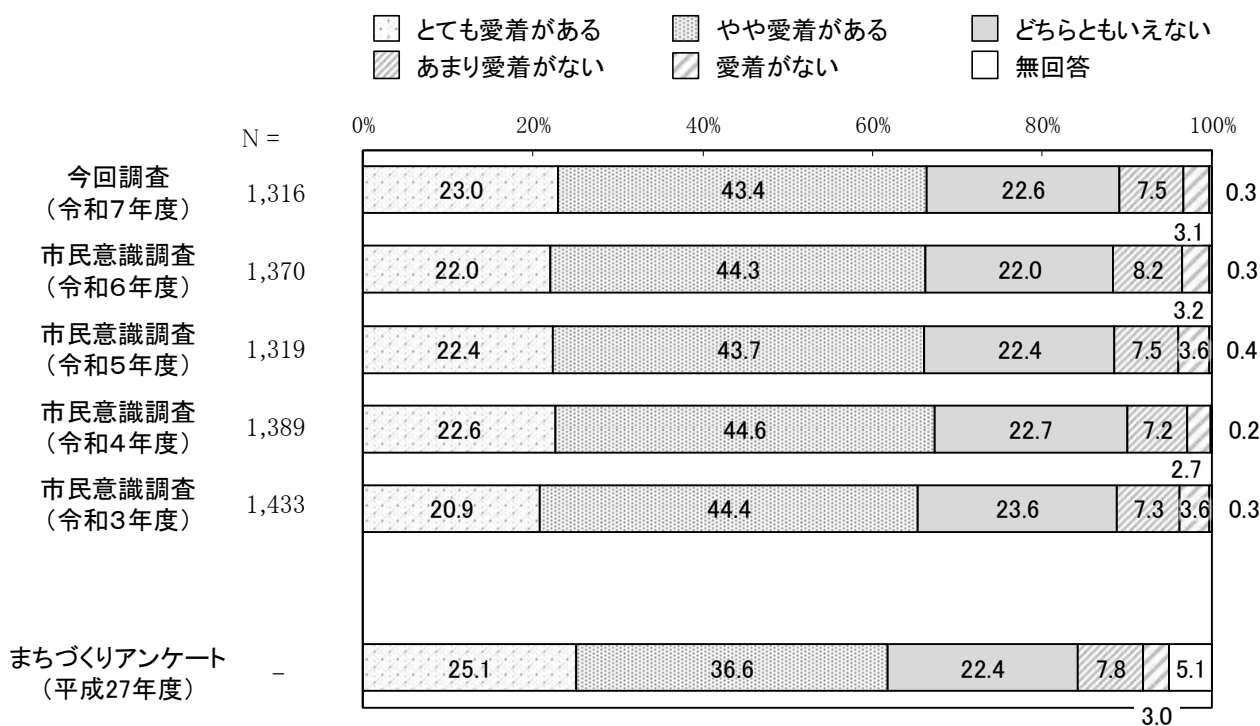
【居住地区別】



問6 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

7割近くが東近江市に対して愛着がある

- ・ 東近江市に対する愛着については、「とても愛着がある」が23.0%、「やや愛着がある」が43.4%で、これらを合わせると66.4%となり、7割近くの人が東近江市に愛着があると回答しています。一方、「あまり愛着がない」と「愛着がない」を合わせると10.6%となっています。また、「どちらともいえない」とする人も22.6%と2割います。
- ・ 年代別では、「とても愛着がある」の割合は、特に20～40歳代で年齢が上がるほど高くなる傾向があり40歳代で3割近く、また70歳以上で3割と最も高くなっています。愛着がある（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計）の割合は、40歳代、70歳以上で7割以上と高くなっています。
- ・ 居住地区別では、愛着がある（前述）の割合が、愛東地区、建部地区で8割近くと高い一方、市辺地区、平田地区、蒲生地区で6割未満とほかの地区に比べ低くなっています。



単位：%

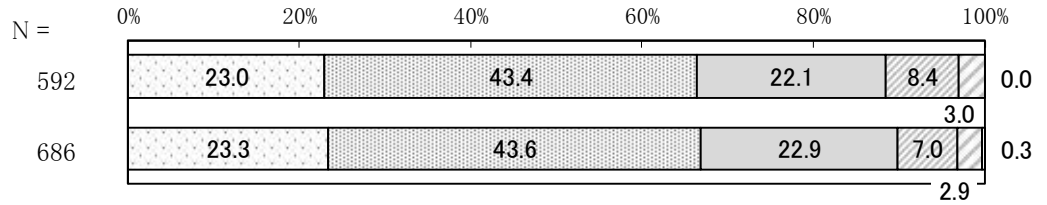
	愛着がある*	愛着がない*	差
①今回調査(令和7年度)	66.4	10.6	55.8
②市民意識調査(令和6年度)	66.3	11.4	54.9
③市民意識調査(令和5年度)	66.1	11.1	55.0
④市民意識調査(令和4年度)	67.2	9.9	57.3
⑤市民意識調査(令和3年度)	65.3	10.9	54.4
①-⑤	1.1	-0.3	1.4
まちづくりアンケート(平成27年度)	61.7	10.8	50.9

* 愛着がある:「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計

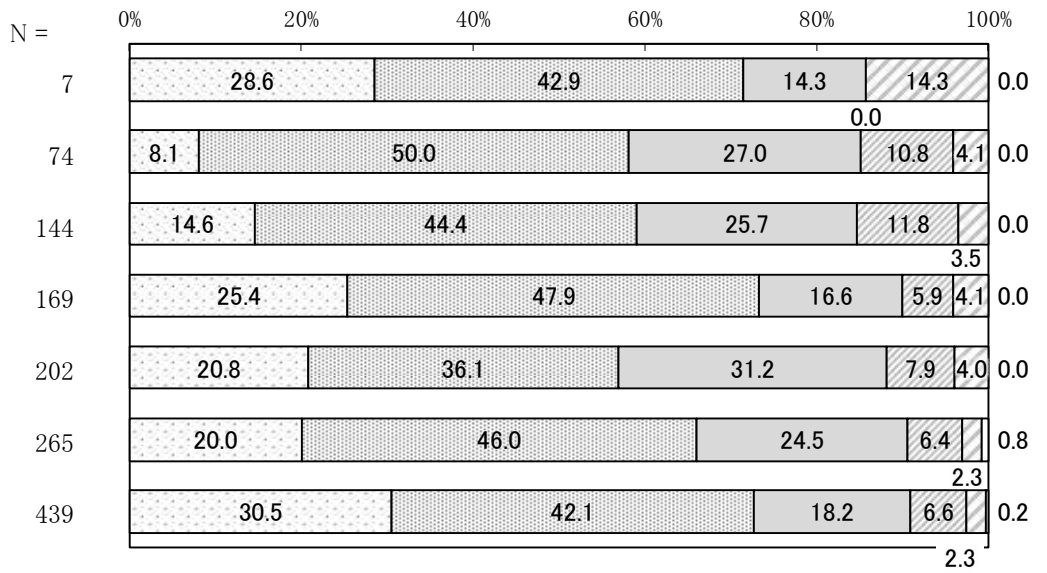
* 愛着がない:「あまり愛着がない」と「愛着がない」の合計

とても愛着がある
 やや愛着がある
 どちらともいえない
 あまり愛着がない
 愛着がない
 無回答

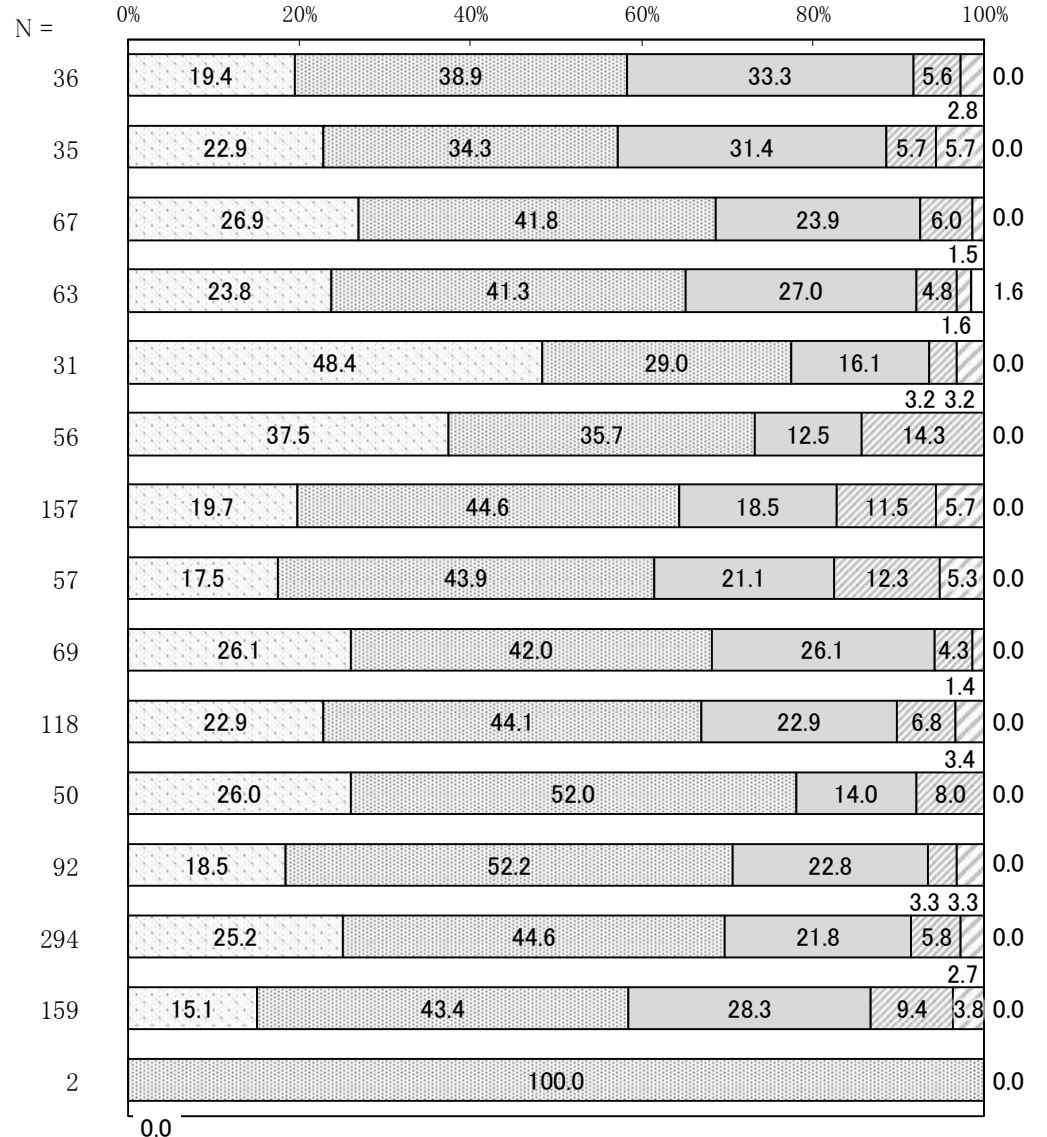
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

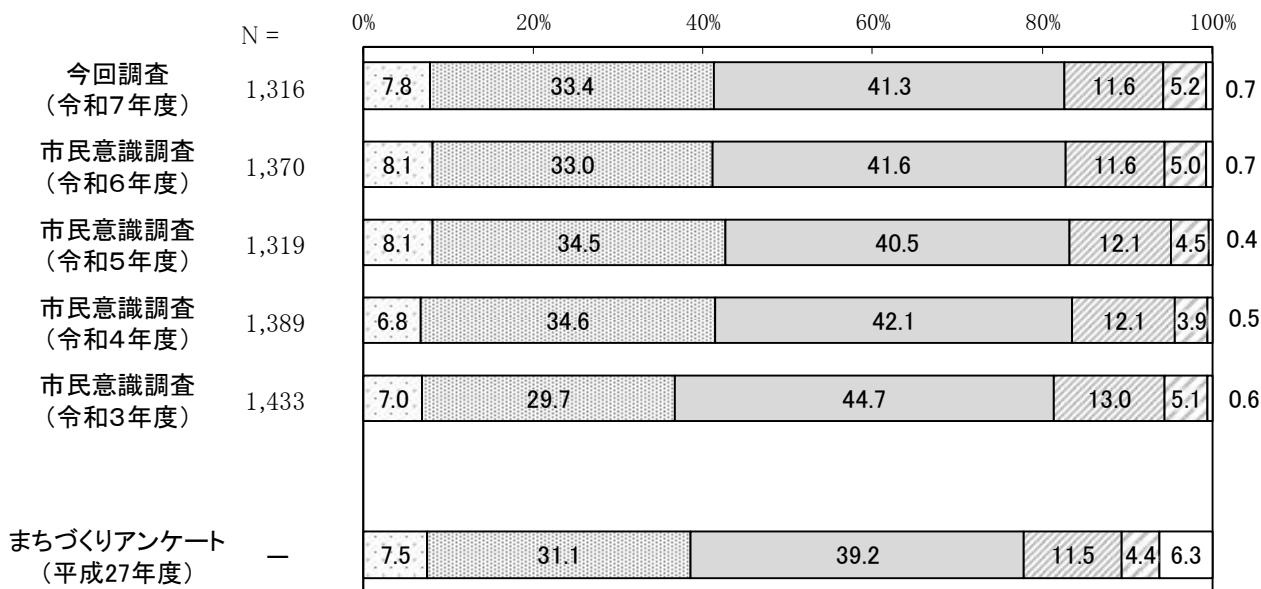


問7 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

4割が自慢できる、4割が「どちらともいえない」

- ・ 東近江市を自慢できるかについては、「どちらともいえない」が41.3%と最も多くなっています。また、「とても自慢できる」が7.8%、「やや自慢できる」が33.4%で、これらを合わせると41.2%となり、4割の人が自慢できるとしています。一方、「あまり自慢できない」と「自慢できない」を合わせると16.8%となっています。
- ・ 年代別では、自慢できる（「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計）の割合は、70歳以上で半数近くと最も高くなっています。
- ・ 居住地区別では、自慢できる（前述）の割合が、建部地区、中野地区、御園地区で半数以上と高い一方で、蒲生地区、市辺地区、南部地区で3割と低くなっています。

とても自慢できる やや自慢できる どちらともいえない
 あまり自慢できない 自慢できない 無回答



単位：%

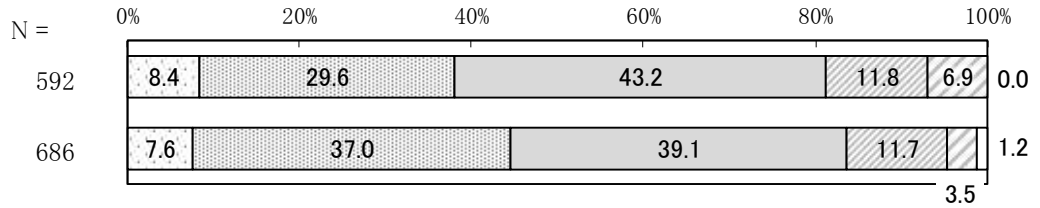
	自慢できる*	自慢できない*	差
①今回調査(令和7年度)	41.2	16.8	24.4
②市民意識調査(令和6年度)	41.1	16.6	24.5
③市民意識調査(令和5年度)	42.6	16.6	26.0
④市民意識調査(令和4年度)	41.4	16.0	25.4
⑤市民意識調査(令和3年度)	36.7	18.1	18.6
①-⑤	4.5	-1.3	5.8
まちづくりアンケート(平成27年度)	38.6	15.9	22.7

* 自慢できる:「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計

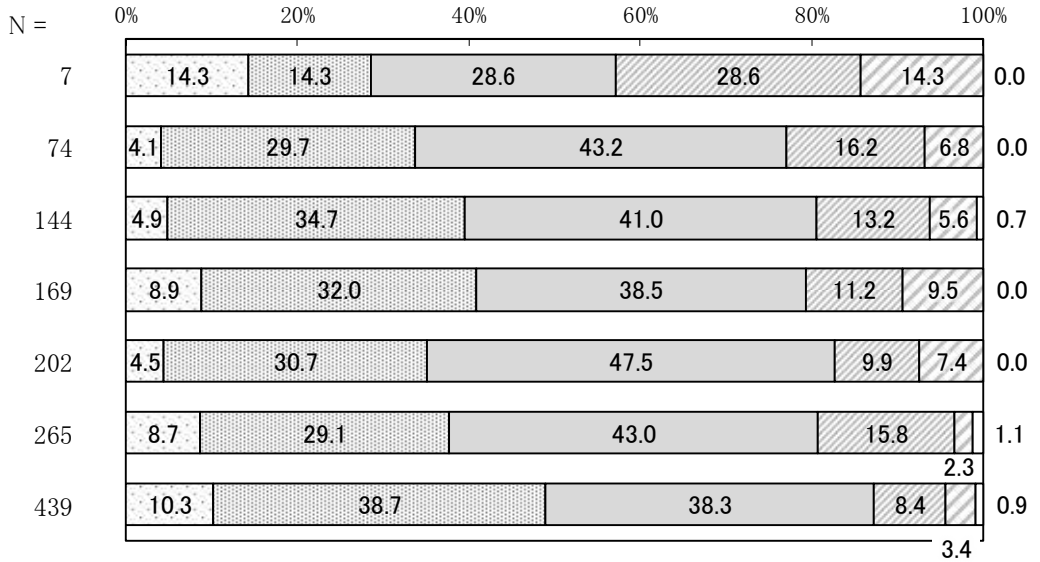
* 自慢できない:「あまり自慢できない」と「自慢できない」の合計

とても自慢できる
 やや自慢できる
 どちらともいえない
 あまり自慢できない
 自慢できない
 無回答

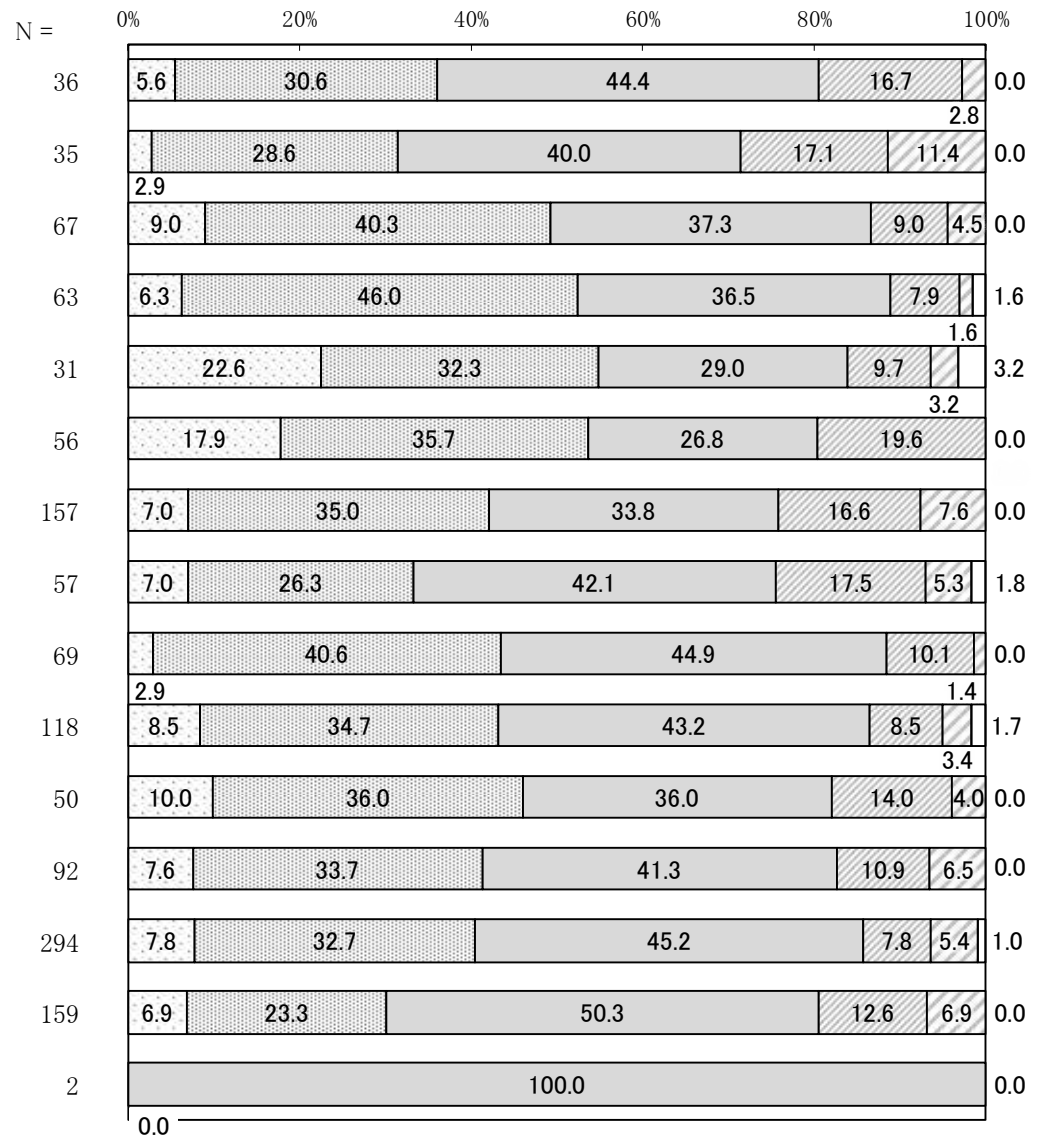
【性別】



【年代別】



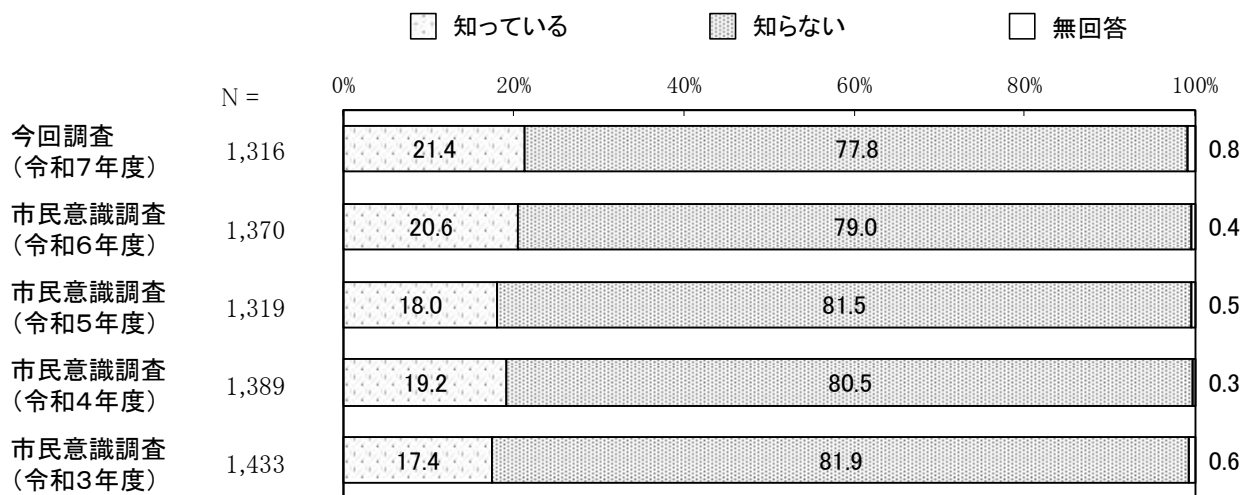
【居住地区別】



問8 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山々から「鈴鹿10座」を選定し、鈴鹿山脈のすばらしさと存在意義を広く周知するとともに、市の知名度アップに取り組んでいます。
あなたは、「鈴鹿10座」を知っていますか。《○1つ》

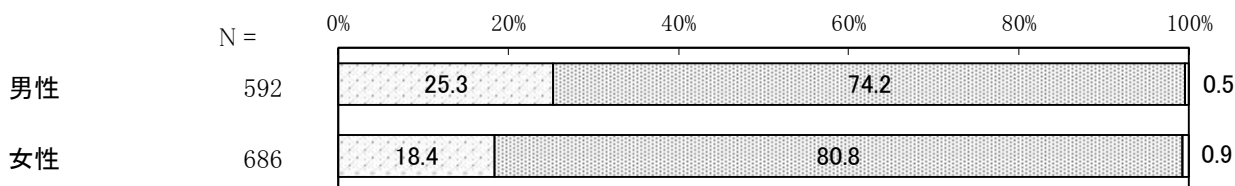
8割近くが「知らない」、認知度は2割以上

- ・ 「鈴鹿10座」については、「知らない」が77.8%と8割近くを占めています。一方、「知っている」は21.4%で、認知度（「知っている」の割合）は2割以上となっています。
- ・ 性別では男性で3割近く、年代別では70歳以上で3割、居住地区別では愛東地区、永源寺地区で4割以上と、「鈴鹿10座」の認知度（前述）が高くなっています。

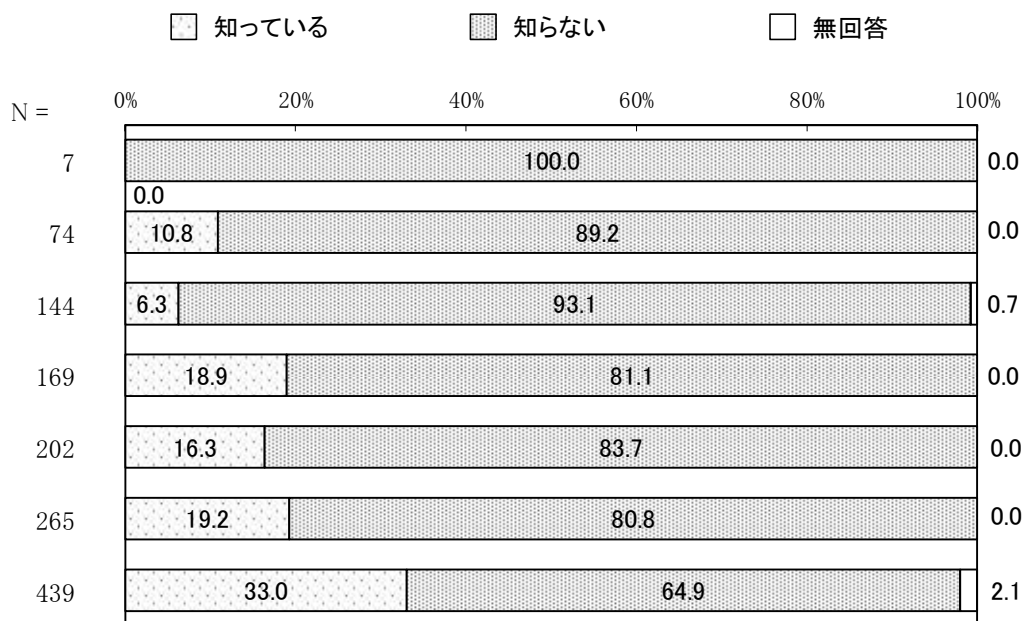


※令和3年度までの設問は、「鈴鹿10座が選定されたことを知っていますか。」

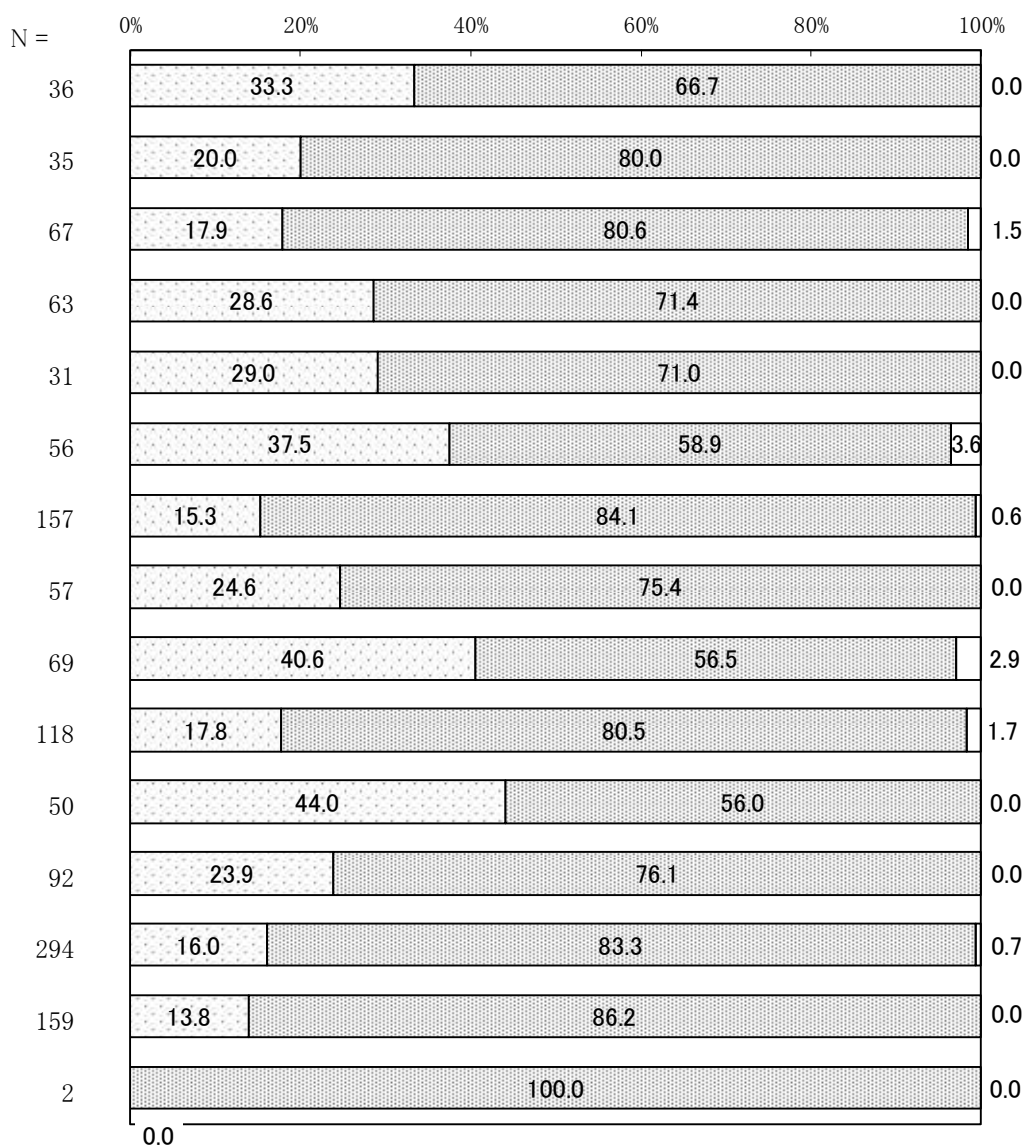
【性別】



【年代別】



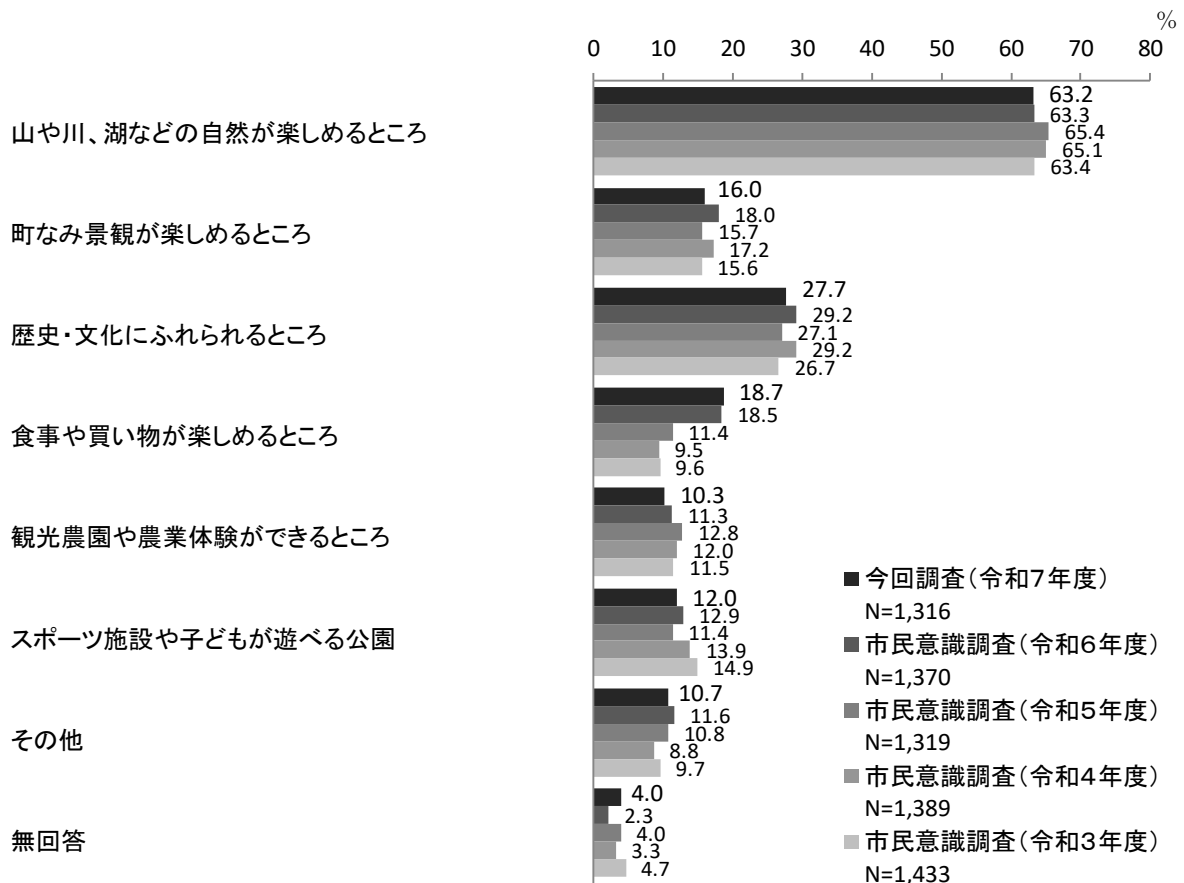
【居住地区別】



問9 あなたは、友人・知人に東近江市を紹介する場合、どのようなところを紹介しますか。
《あてはまるものすべてに○》

6割が「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」を紹介

- ・ 友人・知人に東近江市を紹介するところとしては、「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」が最も多く、63.2%と6割の人があげています。次いで「歴史・文化にふれられるところ」が27.7%、「食事や買い物が楽しめるところ」が18.7%、「町なみ景観が楽しめるところ」が16.0%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると「食事や買い物が楽しめるところ」をあげた人の割合が、ここ数年で大きく増加し2割近くになりました。
- ・ 性別、年代別、五個荘地区を除いた居住地区別のいずれも、「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」が最も多くあげられています。五個荘地区では、「歴史・文化にふれられるところ」が最も多くなっています。
- ・ そのほか、年代別では、30歳代で「食事や買い物が楽しめるところ」や「スポーツ施設や子どもが遊べる公園」が、60歳以上で「歴史・文化にふれられるところ」や「町なみ景観が楽しめるところ」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、特に永源寺地区で「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」が9割以上となっているほか、五個荘地区で「歴史・文化にふれられるところ」が半数近く、「町なみ景観が楽しめるところ」が3割、建部地区で「食事や買い物が楽しめるところ」が、愛東地区で「観光農園や農業体験ができるところ」がそれぞれ4割近く、また湖東地区で「スポーツ施設や子どもが遊べる公園」がそれぞれ3割近くなど、ほかの地区より多くあげられています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	山や川、湖などの自然が楽しめる	町なみ景観が楽しめる	歴史・文化にふれられる	食事や買い物を楽しめる	観光農園や農業体験ができる	スポーツ施設や子どもが遊べる公園	その他	無回答
男性	592	60.8	14.5	28.4	17.1	7.8	10.0	11.1	3.9
女性	686	65.9	17.2	27.7	20.6	12.7	14.0	10.3	3.4

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	山や川、湖などの自然が楽しめる	町なみ景観が楽しめる	歴史・文化にふれられる	食事や買い物を楽しめる	観光農園や農業体験ができる	スポーツ施設や子どもが遊べる公園	その他	無回答
10歳代	7	57.1	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
20歳代	74	52.7	14.9	12.2	21.6	4.1	10.8	13.5	5.4
30歳代	144	57.6	10.4	13.2	29.9	7.6	15.3	13.9	3.5
40歳代	169	62.1	8.9	19.5	19.5	9.5	12.4	14.2	2.4
50歳代	202	62.9	13.9	22.3	18.3	11.4	9.9	11.9	5.4
60歳代	265	65.7	15.5	29.1	15.8	14.7	10.9	8.7	3.4
70歳以上	439	66.3	22.3	41.0	16.4	9.6	13.2	8.4	3.9

【居住地区別】

※「わからない」は、有効回答数が2件のため最大値を網掛けしていない。

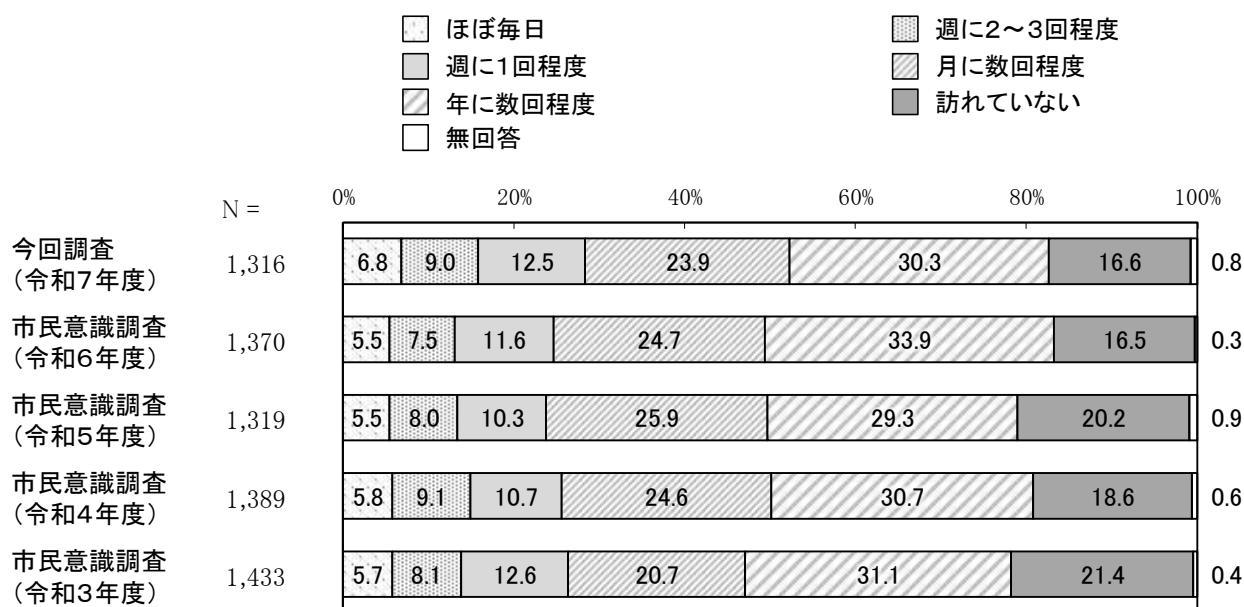
単位:%

区分	有効回答数(件)	山や川、湖などの自然が楽しめる	町なみ景観が楽しめる	歴史・文化にふれられる	食事や買い物を楽しめる	観光農園や農業体験ができる	スポーツ施設や子どもが遊べる公園	その他	無回答
平田地区	36	66.7	8.3	25.0	16.7	8.3	11.1	13.9	0.0
市辺地区	35	42.9	17.1	31.4	20.0	5.7	22.9	11.4	0.0
玉緒地区	67	71.6	9.0	25.4	29.9	9.0	7.5	9.0	1.5
御園地区	63	47.6	11.1	19.0	34.9	6.3	11.1	11.1	7.9
建部地区	31	67.7	3.2	22.6	38.7	0.0	19.4	9.7	6.5
中野地区	56	57.1	23.2	41.1	30.4	12.5	21.4	8.9	3.6
八日市地区	157	55.4	7.6	17.2	26.1	8.9	11.5	12.1	3.8
南部地区	57	70.2	7.0	19.3	19.3	12.3	14.0	10.5	7.0
永源寺地区	69	91.3	8.7	20.3	10.1	8.7	2.9	10.1	0.0
五個荘地区	118	44.9	33.9	48.3	15.3	5.9	7.6	10.2	5.9
愛東地区	50	76.0	24.0	36.0	8.0	36.0	10.0	12.0	4.0
湖東地区	92	69.6	17.4	25.0	16.3	8.7	28.3	9.8	5.4
能登川地区	294	70.1	21.1	29.3	9.5	6.1	10.2	10.9	2.4
蒲生地区	159	57.9	9.4	27.0	20.1	22.0	8.2	10.1	5.0
わからない	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問10 あなたは、この1年間で近江鉄道八日市駅周辺（市役所周辺を含む。）にどの程度訪れましたか。《○1つ》

週1回以上訪れる人が3割近く、月に数回又は年に数回が半数以上

- ・ この1年間で近江鉄道八日市駅周辺を訪れた頻度は、週に1回以上訪れる人が28.3%となっています。一方、「月に数回程度」と「年に数回程度」を合わせると54.2%となり、あまり訪れない人が半数以上となっています。また、「訪れていない」人も16.6%と2割近く見られます。
- ・ 性別では、週1回以上訪れる人の割合は男性より女性で多く、訪問頻度も高くなっています。
- ・ 年代別では、20歳代で「月に数回程度」が、30歳以上で「年に数回程度」が最も多くなっています。週1回以上訪れる人の割合は、40歳代で4割近くと最も高くなっています。
- ・ 居住地区別では、週1回以上訪れる人の割合が、八日市地区、建部地区で6割近くと高く、能登川地区で1割未満と低くなっています。



単位：%

	週1回以上*	あまり訪れていない*	訪れていない
①今回調査(令和7年度)	28.3	54.2	16.6
②市民意識調査(令和6年度)	24.6	58.6	16.5
③市民意識調査(令和5年度)	23.8	55.2	20.2
④市民意識調査(令和4年度)	25.6	55.3	18.6
⑤市民意識調査(令和3年度)	26.4	51.8	21.4
①-⑤	1.9	2.4	-4.8

* 週1回以上:「ほぼ毎日」、「週に2~3回程度」、「週に1回程度」の合計

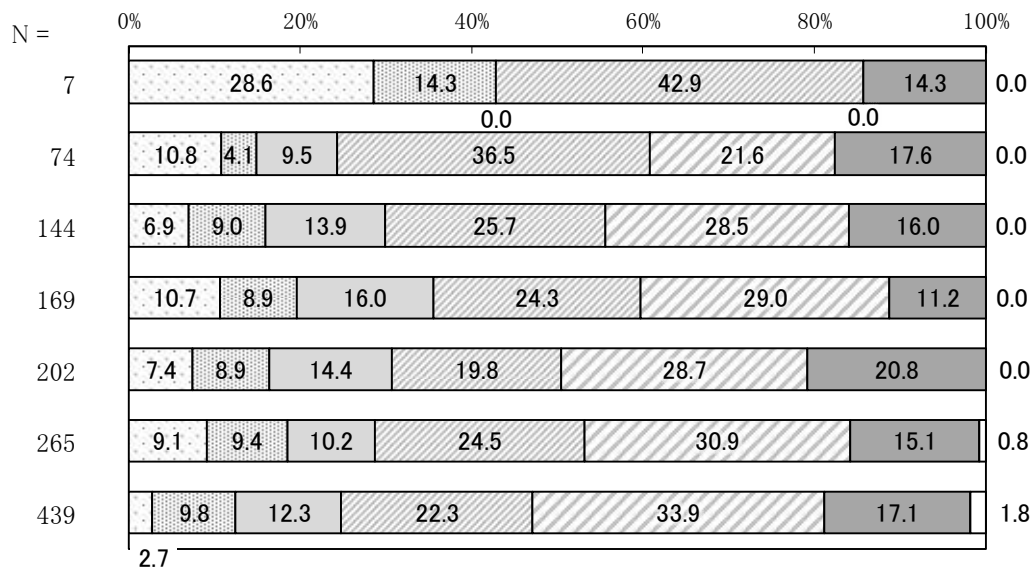
* あまり訪れていない:「月に数回程度」と「年に数回程度」の合計



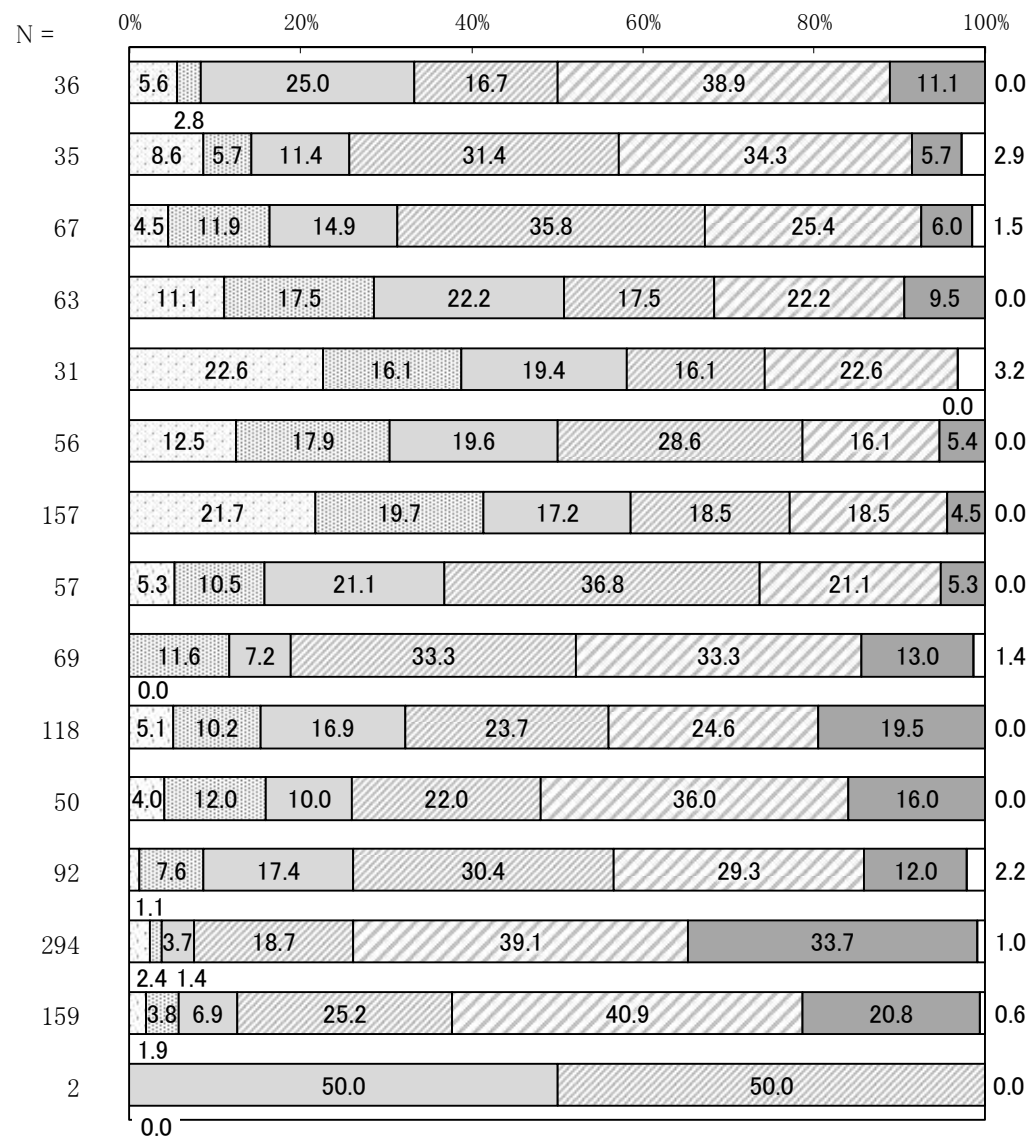
【性別】



【年代別】



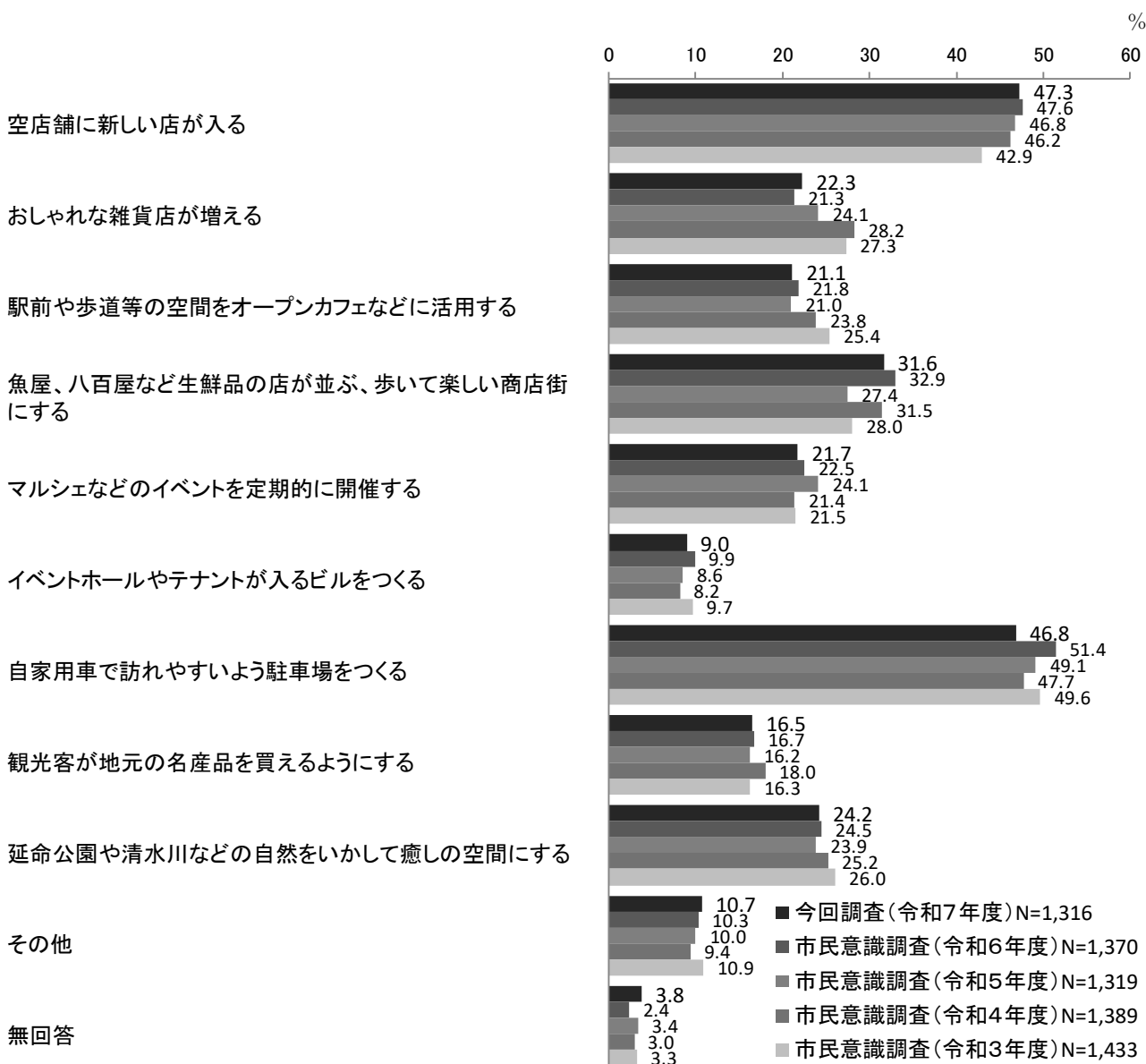
【居住地区別】



問 11 あなたは、八日市駅周辺の中心市街地が活性化するには、どのようなお店や施設、イベントなどの開催が必要だと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

空店舗の解消、駐車場の整備が半数近く

- ・ 八日市駅周辺の中心市街地が活性化するために必要なことは、「空店舗に新しい店が入る」が47.3%と最も多く、次いで「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が46.8%、「魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする」が31.6%と続きます。
- ・ 性別では、男性は「空店舗に新しい店が入る」が、女性は「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が最も多くあげられています。そのほか、女性は「おしゃれな雑貨店が増える」などが男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、60歳代までは「空店舗に新しい店が入る」が、70歳以上は「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が最も多くなっています。そのほか、30歳代までで「おしゃれな雑貨店が増える」が、30歳代で「マルシェなどのイベントを定期的を開催する」が、70歳以上で「魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、中野地区、八日市地区、五個荘地区、建部地区は「空店舗に新しい店が入る」が、そのほかの地区は「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が最も多くなっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	空店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	活用する 駅前や歩道等の空間を オープンカフェなどに	楽しい商店街にする 品屋、八百屋など生鮮 の店が並び、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮 の店が並び、歩いて	マルシェなどのイベントを定期的に開催する	イベントが入るビルやテナントが入るビルをつくる	よう 自家用車で訪れやすい よう 自家用車で訪れやすい	観光客が地元の名産品 を 観光客が地元の名産品 を	の自然をいかして癒しの空間にする	延命公園や清水川などの自然をいかして癒しの空間にする	その他	無回答
男性	592	47.0	17.2	23.5	27.2	18.8	11.5	44.3	15.7	20.6	11.1	3.2		
女性	686	48.5	27.7	19.1	35.6	25.1	7.1	50.0	17.2	27.1	9.9	3.5		

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	空店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	活用する 駅前や歩道等の空間を オープンカフェなどに	楽しい商店街にする 品屋、八百屋など生鮮 の店が並び、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮 の店が並び、歩いて	マルシェなどのイベントを定期的に開催する	イベントが入るビルやテナントが入るビルをつくる	よう 自家用車で訪れやすい よう 自家用車で訪れやすい	観光客が地元の名産品 を 観光客が地元の名産品 を	の自然をいかして癒しの空間にする	延命公園や清水川などの自然をいかして癒しの空間にする	その他	無回答
10歳代	7	71.4	42.9	28.6	42.9	28.6	0.0	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0		
20歳代	74	52.7	31.1	24.3	25.7	24.3	14.9	35.1	10.8	20.3	10.8	4.1		
30歳代	144	54.9	32.6	22.2	27.1	37.5	15.3	48.6	15.3	24.3	10.4	0.7		
40歳代	169	47.9	26.6	26.0	31.4	30.8	9.5	42.6	9.5	22.5	17.8	0.0		
50歳代	202	53.0	25.2	23.3	21.3	19.8	8.9	48.5	14.9	21.8	11.4	4.5		
60歳代	265	49.8	19.6	23.8	34.0	23.8	8.7	45.3	15.5	24.9	9.8	2.6		
70歳以上	439	39.9	15.9	15.7	37.6	12.5	6.4	51.3	22.1	26.2	7.5	6.6		

【居住地区別】

※「わからない」は、有効回答数が2件のため最大値を網掛けしていない。

単位:%

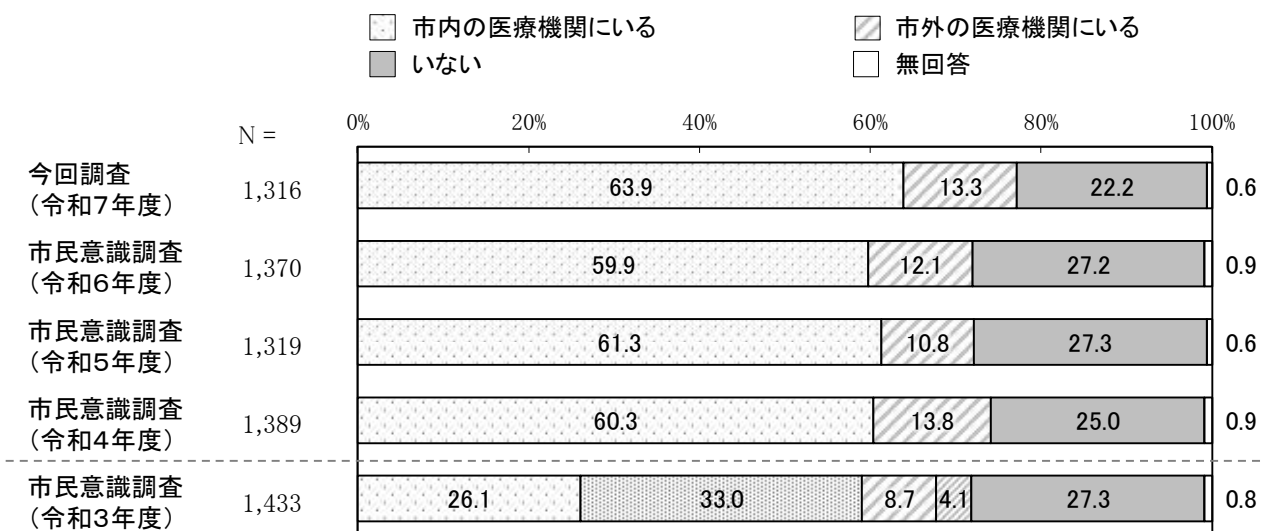
区分	有効回答数(件)	空店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	活用する 駅前や歩道等の空間を オープンカフェなどに	楽しい商店街にする 品屋、八百屋など生鮮 の店が並び、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮 の店が並び、歩いて	マルシェなどのイベントを定期的に開催する	イベントが入るビルやテナントが入るビルをつくる	よう 自家用車で訪れやすい よう 自家用車で訪れやすい	観光客が地元の名産品 を 観光客が地元の名産品 を	の自然をいかして癒しの空間にする	延命公園や清水川などの自然をいかして癒しの空間にする	その他	無回答
平田地区	36	36.1	16.7	11.1	30.6	8.3	8.3	55.6	19.4	22.2	0.0	8.3		
市辺地区	35	45.7	17.1	8.6	34.3	22.9	14.3	48.6	20.0	37.1	20.0	0.0		
玉緒地区	67	49.3	23.9	16.4	41.8	23.9	7.5	61.2	20.9	22.4	4.5	1.5		
御園地区	63	42.9	19.0	22.2	23.8	19.0	9.5	60.3	12.7	20.6	7.9	1.6		
建部地区	31	54.8	25.8	29.0	38.7	25.8	6.5	41.9	16.1	32.3	16.1	9.7		
中野地区	56	67.9	30.4	25.0	35.7	28.6	12.5	53.6	30.4	26.8	7.1	0.0		
八日市地区	157	58.6	25.5	29.3	36.3	25.5	8.9	33.8	13.4	30.6	14.0	2.5		
南部地区	57	45.6	14.0	24.6	31.6	19.3	17.5	59.6	12.3	33.3	10.5	0.0		
永源寺地区	69	43.5	30.4	17.4	31.9	15.9	1.4	44.9	15.9	21.7	2.9	7.2		
五個荘地区	118	55.1	16.9	25.4	34.7	22.0	6.8	39.8	17.8	22.9	9.3	5.9		
愛東地区	50	40.0	16.0	20.0	32.0	18.0	2.0	56.0	18.0	24.0	8.0	2.0		
湖東地区	92	46.7	26.1	17.4	26.1	26.1	12.0	51.1	15.2	26.1	4.3	5.4		
能登川地区	294	39.8	21.4	18.4	26.9	19.7	9.9	44.6	14.3	18.0	17.0	4.4		
蒲生地区	159	45.3	22.6	20.8	31.4	22.0	8.8	49.1	18.9	23.3	8.2	2.5		
わからない	2	50.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

(3) 健康や福祉について

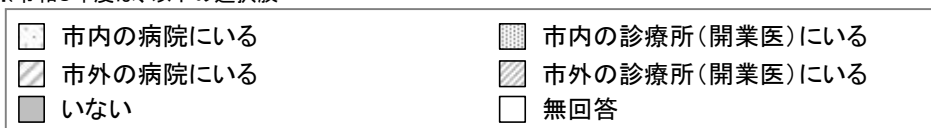
問 12 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん（かかりつけ医）はいますか。《○1つ》

6割以上が市内の医療機関にかかりつけ医がいる

- ・ かかりつけ医がいるかどうかについては、「市内の医療機関にいる」が63.9%と最も多く、6割以上が市内の医療機関にかかりつけ医がいると回答しています。「市外の医療機関にいる」の13.3%を合わせたかかりつけ医がいる人の割合は77.2%と8割近くで、「いない」と回答した人は22.2%と2割でした。
- ・ 年代別では、市外も含めてかかりつけ医がいる人の割合は、30歳代が6割近くで最も低く、30歳以上で年齢が上がるほどその割合が高くなり、70歳以上では9割近く（市内が8割以上）となっています。30歳代は4割がかかりつけ医が「いない」と回答しています。
- ・ 居住地区別では、市内の医療機関にかかりつけ医がいる人の割合は、愛東地区、建部地区で8割近くと高くなっています。一方、八日市地区、市辺地区、玉緒地区ではかかりつけ医がいない人が3割前後います。



※令和3年度は、以下の選択肢

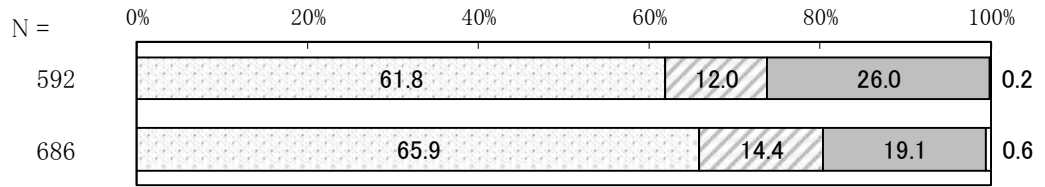


単位：%

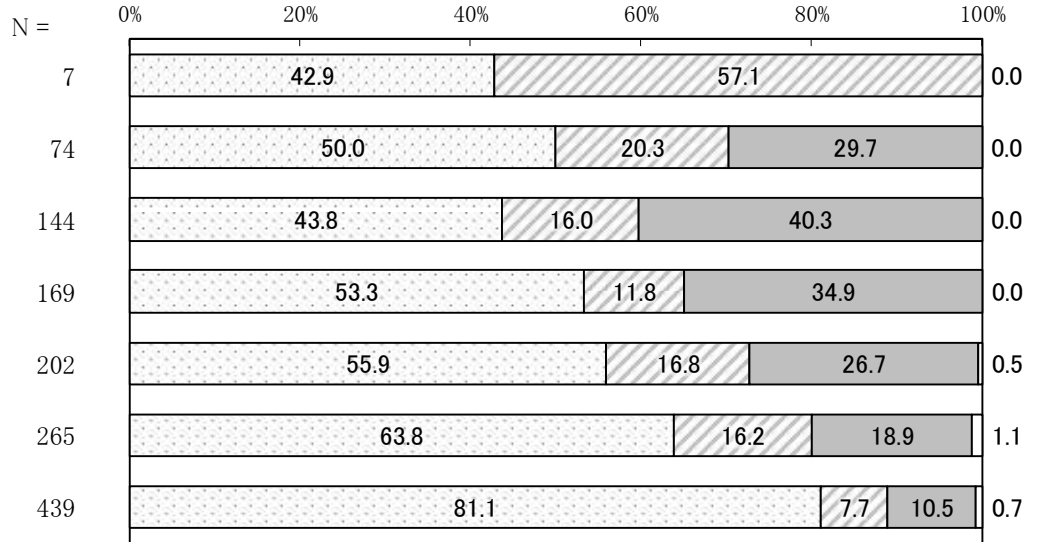
	かかりつけ医が いる(市内外)*	かかりつけ医 がいない*
①今回調査(令和7年度)	77.2	22.2
②市民意識調査(令和6年度)	72.0	27.2
③市民意識調査(令和5年度)	72.1	27.3
④市民意識調査(令和4年度)	74.1	25.0
⑤市民意識調査(令和3年度)	71.9	27.3
①-⑤	5.3	-5.1

市内の医療機関にいる
 市外の医療機関にいる
 いない
 無回答

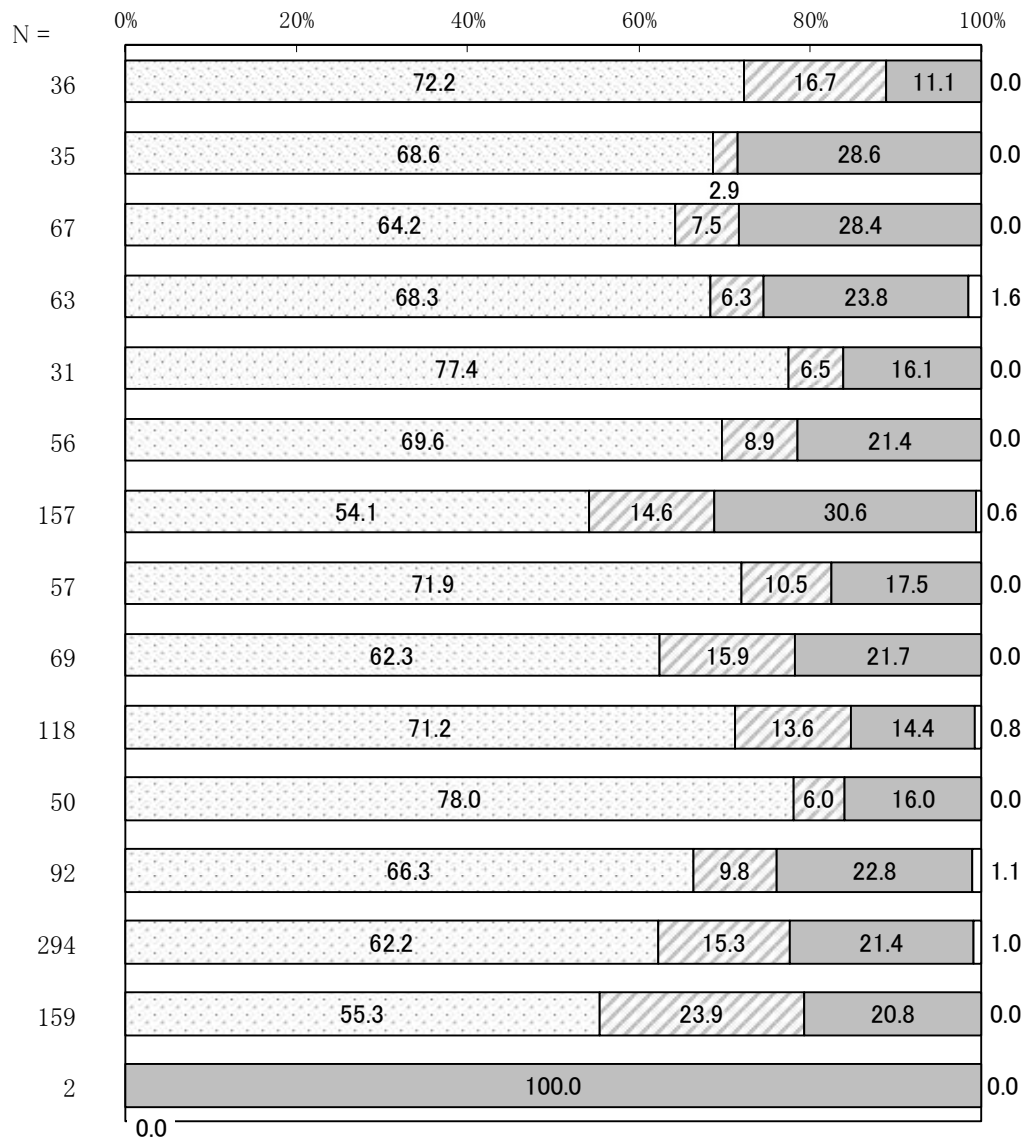
【性別】



【年代別】



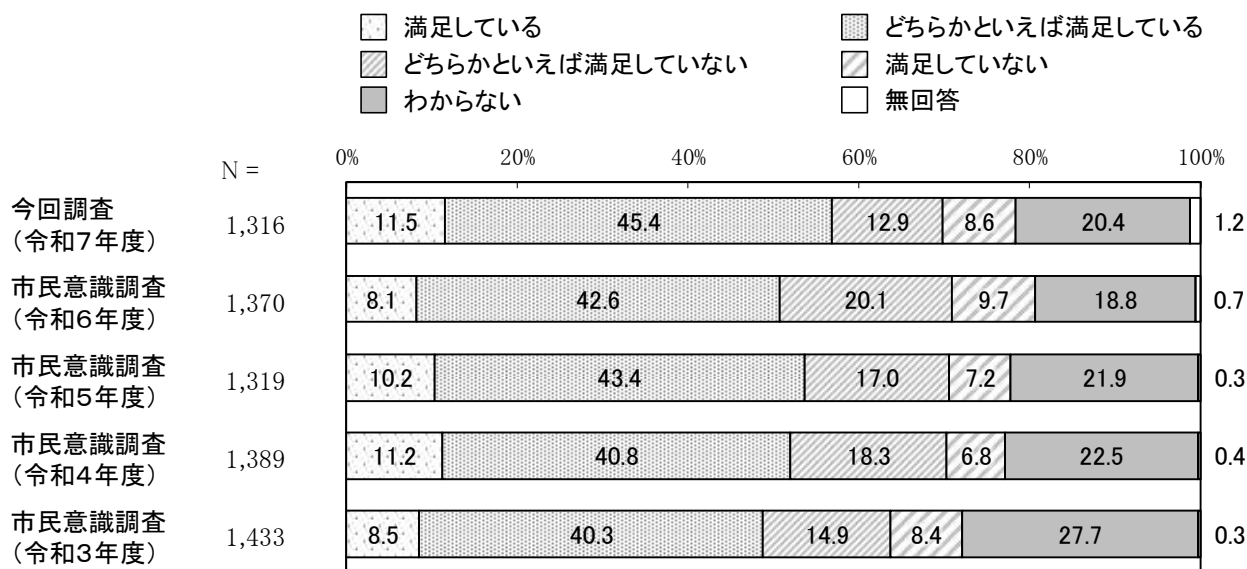
【居住地区別】



問 13 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

6割近くが病院や救急時の医療体制に満足

- ・ 病院や救急時の医療体制についての満足度については、「満足している」が11.5%、「どちらかといえば満足している」が45.4%で、これらを合わせると56.9%となり、6割近くの人が満足していると回答しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると21.5%で、「わからない」と回答した人は20.4%でした。
- ・ 年代別では、すべての年代で満足（前述）の割合が不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）より高く、特に70歳以上で満足（前述）の割合が高く、7割を超えています。一方、30～40歳代で、不満（前述）の割合が3割前後とほかの年代と比べ高くなっています。
- ・ 居住地区別では、中野地区で7割近くと満足（前述）の割合が高く、平田地区、蒲生地区で不満（前述）の割合が3割前後とほかの地区より高くなっています。

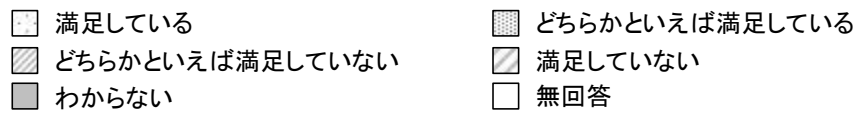


単位：%

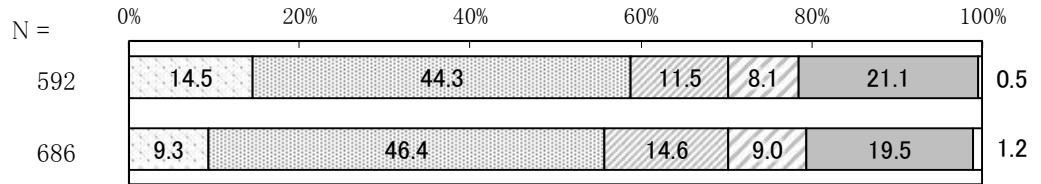
	満足*	不満*	差
①今回調査(令和7年度)	56.9	21.5	35.4
②市民意識調査(令和6年度)	50.7	29.8	20.9
③市民意識調査(令和5年度)	53.6	24.2	29.4
④市民意識調査(令和4年度)	52.0	25.1	26.9
⑤市民意識調査(令和3年度)	48.8	23.3	25.5
①－⑤	8.1	-1.8	9.9

* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

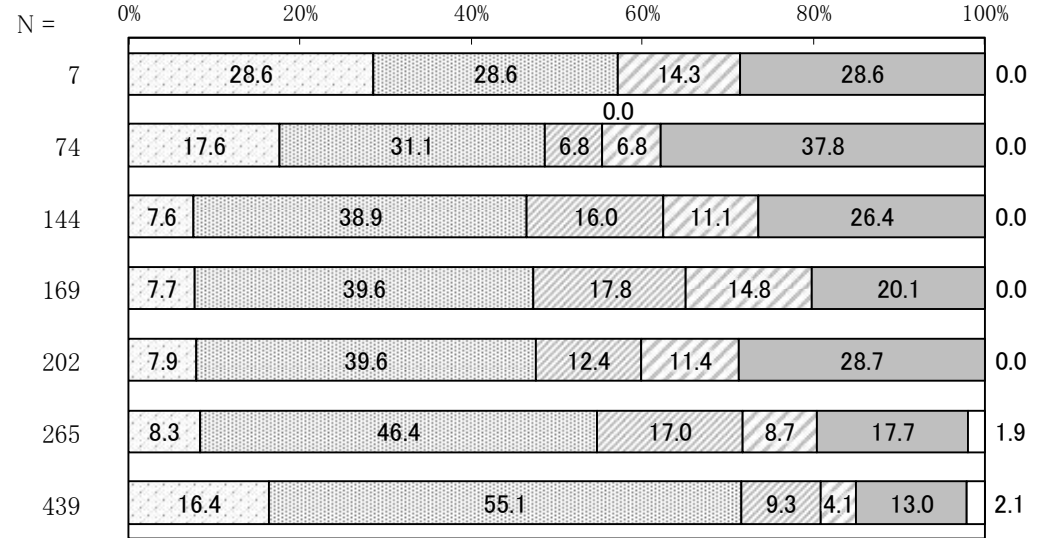
* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計



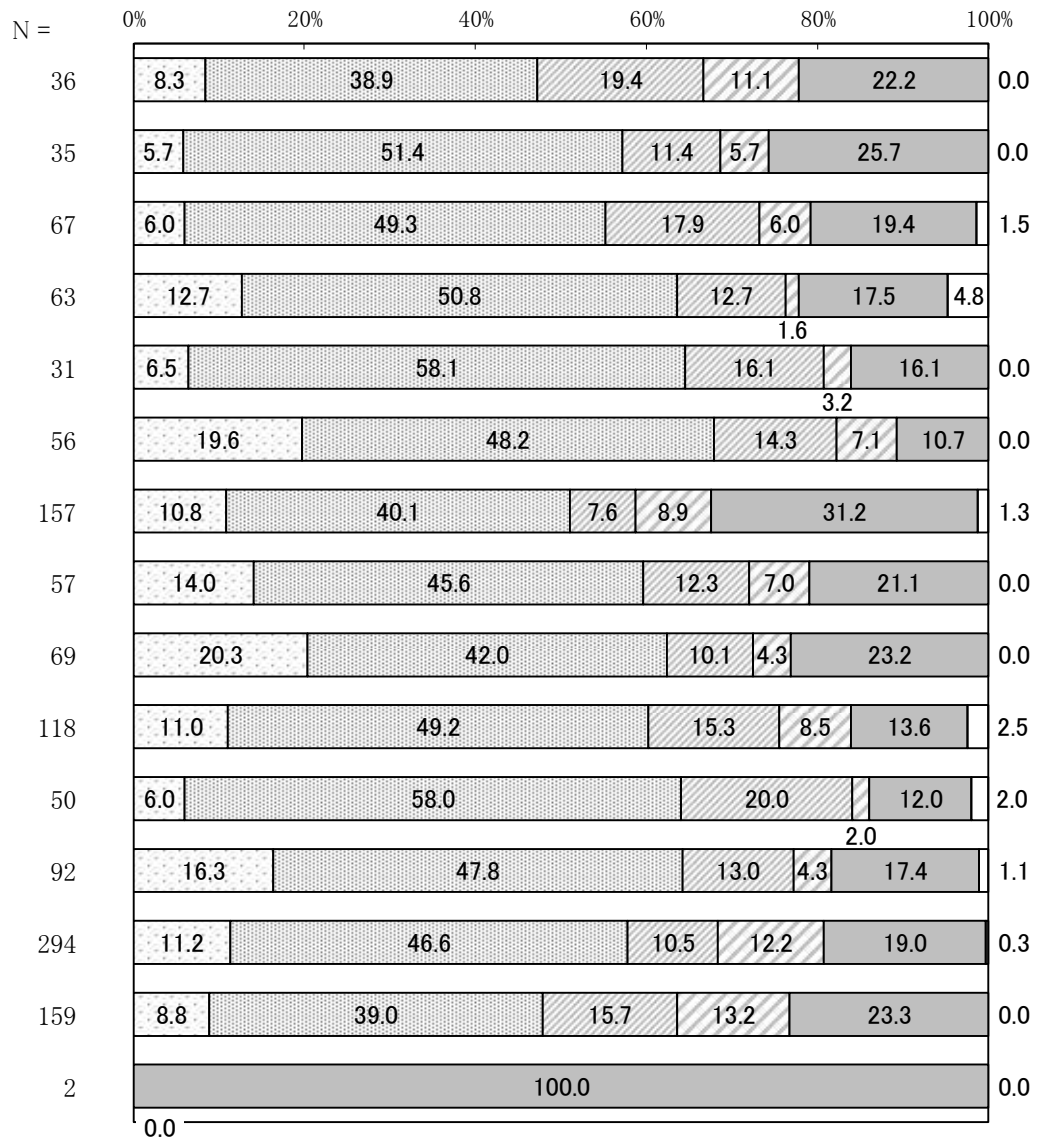
【性別】



【年代別】



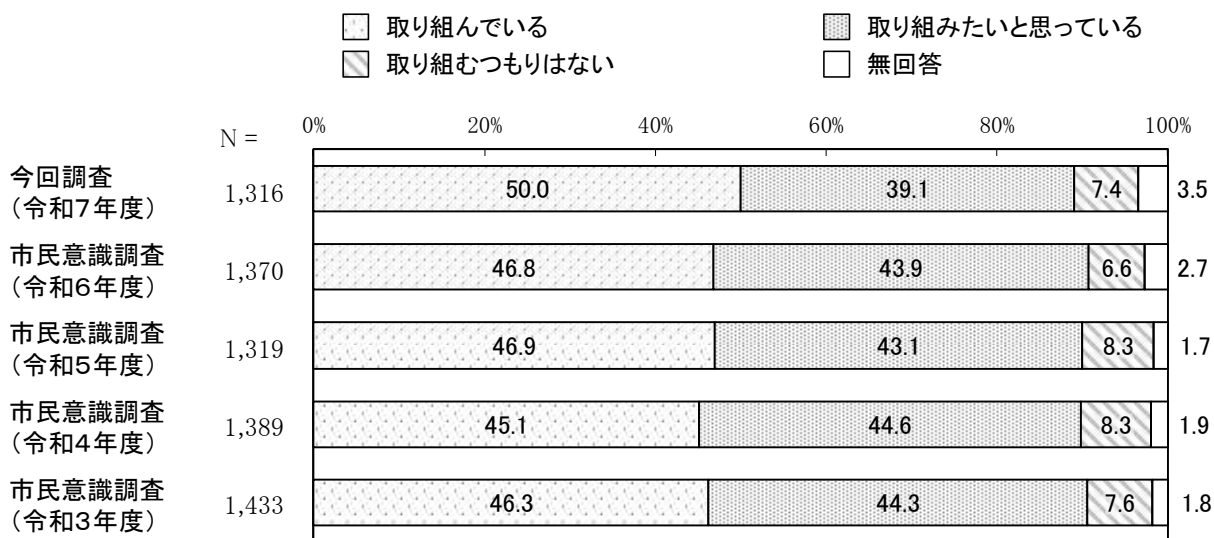
【居住地区別】



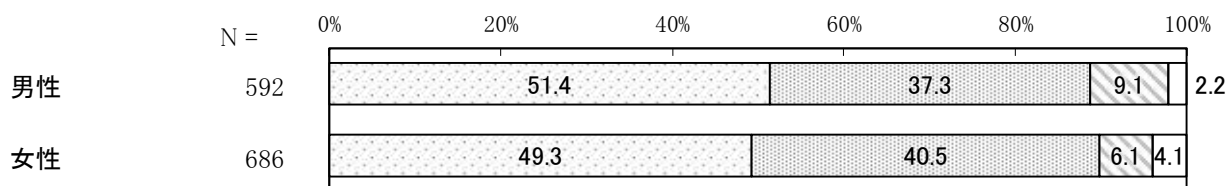
問 14 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

半数が健康づくりを実践、取り組みたいを合わせると9割近くに

- ・ 自分の健康づくりのために何か取り組んでいるかについては、「取り組んでいる」が50.0%と最も多く、次の「取り組みたいと思っている」の39.1%を合わせると89.1%となり、9割近くの人が関心を持っていることが分かります。
- ・ 年代別では、年齢が上がるほど「取り組んでいる」と回答した人の割合が増加する傾向が見られ、70歳以上では6割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、中野地区で7割近く、湖東地区で6割近くと、自分の健康づくりのために何か「取り組んでいる」人が多く見られます。

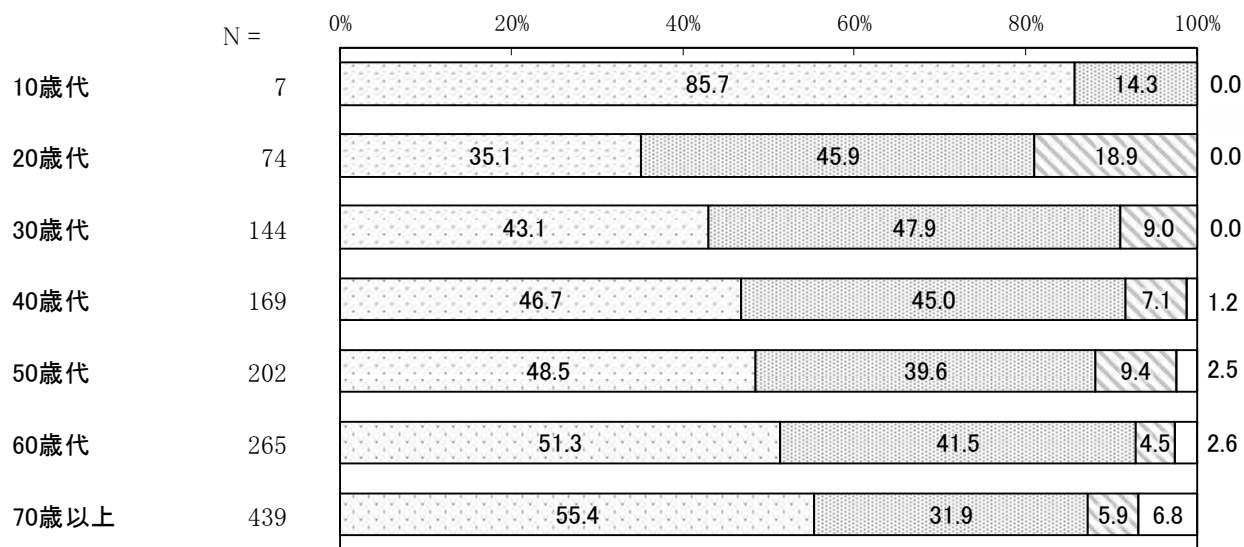


【性別】

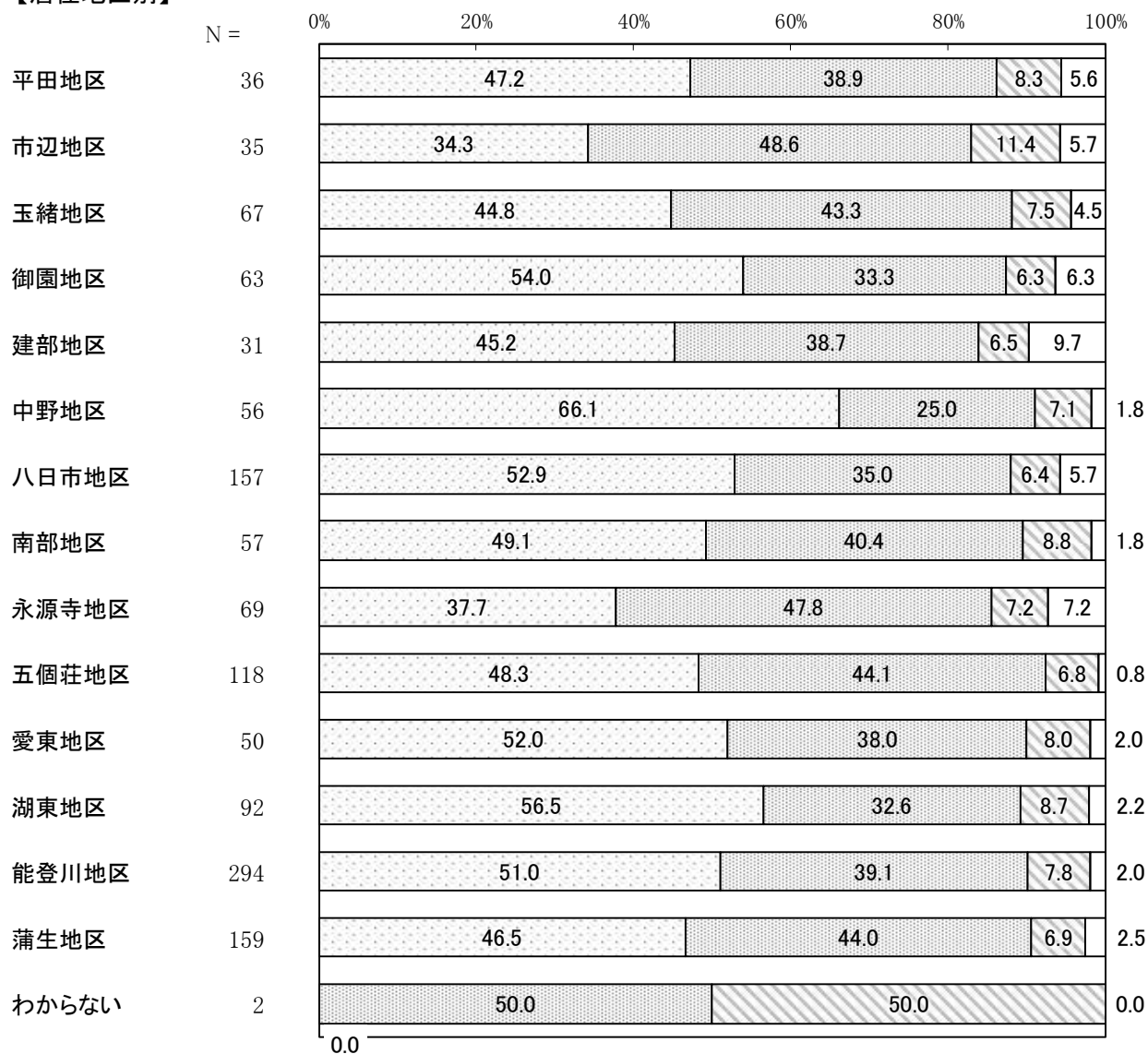


【年代別】

取り組んでいる 取り組みたいと思っている
 取り組むつもりはない 無回答



【居住地区別】

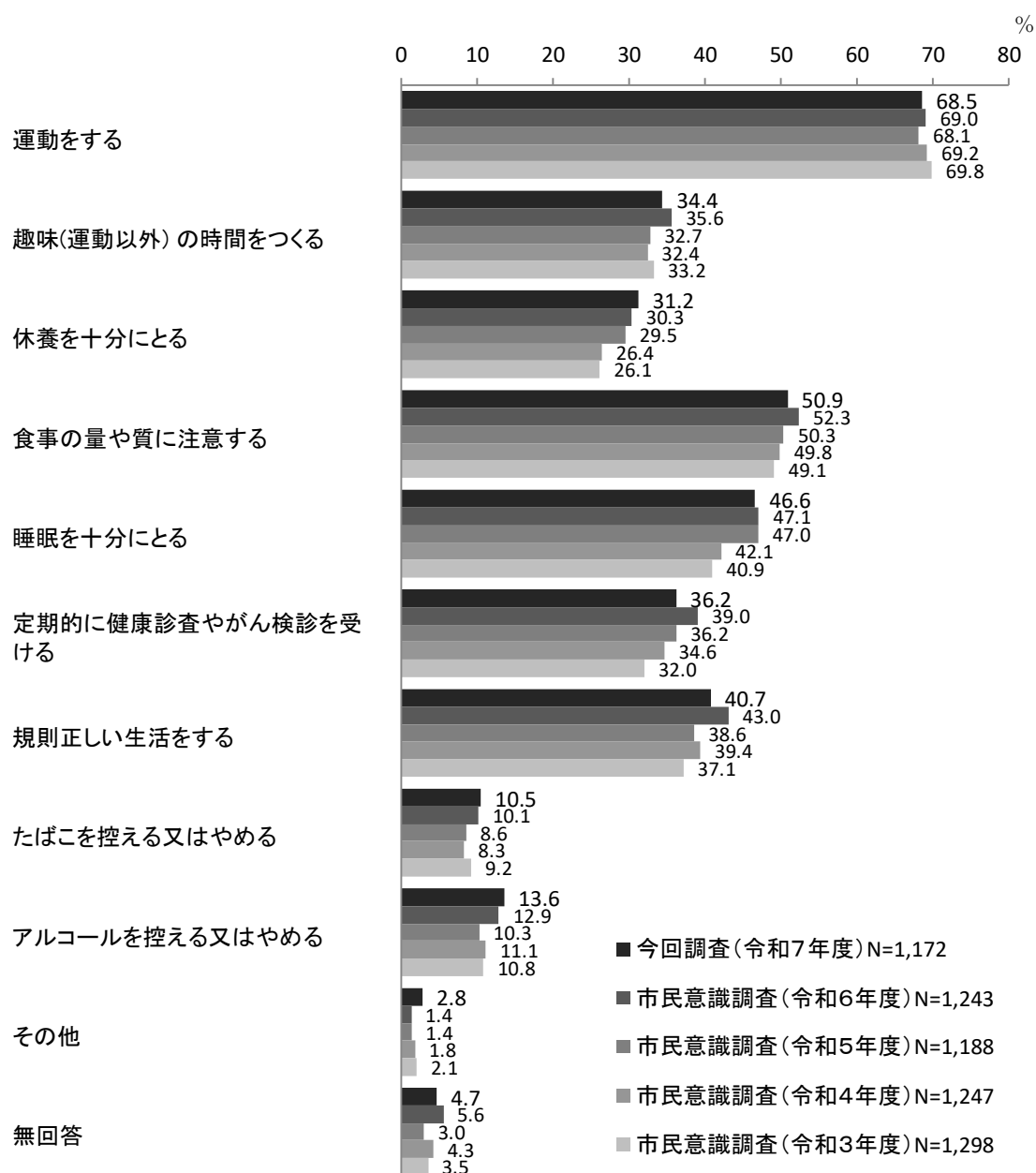


問 14-1 問 14 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方におたずねします。

具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。《あてはまるものすべてに○》

「運動をする」、「食事の量や質に注意する」、「睡眠を十分にとる」が上位

- ・ 実際に取り組んでいる（取り組みたい）こととしては、「運動をする」が 68.5%と最も多く、次いで「食事の量や質に注意する」が 50.9%、「睡眠を十分にとる」が 46.6%と続きます。
- ・ 性別、年代別、御園地区を除いた居住地区別のいずれも、「運動をする」が最も多くなっています。御園地区は、「食事の量や質に注意する」が最も多くなっています。
- ・ そのほか、特に男性は女性より「アルコールを控える又はやめる」が、女性は男性より「食事の量や質に注意する」や「定期的に健康診査やがん検診を受ける」、「睡眠を十分にとる」が多くあげられています。
- ・ 年代別では、40 歳代までで「睡眠を十分にとる」や「休養を十分にとる」など十分な睡眠や休養を、40 歳以上で「食事の量や質に注意する」など適正な食事をあげる人がほかの年代と比べ多い一方で、「定期的に健康診査やがん検診を受ける」は特に 20 歳代で低くなっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	運動をする	の趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	る食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	ん定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	めるたばこを控える又はやめる	はアルコールを控える又はやめる	その他	無回答
男性	525	71.6	33.9	27.0	44.4	41.1	30.3	35.6	14.9	19.2	3.0	5.5
女性	616	66.1	34.9	35.4	56.0	51.5	41.1	45.5	6.5	8.8	2.8	3.9

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	運動をする	の趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	る食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	ん定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	めるたばこを控える又はやめる	はアルコールを控える又はやめる	その他	無回答
10歳代	7	71.4	71.4	42.9	14.3	28.6	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3
20歳代	60	68.3	30.0	40.0	43.3	63.3	8.3	36.7	11.7	11.7	1.7	3.3
30歳代	131	68.7	34.4	35.9	45.0	48.1	36.6	31.3	13.7	22.1	1.5	3.1
40歳代	155	69.0	39.4	37.4	51.0	54.2	36.8	34.8	12.9	18.1	3.2	2.6
50歳代	178	61.2	29.8	29.2	53.4	43.3	34.3	32.6	7.9	10.7	2.8	7.3
60歳代	246	72.4	30.5	27.6	49.6	45.9	39.0	44.3	9.3	11.0	2.4	6.9
70歳以上	383	68.4	37.1	28.2	54.3	42.8	39.2	48.6	9.7	11.5	3.7	3.7

【居住地区別】

※「わからない」は、有効回答数が1件のため最大値を網掛けしていない。

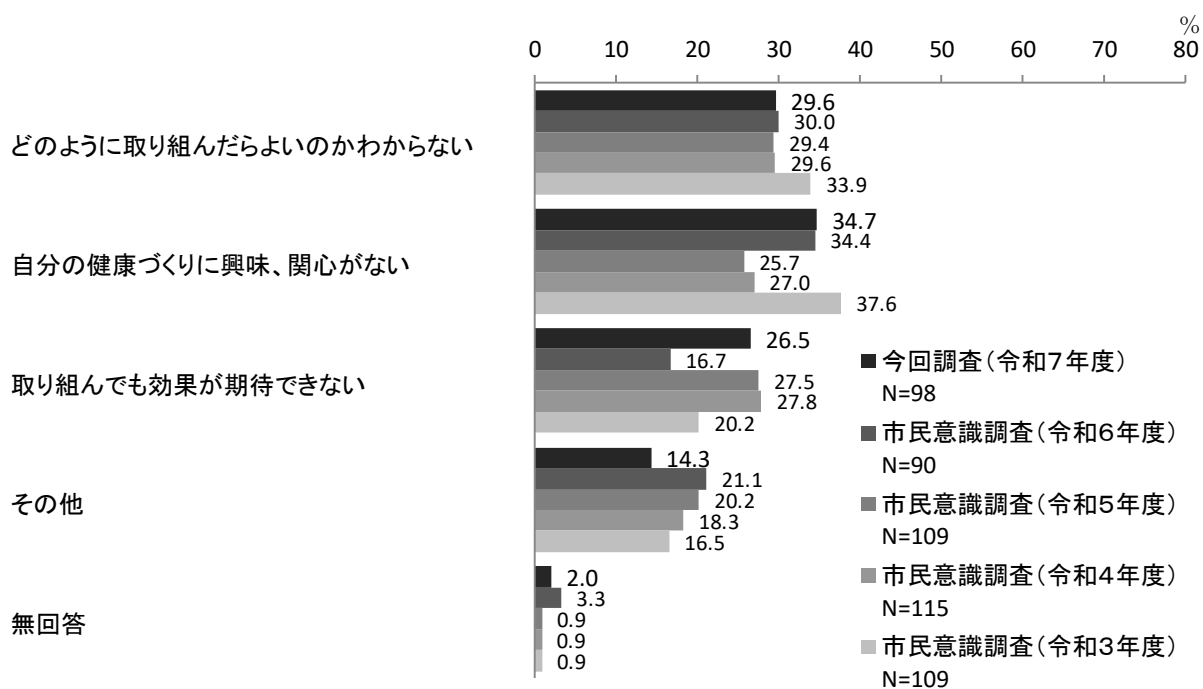
単位:%

区分	有効回答数(件)	運動をする	の趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	る食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	ん定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	めるたばこを控える又はやめる	はアルコールを控える又はやめる	その他	無回答
平田地区	31	64.5	19.4	16.1	38.7	35.5	51.6	45.2	9.7	9.7	0.0	9.7
市辺地区	29	79.3	31.0	24.1	51.7	34.5	20.7	37.9	10.3	6.9	0.0	10.3
玉緒地区	59	72.9	37.3	32.2	52.5	44.1	39.0	33.9	8.5	13.6	1.7	5.1
御園地区	55	56.4	49.1	21.8	58.2	47.3	30.9	43.6	9.1	7.3	5.5	5.5
建部地区	26	69.2	26.9	19.2	53.8	34.6	38.5	34.6	7.7	3.8	3.8	3.8
中野地区	51	78.4	29.4	33.3	51.0	41.2	31.4	33.3	7.8	11.8	2.0	9.8
八日市地区	138	68.1	31.9	34.8	47.8	49.3	26.1	39.1	9.4	15.2	3.6	6.5
南部地区	51	62.7	23.5	29.4	52.9	37.3	35.3	45.1	9.8	5.9	3.9	2.0
永源寺地区	59	61.0	33.9	25.4	55.9	44.1	30.5	37.3	16.9	23.7	3.4	3.4
五個荘地区	109	74.3	34.9	32.1	57.8	55.0	26.6	36.7	11.0	11.0	5.5	2.8
愛東地区	45	60.0	51.1	35.6	55.6	48.9	40.0	51.1	6.7	8.9	0.0	6.7
湖東地区	82	70.7	34.1	29.3	42.7	39.0	36.6	36.6	8.5	13.4	1.2	9.8
能登川地区	265	68.3	35.5	35.8	54.3	51.7	43.0	45.3	12.8	17.7	3.0	3.0
蒲生地区	144	67.4	34.0	29.2	42.4	44.4	41.7	43.1	7.6	11.1	2.1	2.1
わからない	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0

問 14-2 問 14 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方におたずねします。
その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

取り組むつもりがない理由は、「自分の健康づくりに興味、関心がない」が上位

- ・ 自分の健康づくりに取り組むつもりはない人の理由としては、「自分の健康づくりに興味、関心がない」が 34.7%と最も多く、次いで「どのように取り組んだらよいかわからない」が 29.6%、「取り組んでも効果が期待できない」が 26.5%、「その他」が 14.3%となっています。
- ・ 性別では、男女ともに「自分の健康づくりに興味、関心がない」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、50 歳代までは「自分の健康づくりに興味、関心がない」が、60 歳以上は「どのように取り組んだらよいかわからない」が最も多くなっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	どのように取り組んだらよいかわからない	自分の健康づくりに興味、関心がない	取り組んでも効果が期待できない	その他	無回答
男性	54	31.5	35.2	29.6	9.3	1.9
女性	42	28.6	33.3	21.4	21.4	2.4

【年代別】

単位:%

区 分	有効回答数(件)	ら ど の よ う の か に わ か ら 組 ん だ	味 自 分 の 健 康 づ く り に 興 味 関 心 が な い	待 取 り 組 ん だ も 効 果 が 期 待 で き な い	そ の 他	無 回 答
10歳代	0	-	-	-	-	-
20歳代	14	14.3	50.0	21.4	14.3	7.1
30歳代	13	38.5	46.2	23.1	15.4	0.0
40歳代	12	25.0	33.3	16.7	25.0	0.0
50歳代	19	26.3	42.1	31.6	5.3	0.0
60歳代	12	41.7	25.0	33.3	8.3	0.0
70歳以上	26	30.8	23.1	26.9	19.2	3.8

【居住地区別】 ※「わからない」は、有効回答数が1件のため最大値を網掛けしていない。

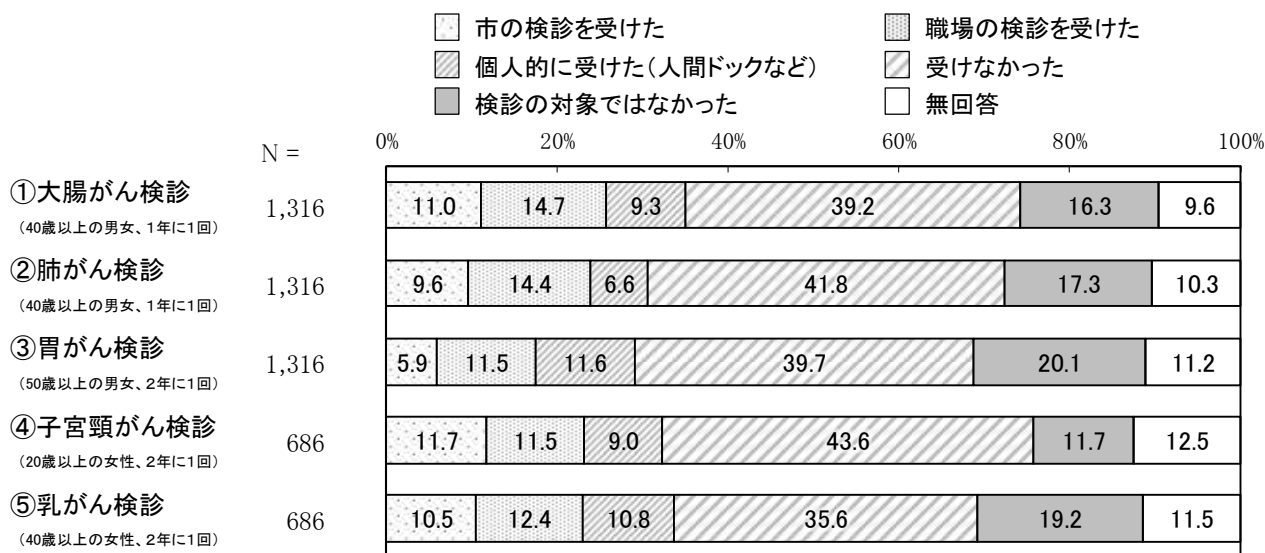
単位:%

区 分	有効回答数(件)	ら ど の よ う の か に わ か ら 組 ん だ	味 自 分 の 健 康 づ く り に 興 味 関 心 が な い	待 取 り 組 ん だ も 効 果 が 期 待 で き な い	そ の 他	無 回 答
平田地区	3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
市辺地区	4	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0
玉緒地区	5	20.0	60.0	40.0	0.0	0.0
御園地区	4	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0
建部地区	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
中野地区	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
八日市地区	10	10.0	50.0	50.0	10.0	0.0
南部地区	5	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0
永源寺地区	5	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0
五個荘地区	8	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0
愛東地区	4	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0
湖東地区	8	12.5	37.5	25.0	25.0	0.0
能登川地区	23	39.1	21.7	26.1	17.4	0.0
蒲生地区	11	45.5	18.2	27.3	9.1	0.0
わからない	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

問 15 あなたは、昨年度次の5つのがん検診を受診しましたか。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

大腸がん検診、乳がん検診と子宮頸がん検診（女性のみ）を受けた人の割合が高い

- ・ 昨年度の5つのがん検診の受診状況は、がん検診を受けたと回答した人の割合（「市の検診を受けた」と「職場の検診を受けた」、「個人的に受けた（人間ドックなど）」の合計）で見ると、①大腸がん検診が35.0%と最も高く、次いで⑤乳がん検診が33.7%、④子宮頸がん検診が32.2%、②肺がん検診が30.6%、③胃がん検診が29.0%で、いずれも「受けなかった」と回答した人のほうが多くなっています。
- ・ 受診したと回答した人の中では、①大腸がん検診、②肺がん検診、⑤乳がん検診は「職場の検診を受けた」が、③胃がん検診は「個人的に受けた（人間ドックなど）」が、④子宮頸がん検診は「市の検診を受けた」と回答した人がそれぞれ最も多くなっています。
- ・ なお、子宮頸がん検診、乳がん検診における男性の回答結果は省略しています。



※ここでは、対象年齢未満（①大腸がん検診、②肺がん検診、⑤乳がん検診：40歳未満、③胃がん検診：50歳未満、④子宮頸がん検診：20歳未満（いずれも年齢無回答を含む））で、かつ「市の検診を受診した」と回答された方は無回答としている。

■被対象者に限定した受診状況

- それぞれのがん検診の被対象者条件に該当する性別・年齢に限定した場合、がん検診を受けたと回答した人の割合（前述）は、①大腸がん検診が41.5%、⑤乳がん検診が38.0%、②肺がん検診が36.5%、③胃がん検診が36.1%、④子宮頸がん検診が32.3%となっています。一方、被対象者に該当する性別・年齢で「受けなかった」と回答した人の割合は②肺がん検診が48.0%と最も高く、次いで③胃がん検診が46.9%、①大腸がん検診が45.1%、④子宮頸がん検診が43.9%、⑤乳がん検診が40.4%となっています。

(単位:%)

検診項目	被対象者条件	受診率		未受診率		対象外	
		受診率	未受診率	受診率	未受診率	受診率	未受診率
大腸がん検診	40歳以上の男女 (1年に1回)	41.5		45.1		4.0	
		男性 40.4	女性 43.1	男性 48.3	女性 43.1	男性 3.8	女性 4.2
		40歳代 42.0	50歳代 44.6	40歳代 47.9	50歳代 49.5	40歳代 5.9	50歳代 4.5
		60歳代 50.6	70歳以上 34.4	60歳代 37.7	70歳以上 46.5	60歳代 2.3	70歳以上 4.1
		平田地区 37.5	市辺地区 28.1	平田地区 50.0	市辺地区 59.4	平田地区 6.3	市辺地区 6.3
		玉緒地区 31.6	御園地区 42.9	玉緒地区 64.9	御園地区 41.1	玉緒地区 0.0	御園地区 7.1
		建部地区 34.5	中野地区 43.5	建部地区 55.2	中野地区 41.3	建部地区 0.0	中野地区 6.5
		八日市地区 39.0	南部地区 49.0	八日市地区 49.5	南部地区 40.8	八日市地区 3.8	南部地区 2.0
		永源寺地区 42.6	五個荘地区 40.4	永源寺地区 37.0	五個荘地区 47.1	永源寺地区 1.9	五個荘地区 2.9
		愛東地区 39.1	湖東地区 51.3	愛東地区 43.5	湖東地区 36.8	愛東地区 6.5	湖東地区 5.3
		能登川地区 44.9	蒲生地区 39.3	能登川地区 42.0	蒲生地区 43.7	能登川地区 2.9	蒲生地区 6.7
		36.5		48.0		4.9	
		男性 40.0	女性 35.0	男性 47.5	女性 48.5	男性 4.2	女性 5.6
		40歳代 29.6	50歳代 43.1	40歳代 56.2	50歳代 49.0	40歳代 8.3	50歳代 4.5
		60歳代 45.3	70歳以上 31.0	60歳代 44.2	70歳以上 46.7	60歳代 2.6	70歳以上 5.2
		平田地区 31.3	市辺地区 37.5	平田地区 56.3	市辺地区 56.3	平田地区 3.1	市辺地区 6.3
		玉緒地区 29.8	御園地区 33.9	玉緒地区 61.4	御園地区 46.4	玉緒地区 3.5	御園地区 8.9
		建部地区 27.6	中野地区 39.1	建部地区 58.6	中野地区 45.7	建部地区 3.4	中野地区 8.7
		八日市地区 30.5	南部地区 36.7	八日市地区 55.2	南部地区 46.9	八日市地区 5.7	南部地区 2.0
		永源寺地区 37.0	五個荘地区 31.7	永源寺地区 42.6	五個荘地区 52.9	永源寺地区 0.0	五個荘地区 2.9
愛東地区 41.3	湖東地区 50.0	愛東地区 41.3	湖東地区 35.5	愛東地区 6.5	湖東地区 5.3		
能登川地区 41.2	蒲生地区 35.6	能登川地区 44.9	蒲生地区 45.9	能登川地区 3.7	蒲生地区 8.1		
36.1		46.9		5.2			
男性 40.6	女性 33.0	男性 45.9	女性 48.3	男性 4.3	女性 6.0		
50歳代 41.6	60歳代 41.5	50歳代 49.0	60歳代 45.3	50歳代 6.9	60歳代 3.4		
70歳以上 30.3	平田地区 33.3	70歳以上 46.9	70歳以上 5.5	70歳以上 5.5			
平田地区 33.3	市辺地区 29.0	平田地区 53.3	市辺地区 54.8	平田地区 10.0	市辺地区 9.7		
玉緒地区 32.0	御園地区 35.6	玉緒地区 60.0	御園地区 44.4	玉緒地区 0.0	御園地区 8.9		
建部地区 34.8	中野地区 43.6	建部地区 52.2	中野地区 43.6	建部地区 0.0	中野地区 7.7		
八日市地区 34.1	南部地区 32.6	八日市地区 47.6	南部地区 48.8	八日市地区 7.3	南部地区 2.3		
永源寺地区 37.5	五個荘地区 34.1	永源寺地区 41.7	五個荘地区 44.7	永源寺地区 0.0	五個荘地区 5.9		
愛東地区 31.0	湖東地区 48.5	愛東地区 52.4	湖東地区 30.3	愛東地区 2.4	湖東地区 9.1		
能登川地区 37.3	蒲生地区 36.2	能登川地区 46.3	蒲生地区 50.0	能登川地区 4.0	蒲生地区 6.0		

(単位:%)

検診項目	被対象者条件	受診率		未受診率		対象外	
		受診率	未受診率	受診率	未受診率	受診率	未受診率
子宮頸がん検診	20歳以上の女性 (2年に1回)	32.3		43.9		11.6	
		20歳代 45.2	30歳代 49.4	20歳代 45.2	30歳代 40.7	20歳代 6.5	30歳代 8.6
		40歳代 54.0	50歳代 43.2	40歳代 32.2	50歳代 37.8	40歳代 10.3	50歳代 12.6
		60歳代 24.7	70歳以上 15.4	60歳代 51.3	70歳以上 47.5	60歳代 10.0	70歳以上 14.5
		平田地区 30.0	市辺地区 33.3	平田地区 35.0	市辺地区 55.6	平田地区 15.0	市辺地区 11.1
		玉緒地区 28.9	御園地区 26.5	玉緒地区 60.5	御園地区 47.1	玉緒地区 10.5	御園地区 8.8
		建部地区 15.0	中野地区 23.8	建部地区 60.0	中野地区 42.9	建部地区 0.0	中野地区 9.5
		八日市地区 29.2	南部地区 27.6	八日市地区 50.0	南部地区 58.6	八日市地区 11.1	南部地区 6.9
		永源寺地区 34.2	五個荘地区 32.4	永源寺地区 34.2	五個荘地区 49.3	永源寺地区 10.5	五個荘地区 11.3
		愛東地区 26.9	湖東地区 22.2	愛東地区 46.2	湖東地区 51.1	愛東地区 15.4	湖東地区 17.8
		能登川地区 40.3	蒲生地区 39.3	能登川地区 30.9	蒲生地区 40.4	能登川地区 12.8	蒲生地区 12.4
		38.0		40.4		10.0	
		40歳代 56.3	50歳代 49.5	40歳代 29.9	50歳代 36.0	40歳代 11.5	50歳代 10.8
		60歳代 40.7	70歳以上 23.1	60歳代 43.3	70歳以上 44.8	60歳代 7.3	70歳以上 10.9
		平田地区 41.2	市辺地区 41.2	平田地区 35.3	市辺地区 52.9	平田地区 11.8	市辺地区 5.9
		玉緒地区 40.6	御園地区 42.4	玉緒地区 50.0	御園地区 33.3	玉緒地区 6.3	御園地区 9.1
		建部地区 31.6	中野地区 44.4	建部地区 47.4	中野地区 33.3	建部地区 0.0	中野地区 5.6
		八日市地区 29.4	南部地区 50.0	八日市地区 51.0	南部地区 34.6	八日市地区 11.8	南部地区 7.7
		永源寺地区 30.0	五個荘地区 33.9	永源寺地区 30.0	五個荘地区 50.0	永源寺地区 13.3	五個荘地区 8.1
		愛東地区 24.0	湖東地区 38.9	愛東地区 44.0	湖東地区 36.1	愛東地区 16.0	湖東地区 16.7
能登川地区 42.6	蒲生地区 37.8	能登川地区 29.5	蒲生地区 47.3	能登川地区 12.3	蒲生地区 8.1		

- * 受診率 : 「市の検診を受けた」、「職場の検診を受けた」、「個人的に受けた(人間ドッグなど)」の合計
- * 未受診率 : 「受けなかった」
- * 対象外 : 「検診の対象ではなかった」

① **大腸がん検診（40歳以上の男女、1年に1回）**

- ・年代別では、対象である40歳以上でがん検診を受けたと回答した人の割合（前述）を見ると、40～50歳代は4割、60歳代は半数ですが、「受けなかった」人の割合は、60歳代を除いて半数近くと受けた人より多くなっています。
- ・被対象者である40歳以上の男女に回答者を限定すると、居住地区別では湖東地区で半数ががん検診を受けたと回答している一方で、市辺地区で3割未満と低くなっています。

② **肺がん検診（40歳以上の男女、1年に1回）**

- ・年代別では、対象である40歳以上でがん検診を受けたと回答した人の割合（前述）を見ると、50歳代は4割、60歳代は半数近くですが、「受けなかった」人の割合は、60歳代を除いて受けた人より多くなっています。
- ・被対象者である40歳以上の男女に回答者を限定すると、居住地区別では湖東地区で半数ががん検診を受けたと回答している一方、建部地区、玉緒地区で3割未満と低くなっています。

③ **胃がん検診（50歳以上の男女、2年に1回）**

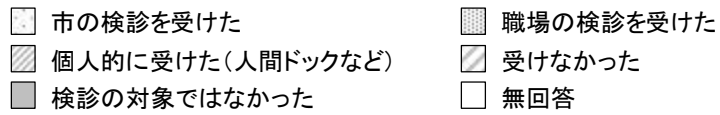
- ・年代別では、対象である50歳以上でがん検診を受けたと回答した人の割合（前述）を見ると、50～60歳代は4割、70歳以上は3割ですが、「受けなかった」人の割合はいずれの年代も半数近くと、受けなかった人のほうが多くなっています。
- ・被対象者である50歳以上の男女に回答者を限定すると、性別では女性より男性が高く、居住地区別では湖東地区で半数近くががん検診を受けたと回答している一方、市辺地区で3割未満と低くなっています。

④ **子宮頸がん検診（20歳以上の女性、2年に1回）**

- ・被対象者である20歳以上の女性に回答者を限定すると、年代別では40歳代までは半数前後で40歳代が最も高く、40歳以上は年齢が上がるほど低下し、70歳以上は2割未満にとどまっています。また、居住地区別では能登川地区、蒲生地区で4割前後ががん検診を受けたと回答している一方、建部地区で2割未満と低くなっています。

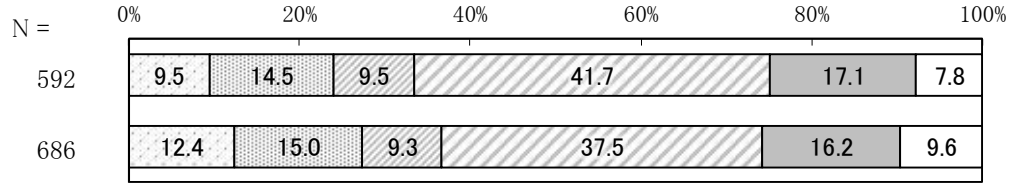
⑤ **乳がん検診（40歳以上の女性、2年に1回）**

- ・被対象者である40歳以上の女性に回答者を限定すると、年代別では40歳代が6割近くと最も高い一方、年齢が上がるほど低下し、70歳以上は2割にとどまっています。また、居住地区別では南部地区で半数ががん検診を受けたと回答している一方で、愛東地区で2割と低くなっています。

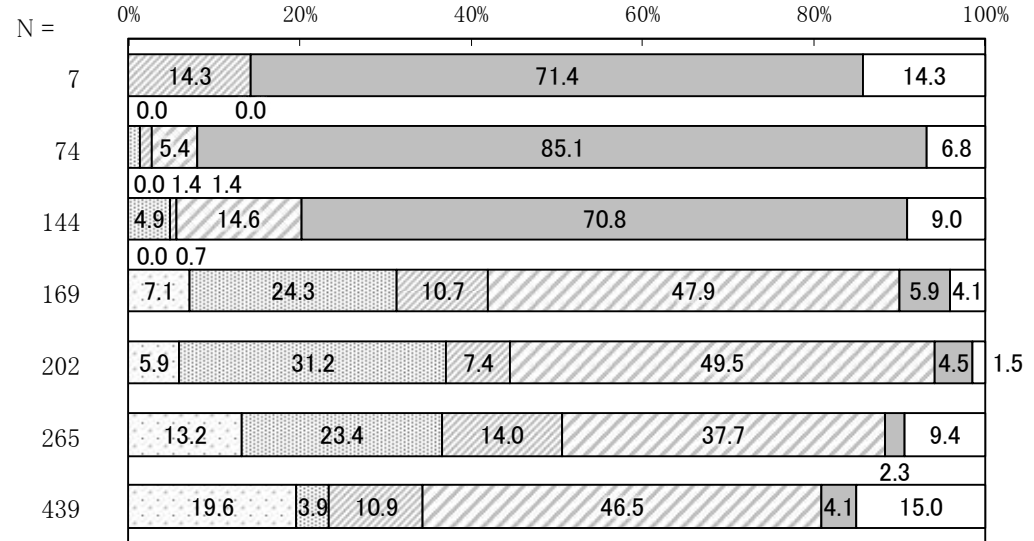


① 大腸がん検診

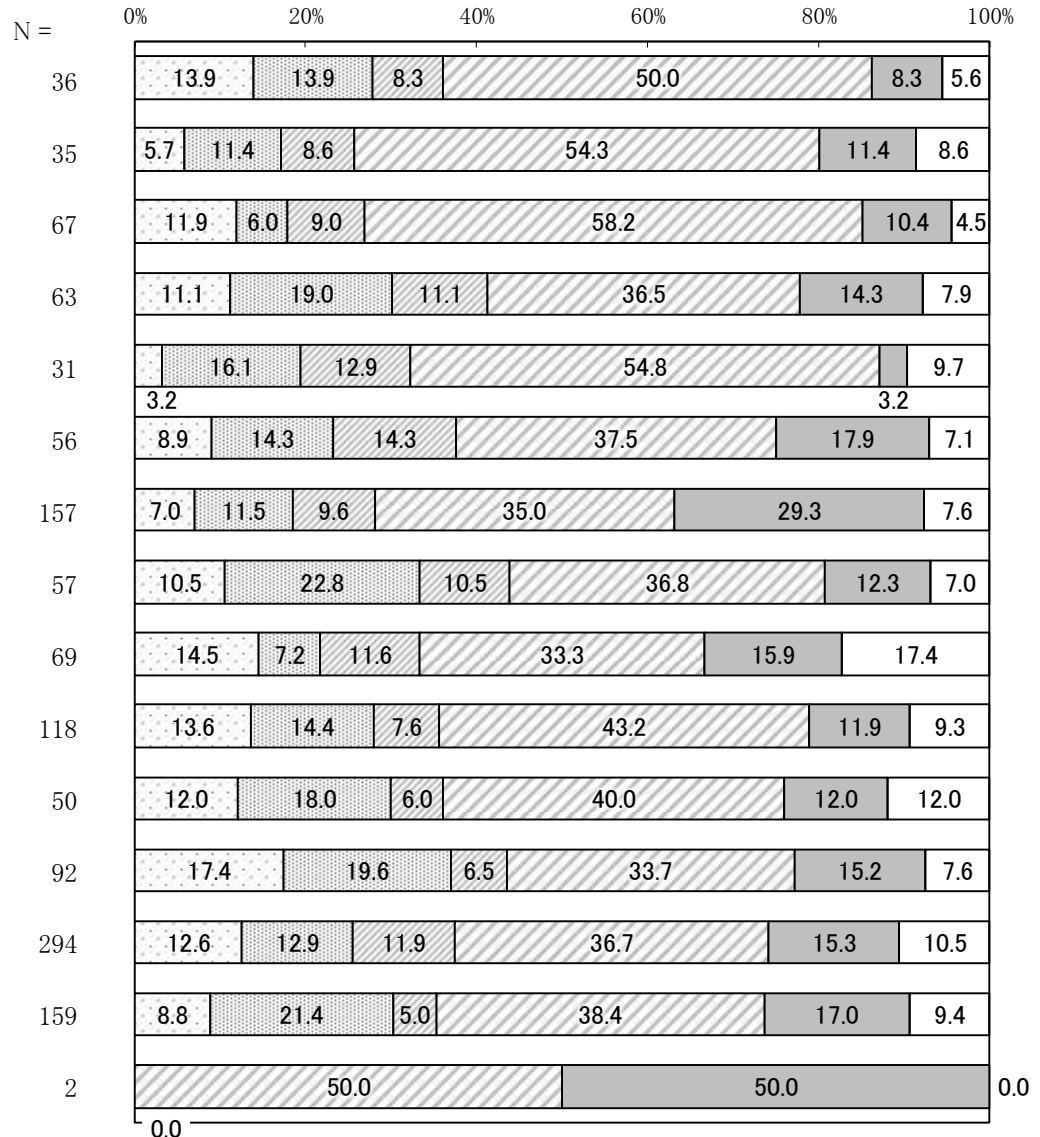
【性別】



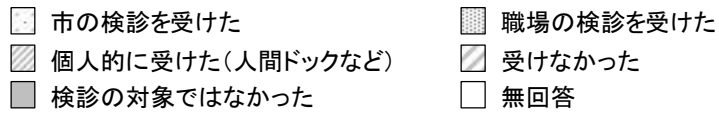
【年代別】



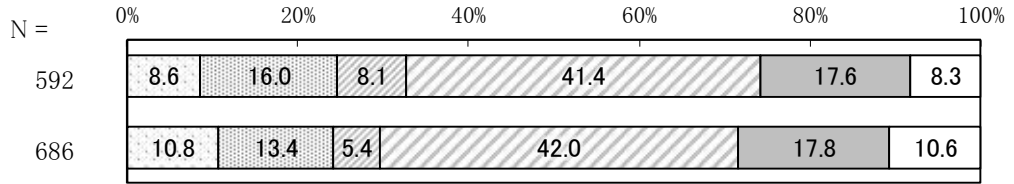
【居住地区別】



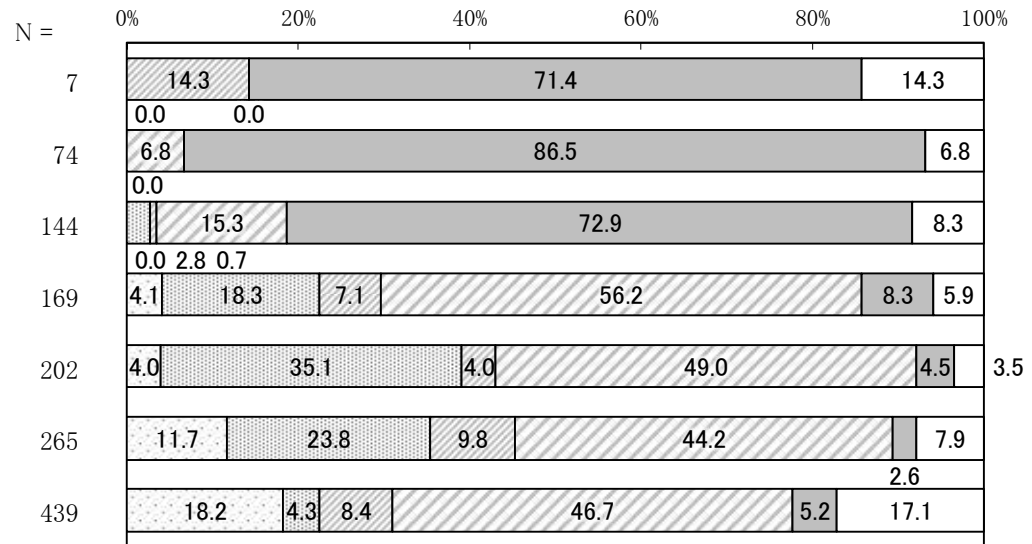
② 肺がん検診



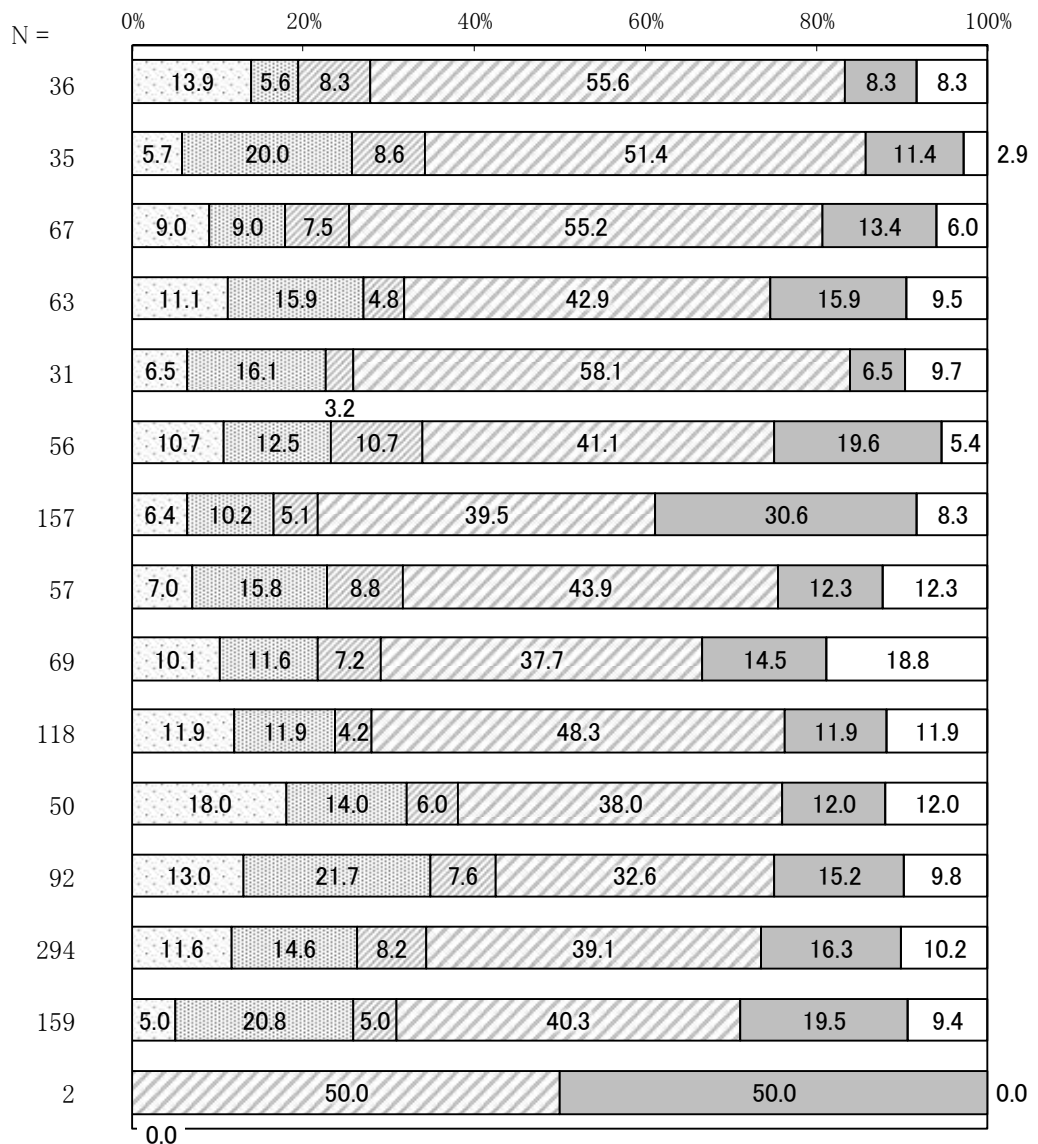
【性別】



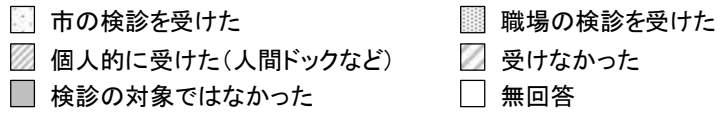
【年代別】



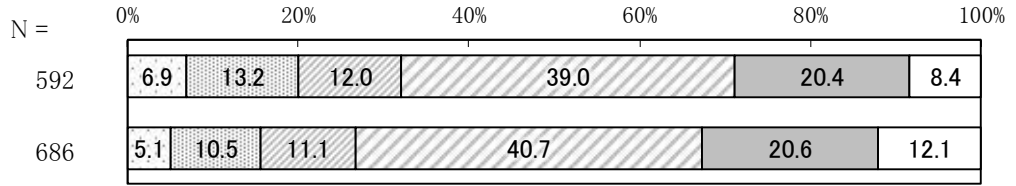
【居住地区別】



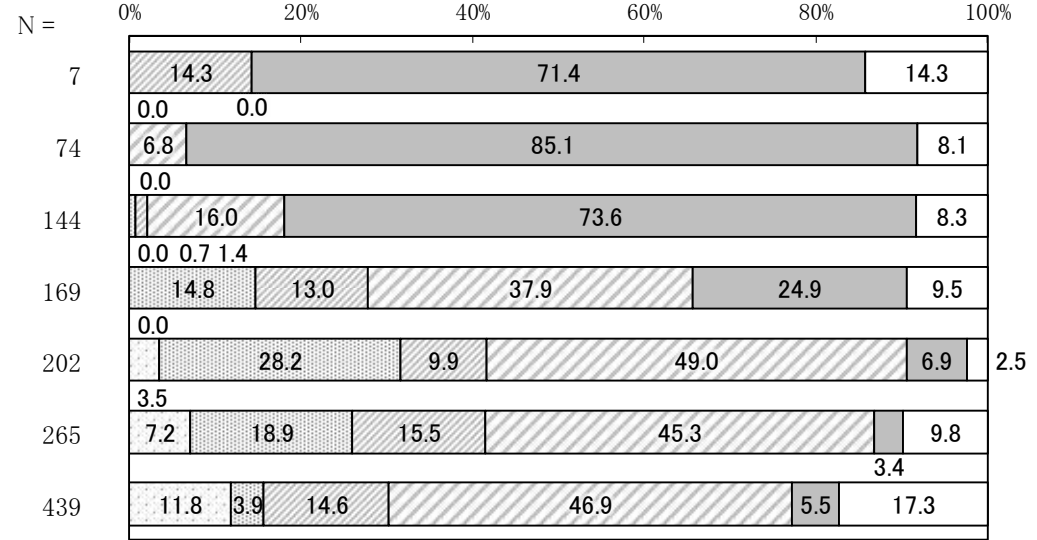
③ 胃がん検診



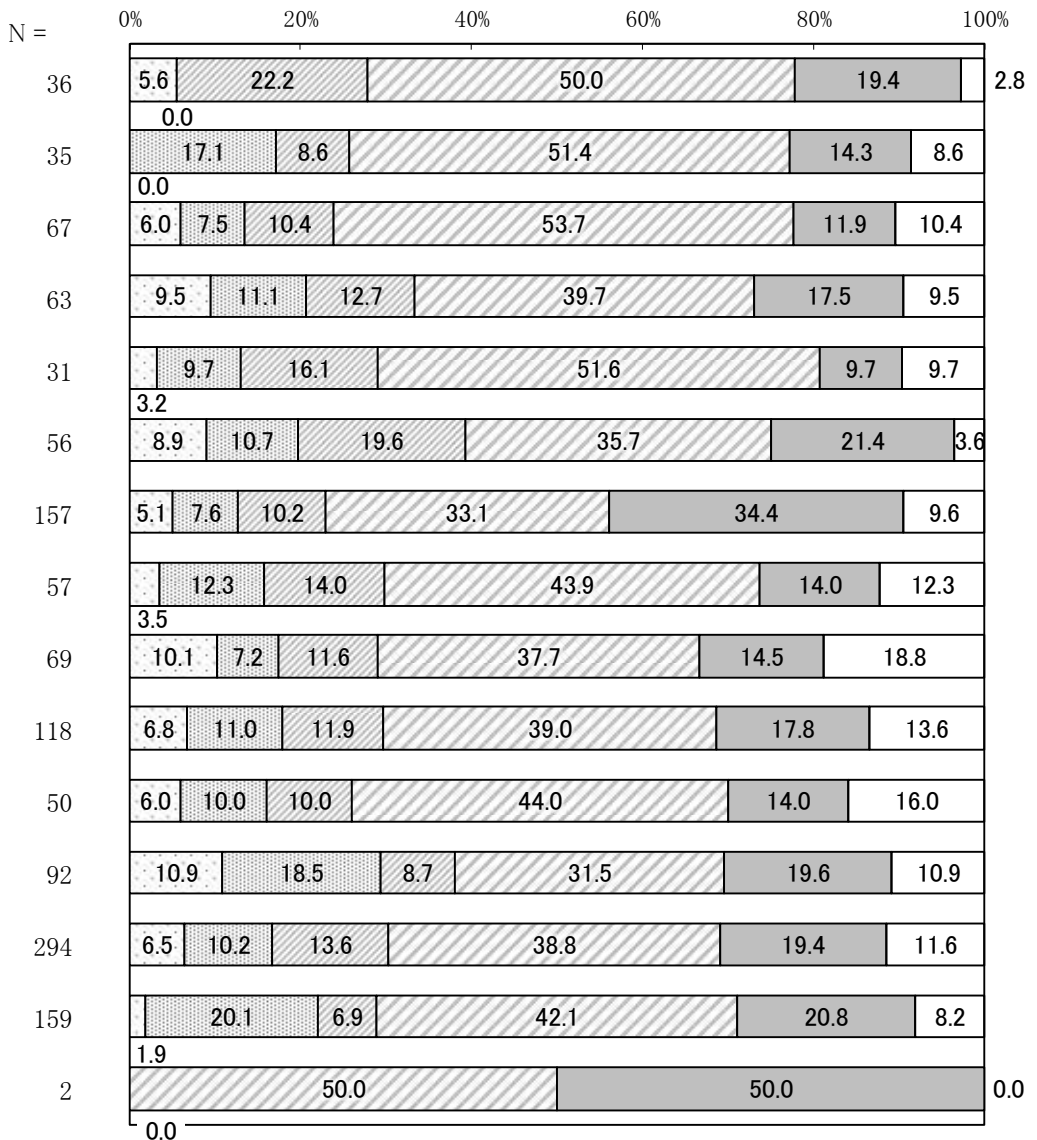
【性別】



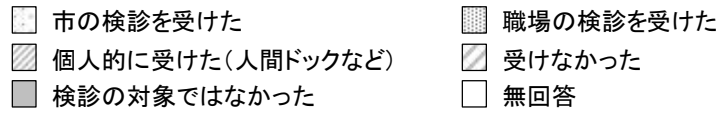
【年代別】



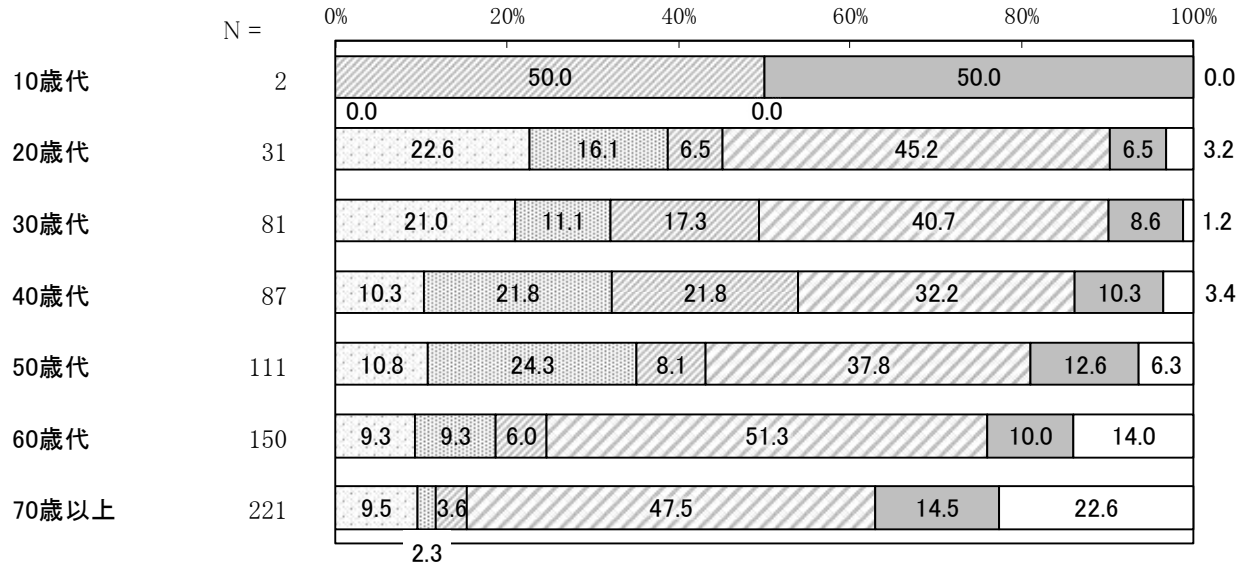
【居住地区別】



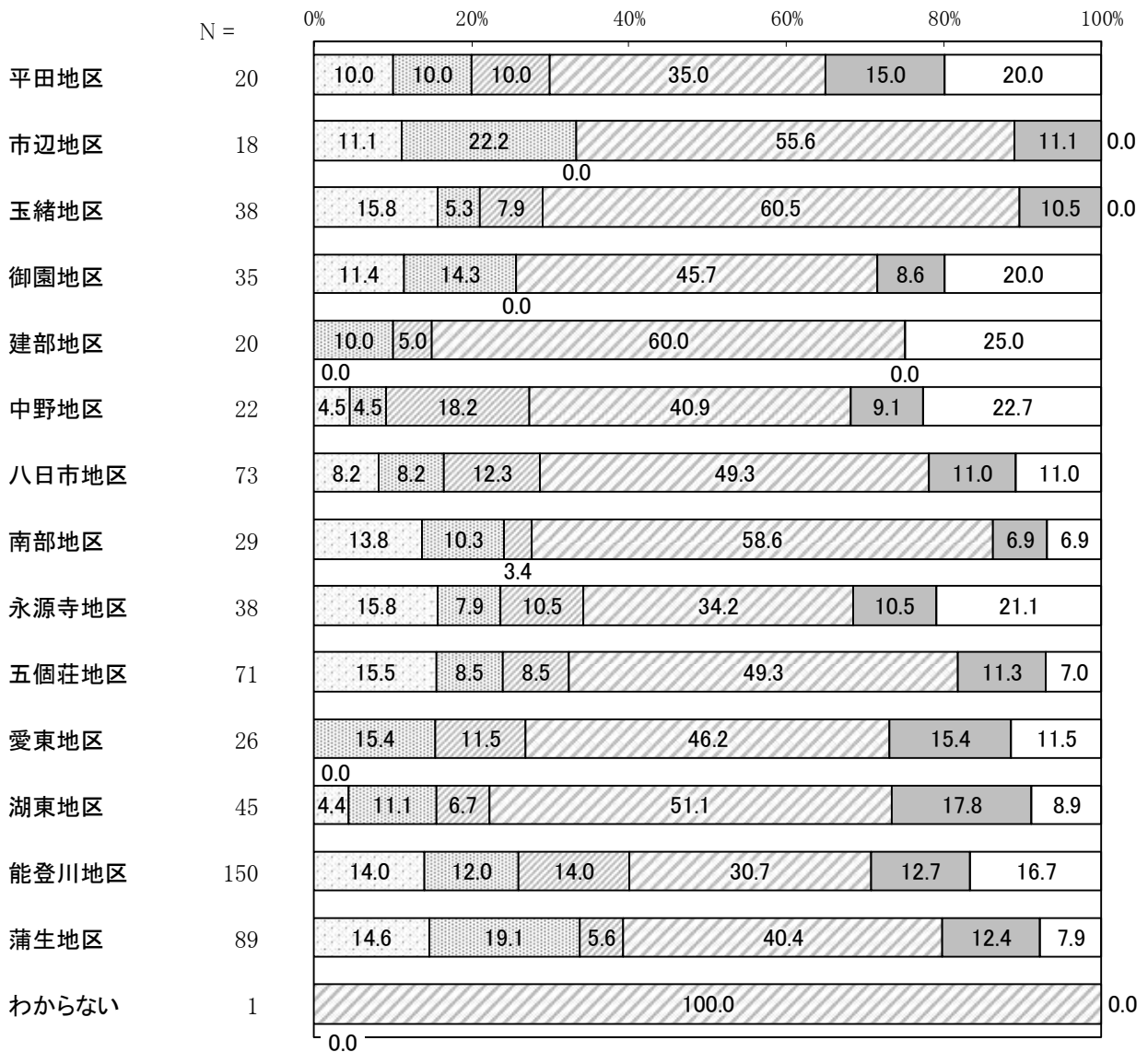
④ 子宮頸がん検診



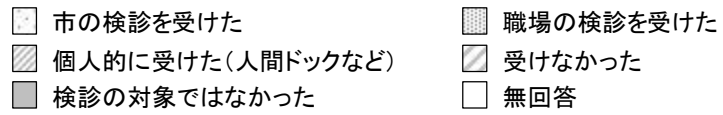
【年代別 (女性のみ)】



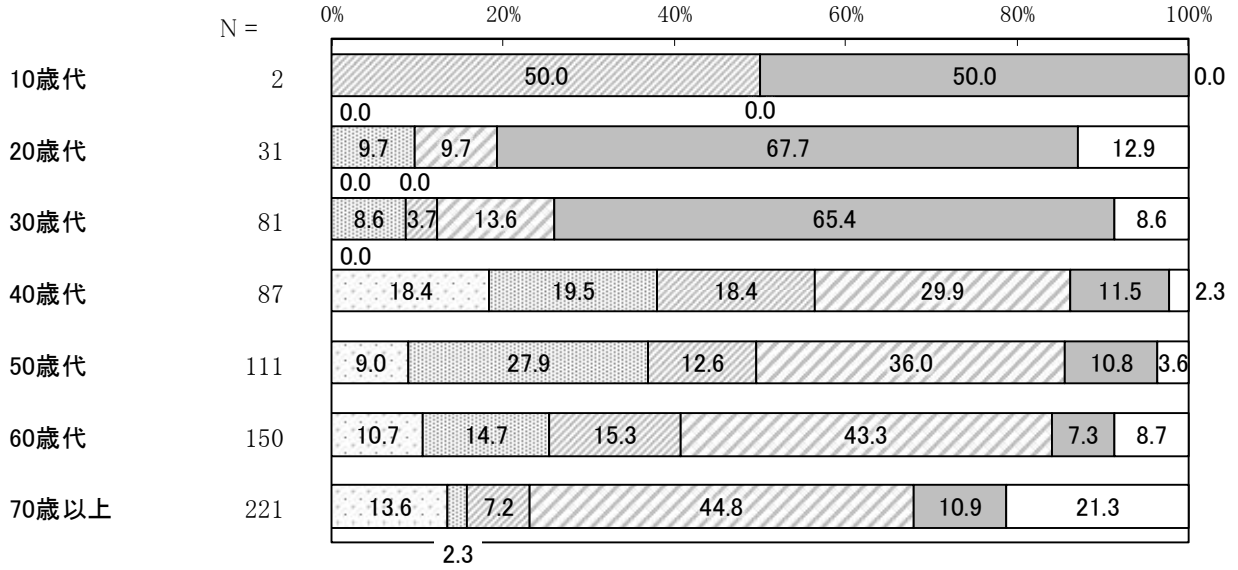
【居住地区別 (女性のみ)】



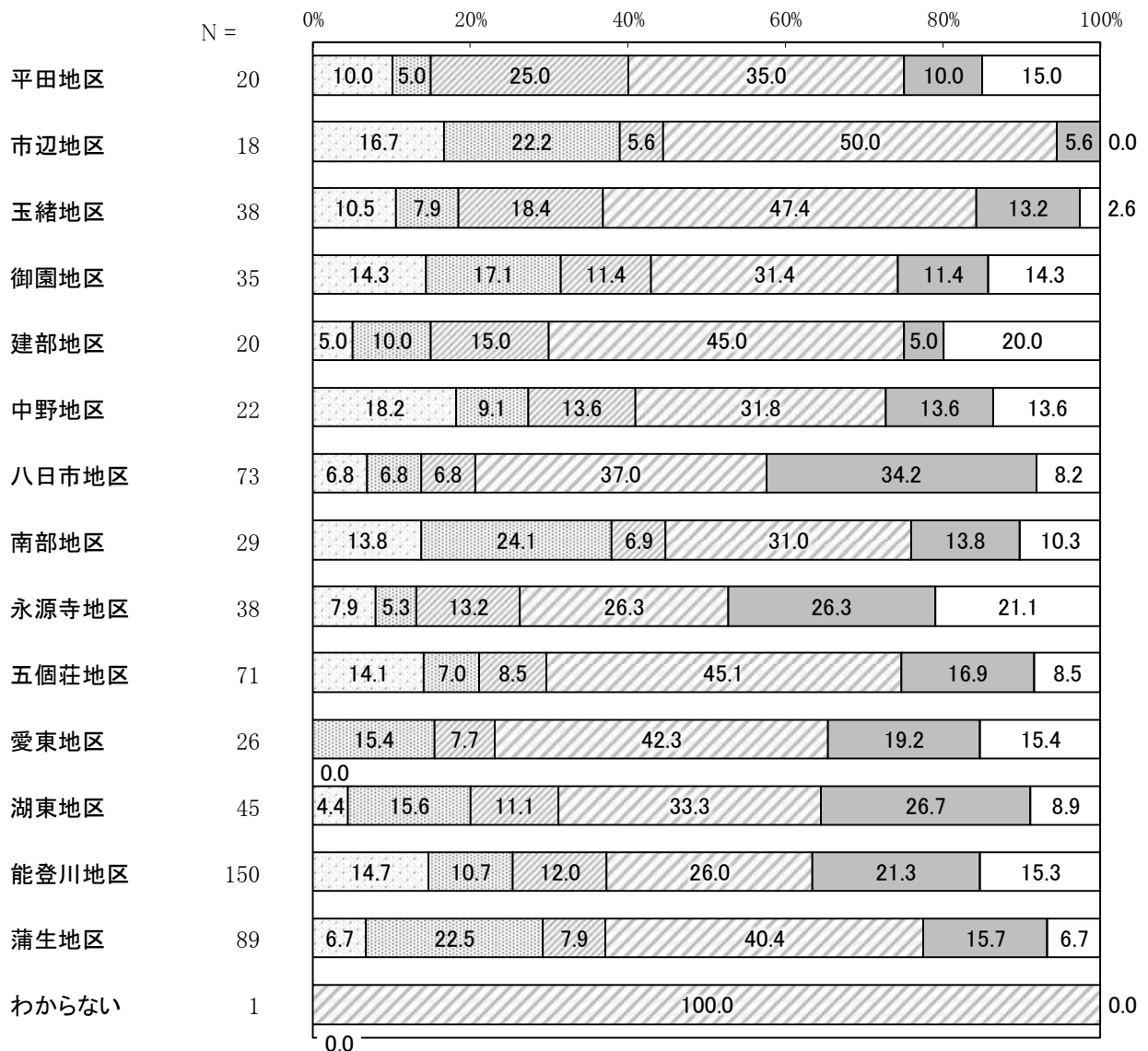
⑤ 乳がん検診



【年代別 (女性のみ)】



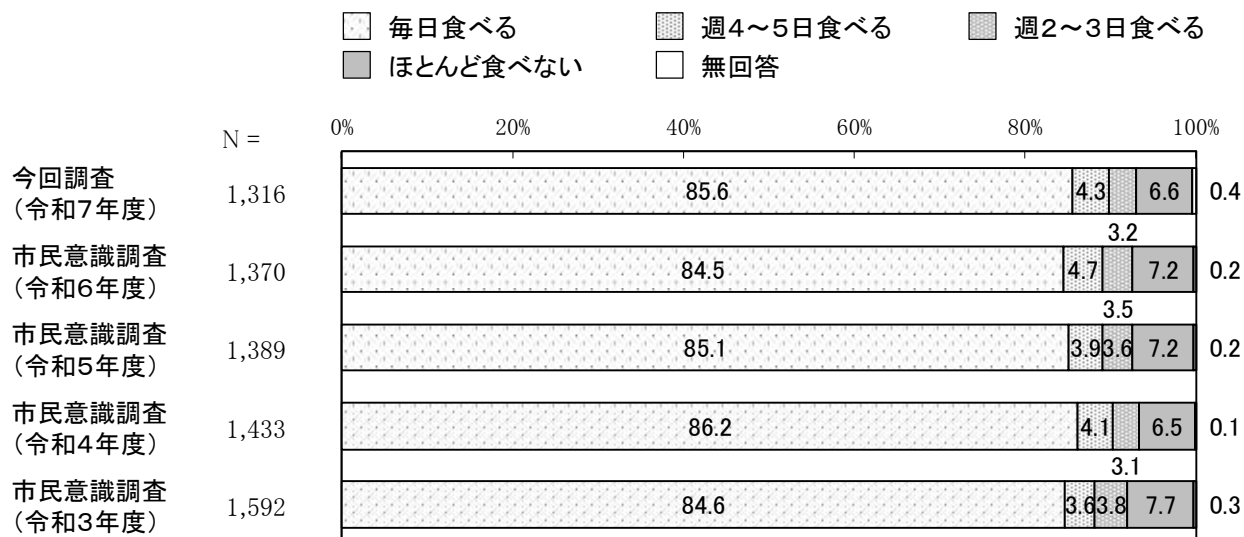
【居住地区別 (女性のみ)】



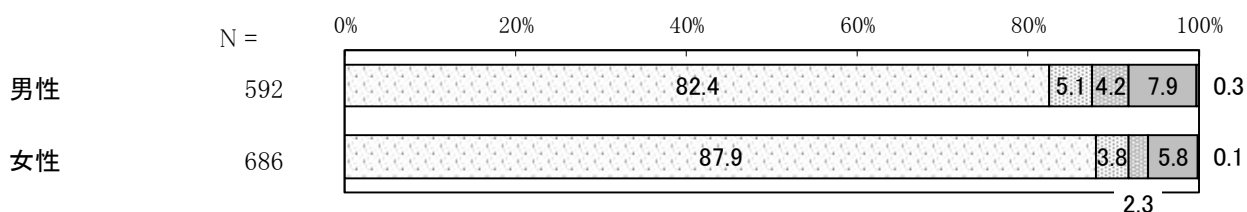
問 16 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

9割近くが朝食は「毎日食べる」

- ・ 朝食を食べているかについては、「毎日食べる」と回答した人が 85.6%と、9割近くとなっています。次いで、「ほとんど食べない」が 6.6%、「週4～5日食べる」が 4.3%、「週2～3日食べる」が 3.2%と続きます。
- ・ 性別では女性、年代別では 60 歳代でそれぞれ 9割近く、また 70 歳以上、居住地区別では平田地区、中野地区、愛東地区でそれぞれ 9割以上の方が朝食を毎日食べています。
- ・ そのほか年代別では、年齢が上がるほど「毎日食べる」人の割合が増加する傾向が見られます。

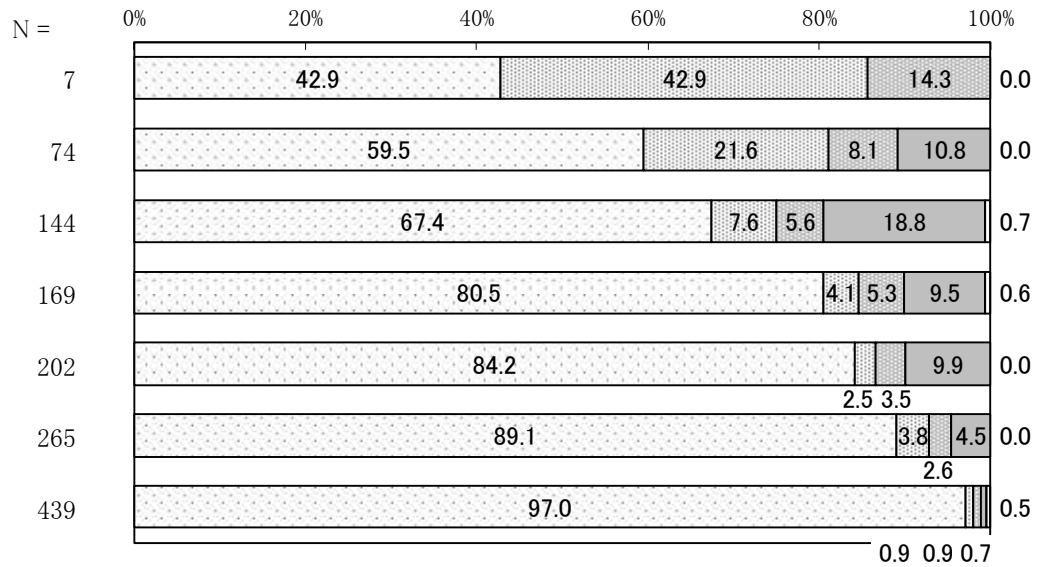


【性別】

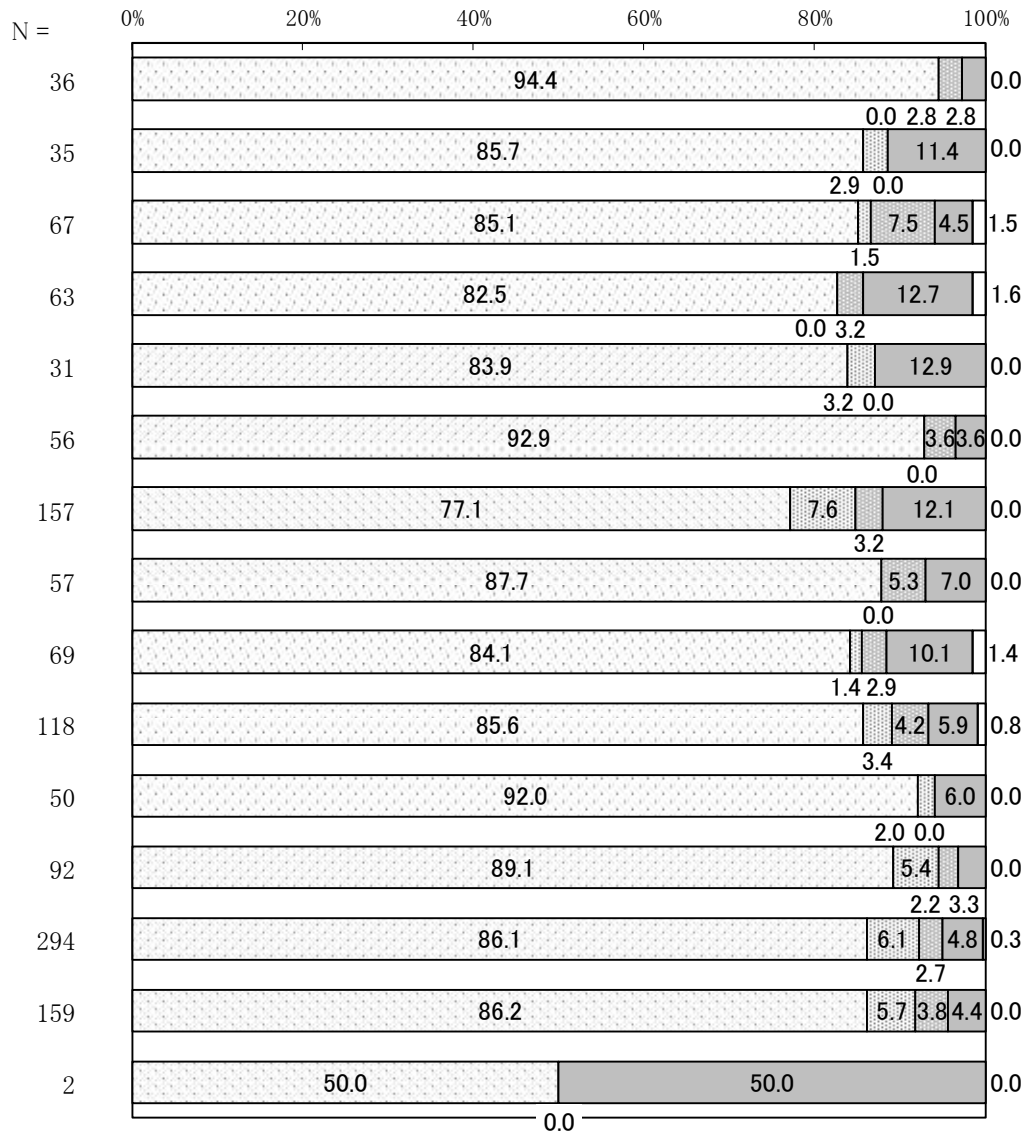


【年代別】

毎日食べる
 週4~5日食べる
 週2~3日食べる
 ほとんど食べない
 無回答



【居住地区別】

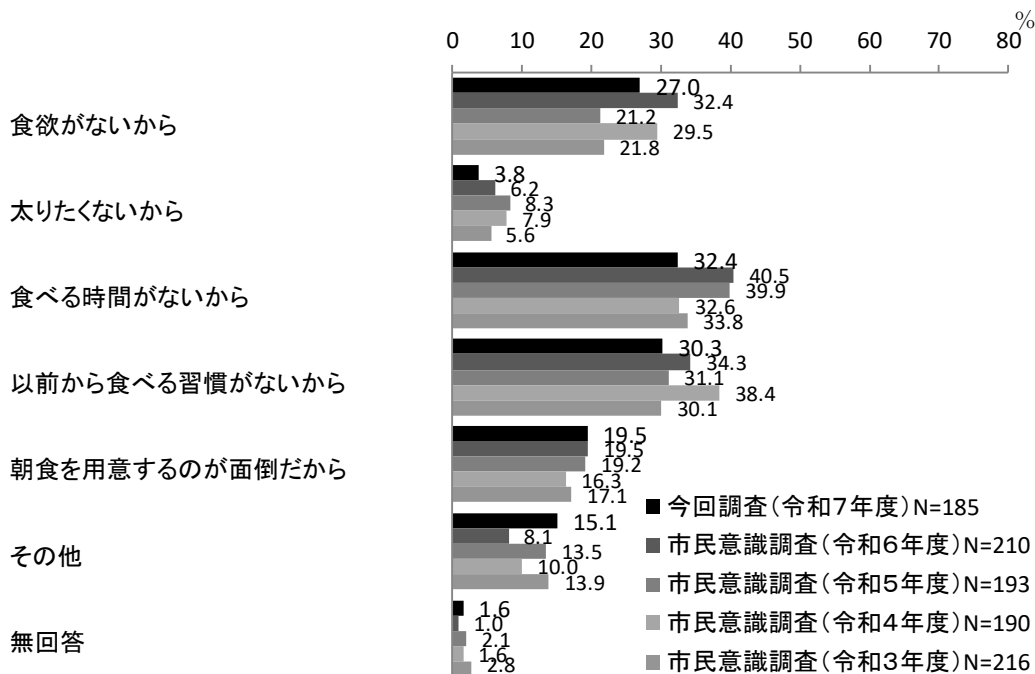


問 16-1 問 16 で「2. 週 4～5 日食べる」「3. 週 2～3 日食べる」「4. ほとんど食べない」とお答えの方におたずねします。

食べない日がある理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

朝食を食べない理由は、食べる時間がない、習慣がないなど

- ・ 朝食を食べない日がある人にその理由を聞いたところ、「食べる時間がないから」が 32.4%と最も多く、次いで「以前から食べる習慣がないから」が 30.3%、「食欲がないから」が 27.0%と続きます。
- ・ 性別では、男性は「以前から食べる習慣がないから」、女性は「食べる時間がないから」が最も多くあげられています。
- ・ 年代別では、有効回答数が少ないため単純比較はできませんが、40 歳代までは「食べる時間がないから」、50～60 歳代は「以前から食べる習慣がないから」、70 歳以上は「その他」が最も多くなっています。60 歳代は、「食欲がないから」も同率で最も多くあげられています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	食欲がないから	太りたくないから	食べる時間がないから	以前から食べる習慣がないから	朝食を用意するのが面倒だから	その他	無回答
男性	102	22.5	2.0	26.5	35.3	19.6	10.8	2.0
女性	82	31.7	6.1	39.0	24.4	19.5	20.7	1.2

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	食欲がないから	太りたくないから	食べる時間がないから	以前から食べる習慣がないから	朝食を用意するのが面倒だから	その他	無回答
10歳代	4	25.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	30	30.0	0.0	50.0	23.3	43.3	10.0	0.0
30歳代	46	26.1	2.2	37.0	30.4	23.9	13.0	0.0
40歳代	32	25.0	9.4	31.3	28.1	12.5	15.6	0.0
50歳代	32	25.0	6.3	21.9	37.5	15.6	15.6	0.0
60歳代	29	34.5	3.4	13.8	34.5	6.9	13.8	10.3
70歳以上	11	18.2	0.0	27.3	27.3	9.1	45.5	0.0

【居住地区別】

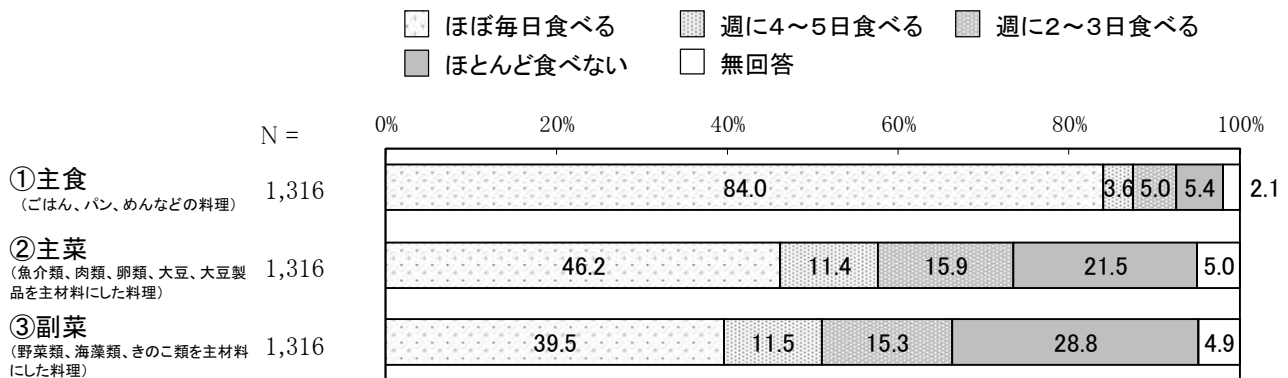
※「わからない」は、有効回答数が1件のため最大値を網掛けしていない。単位:%

区分	有効回答数(件)	食欲がないから	太りたくないから	食べる時間がないから	以前から食べる習慣がないから	朝食を用意するのが面倒だから	その他	無回答
平田地区	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
市辺地区	5	20.0	0.0	0.0	60.0	40.0	20.0	0.0
玉緒地区	9	44.4	11.1	33.3	33.3	22.2	11.1	0.0
御園地区	10	20.0	10.0	40.0	10.0	30.0	10.0	10.0
建部地区	5	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
中野地区	4	0.0	0.0	25.0	50.0	50.0	0.0	0.0
八日市地区	36	13.9	0.0	36.1	41.7	16.7	16.7	0.0
南部地区	7	28.6	0.0	42.9	42.9	0.0	0.0	14.3
永源寺地区	10	30.0	0.0	40.0	20.0	10.0	10.0	0.0
五個荘地区	16	18.8	6.3	31.3	37.5	0.0	25.0	0.0
愛東地区	4	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
湖東地区	10	40.0	0.0	40.0	20.0	30.0	20.0	0.0
能登川地区	40	30.0	5.0	30.0	27.5	22.5	22.5	0.0
蒲生地区	22	31.8	4.5	36.4	22.7	22.7	9.1	4.5
わからない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

問 17 あなたは、朝食で「①主食」「②主菜」「③副菜」を食べることが週にどの程度ありますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

主食は8割、主菜は半数近く、副菜は4割近くが毎日食べている

- ・ 朝食で、①主食、②主菜、③副菜を食べる頻度については、「ほぼ毎日食べる」と回答した人の割合は、①主食が84.0%、②主菜が46.2%、③副菜が39.5%となっています。
- ・ 逆に、「ほとんど食べない」と回答した人の割合は、③副菜が28.8%、②主菜は21.5%、①主食は5.4%となっています。



① 主食（ごはん、パン、めんなどの料理）

- ・ 年代別では、おおむね年齢が上がるほど主食を「ほぼ毎日」食べる人の割合が高くなり、20～30歳代は7割前後でしたが、60歳以上は9割前後となっています。
- ・ 居住地区別では、特に中野地区、五個荘地区などで主食を「ほぼ毎日」食べる人の割合が高い一方で、市辺地区、御園地区では「ほとんど食べない」人の割合が1割を超えています。

② 主菜（魚介類、肉類、卵類、大豆、大豆製品を主材料にした料理）

- ・ 年代別では、主菜を「ほぼ毎日」食べる人の割合は、50歳代で半数近く、70歳以上で半数以上とほかの年代と比べ高くなっています。一方、30～40歳代は「ほとんど食べない」人の割合が3割を超えています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、中野地区で主菜を「ほぼ毎日」食べる人の割合が6割近くとほかの地区と比べ高い一方で、市辺地区では「ほとんど食べない」人の割合が4割近くとなっています。

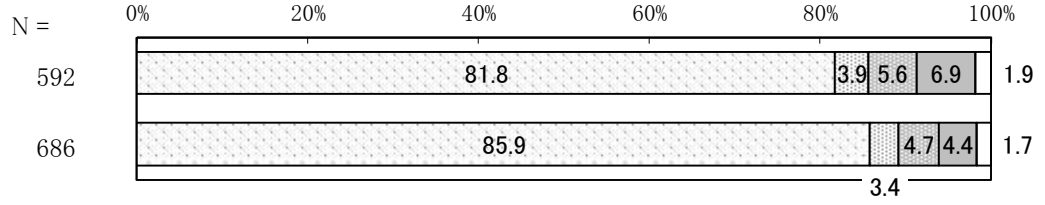
③ 副菜（野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理）

- ・ 性別では、男性より女性のほうが副菜を「ほぼ毎日」食べる人の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では、30歳以上で年齢が上がるほど副菜を「ほぼ毎日」食べる人の割合が高くなる傾向があり、50～60歳代で4割近く、70歳以上で半数以上となっています。一方で、30歳代では半数以上が「ほとんど食べない」と回答しています。
- ・ 居住地区別では、建部地区で副菜を「ほぼ毎日」食べる人の割合が半数以上とほかの地区と比べ高い一方で、市辺地区では「ほとんど食べない」人の割合が半数近くとなっています。

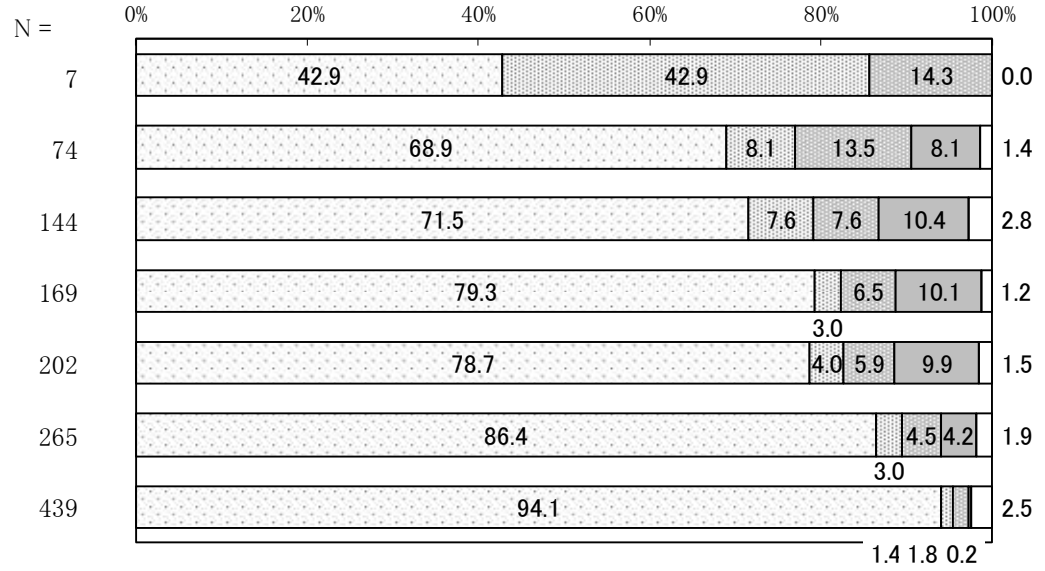
ほぼ毎日食べる
 週に4~5日食べる
 週に2~3日食べる
 ほとんど食べない
 無回答

① 主食

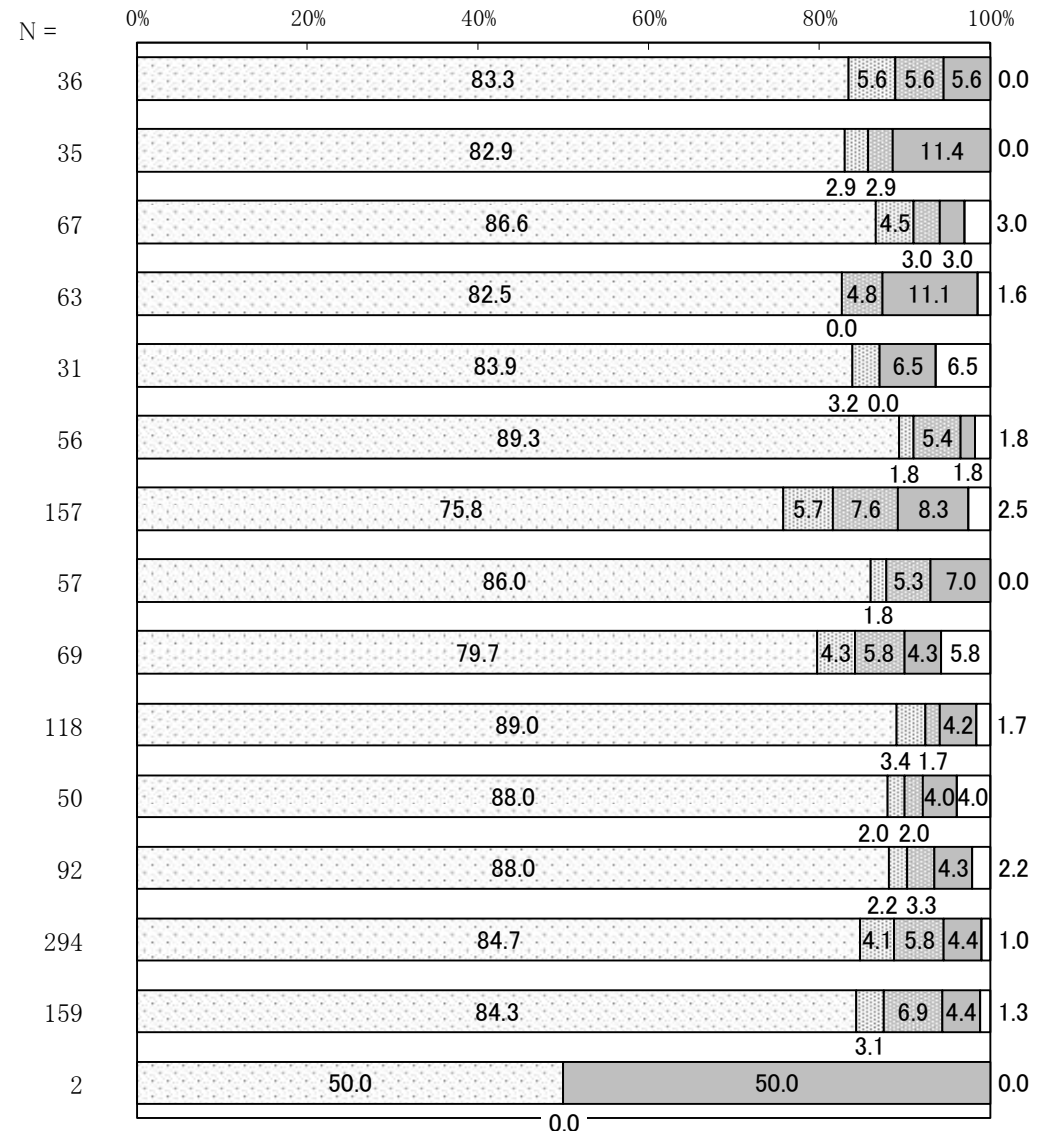
【性別】



【年代別】



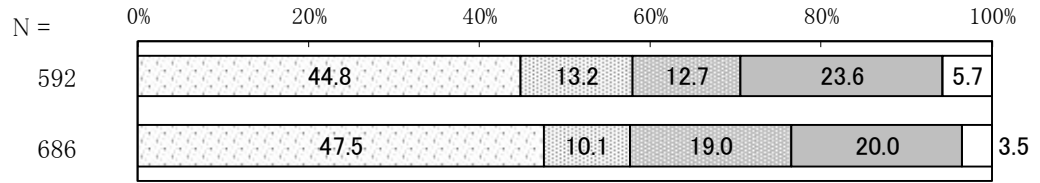
【居住地区別】



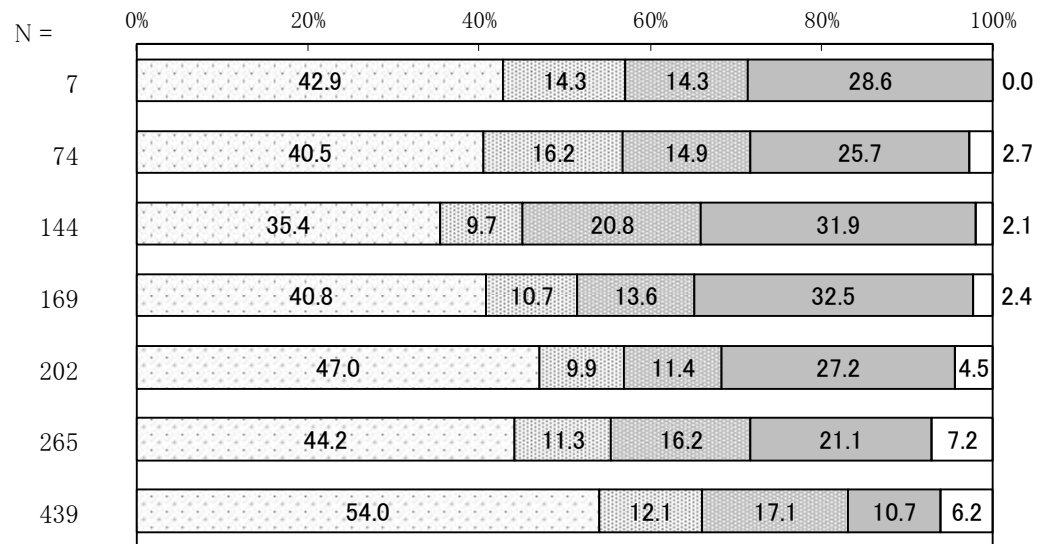
ほぼ毎日食べる
 週に4~5日食べる
 週に2~3日食べる
 ほとんど食べない
 無回答

② 主菜

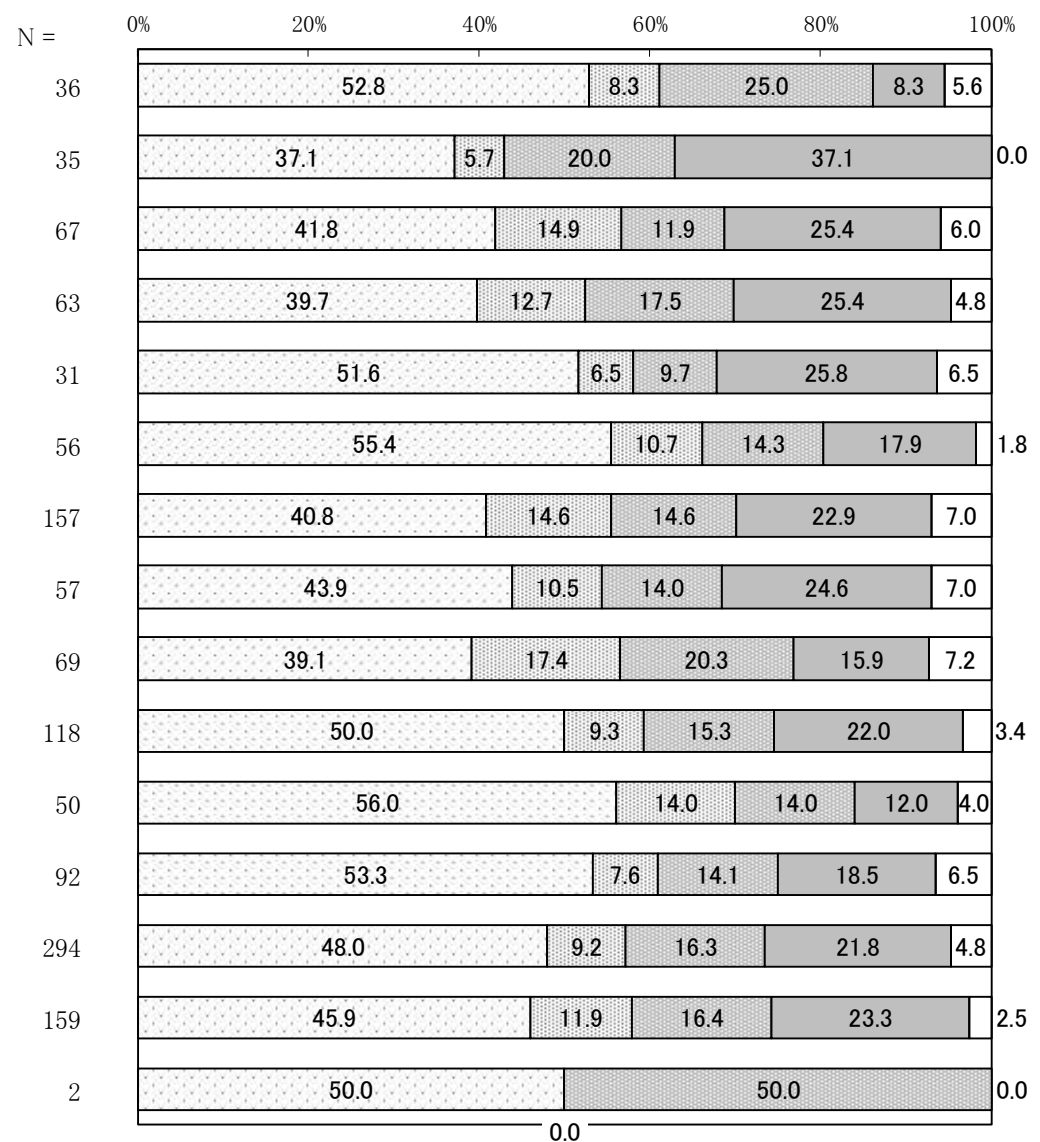
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



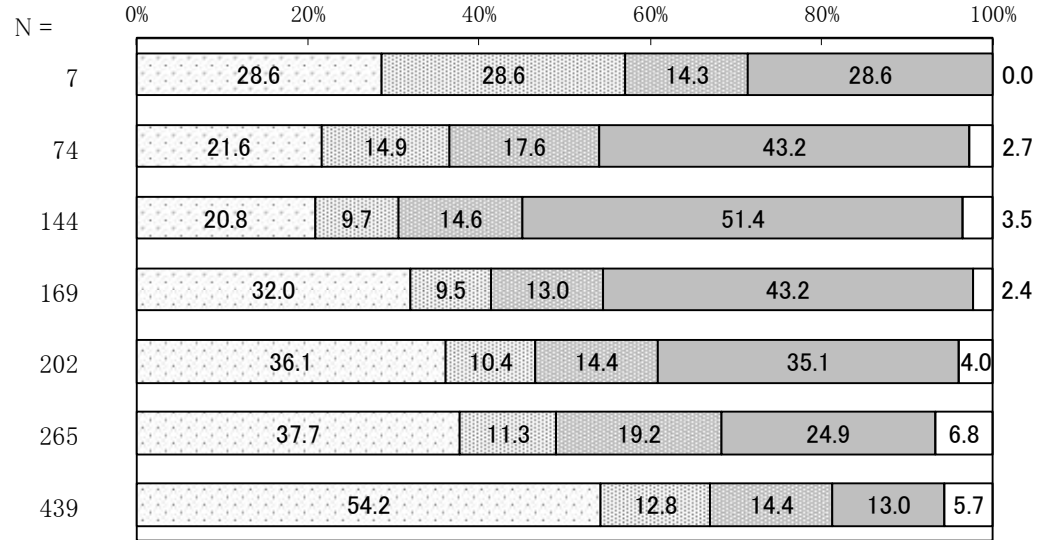
③ 副菜

ほぼ毎日食べる
 週に4~5日食べる
 週に2~3日食べる
 ほとんど食べない
 無回答

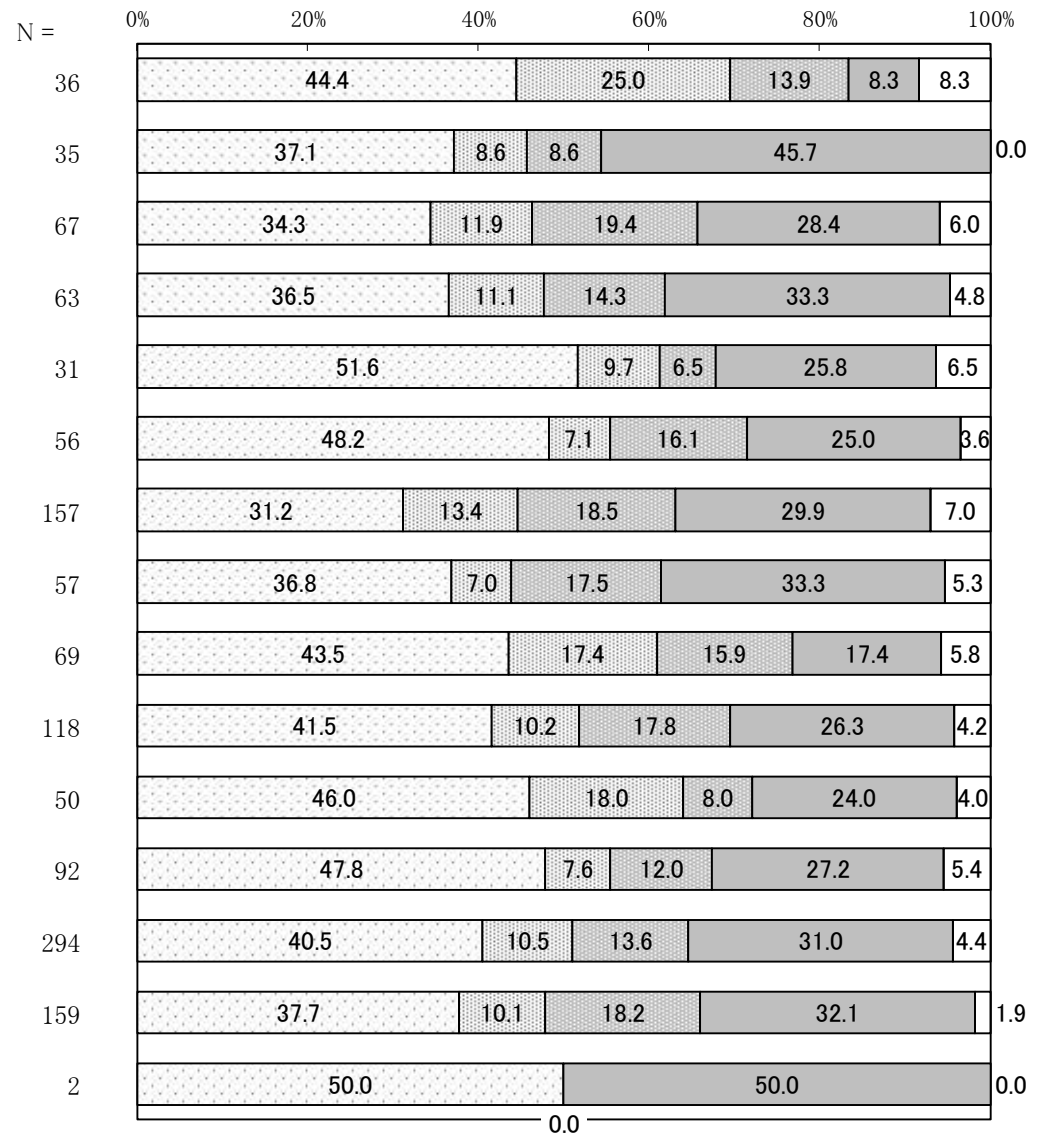
【性別】



【年代別】



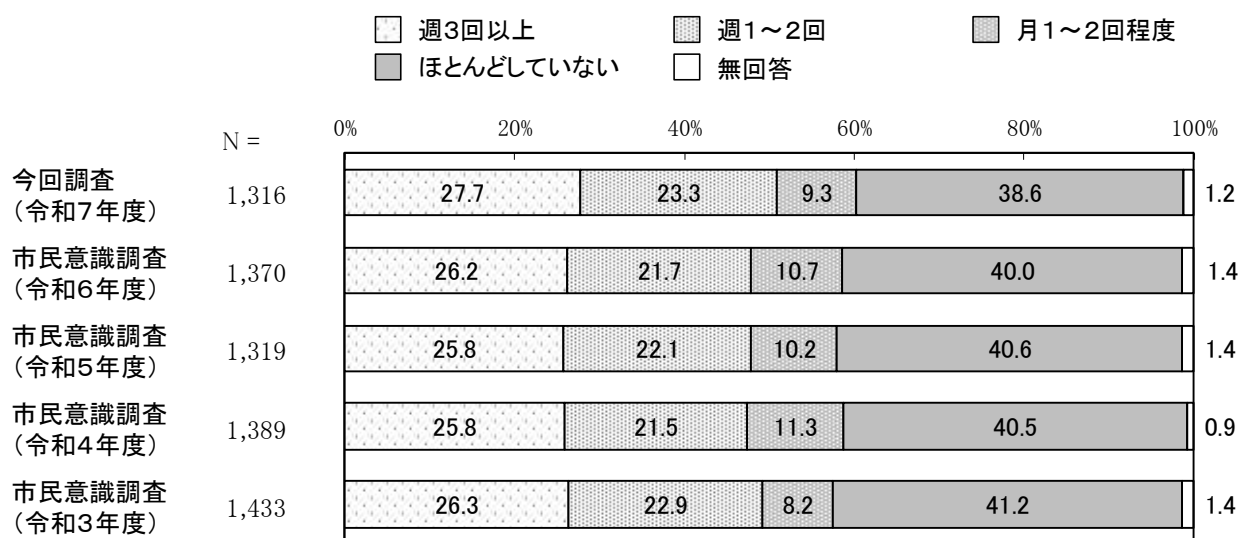
【居住地区別】



問 18 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか（運動には、散歩やラジオ体操といった簡単に体を動かすものも含まれます。）。《○1つ》

週1回以上運動している人は半数以上だが、ほとんどしていない人も4割近く

- ・ スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っているかについては、「ほとんどしていない」が38.6%と最も多く、4割近くを占めています。次いで、「週3回以上」が27.7%、「週1～2回」が23.3%と続き、週1回以上運動をしている人は51.0%と半数以上となっています。
- ・ 年代別では、年齢が上がるほど週1回以上運動をしている人の割合が高くなる傾向が見られ、70歳以上で6割となっています。一方、20～30歳代では運動を「ほとんどしていない」人が、週1回以上運動をしている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、週1回以上運動をしている人の割合は平田地区、建部地区で6割以上と高くなっています。一方で、運動を「ほとんどしていない」人が永源寺地区で6割近く、南部地区で半数近く見られ、週1回以上運動している人より多くなっています。



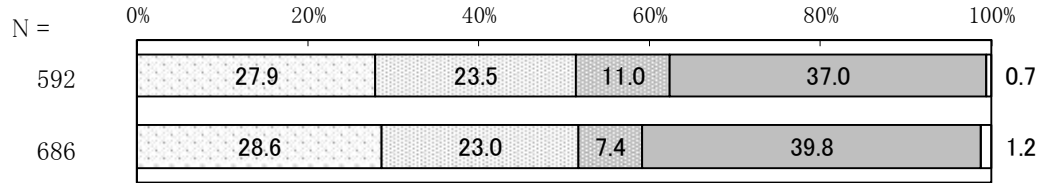
単位：%

	週1回以上運動をしている*	ほとんどしていない
①今回調査(令和7年度)	51.0	38.6
②市民意識調査(令和6年度)	47.9	40.0
③市民意識調査(令和5年度)	47.9	40.6
④市民意識調査(令和4年度)	47.3	40.5
⑤市民意識調査(令和3年度)	49.2	41.2
①～⑤	1.8	-2.6

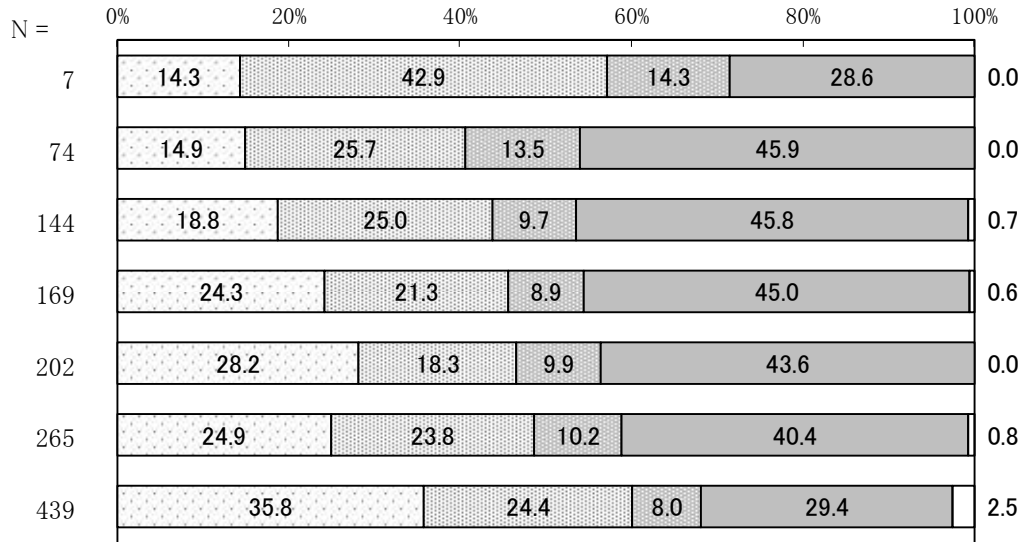
* 週1回以上運動をしている：「週3回以上」と「週1～2回」の合計

週3回以上
 週1~2回
 月1~2回程度
 ほとんどしていない
 無回答

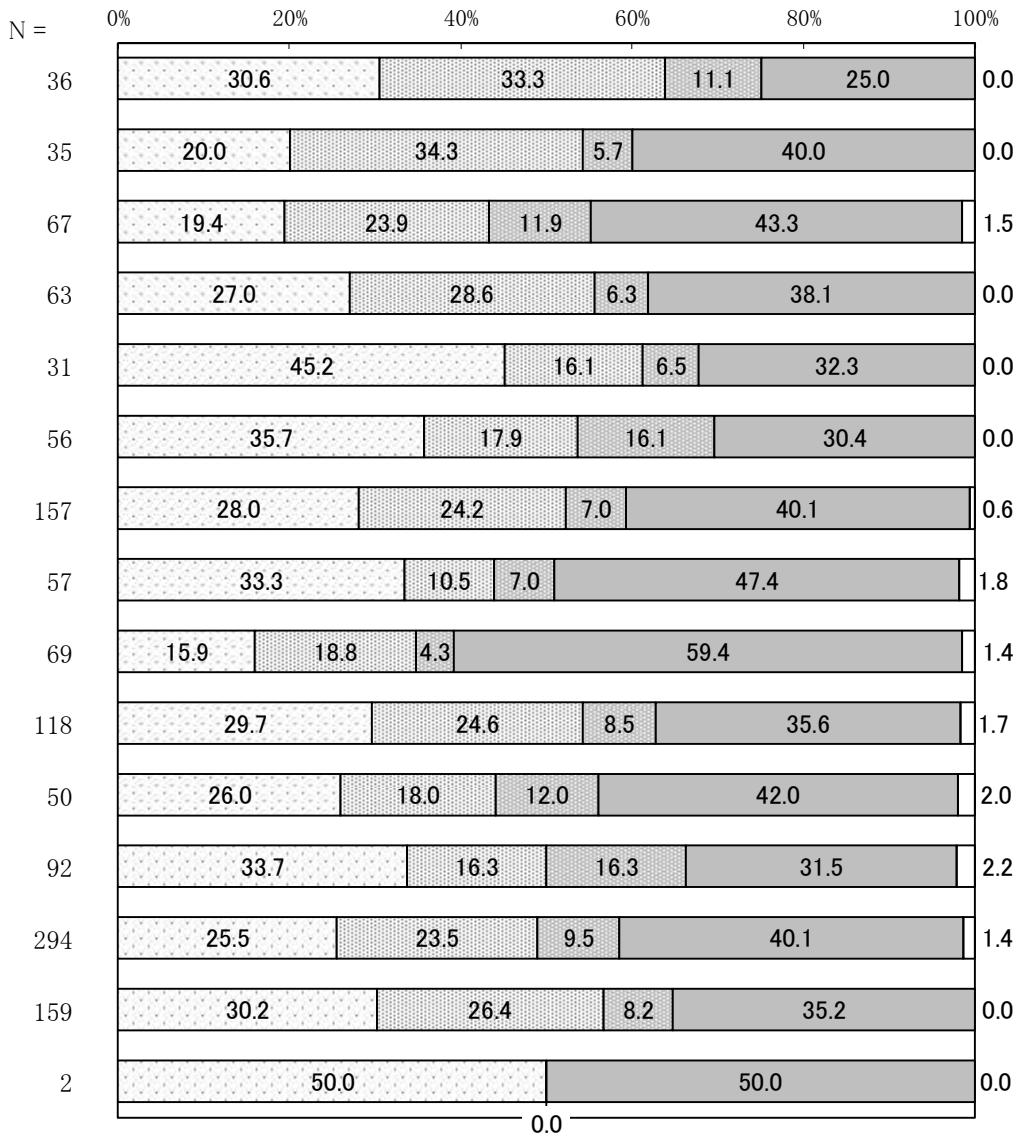
【性別】



【年代別】



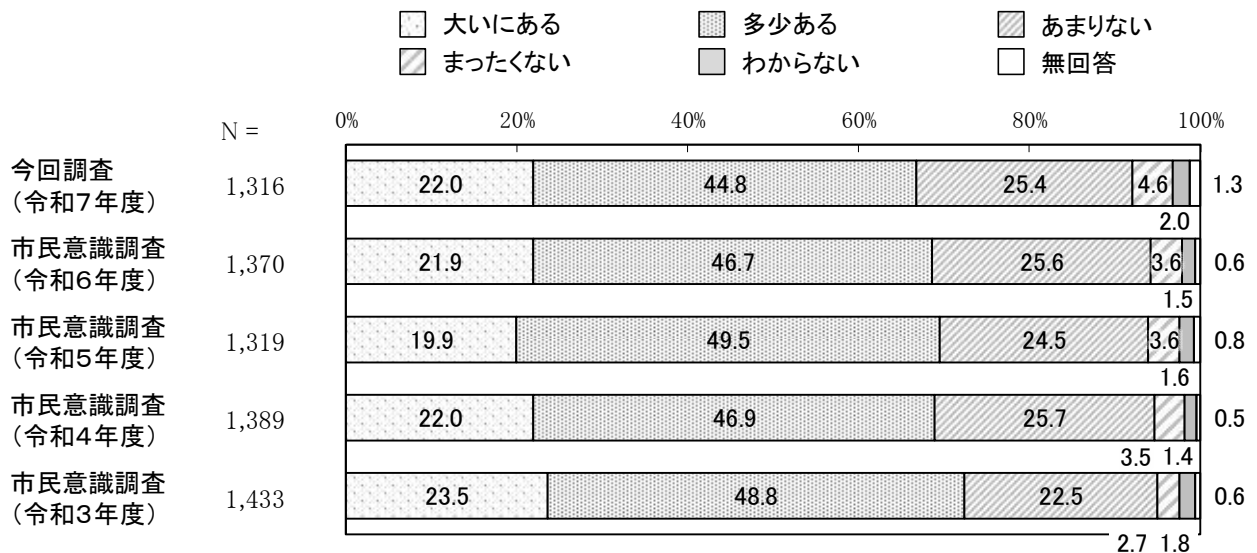
【居住地区別】



問 19 あなたはこの1箇月間に、不安、悩み、ストレスを感じましたか。《○1つ》

7割近くが不安、悩み、ストレスを感じている

- この1箇月間に、不安、悩み、ストレスを感じたかどうかについては、「大いにある」が22.0%、「多少ある」が44.8%で、合わせて66.8%と7割近くの人が不安、悩み、ストレスを感じたと回答しています。一方、「あまりない」と「まったくない」を合わせると30.0%で、3割の人が感じていないと回答しています。
- 過去の調査と比較すると、年変動はあるものの、不安、悩み、ストレスを感じている人（「大いにある」と「多少ある」の合計）の割合は減少、不安、悩み、ストレスを感じていない人（「あまりない」と「まったくない」の合計）の割合は増加傾向にあります。
- 性別では、女性は7割が不安、悩み、ストレスを感じている（前述）と回答しており、男性よりも割合が高くなっています。
- 年代別では、30～40歳代で不安、悩み、ストレスを感じている人（前述）が8割以上いるのに対し、70歳以上で4割が感じていない（前述）と回答しています。



単位：%

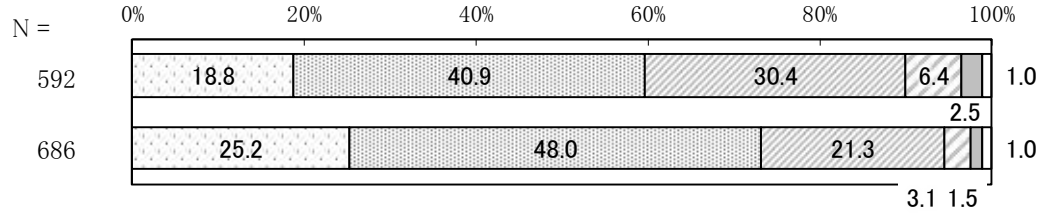
	感じている*	感じていない*
①今回調査(令和7年度)	66.8	30.0
②市民意識調査(令和6年度)	68.6	29.2
③市民意識調査(令和5年度)	69.4	28.1
④市民意識調査(令和4年度)	68.9	29.2
⑤市民意識調査(令和3年度)	72.3	25.2
①-⑤	-5.5	4.8

* 感じている:「大いにある」と「多少ある」の合計

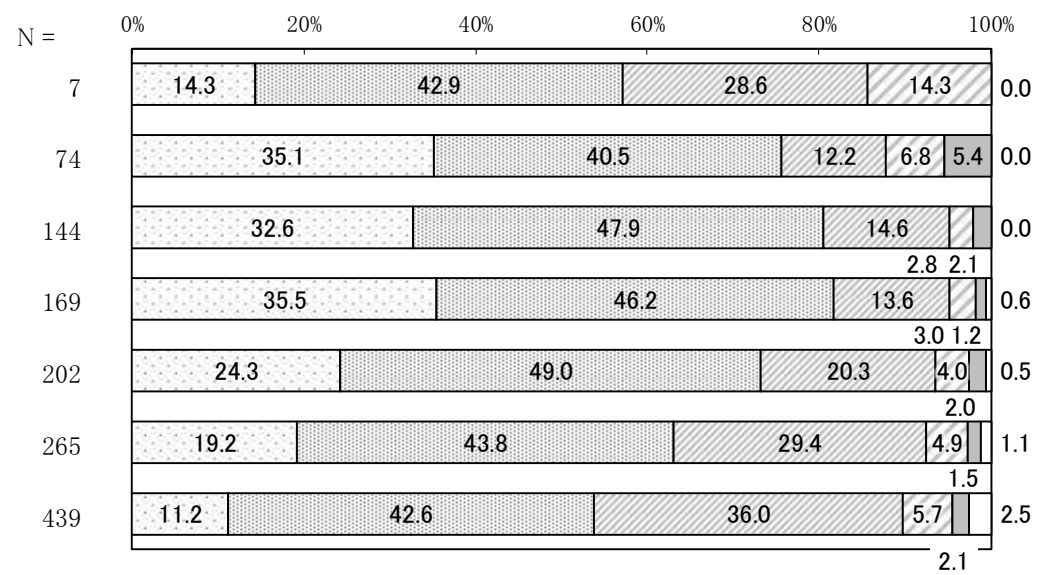
* 感じていない:「あまりない」と「まったくない」の合計

大いにある
 多少ある
 あまりない
 まったくない
 わからない
 無回答

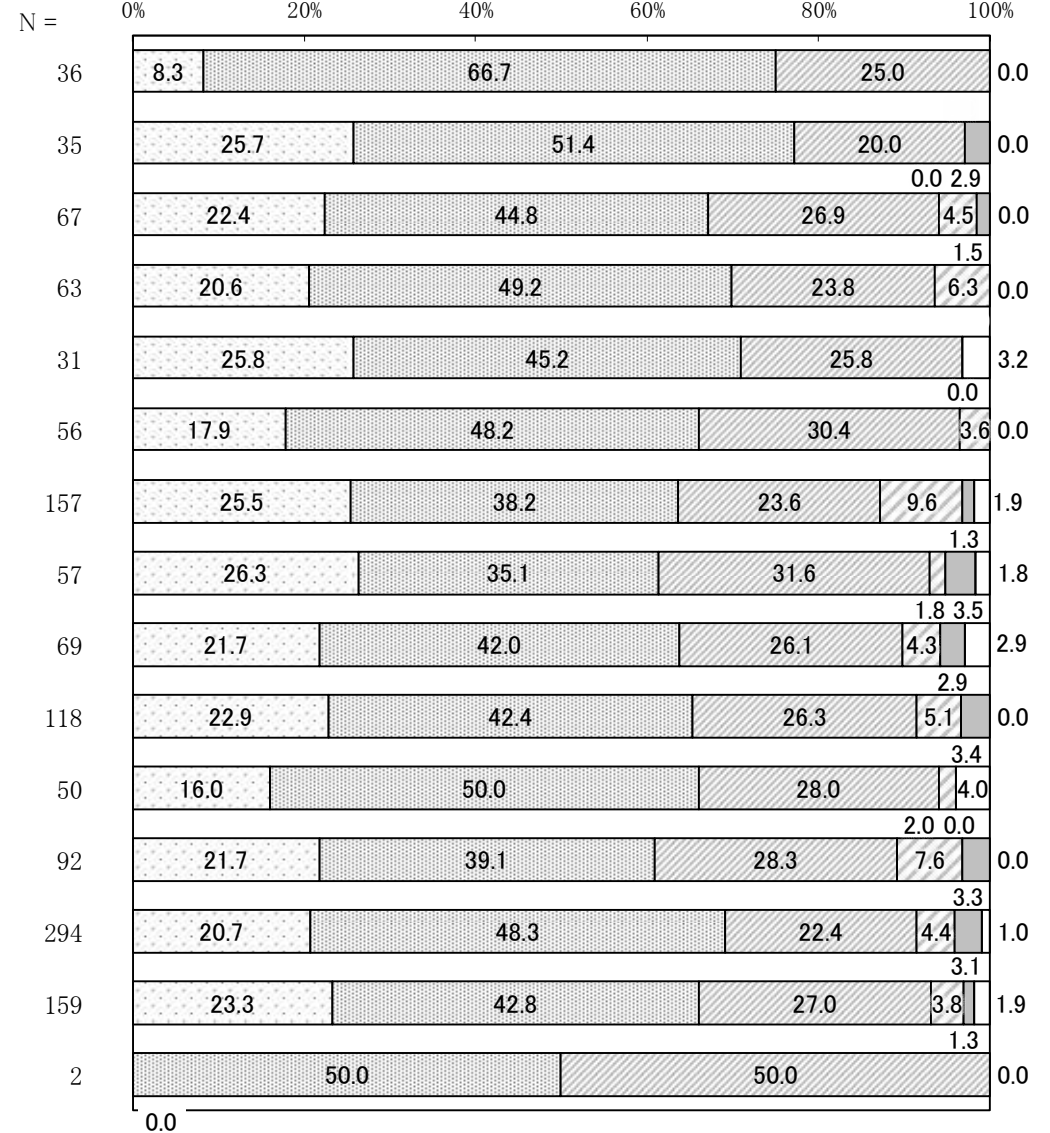
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

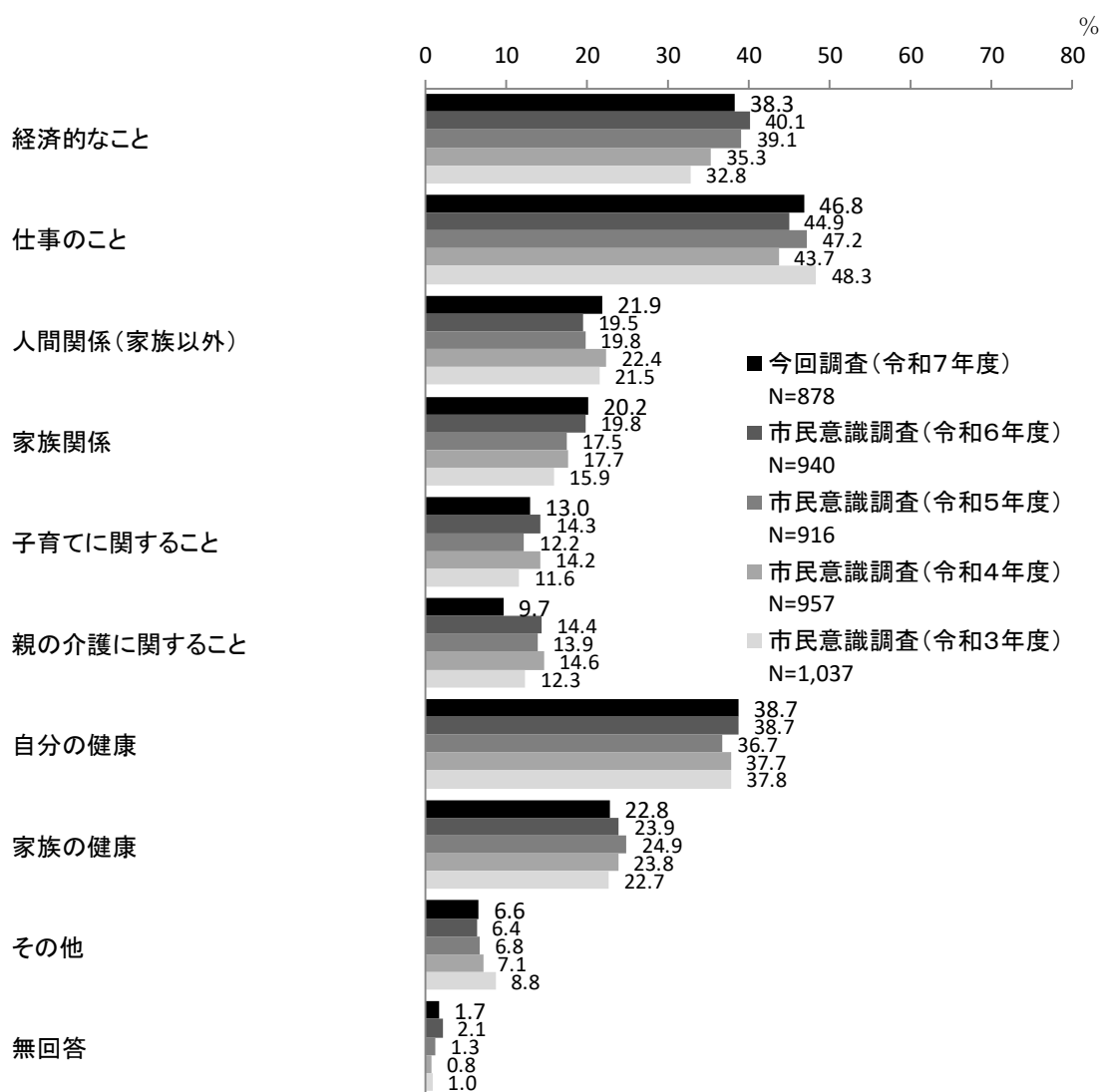


問 19-1 問 19 で「1. 大いにある」「2. 多少ある」とお答えの方におたずねします。

あなたの不安、悩み、ストレスの原因は何ですか。《あてはまるものすべてに○》

半数近くが「仕事のこと」

- 不安、悩み、ストレスの原因としては、「仕事のこと」が 46.8% と最も多く、次いで「自分の健康」が 38.7%、「経済的なこと」が 38.3% と続きます。
- 性別では、男性は「仕事のこと」、女性は「自分の健康」が最も多くなっています。また、女性は、「家族の健康」や「子育てに関すること」、「家族関係」についても原因としてあげる人が男性よりも多く見られます。
- 年代別では、20～50 歳代までは「仕事のこと」、60 歳以上は「自分の健康」が最も多くあげられています。そのほか、特に 20 歳代で「人間関係（家族以外）」が、30～50 歳代で「経済的なこと」が、30～40 歳代で「子育てに関すること」が、50～60 歳代で「親の介護に関すること」、70 歳以上で「家族の健康」がほかの年代より多くあげられており、それぞれのライフステージに応じた要因があることがうかがえます。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係(家族以外)	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
男性	353	37.7	57.8	22.1	16.1	7.9	9.1	33.4	15.6	5.4	2.0
女性	502	38.0	40.0	21.5	23.3	16.5	10.2	42.4	27.9	7.4	1.4

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係(家族以外)	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
10歳代	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0
20歳代	56	32.1	67.9	35.7	19.6	7.1	3.6	30.4	7.1	16.1	1.8
30歳代	116	44.8	65.5	24.1	26.7	31.9	5.2	25.9	13.8	6.9	0.0
40歳代	138	44.9	72.5	23.2	18.8	31.9	8.0	24.6	17.4	3.6	0.7
50歳代	148	45.3	66.2	20.3	21.6	14.9	18.9	31.8	23.6	4.1	0.0
60歳代	167	34.7	39.5	18.6	20.4	2.4	17.4	40.1	25.1	9.0	2.4
70歳以上	236	28.8	10.6	20.3	17.4	0.4	3.0	59.7	31.4	5.1	3.4

【居住地区別】

※「わからない」は、有効回答数が1件のため最大値を網掛けしていない。

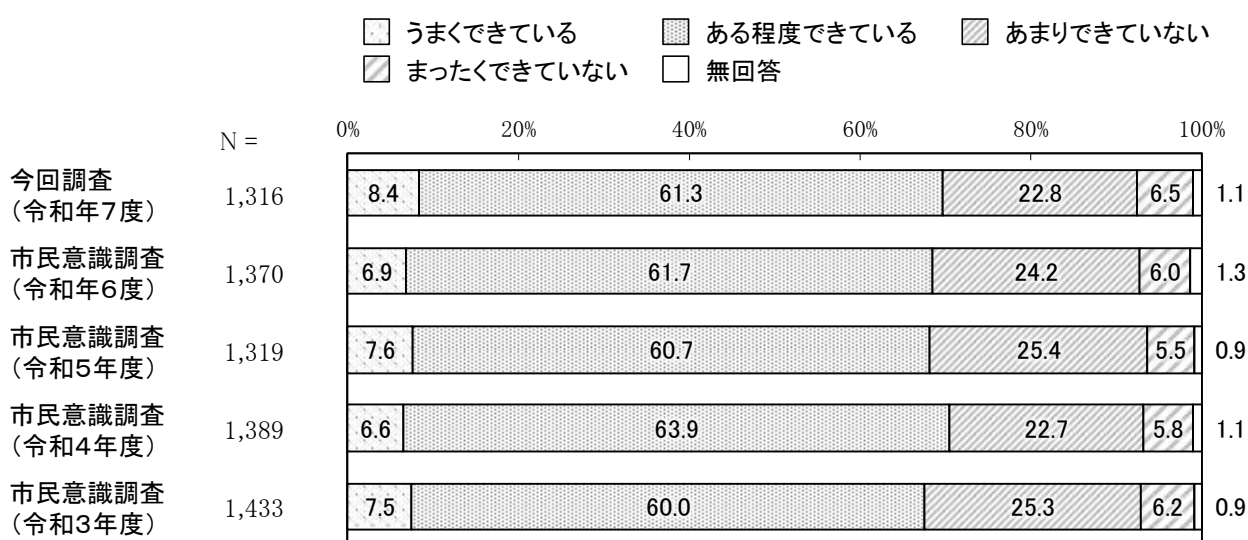
単位:%

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係(家族以外)	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
平田地区	27	44.4	33.3	33.3	18.5	18.5	11.1	37.0	25.9	3.7	7.4
市辺地区	27	44.4	40.7	18.5	29.6	11.1	3.7	37.0	37.0	11.1	0.0
玉緒地区	45	31.1	35.6	28.9	31.1	8.9	8.9	60.0	26.7	4.4	0.0
御園地区	44	38.6	45.5	9.1	6.8	15.9	13.6	25.0	34.1	13.6	2.3
建部地区	22	36.4	27.3	18.2	22.7	9.1	9.1	50.0	22.7	4.5	0.0
中野地区	37	32.4	48.6	21.6	18.9	2.7	8.1	40.5	13.5	10.8	2.7
八日市地区	100	40.0	59.0	26.0	20.0	14.0	6.0	28.0	10.0	9.0	0.0
南部地区	35	34.3	37.1	20.0	28.6	8.6	5.7	51.4	25.7	5.7	0.0
永源寺地区	44	52.3	54.5	15.9	29.5	6.8	4.5	45.5	9.1	6.8	0.0
五個荘地区	77	35.1	50.6	24.7	15.6	3.9	10.4	39.0	22.1	6.5	1.3
愛東地区	33	33.3	30.3	27.3	21.2	15.2	9.1	48.5	21.2	6.1	3.0
湖東地区	56	37.5	46.4	23.2	23.2	14.3	12.5	37.5	32.1	1.8	0.0
能登川地区	203	32.5	45.3	21.7	17.2	17.7	10.8	37.4	23.2	5.9	3.0
蒲生地区	105	46.7	48.6	19.0	20.0	13.3	13.3	39.0	26.7	4.8	1.0
わからない	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

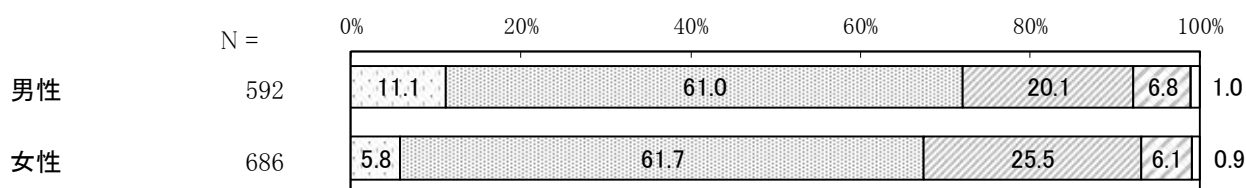
問 20 あなたの不安や悩み、ストレスは解消できていますか。《○1つ》

7割近くが、不安や悩み、ストレスの解消はできている

- 不安や悩み、ストレスが解消できているかどうかについては、「うまくできている」が8.4%、「ある程度できている」が61.3%で、これらを合わせると69.7%となり、7割近くの人が解消できていると回答しています。一方、「あまりできていない」と「まったくできていない」を合わせると29.3%で、3割近くの人が解消できていないと回答しています。
- 年代別では、20歳代で8割近く、60歳以上で7割以上が不安や悩み、ストレスの解消ができている（「うまくできている」と「ある程度できている」の合計）と回答しているのに対し、50歳代は4割ができていない（「あまりできていない」と「まったくできていない」の合計）と回答しています。

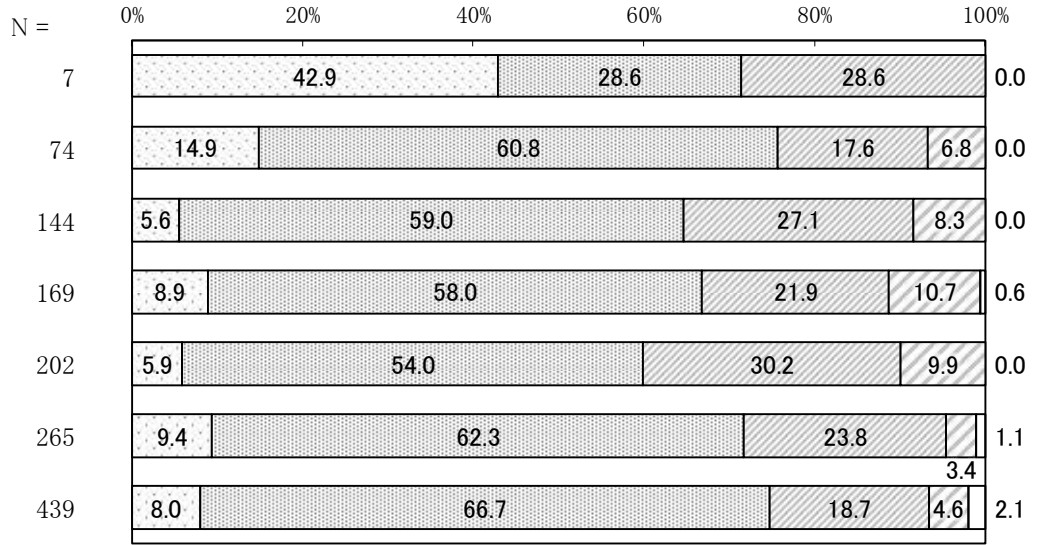


【性別】

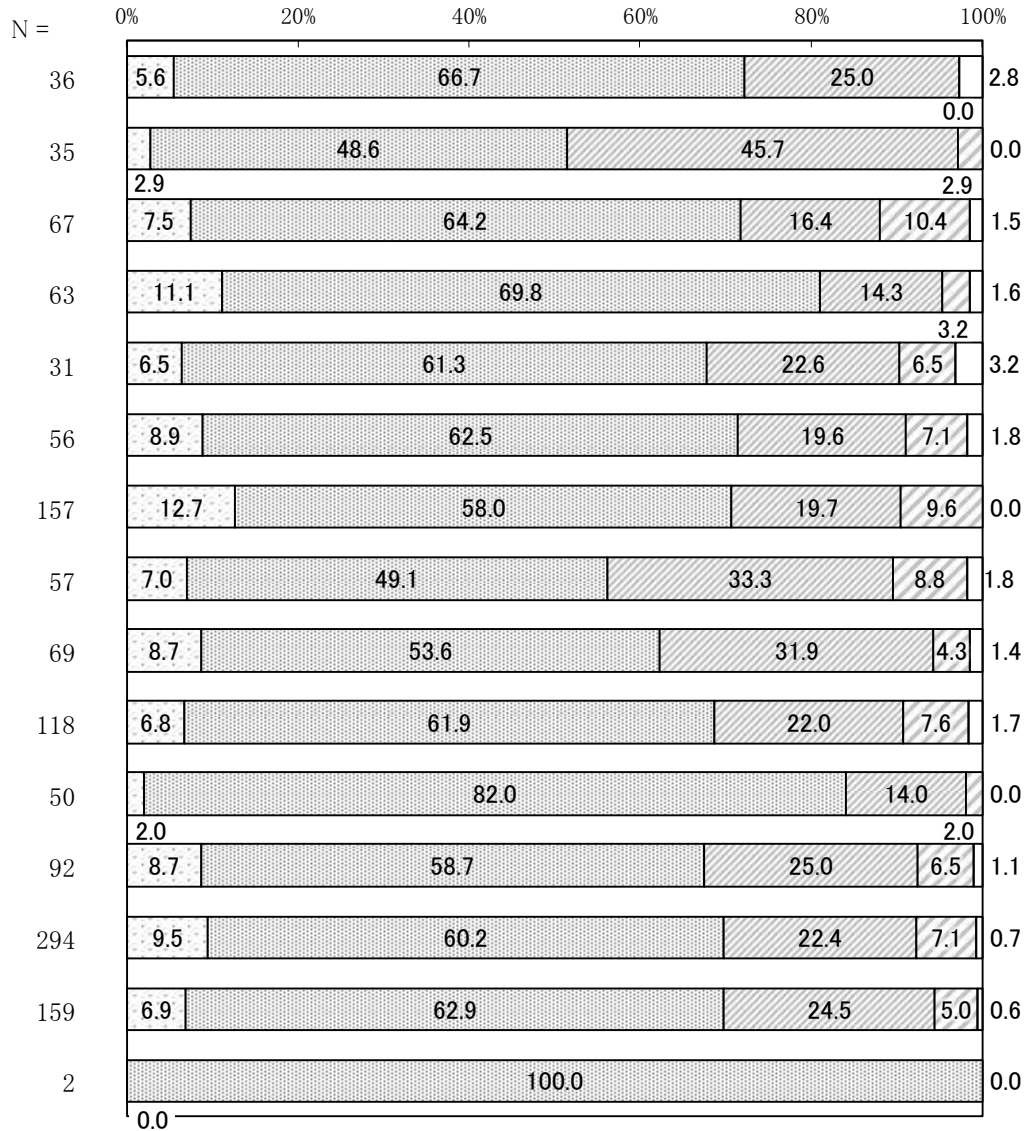


【年代別】

うまくできている
 ある程度できている
 あまりできていない
 まったくできていない
 無回答



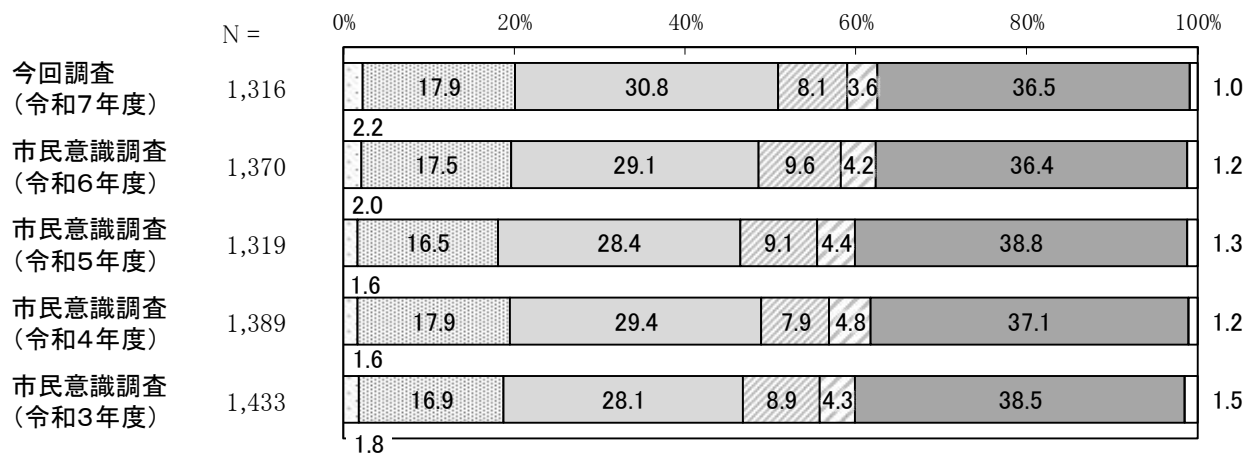
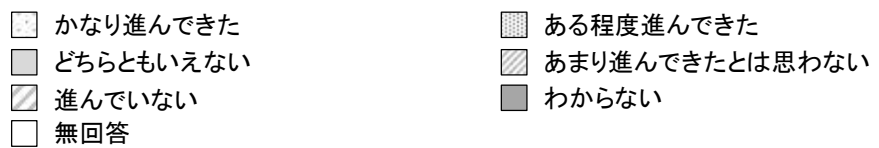
【居住地区別】



問 21 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

「わからない」が4割近く

- ・ 東近江市民の障害者に対する理解が進んできたと思うかについては、「かなり進んできた」が2.2%、「ある程度進んできた」が17.9%で、これらを合わせると20.1%となり、2割の人が進んできたと回答しています。一方、「あまり進んできたとは思わない」と「進んでいない」を合わせると11.7%となっています。なお、「わからない」と回答した人が36.5%となっています。
- ・ 年代別では70歳以上で、居住地区別では中野地区で、障害者に対する理解が進んできたと思う人（「かなり進んできた」と「ある程度進んできた」の合計）が3割以上見られます。
- ・ 一方、年代別では30～50歳代で、居住地区別では南部地区、八日市地区で、障害者に対する理解が進んできたと思う人（前述）より進んでいないと思う人（「あまり進んできたとは思わない」と「進んでいない」の合計）が多く見られます。



単位：%

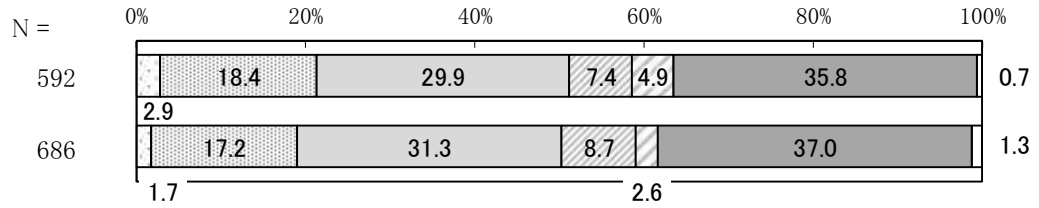
	進んできた*	進んでいない*	差
①今回調査(令和7年度)	20.1	11.7	8.4
②市民意識調査(令和6年度)	19.5	13.8	5.7
③市民意識調査(令和5年度)	18.1	13.5	4.6
④市民意識調査(令和4年度)	19.5	12.7	6.8
⑤市民意識調査(令和3年度)	18.7	13.2	5.5
①－⑤	1.4	-1.5	2.9

* 進んできた:「かなり進んできた」と「ある程度進んできた」の合計

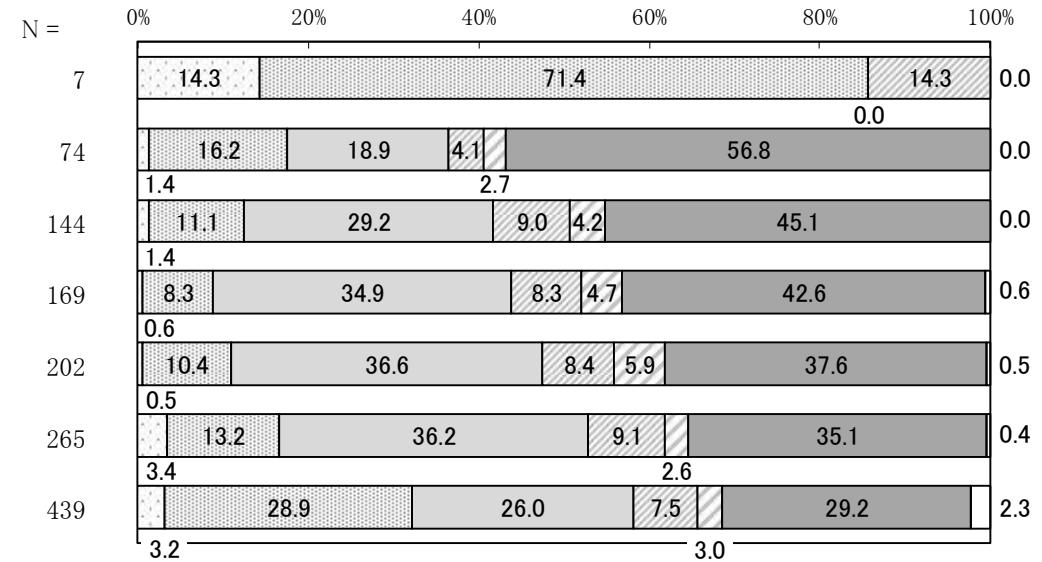
* 進んでいない:「あまり進んできたとは思わない」と「進んでいない」の合計



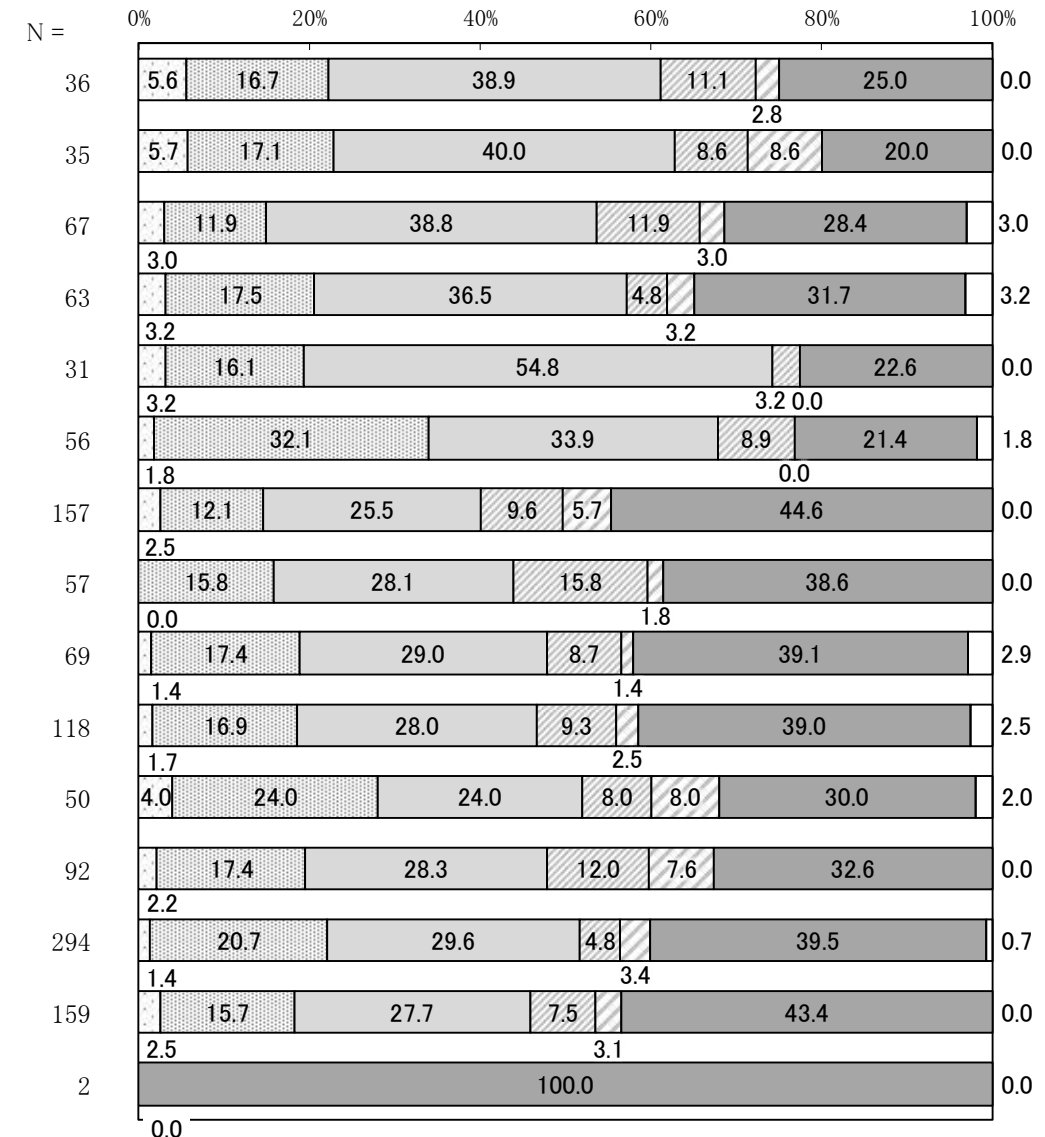
【性別】



【年代別】



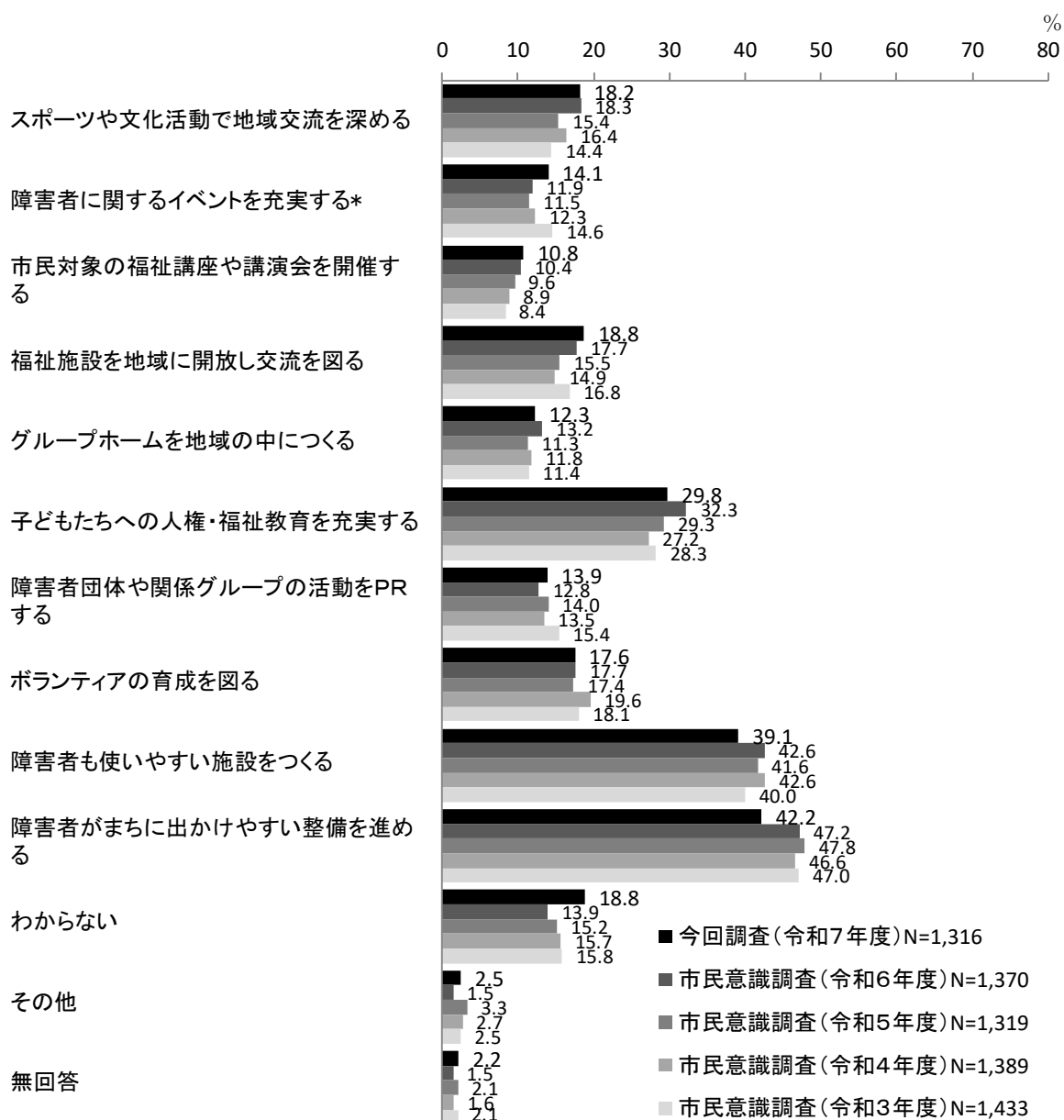
【居住地区別】



問 22 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

特に力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備

- ・ 障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきかについては、「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が42.2%と最も多く、次いで「障害者も使いやすい施設をつくる」が39.1%と、バリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくりや施設整備をあげる人が多くなっています。また、「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」が29.8%と3割近くの人があげています。
- ・ 年代別では、20～30歳代で「障害者も使いやすい施設をつくる」が、そのほかの年代で「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が最も多くなっています。また、30～40歳代で「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」がほかの年代より多くあげられています。



*令和3年度まで「ふれあいの集い」などのイベントを充実する

【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	スポーツや文化交流で地域交流を深める	障害者に関するイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちな出かけるための整備を進める	わからない	その他	無回答
男性	592	19.1	17.1	11.3	16.6	9.1	26.5	12.2	15.9	36.7	38.3	19.3	2.7	1.7	
女性	686	17.8	12.0	10.2	20.7	14.9	32.2	15.5	18.8	41.4	46.1	18.4	2.2	2.3	

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	スポーツや文化交流で地域交流を深める	障害者に関するイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちな出かけるための整備を進める	わからない	その他	無回答
10歳代	7	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	57.1	0.0	14.3	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0	
20歳代	74	12.2	13.5	9.5	12.2	14.9	25.7	9.5	10.8	35.1	29.7	31.1	1.4	0.0	
30歳代	144	16.7	15.3	6.9	20.8	8.3	36.8	10.4	13.2	43.1	40.3	22.9	3.5	1.4	
40歳代	169	14.8	14.2	7.1	13.6	9.5	38.5	16.6	13.0	42.0	46.7	14.8	5.3	1.8	
50歳代	202	13.4	11.9	9.9	14.4	10.4	28.7	11.9	14.9	42.6	47.0	20.3	2.5	0.5	
60歳代	265	19.2	12.1	11.7	17.7	13.6	32.1	11.7	21.9	35.8	41.9	17.7	2.3	1.5	
70歳以上	439	22.3	15.7	13.2	23.2	14.1	23.2	17.5	20.3	36.9	41.5	17.5	1.4	4.1	

【居住地区別】

※「わからない」は、有効回答数が2件のため最大値を網掛けしていない。

単位:%

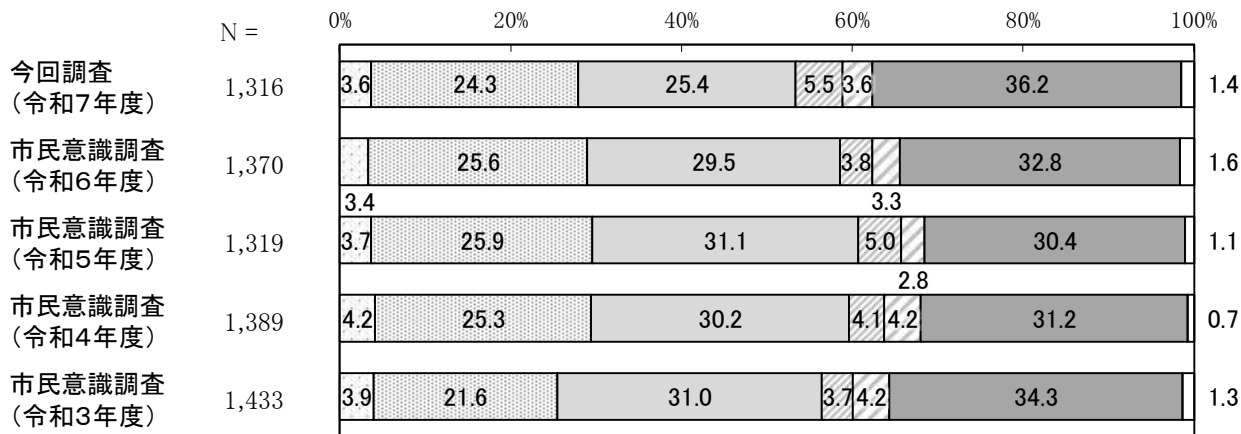
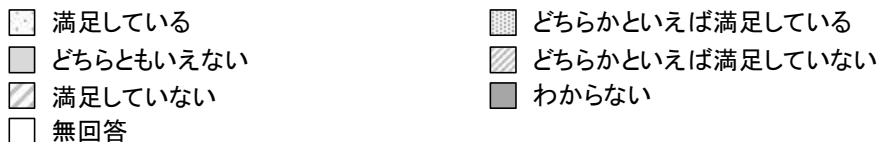
区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	スポーツや文化交流で地域交流を深める	障害者に関するイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちな出かけるための整備を進める	わからない	その他	無回答
平田地区	36	11.1	8.3	8.3	11.1	13.9	36.1	0.0	11.1	36.1	36.1	22.2	0.0	0.0	
市辺地区	35	11.4	5.7	8.6	31.4	25.7	40.0	5.7	14.3	51.4	54.3	8.6	2.9	0.0	
玉緒地区	67	16.4	14.9	17.9	22.4	11.9	31.3	14.9	17.9	44.8	46.3	10.4	3.0	3.0	
御園地区	63	17.5	4.8	20.6	19.0	14.3	28.6	17.5	23.8	31.7	49.2	15.9	3.2	1.6	
建部地区	31	9.7	6.5	6.5	6.5	12.9	25.8	19.4	19.4	38.7	48.4	19.4	0.0	3.2	
中野地区	56	26.8	23.2	8.9	23.2	10.7	32.1	19.6	19.6	42.9	35.7	19.6	1.8	1.8	
八日市地区	157	17.2	11.5	9.6	14.0	5.7	31.8	12.1	16.6	35.7	32.5	24.8	2.5	1.9	
南部地区	57	12.3	12.3	7.0	19.3	17.5	33.3	10.5	22.8	38.6	47.4	10.5	7.0	0.0	
永源寺地区	69	20.3	5.8	11.6	14.5	17.4	23.2	8.7	15.9	29.0	33.3	23.2	1.4	4.3	
五個荘地区	118	16.1	16.9	8.5	16.9	11.0	22.9	11.9	18.6	31.4	44.1	22.0	3.4	2.5	
愛東地区	50	16.0	14.0	10.0	20.0	14.0	16.0	8.0	20.0	52.0	44.0	12.0	4.0	4.0	
湖東地区	92	30.4	23.9	13.0	16.3	15.2	33.7	14.1	16.3	40.2	44.6	14.1	2.2	1.1	
能登川地区	294	16.0	13.9	9.2	21.1	11.2	30.6	16.7	16.7	44.6	46.3	20.4	1.7	2.7	
蒲生地区	159	21.4	17.6	10.7	20.8	12.6	30.2	17.0	16.4	34.0	39.0	20.1	3.1	1.3	
わからない	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(4) 環境や暮らしについて

問 23 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○1つ》

3割近くが満足、6割が「わからない」又は「どちらともいえない」

- ・ 東近江市の自然環境保全の取組についての満足度は、「わからない」が36.2%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が25.4%、これらを合わせると61.6%となっています。
- ・ 「満足している」が3.6%、「どちらかといえば満足している」が24.3%、これらを合わせると27.9%となり、3割近くの人が満足しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると9.1%で、1割未満となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動はあるものの、満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合は、おおむね3割程度で推移しています。
- ・ 年代別では、満足（前述）の割合は30～40歳代、70歳以上で3割前後と高い一方で、20歳代で「わからない」の割合が6割近くと高くなっています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区、中野地区、玉緒地区で満足（前述）の割合が3割以上と高く、建部地区で不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合が2割近くとほかの地区と比べやや高くなっています。

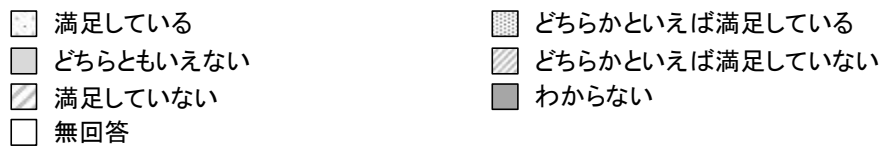


単位：%

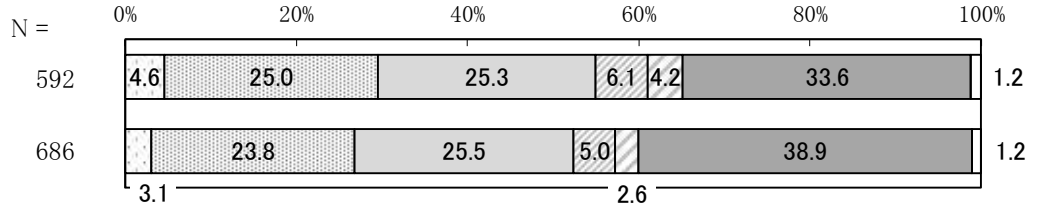
	満足*	不満*	差
①今回調査(令和7年度)	27.9	9.1	18.8
②市民意識調査(令和6年度)	29.0	7.1	21.9
③市民意識調査(令和5年度)	29.6	7.8	21.8
④市民意識調査(令和4年度)	29.5	8.3	21.2
⑤市民意識調査(令和3年度)	25.5	7.9	17.6
①-⑤	2.4	1.2	1.2

* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

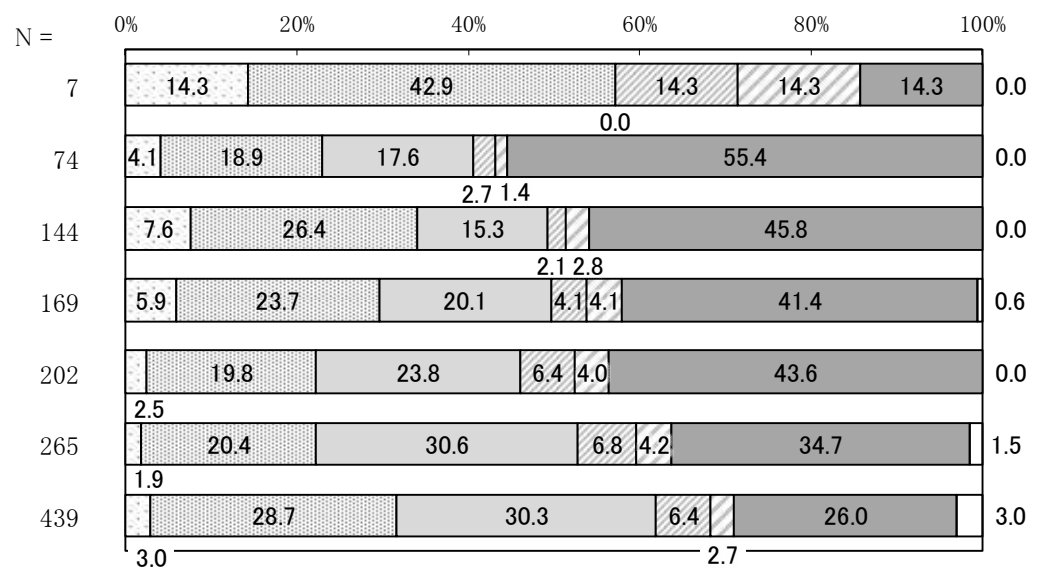
* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計



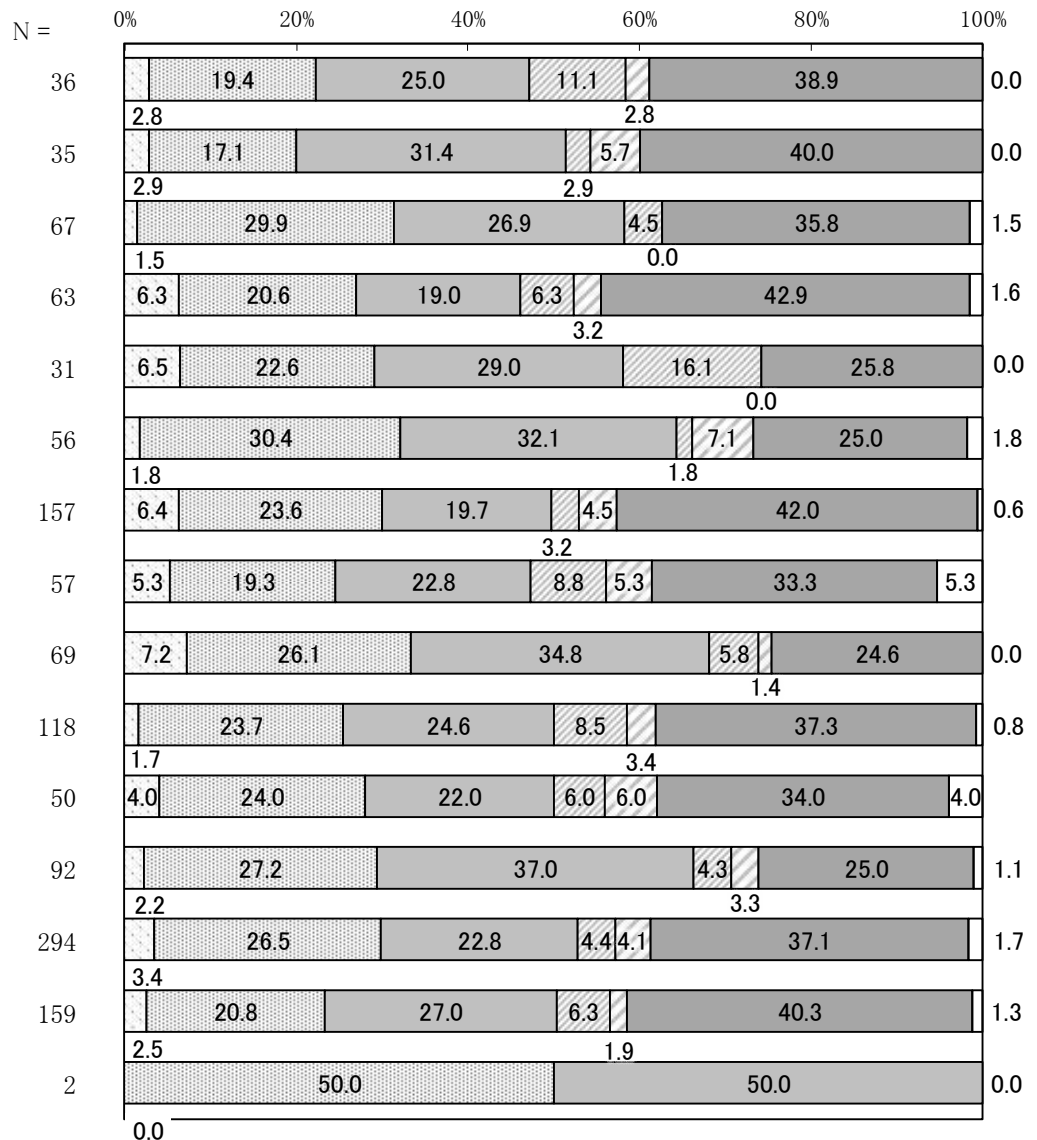
【性別】



【年代別】



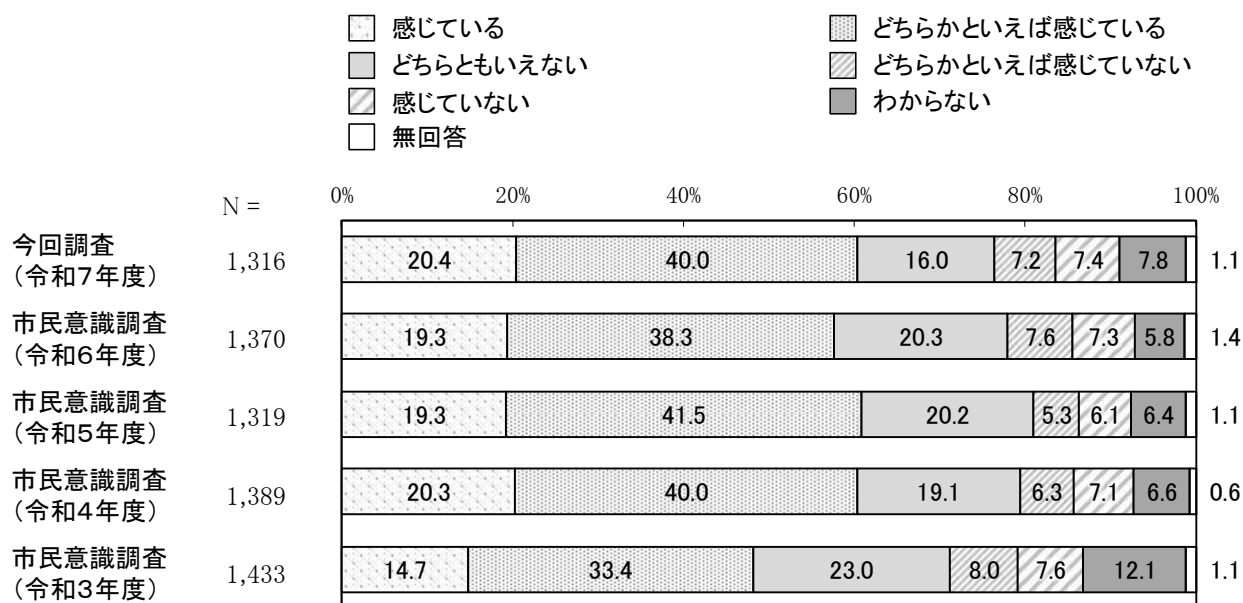
【居住地区別】



問 24 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然との関わりを感じていますか。《○1つ》

6割が自然との関わりを感じている

- ・ 日々の営みの中で自然との関わりを感じているかについては、「感じている」が20.4%、「どちらかといえば感じている」が40.0%で、これらを合わせると60.4%となり、6割の人が自然との関わりを感じています。一方、「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」を合わせると14.6%となっています。また、「どちらともいえない」が16.0%、「わからない」が7.8%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動はあるものの、自然との関わりを感じている人（「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計）の割合が、5年間で1割以上増加しています。
- ・ 年代別では、自然との関わりを感じていない人（「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計）の割合は年齢が若いほうが高い傾向があり、20歳代は3割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、平田地区で8割以上と、自然との関わりを感じている人（前述）がほかの地区よりやや多く見られます。

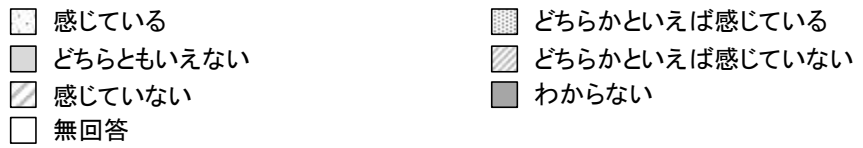


単位：%

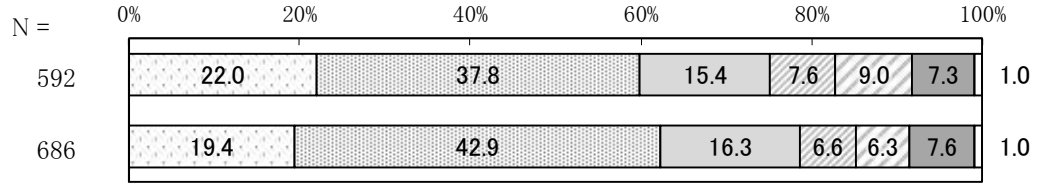
	感じている*	感じていない*	差
①今回調査(令和7年度)	60.4	14.6	45.8
②市民意識調査(令和6年度)	57.6	14.9	42.7
③市民意識調査(令和5年度)	60.8	11.4	49.4
④市民意識調査(令和4年度)	60.3	13.4	46.9
⑤市民意識調査(令和3年度)	48.1	15.6	32.5
①-⑤	12.3	-1.0	13.3

* 感じている:「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計

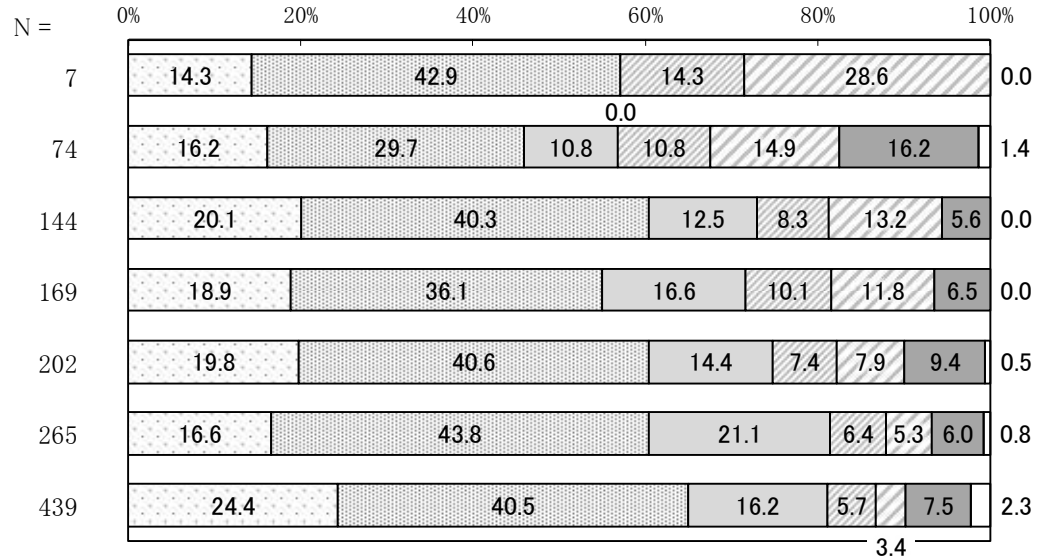
* 感じていない:「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計



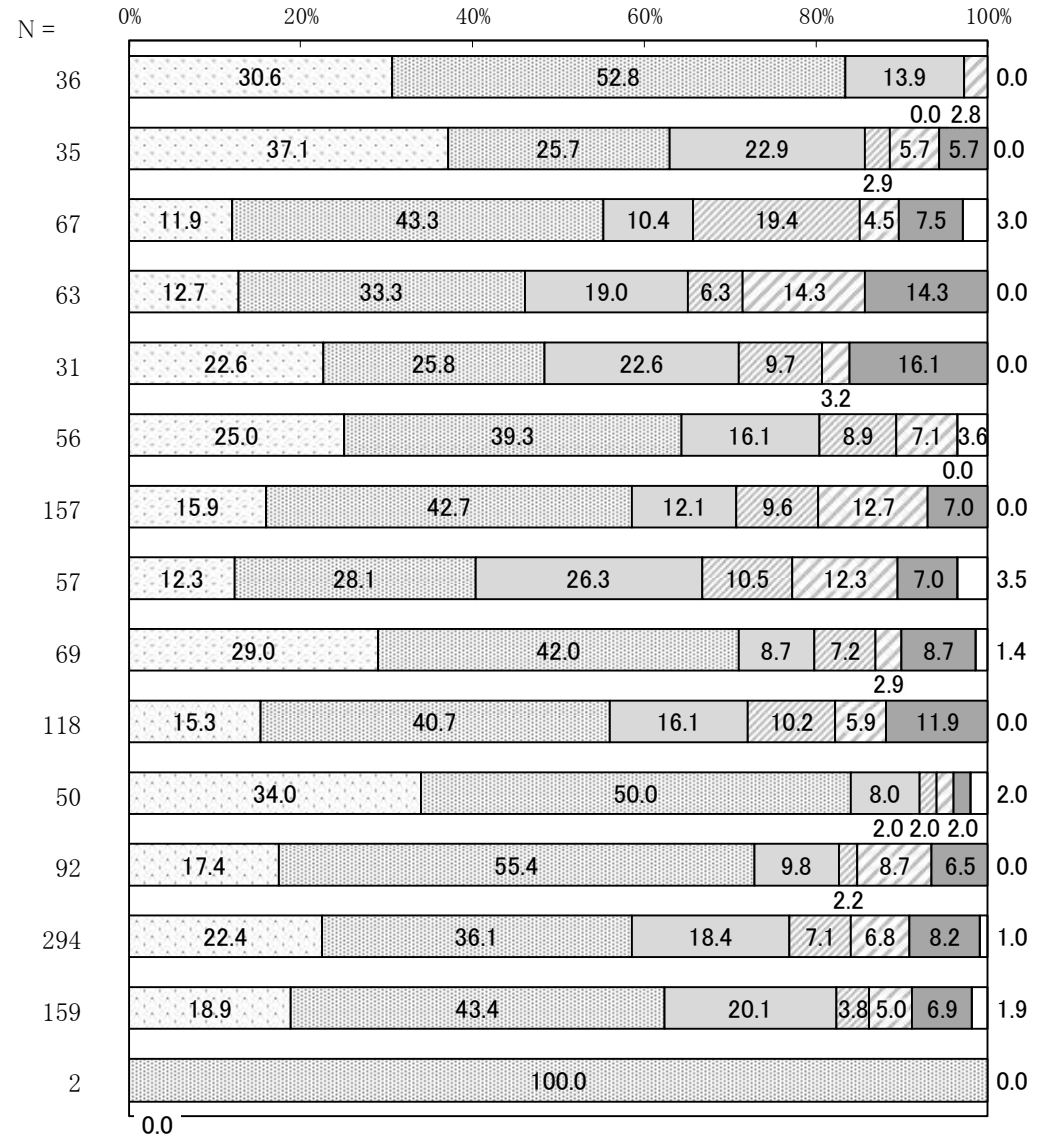
【性別】



【年代別】



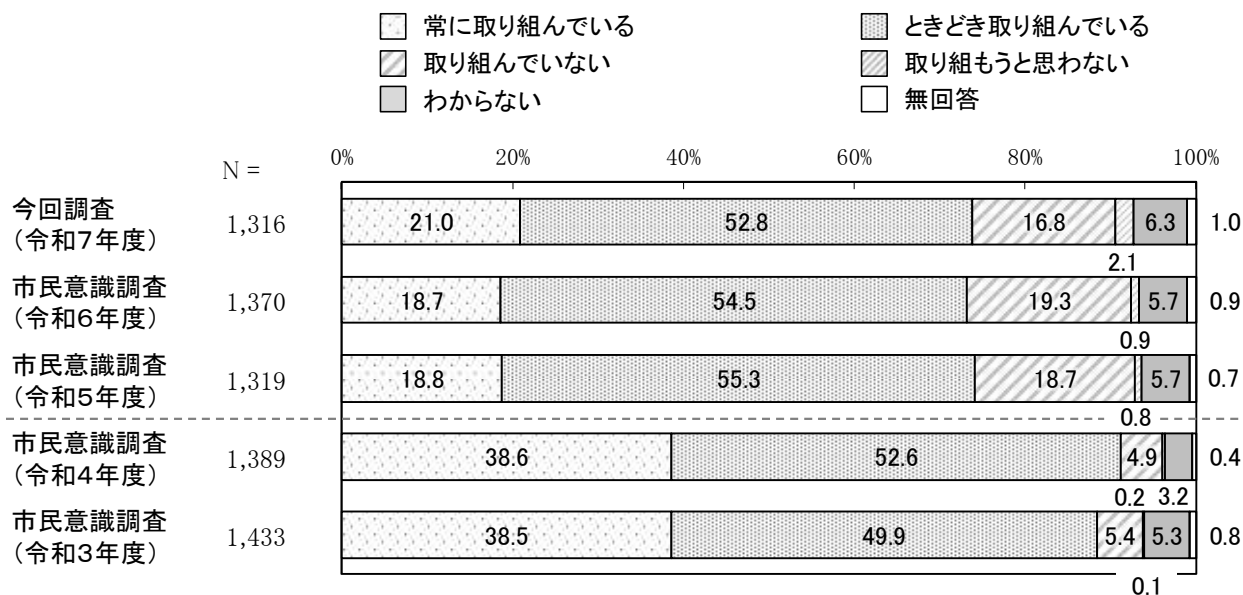
【居住地区別】



問 25 あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか（節電や節水、太陽光発電等の設置、省エネ機器への買換え、自転車や公共交通機関の利用等）。《○1つ》

7割以上が環境にやさしい取組を行っている

- ・ 環境にやさしい取組の実施状況については、「常に取り組んでいる」が21.0%、「ときどき取り組んでいる」が52.8%で、これらを合わせると73.8%となり、7割以上の人が取り組んでいると回答しています。一方、「取り組んでいない」は16.8%と2割近くで、「取り組もうと思わない」は2.1%とわずかでした。
- ・ 過去の調査と比較すると、令和5年度から環境にやさしい取組の例示内容を変更したため、「常に取り組んでいる」と回答した人の割合が大きく減少し、「取り組んでいない」と回答した人の割合が増加しています。
- ・ 「常に取り組んでいる」と「ときどき取り組んでいる」の合計で見ると、性別では女性で、年代別では40歳代、60歳以上でそれぞれ8割近く、居住地区別では愛東地区で8割以上と、環境にやさしい取組を行っている人が多く見られます。



※令和4年度までは、環境にやさしい取組の例が、「使用していない電気の消灯、マイバツクの持参、省エネ機器の選択、自転車や公共交通機関の利用等」

単位：%

	取り組んでいる*	取り組んでいない*	差
①今回調査(令和7年度)	73.8	18.9	54.9
②市民意識調査(令和6年度)	73.2	20.2	53.0
③市民意識調査(令和5年度)	74.1	19.5	54.6
④市民意識調査(令和4年度)	91.2	5.1	86.1
⑤市民意識調査(令和3年度)	88.4	5.5	82.9
①-⑤	-14.6	13.4	-28.0

* 取り組んでいる:「常に取り組んでいる」と「ときどき取り組んでいる」の合計

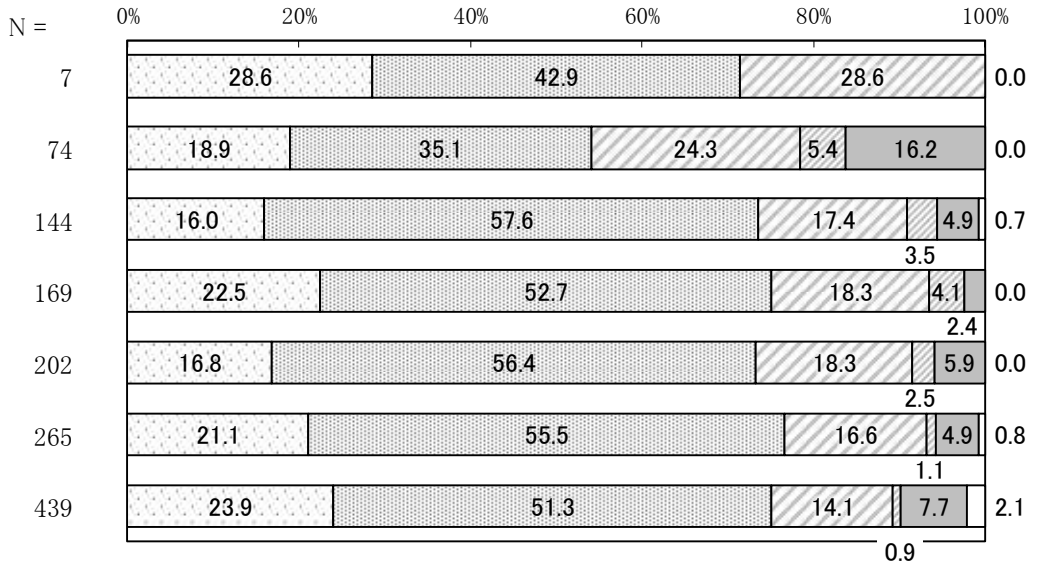
* 取り組んでいない:「取り組んでいない」と「取り組もうと思わない」の合計



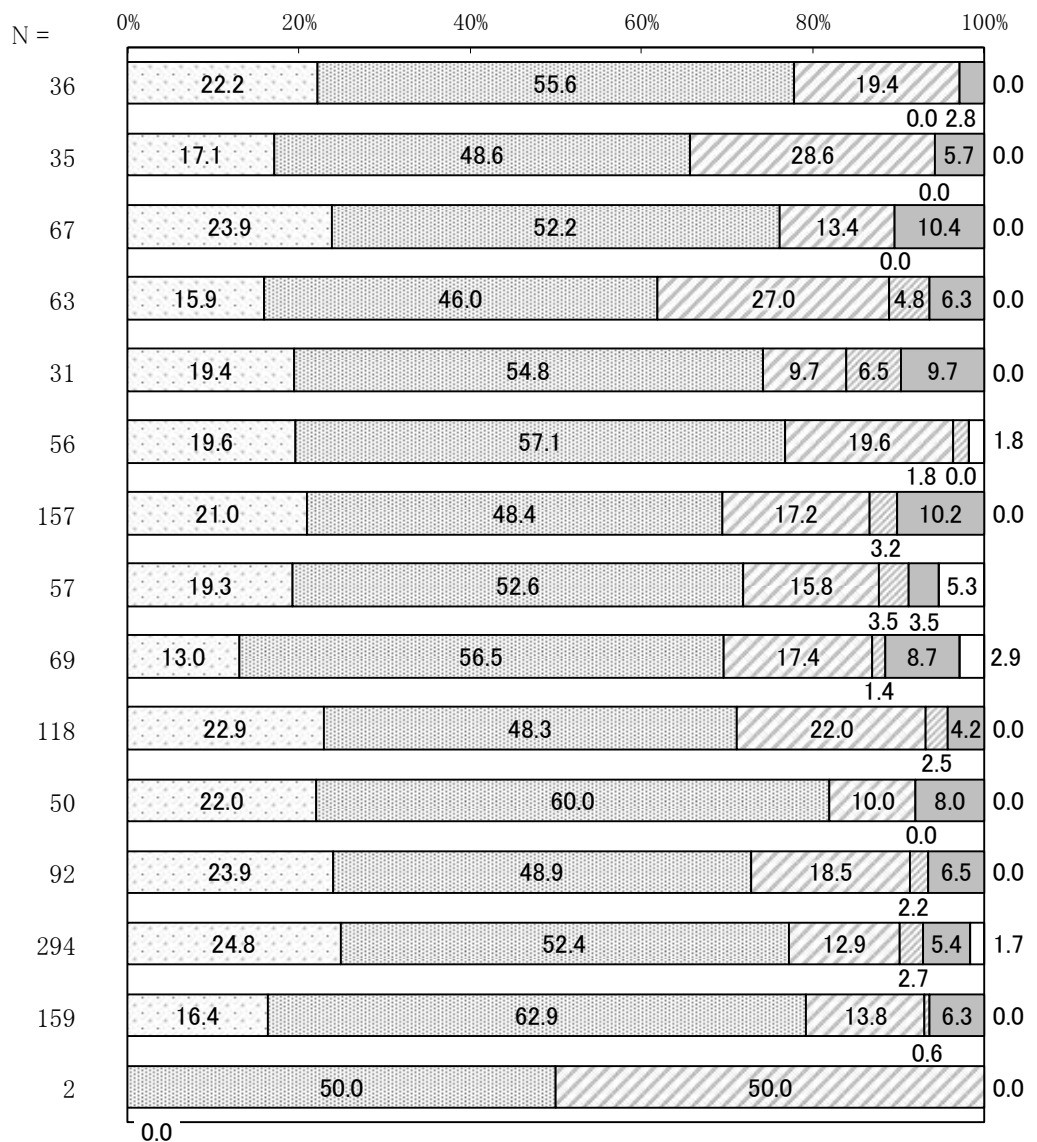
【性別】



【年代別】



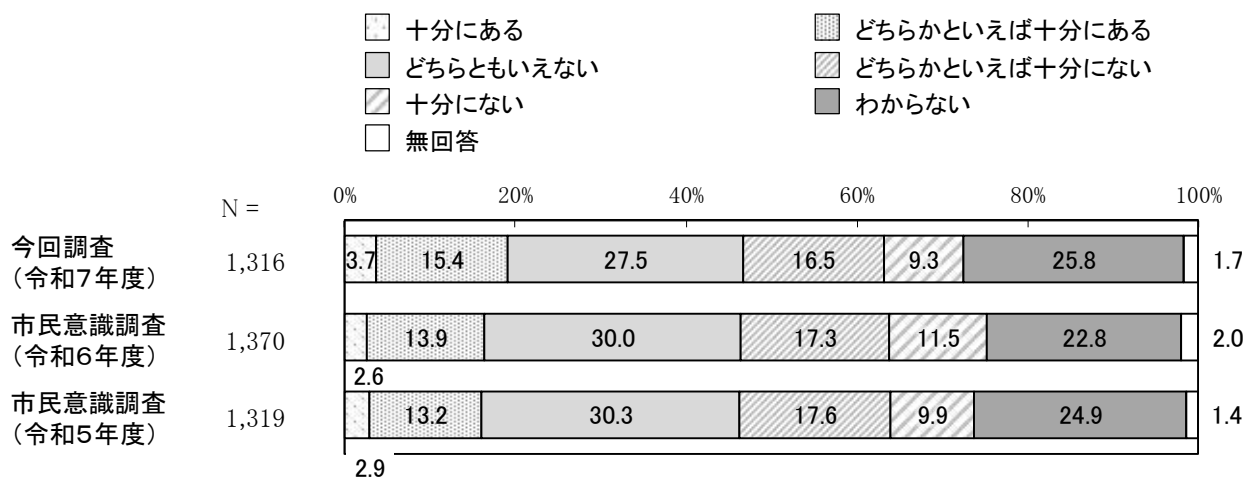
【居住地区別】



問 26 あなたは、東近江市の働く場所（希望する業種・職種）について、どのように考えていますか。《○1つ》

3割近くが十分ないと考え、半数以上が「どちらともいえない」又は「わからない」

- ・ 東近江市の働く場所（希望する業種・職種）については、「どちらともいえない」が27.5%と最も多く、「わからない」が25.8%と続きます。
- ・ 「十分にある」が3.7%、「どちらかといえば十分にある」が15.4%で、これらを合わせると19.1%となり、2割近くの人が十分にあると考えています。一方、「十分はない」は9.3%、「どちらかといえば十分はない」が16.5%で、これらを合わせると25.8%と3割近くとなり、十分にあると考えている人を上回っています。
- ・ 性別、20歳代を除く年代別のいずれも十分ないと考えている人（「どちらかといえば十分はない」と「十分はない」の合計）が十分にあると考えている人（「十分にある」と「どちらかといえば十分にある」の合計）を上回っており、特に60歳代でその差が大きくなっています。
- ・ 居住地区別では、南部地区で十分にあると考えている人（前述）の割合が4割近くと高い一方で、平田地区で十分ないと考えている人（前述）の割合が4割近くと高くなっています。

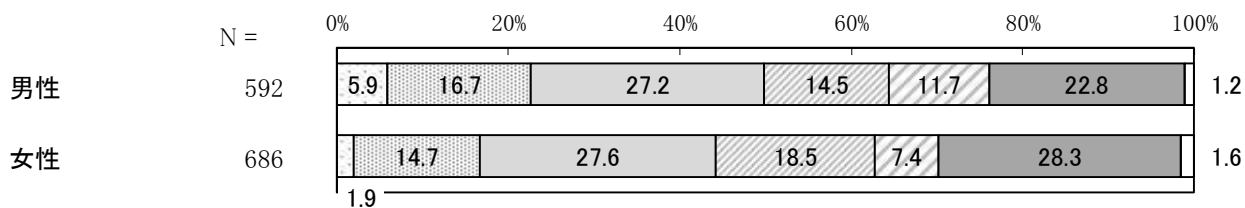


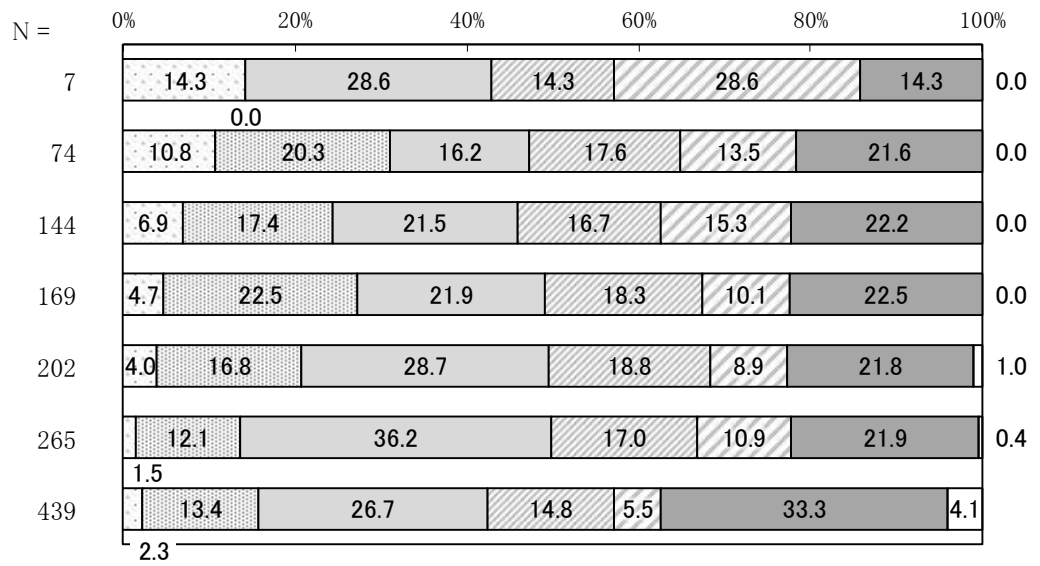
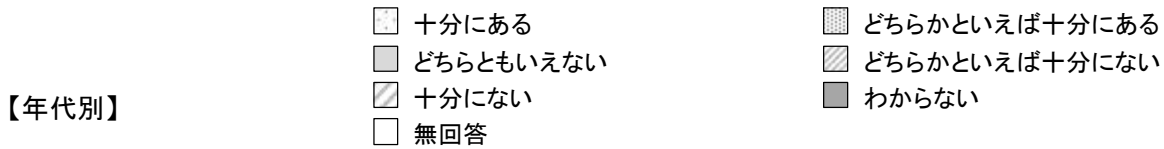
単位：%

	十分にある*	十分はない*	差
①今回調査(令和7年度)	19.1	25.8	-6.7
②市民意識調査(令和6年度)	16.5	28.8	-12.3
③市民意識調査(令和5年度)	16.1	27.5	-11.4
①-③	3.0	-1.7	4.7

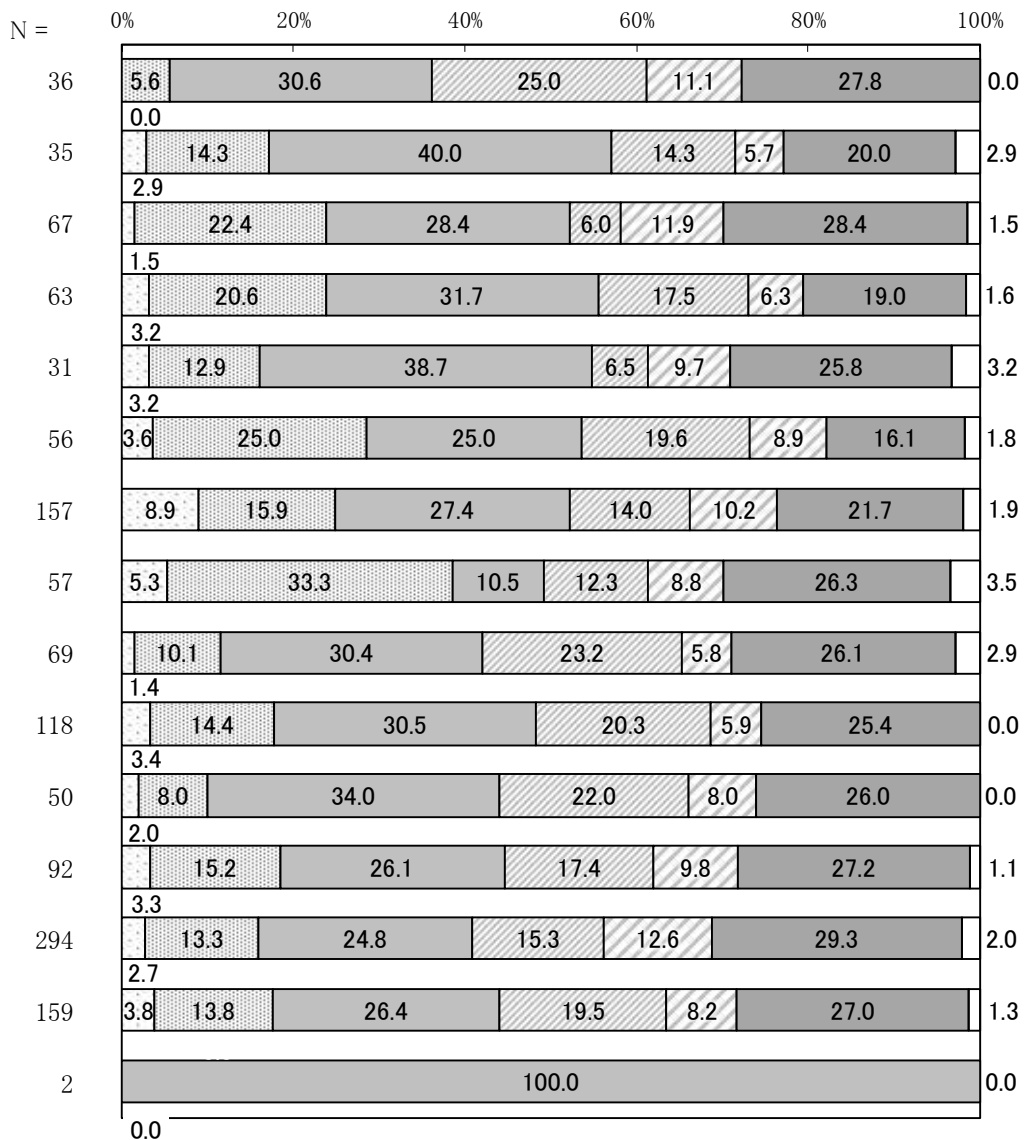
* 十分にある:「十分にある」と「どちらかといえば十分にある」の合計
 * 十分はない:「どちらかといえば十分はない」と「十分はない」の合計

【性別】





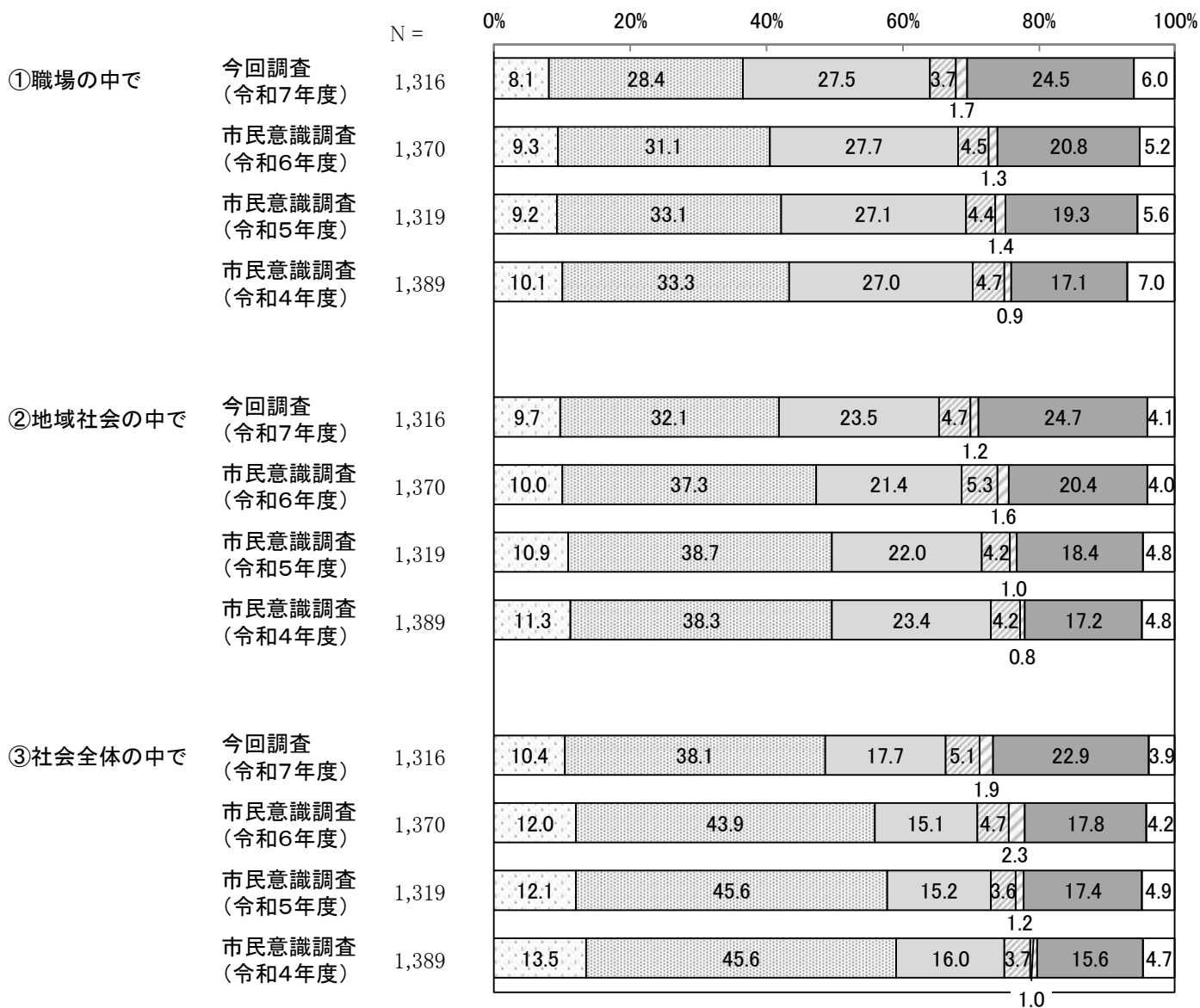
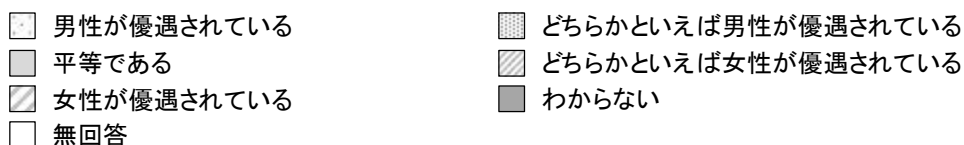
【居住地区別】



問 27 あなたは次のような分野で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

職場では4割近く、地域社会では4割、社会全体では半数近くが男性が優遇されていると評価

- ・ 男性が優遇されている（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）と回答した人の割合は、①職場の中では4割近く（36.5%）、②地域社会の中では4割（41.8%）、③社会全体の中では半数近く（48.5%）といずれも高くなっています。
- ・ 「平等である」と回答した人の割合は、①職場の中では3割近く（27.5%）、②地域社会の中では2割（23.5%）、③社会全体の中では2割近く（17.7%）と一定数見られる一方、女性が優遇されている（「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」の合計）の割合は、いずれも1割未満と非常に低くなっています。



① 職場の中で

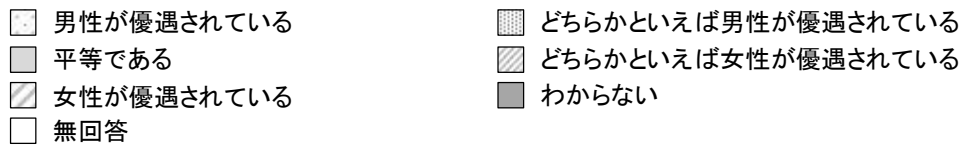
- ・ 性別では、男性が優遇されている（前述）の割合は女性で4割近くと男性より高く、男性は「平等である」と回答した人が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、40歳代までで「平等である」が、50～60歳代で「どちらかといえば男性が優遇されている」が、70歳以上で「わからない」が最も高くなっています。また、男性が優遇されている（前述）の割合は60歳代で最も高く、4割以上となっています。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、南部地区、八日市地区、能登川地区で「平等である」の割合が、建部地区、永源寺地区、五個荘地区で「わからない」が、そのほかの地区で「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高くなっています。中野地区では、「わからない」の割合も同率で最も高くなっています。また、男性が優遇されている（前述）の割合は平田地区で最も高く、半数近くとなっています。

② 地域社会の中で

- ・ 性別では、男性が優遇されている（前述）の割合は女性で半数近くと男性より高く、男性は「平等である」と回答した人が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、20～30歳代で「平等である」が、40歳以上で「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高くなっています。男性が優遇されている（前述）の割合は、60歳代までで年齢が上がるほど高くなる傾向があり、60歳代では半数以上となっています。
- ・ 居住地区別では、八日市地区、市辺地区で「平等である」が、永源寺地区、中野地区、建部地区で「わからない」の割合が、そのほかの地区で「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高くなっています。市辺地区では、「わからない」の割合も同率で最も高くなっています。男性が優遇されている（前述）の割合は、特に湖東地区、平田地区で6割前後と高くなっています。

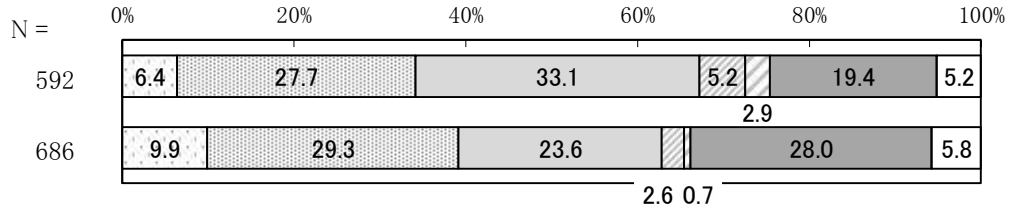
③ 社会全体の中で

- ・ 性別では、女性は、男性が優遇されている（前述）の割合が6割近くと男性より高くなっています。一方、男性は、「平等である」の割合が3割近くと女性より高くなっています。
- ・ 年代別では、20歳代で「平等である」が3割近くと最も高く、女性が優遇されているの割合（前述）が2割近くとほかの年代と比べ高くなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区で男性が優遇されている（前述）の割合が6割以上となっています。また、八日市地区、能登川地区、市辺地区では「平等である」の割合が2割と、ほかの地区に比べ高くなっています。

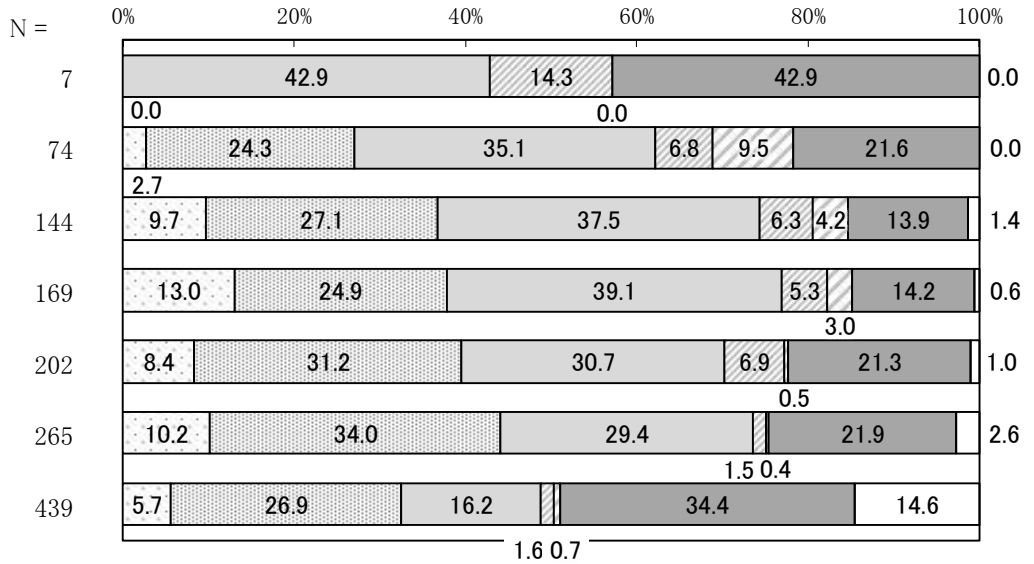


① 職場の中で

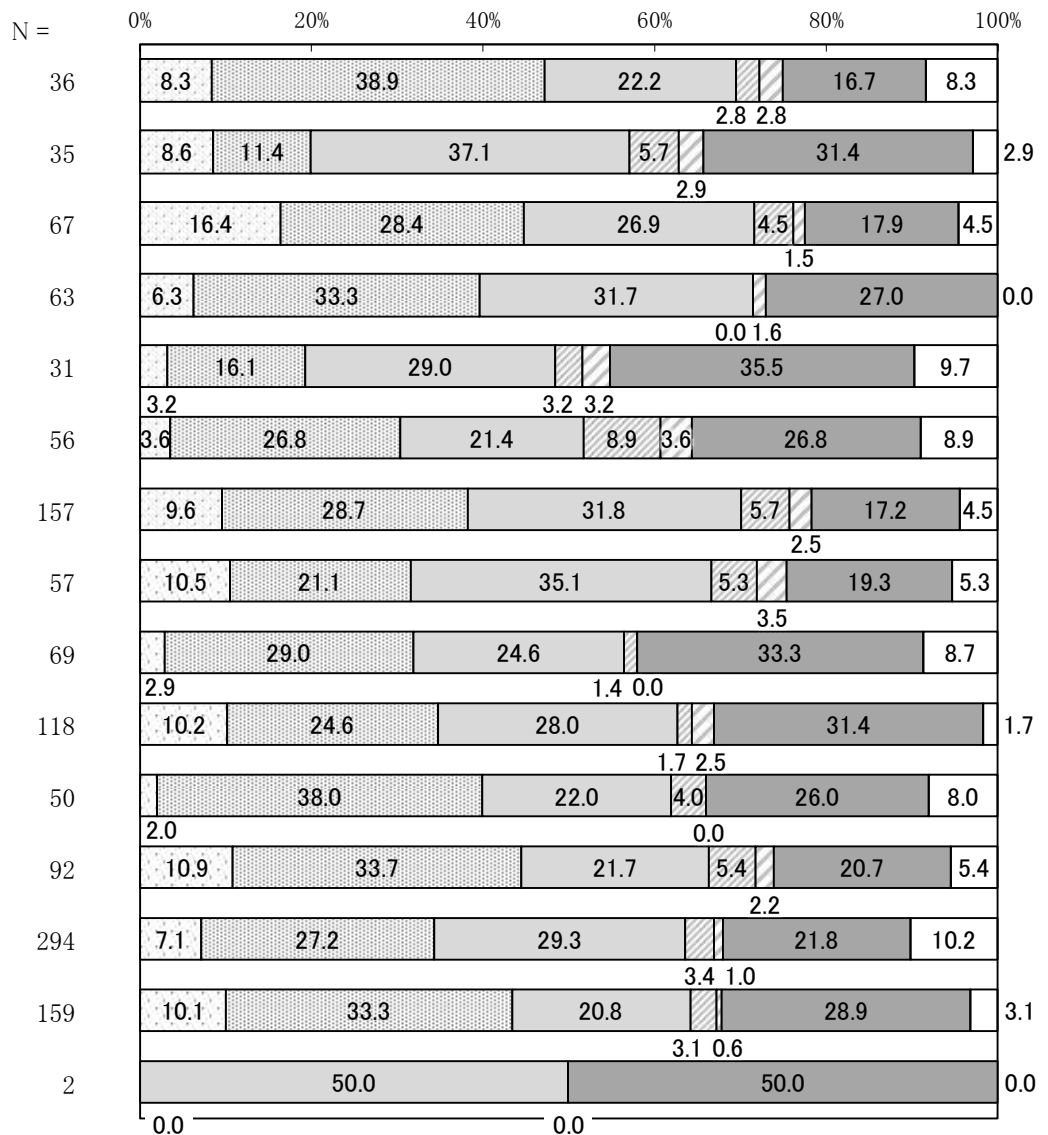
【性別】

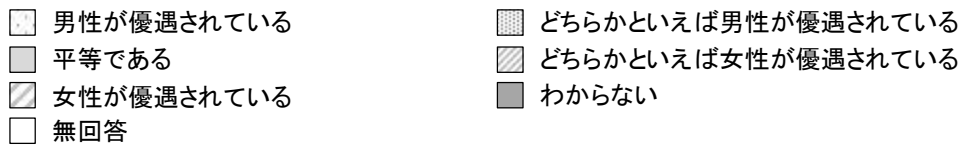


【年代別】



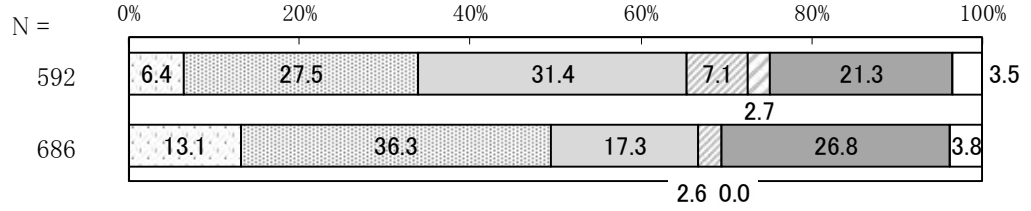
【居住地区別】



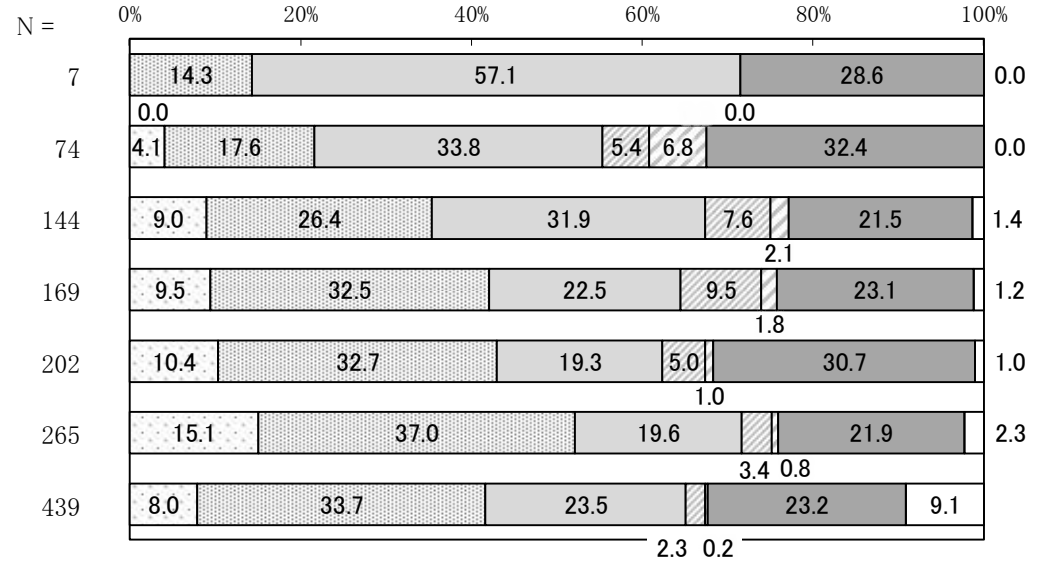


② 地域社会の中で

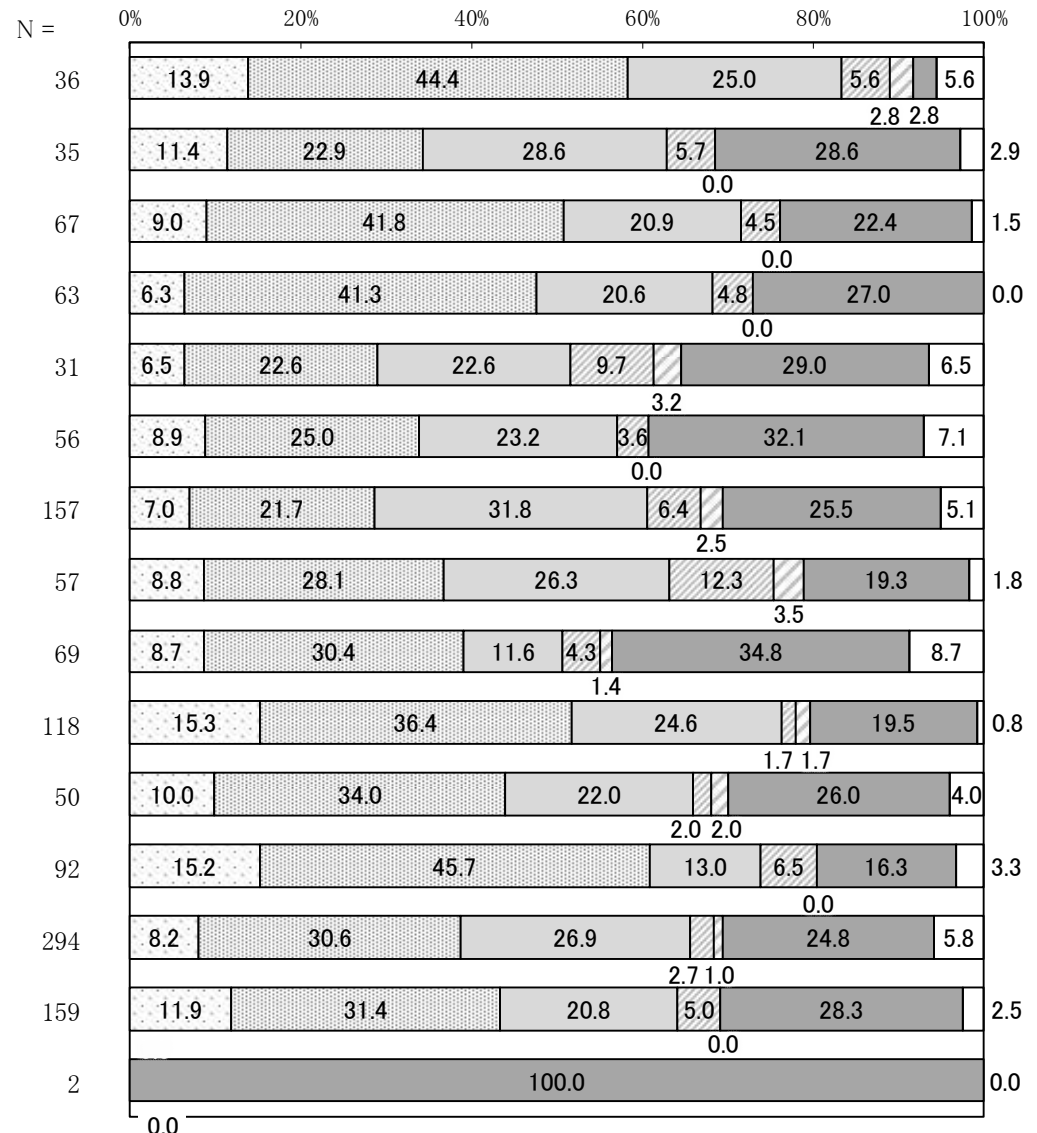
【性別】



【年代別】



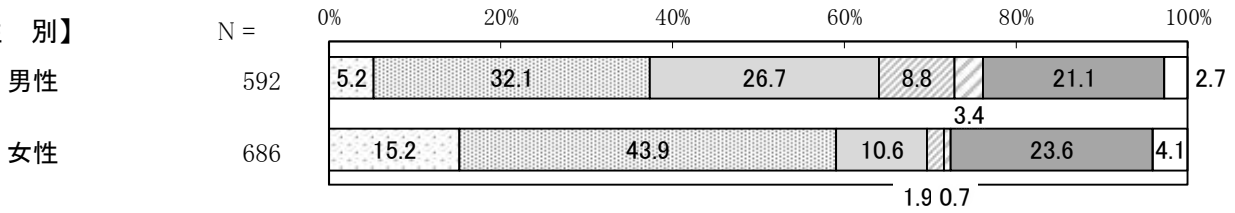
【居住地区別】



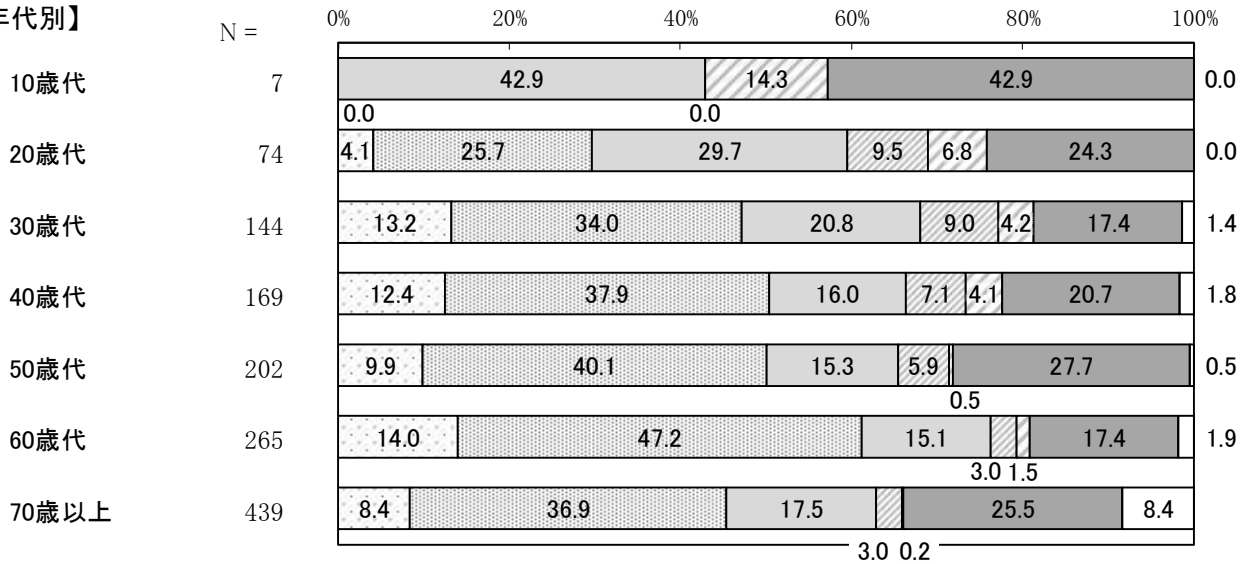


③ 社会全体の中で

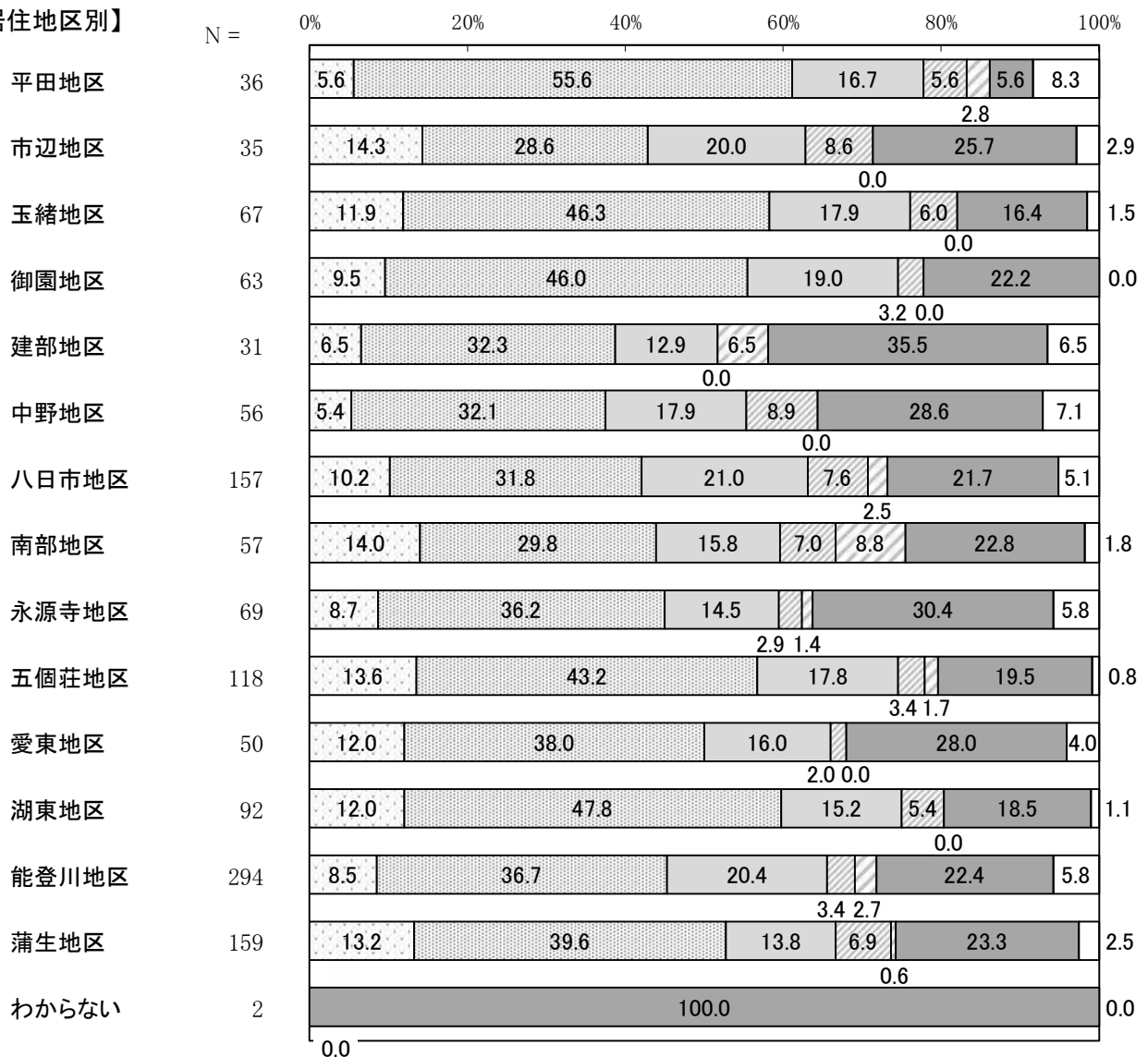
【性別】



【年代別】



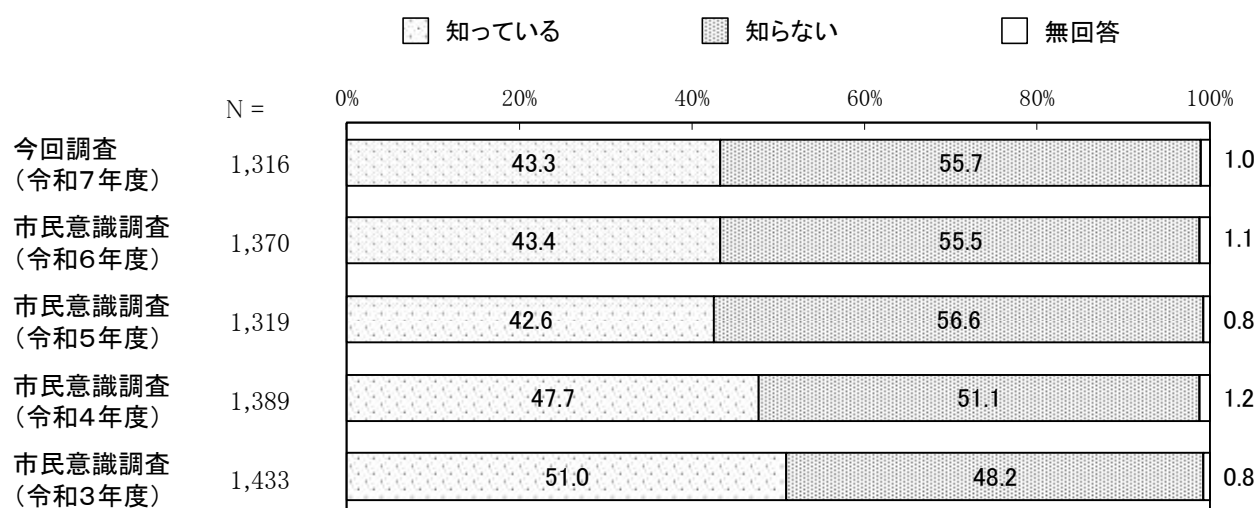
【居住地区別】



問 28 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれたときや、多重債務に陥ったときの相談窓口として、東近江市消費生活センターがあることを知っていますか。《○1つ》

6割近くが「知らない」、認知度は43.3%

- ・ 消費生活センターを知っているかについては、「知っている」が43.3%、「知らない」が55.7%と、知らない人が多くなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、認知度（「知っている」の割合）は、令和5年度まで低下していましたが、令和6年度以降は43%台で推移しています。
- ・ 性別では、女性の認知度（前述）が47.1%と、男性より高くなっています。
- ・ 年代別では、20歳代の認知度（前述）が21.6%と、最も低くなっています。年齢が上がるほど認知度（前述）が高くなる傾向が見られ、70歳以上では半数以上となっています。一方、「知らない」と回答した人の割合は、20歳代で8割近く、30～40歳代で7割近くと高くなっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区で認知度（前述）が6割と高くなっています。一方、「知らない」と回答した人の割合は、八日市地区で7割近くと高くなっています。

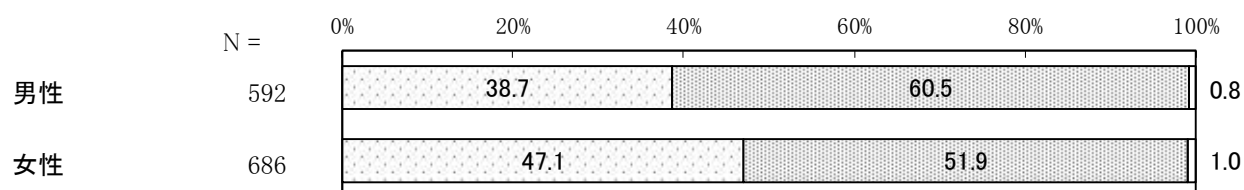


※今年度より、設問文を一部変更している。

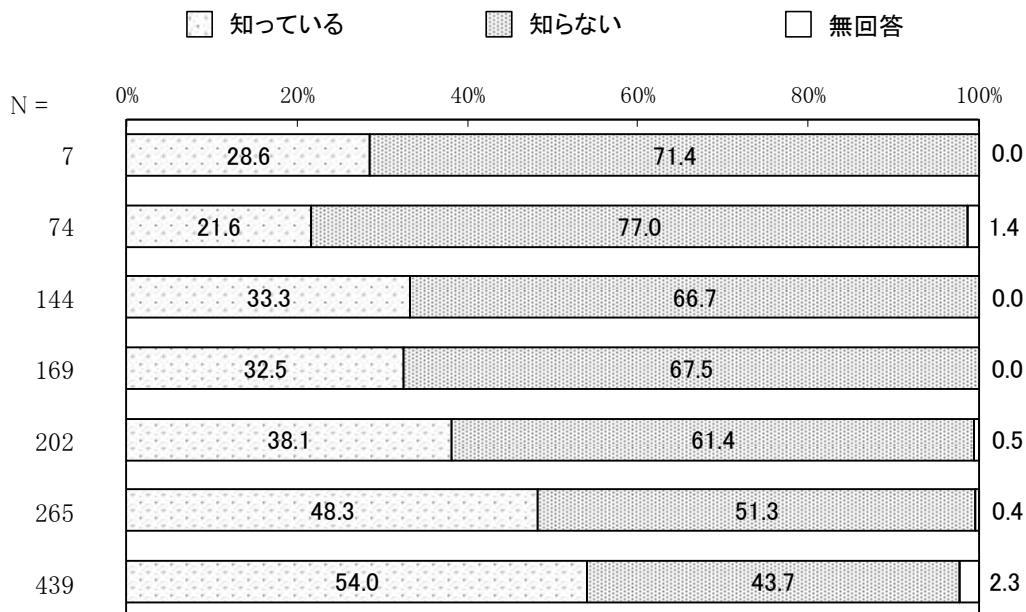
令和6年度までの設問文

あなたは、消費者トラブルに巻きこまれたときや、多重債務に陥ったときの相談窓口として、市役所内に消費生活センターがあることを知っていますか。《○1つ》

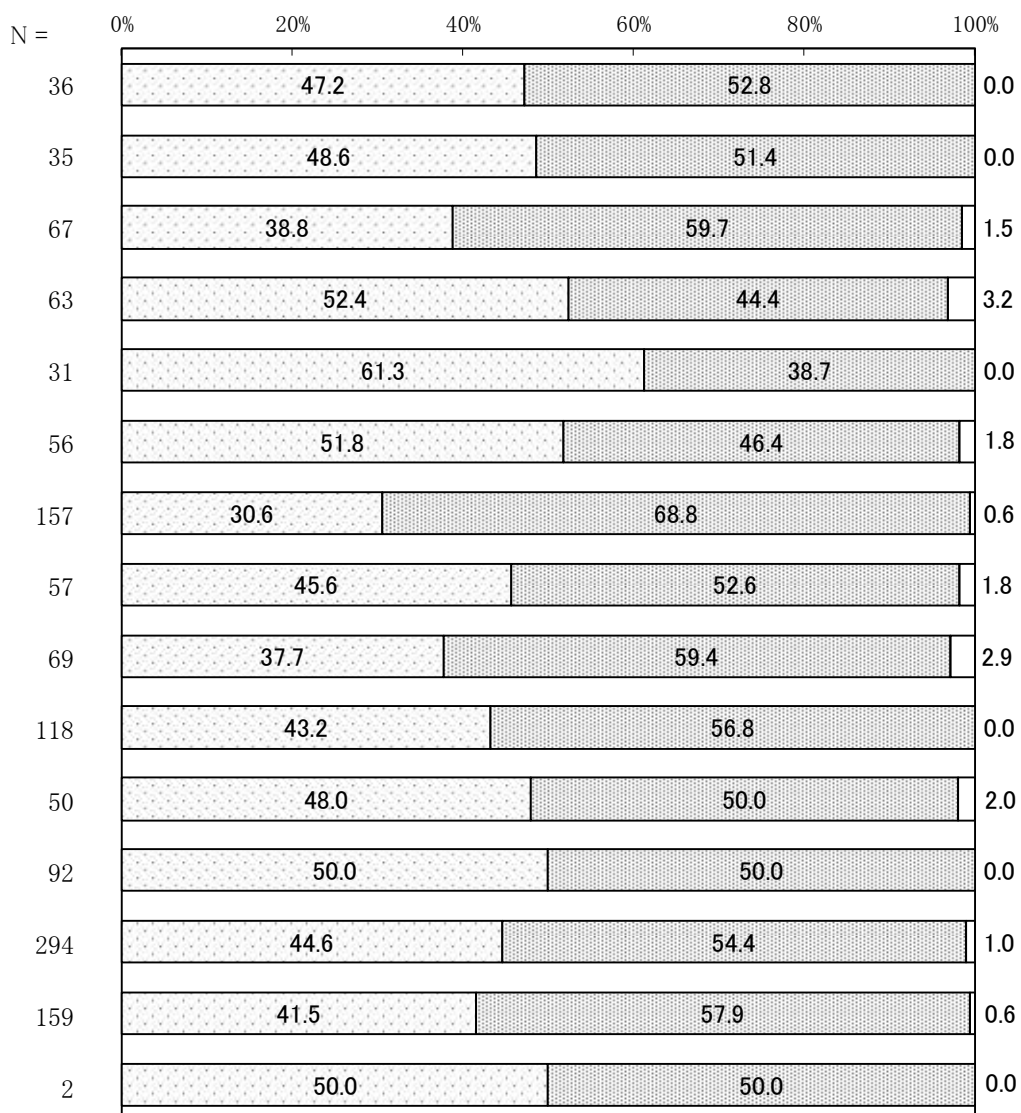
【性別】



【年代別】



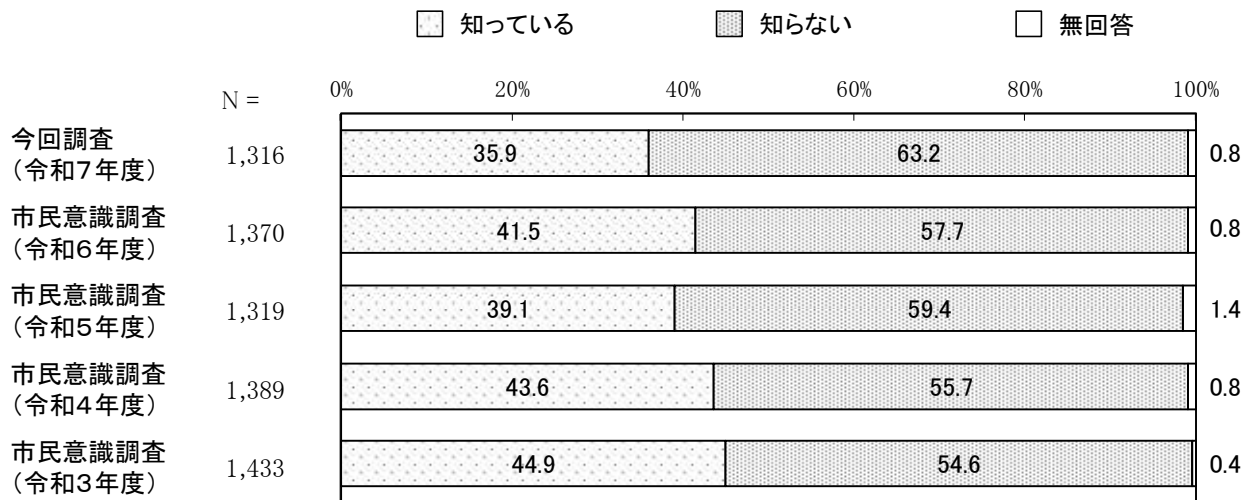
【居住地区別】



問 29 あなたは、市役所内の市民生活相談課で、暮らしの困りごとに関して弁護士による法律相談や司法書士による登記・相続相談等を受けられることを知っていますか。《○1つ》

6割以上が「知らない」、認知度は35.9%

- ・ 市役所内の市民生活相談課で法律相談や登記相談等が受けられることについては、「知っている」が35.9%、「知らない」が63.2%と、知らない人が多くなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動はあるものの、認知度（「知っている」の割合）は4割前後で微減傾向となっています。
- ・ 性別では、女性で認知度（前述）が4割近くと男性より高くなっています。
- ・ 年代別では、認知度（前述）は20歳代が10.8%と最も低く、年齢が上がるほど高くなる傾向があり、70歳以上では半数近くが認知しています。
- ・ 居住地区別では、建部地区で認知度（前述）が半数以上と高い一方で、市辺地区、永源寺地区で「知らない」と回答した人が7割以上と高くなっています。

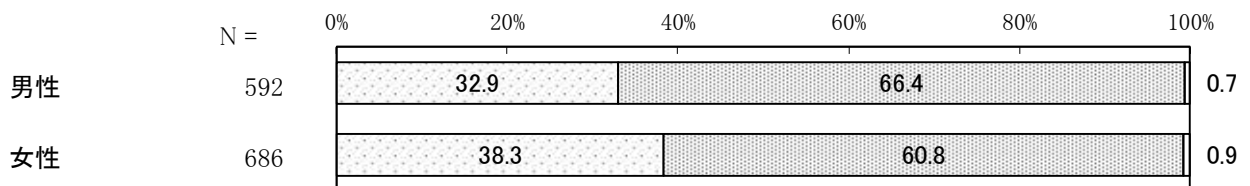


※今年度より、設問文を一部変更している。

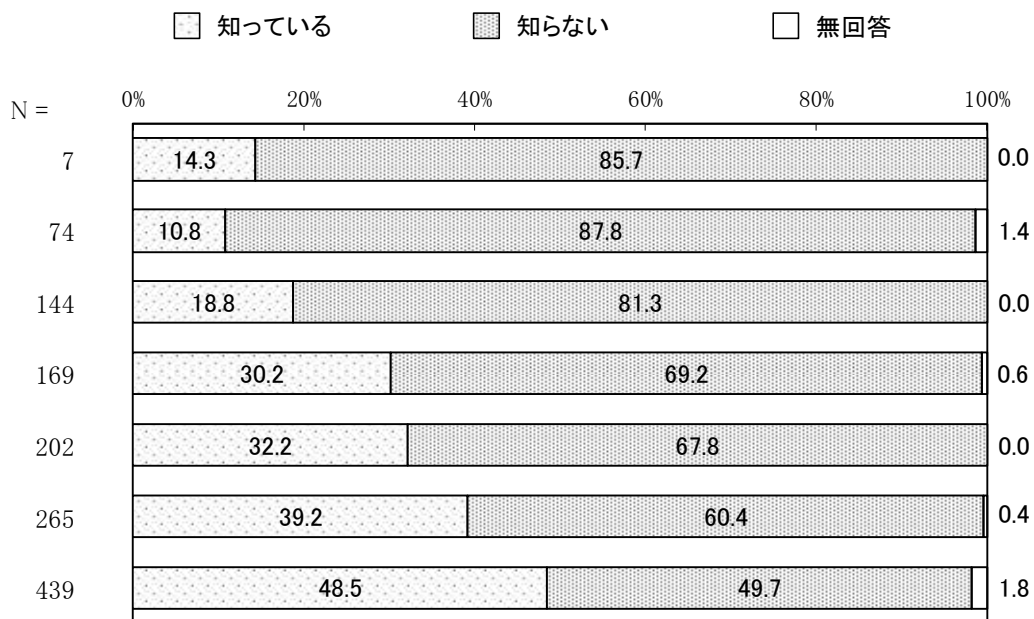
令和6年度までの設問文

あなたは、市役所内の市民生活相談課で、暮らしの困りごとに関して法律相談や登記相談等を受けられることを知っていますか。《○1つ》

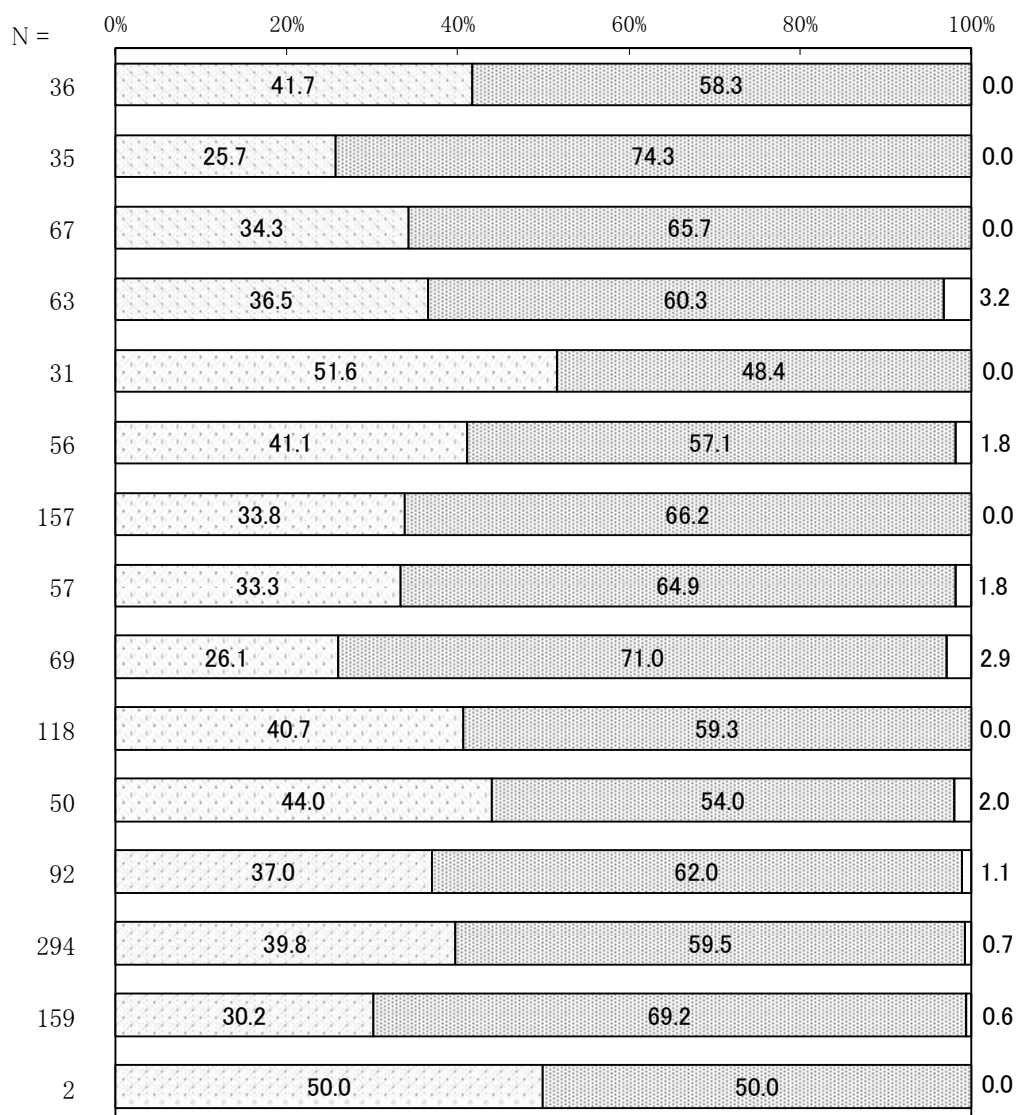
【性別】



【年代別】



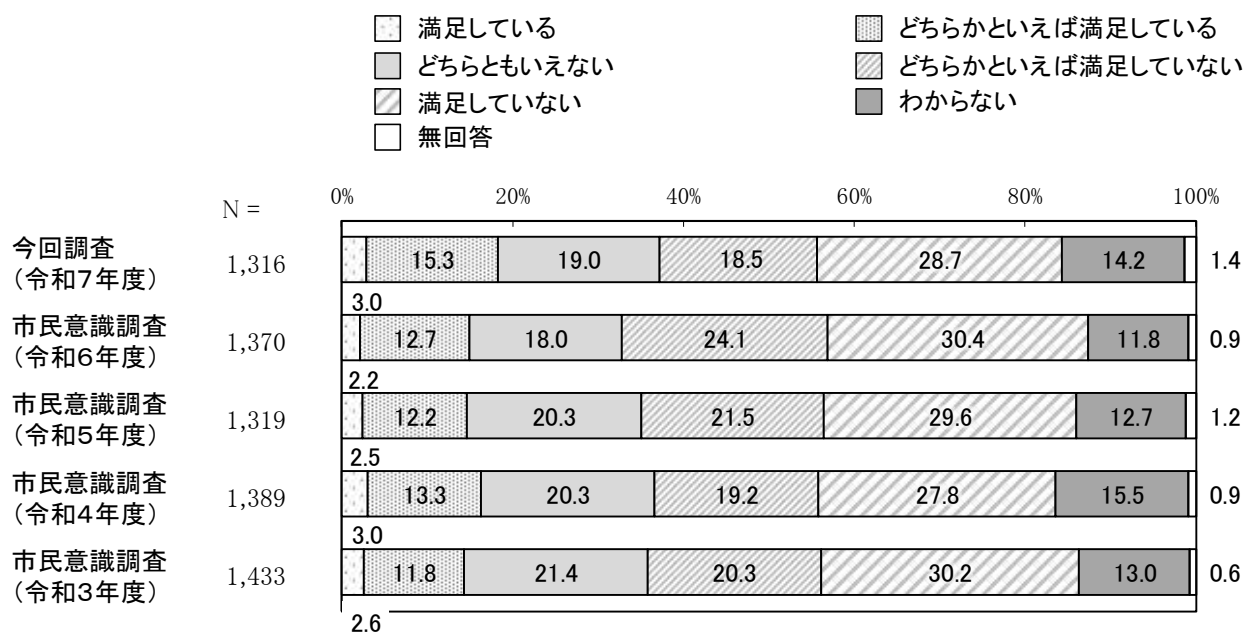
【居住地区別】



問 30 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○1つ》

半数近くが満足していない

- ・ 公共交通に対する満足度については、「満足していない」が28.7%、「どちらかといえば満足していない」が18.5%で、これらを合わせると47.2%となり、半数近くの人が満足していないと回答しています。一方、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると18.3%となり、2割近くは満足しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、満足している人（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合よりも満足していない人（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では50歳代で、居住地区別では平田地区、市辺地区、御園地区、南部地区で満足していない人（前述）の割合が6割近くと高くなっています。

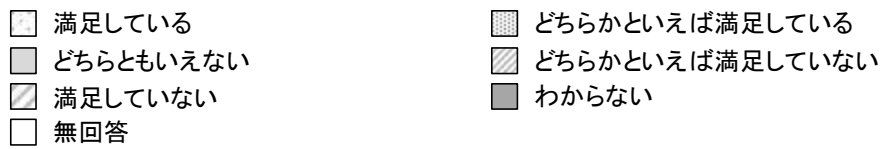


単位：%

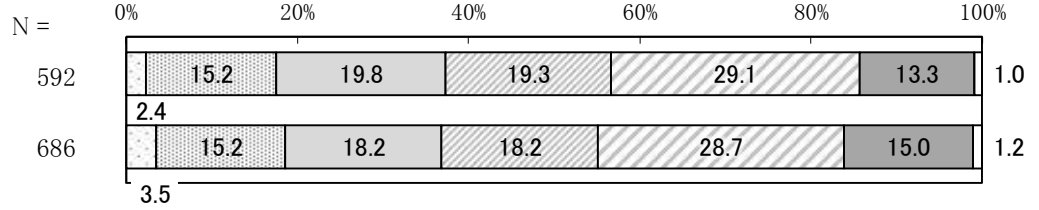
	満足*	不満*	差
①今回調査(令和7年度)	18.3	47.2	-28.9
②市民意識調査(令和6年度)	14.9	54.5	-39.6
③市民意識調査(令和5年度)	14.7	51.1	-36.4
④市民意識調査(令和4年度)	16.3	47.0	-30.7
⑤市民意識調査(令和3年度)	14.4	50.5	-36.1
①-⑤	3.9	-3.3	7.2

* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

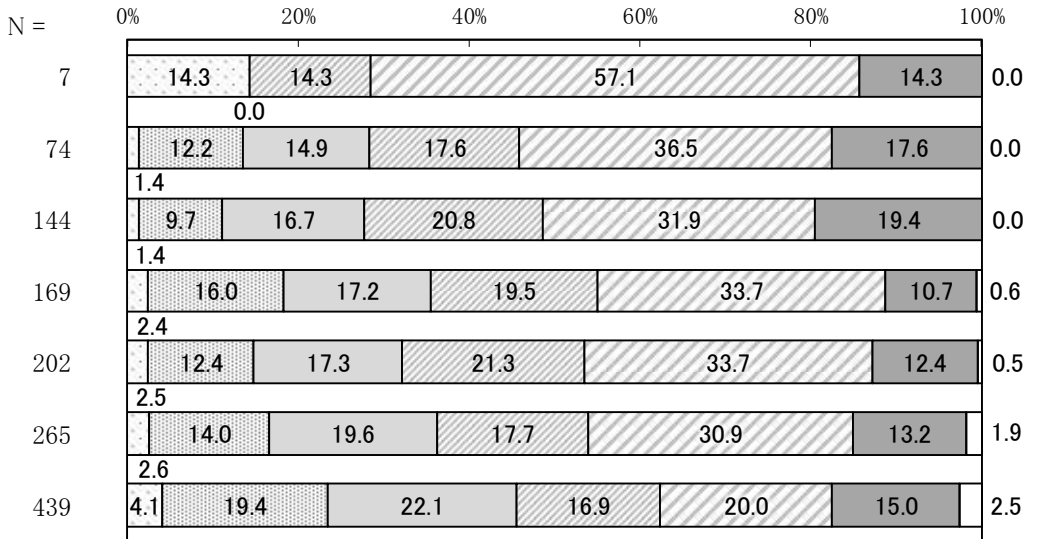
* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計



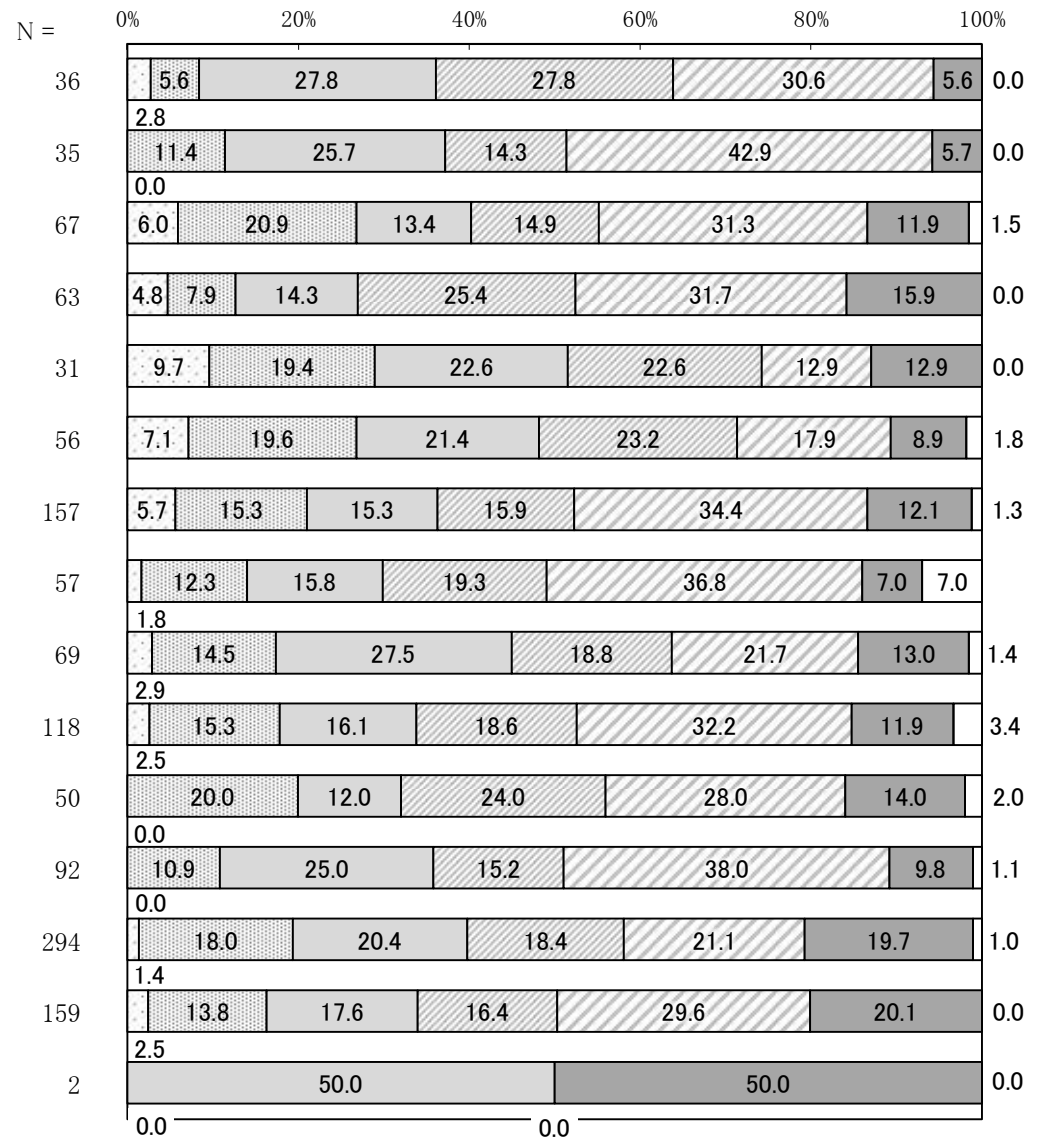
【性別】



【年代別】



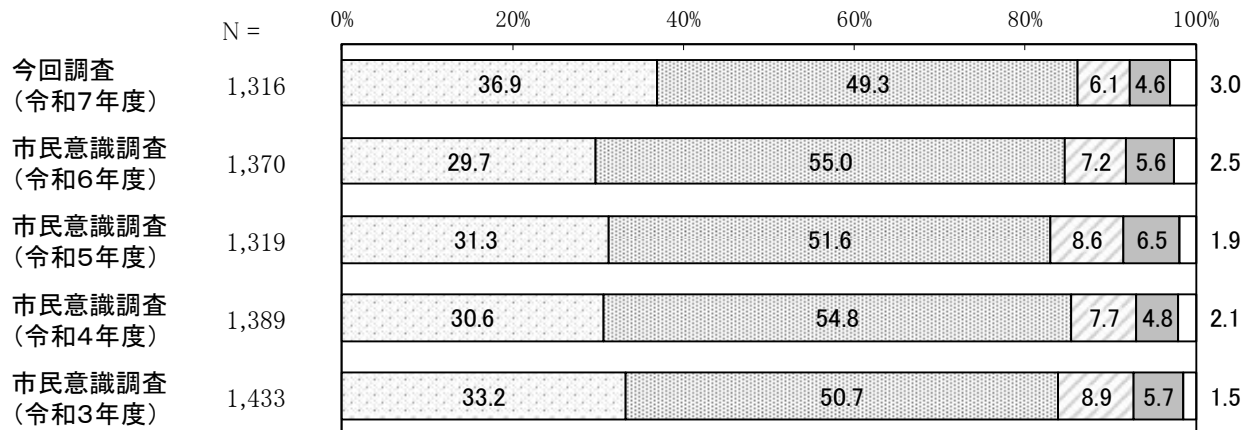
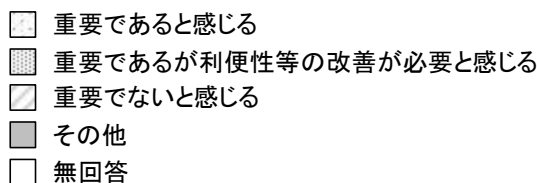
【居住地区別】



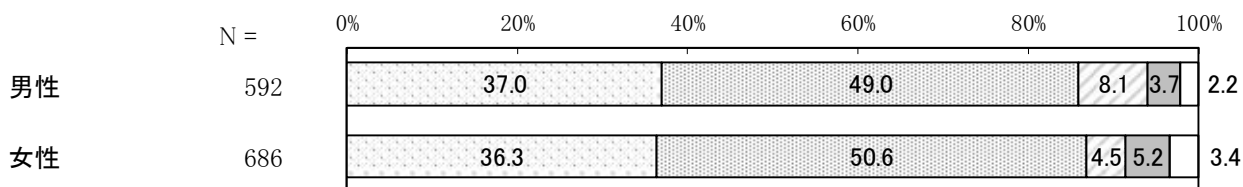
問 31 市内には近江鉄道の駅が 13 箇所あり、全線を将来にわたって存続させていくために、令和 6 年 4 月 1 日から公有民営方式による上下分離の新たな運行形態に移行しました。あなたは、近江鉄道線についてどう感じていますか。《○1つ》

9割近くが重要と感じており、半数近くが改善が必要だと感じている

- ・ 近江鉄道線については、「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」が 49.3%と最も多く、次いで「重要であると感じる」が 36.9%と続きます。これらを合わせると 86.2%となり、9割近くの人が近江鉄道線は重要であると考えています。
- ・ 重要であると感じている人（「重要であると感じる」と「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」の合計）の割合は、年代別では 20 歳代や 40～60 歳代で 9割近く、居住地区別では市辺地区、中野地区で 100%近くと高くなっています。

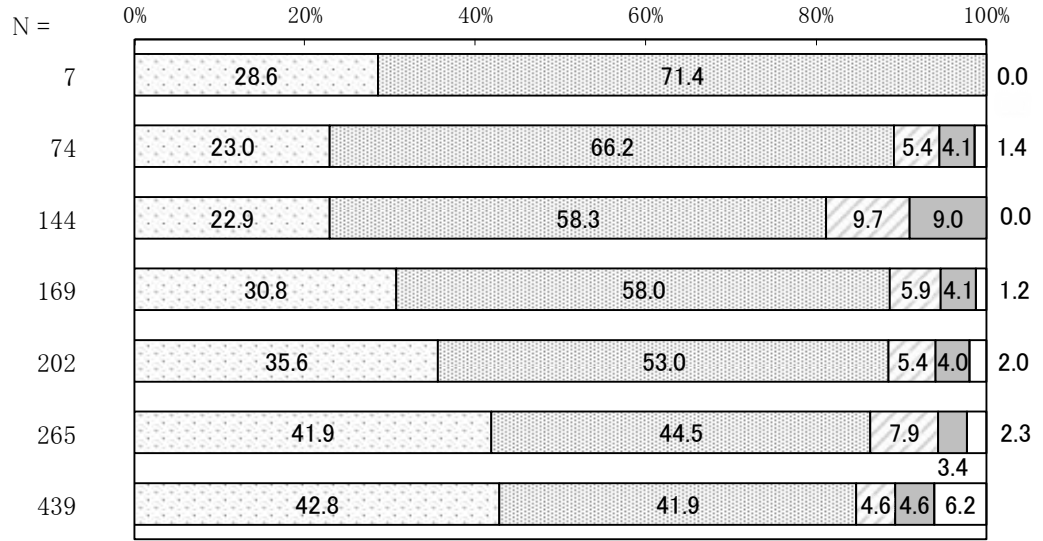


【性別】

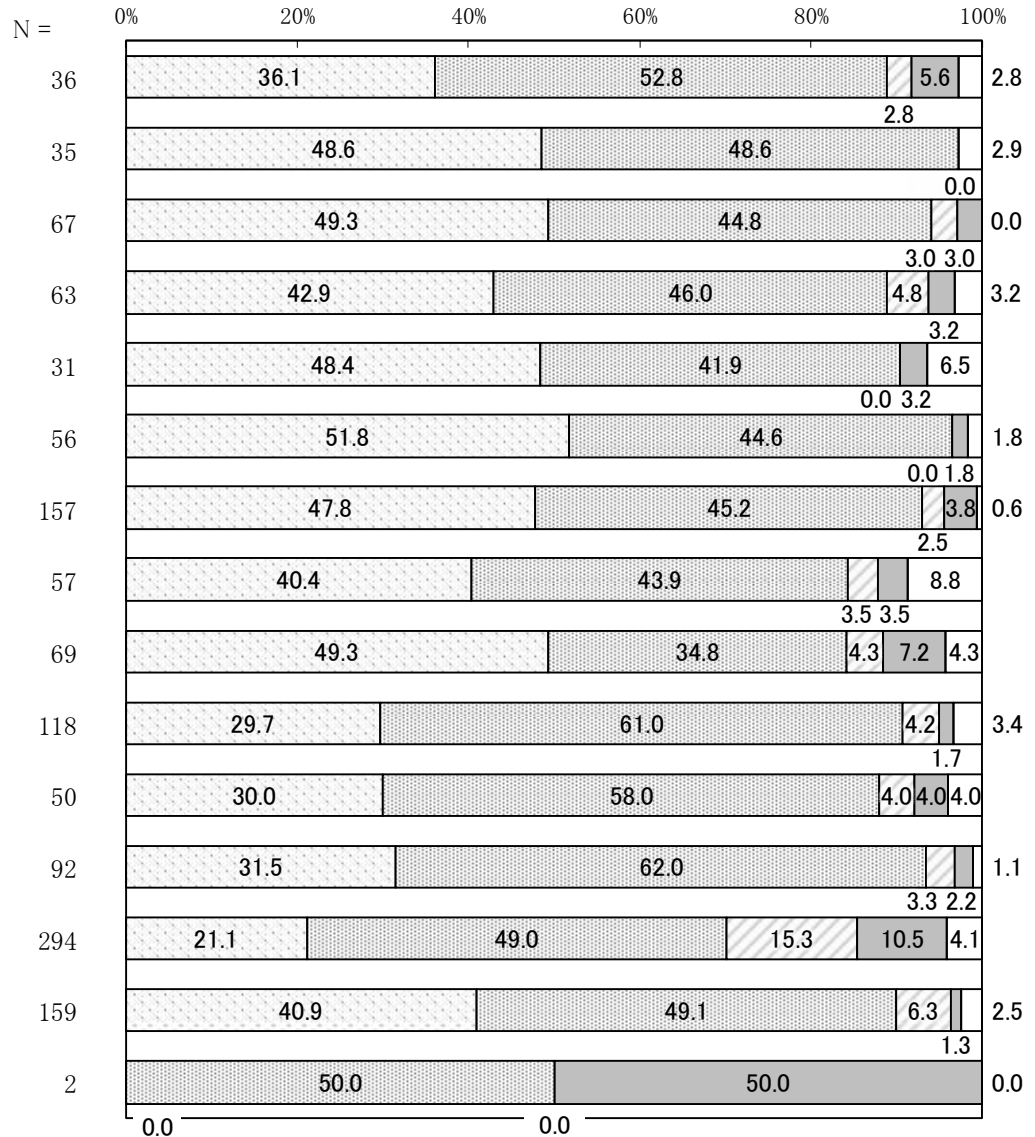


- 重要であると感じる
- ▨ 重要であるが利便性等の改善が必要と感じる
- ▩ 重要でないと感じる
- その他
- 無回答

【年代別】



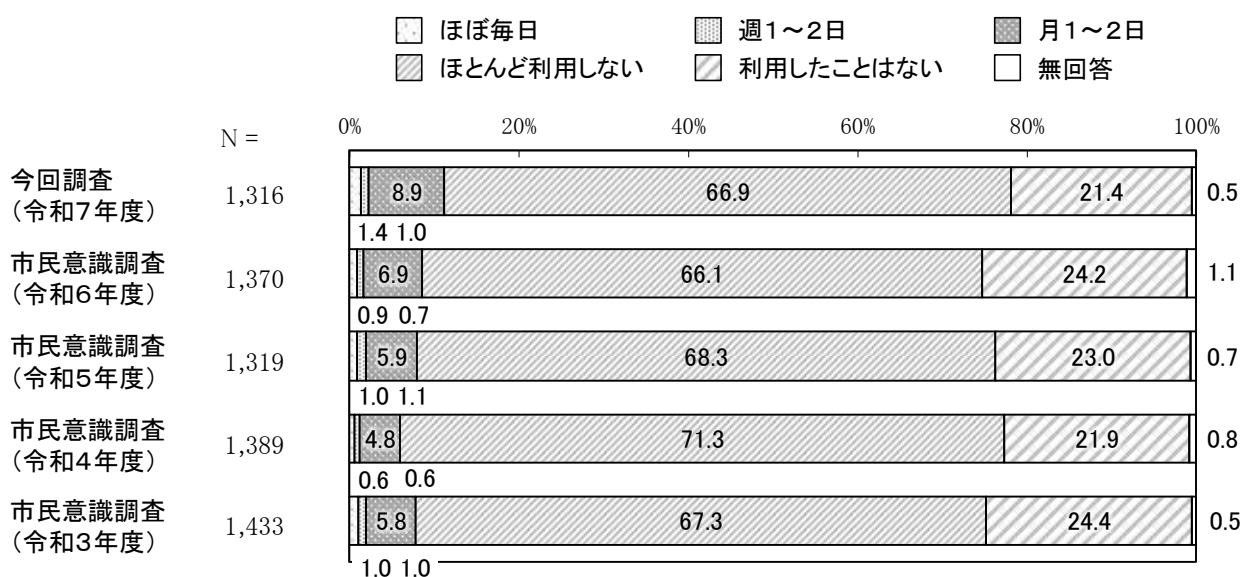
【居住地区別】



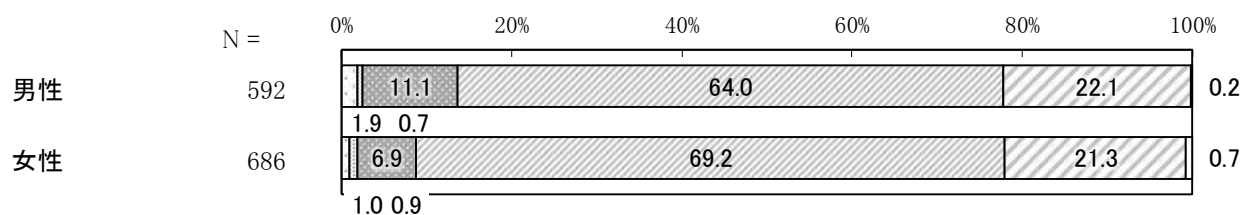
問 32 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

9割近くが利用していない

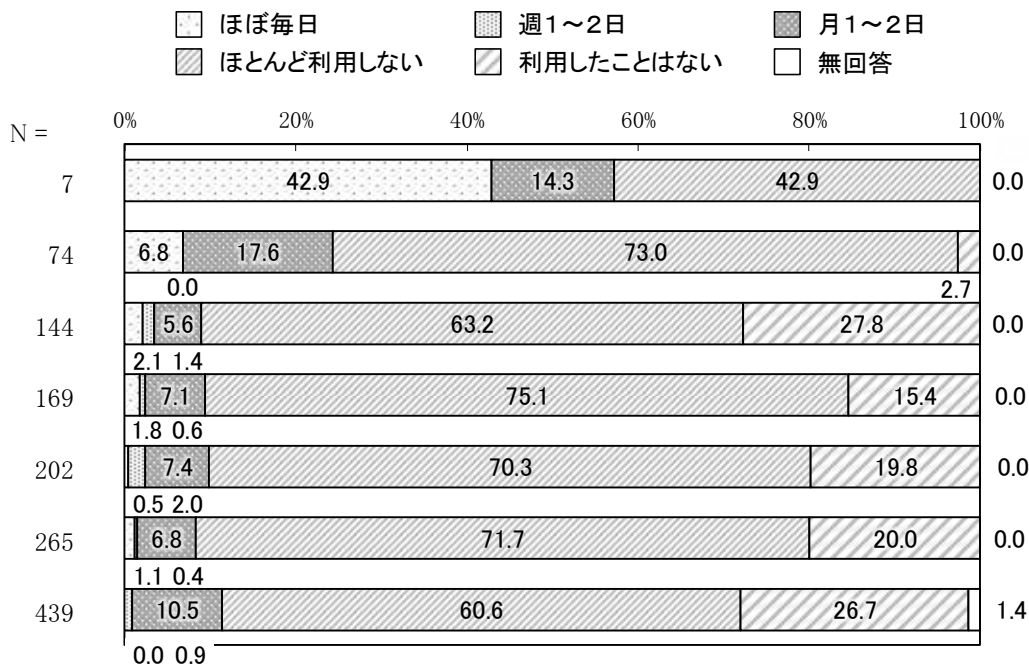
- ・ 近江鉄道の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が66.9%と最も多く、次の「利用したことはない」の21.4%を合わせると88.3%となり、9割近くの人が利用していないと回答しています。一方、利用している人は11.3%で、その内訳は「月1～2日」が8.9%と最も多く、次いで「ほぼ毎日」が1.4%、「週1～2日」が1.0%となっています。
- ・ 利用している人の割合は、年代別では20歳代で2割以上、70歳以上で1割以上見られますが、ほかの年代は1割未満となっています。また、居住地区別では、中野地区、八日市地区で3割前後と比較的多くの人に利用されています。
- ・ 一方、利用していない人の割合は、特に愛東地区、能登川地区、永源寺地区で高くなっています。



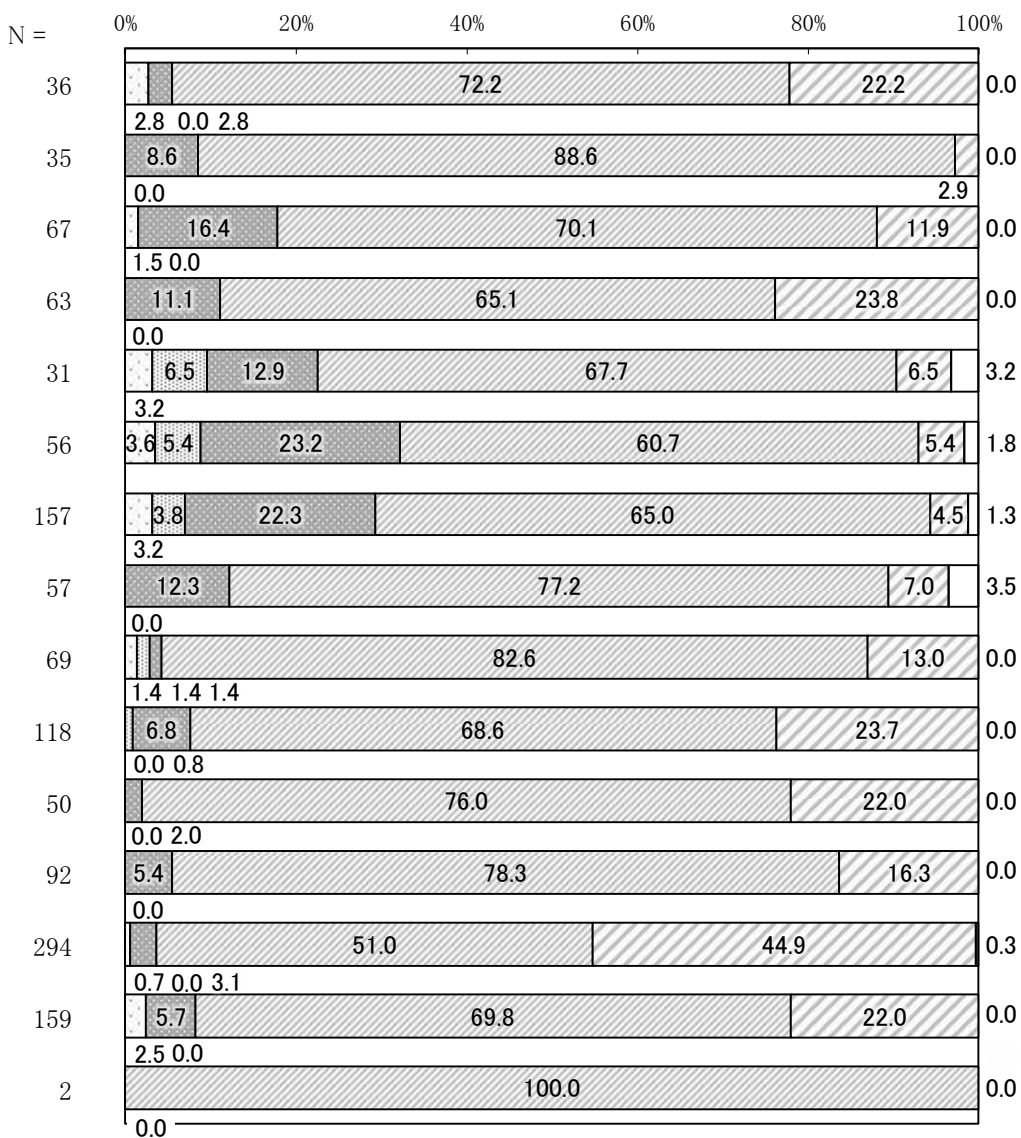
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

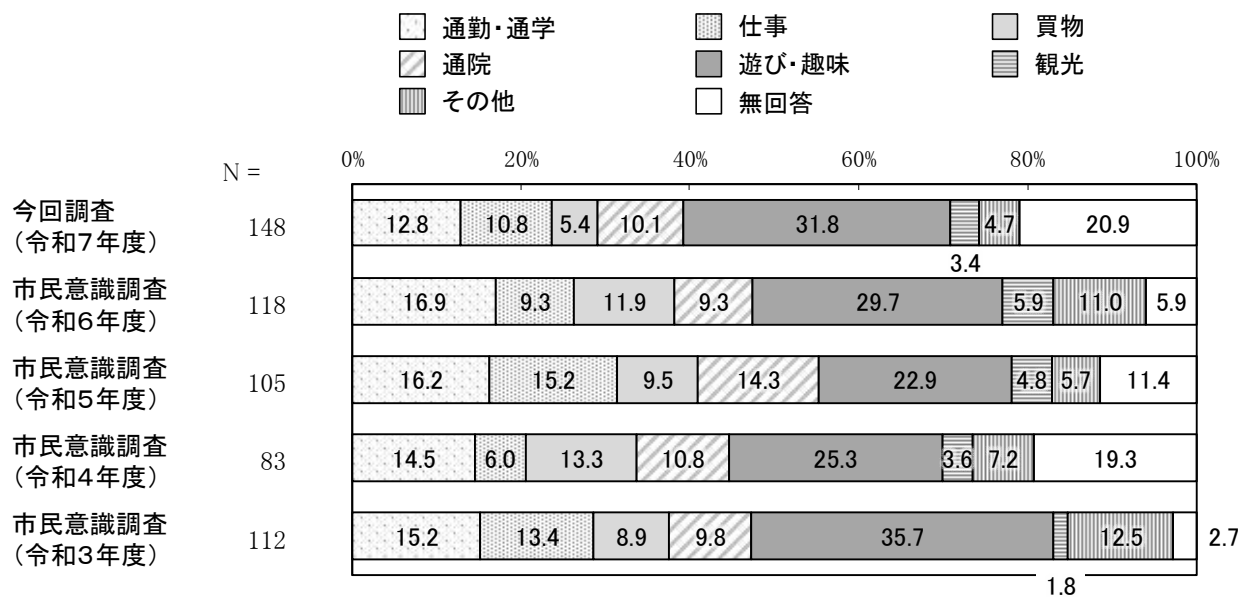


問 32-1 問 32 で「1. ほぼ毎日」「2. 週1～2日」「3. 月1～2日」とお答えの方におたずねします。

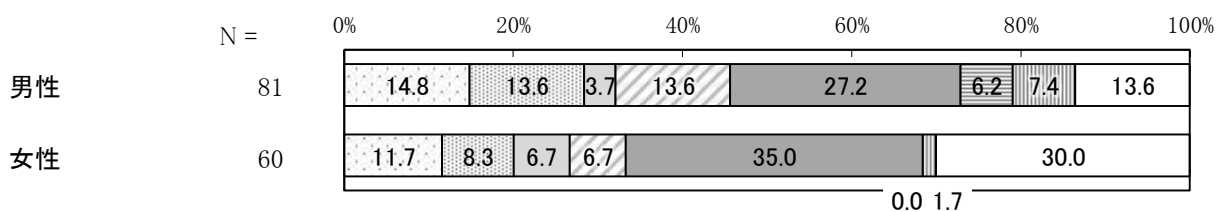
近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○1つ》

近江鉄道の利用目的は「遊び・趣味」が3割

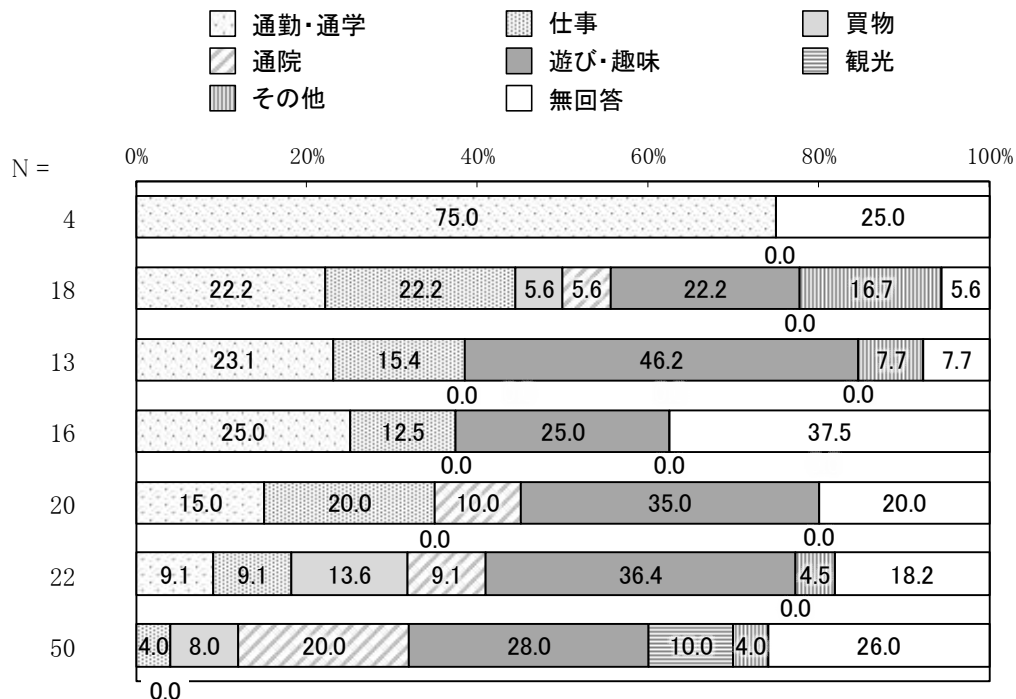
- ・ 近江鉄道の利用目的は、「遊び・趣味」が31.8%と最も多く、次いで「通勤・通学」が12.8%、「仕事」が10.8%、「通院」が10.1%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに、「遊び・趣味」での利用が最も多くなっていますが、男性は「仕事」や「観光」などでの利用が女性より多くあげられています。



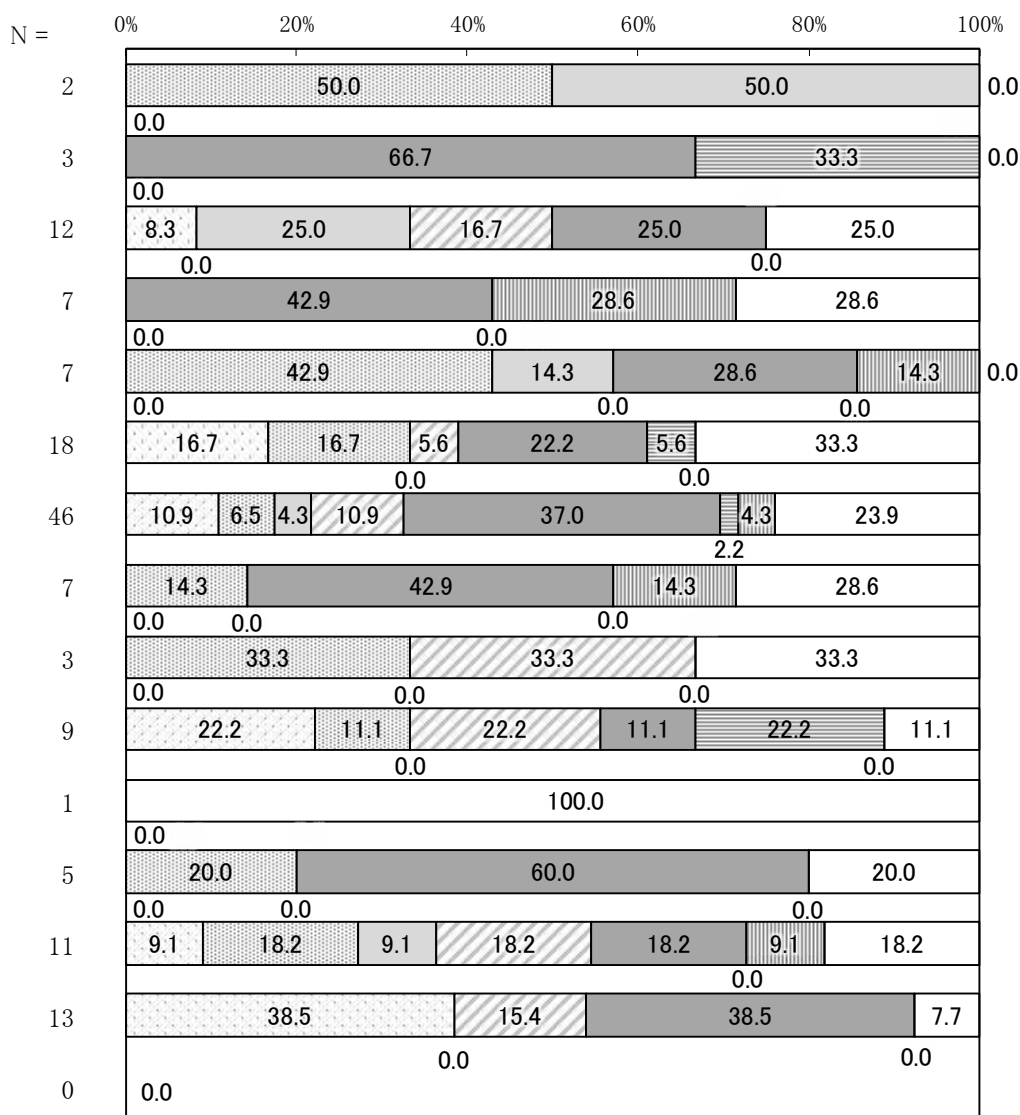
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

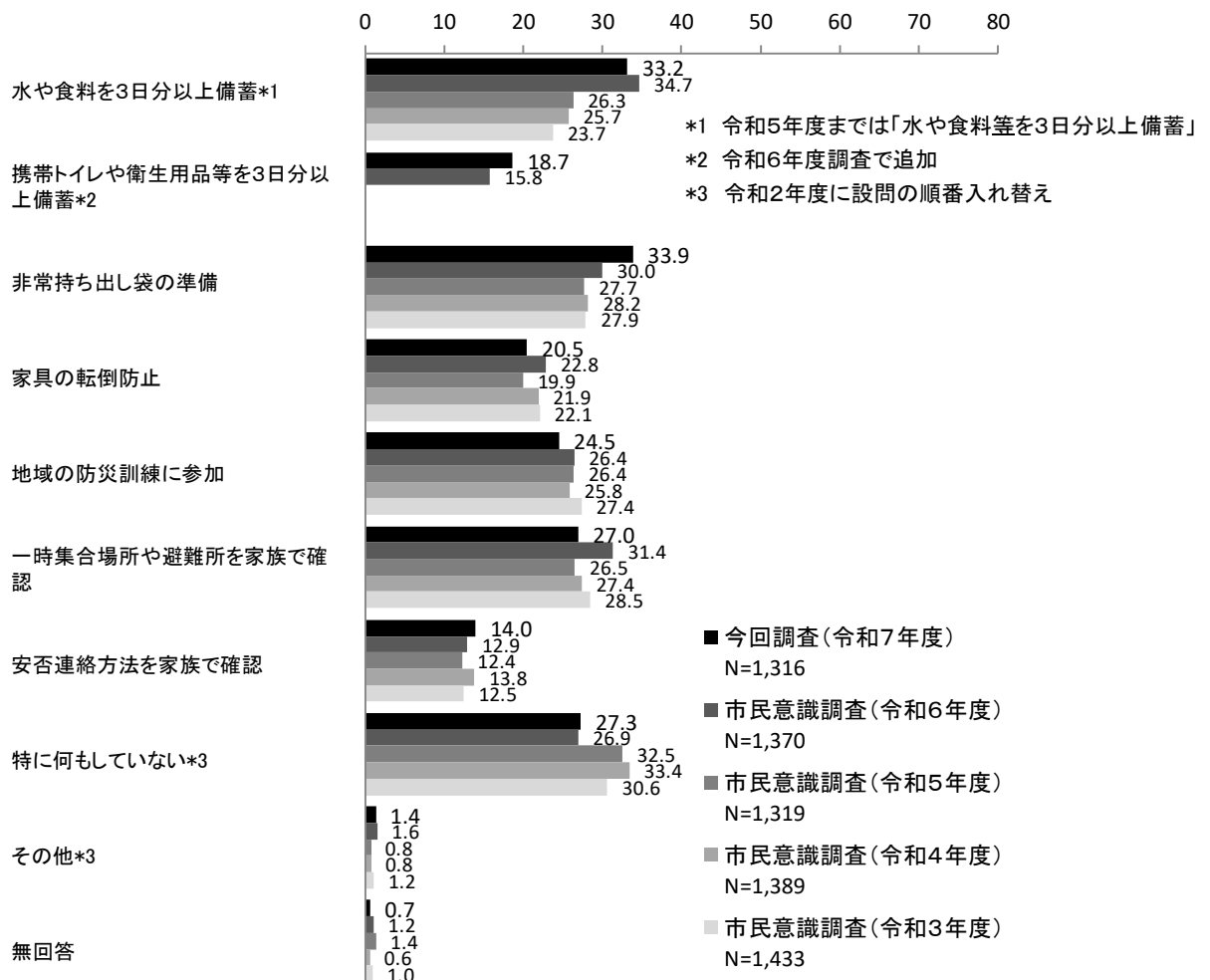


問 33 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

7割以上が何らかの災害への備えをしている

- ・ 災害への備えについては、何らかの備えをしている人は72.0%*で、7割を超えています。その内容は、「非常持ち出し袋の準備」が33.9%と最も多く、次いで「水や食料を3日分以上備蓄」が33.2%、「一時集合場所や避難所を家族で確認」が27.0%と続きます。一方で、「特に何もしていない」は27.3%となっています。
- ・ 性別では、男性は「水や食料を3日分以上備蓄」が、女性は「非常持ち出し袋の準備」が最も多くなっています。そのほか、女性は「携帯トイレや衛生用品等を3日分以上備蓄」が男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、20歳代は「特に何もしていない」が、30歳代と60歳代は「非常持ち出し袋の準備」が、40～50歳代は「水や食料を3日分以上備蓄」が、70歳以上は「地域の防災訓練に参加」が最も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、中野地区、湖東地区、蒲生地区、御園地区で「水や食料を3日分以上備蓄」が、能登川地区、玉緒地区、五個荘地区、建部地区で「非常持ち出し袋の準備」が、愛東地区、平田地区で「地域の防災訓練に参加」が、市辺地区、南部地区で「一時集合場所や避難所を家族で確認」が、八日市地区、永源寺地区で「特に何もしていない」が最も多くあげられています。建部地区、御園地区では「一時集合場所や避難所を家族で確認」も、市辺地区では「特に何もしていない」も同率で最も多くあげられています。

*有効回答数(1,316件)に対する「特に何もしていない」と「無回答」を除いた948件の割合%



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	水や食料を3日以上 備蓄	携帯トイレや衛生用品 等を3日以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所 を家族で確認	確認 安否連絡方法を家族で	特に何もしていない	その他	無回答
男性	592	31.4	11.8	29.7	19.6	26.0	24.2	13.2	30.1	2.0	0.5
女性	686	34.5	24.6	38.3	21.4	22.7	29.4	14.6	25.1	0.9	0.6

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	水や食料を3日以上 備蓄	携帯トイレや衛生用品 等を3日以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所 を家族で確認	確認 安否連絡方法を家族で	特に何もしていない	その他	無回答
10歳代	7	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	71.4	0.0	0.0
20歳代	74	32.4	6.8	17.6	8.1	5.4	9.5	5.4	44.6	6.8	1.4
30歳代	144	35.4	23.6	39.6	20.1	8.3	21.5	7.6	28.5	2.1	0.0
40歳代	169	34.3	23.1	33.7	18.9	15.4	26.0	9.5	27.2	1.2	0.0
50歳代	202	36.6	22.3	35.6	21.8	20.3	22.8	15.8	28.2	0.5	0.0
60歳代	265	37.0	17.4	38.9	23.0	26.8	26.8	16.2	24.9	0.8	0.0
70歳以上	439	28.7	16.6	32.1	21.6	37.6	34.4	17.1	24.1	1.1	1.6

【居住地区別】

※「わからない」は、有効回答数が2件のため最大値を網掛けしていない。

単位:%

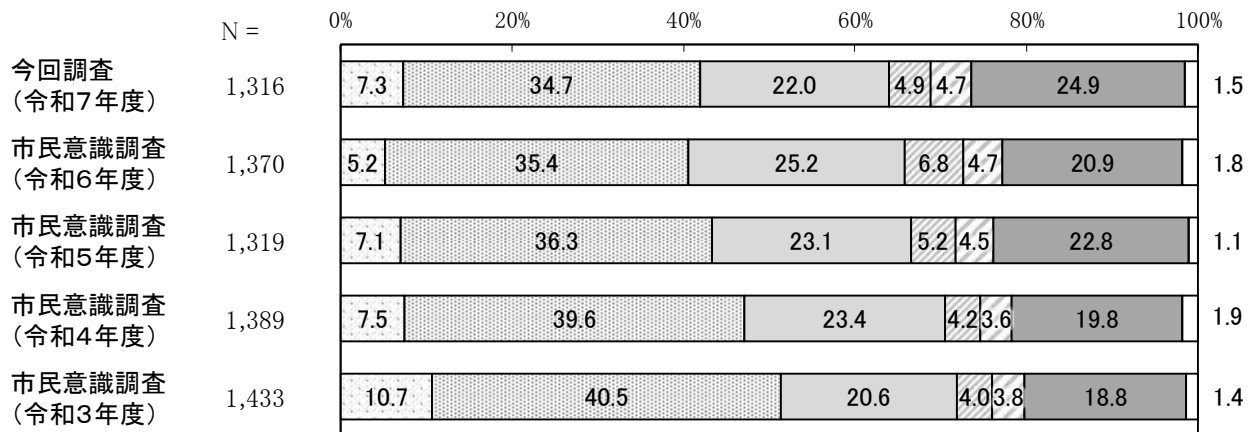
区分	有効回答数(件)	水や食料を3日以上 備蓄	携帯トイレや衛生用品 等を3日以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所 を家族で確認	確認 安否連絡方法を家族で	特に何もしていない	その他	無回答
平田地区	36	25.0	13.9	22.2	13.9	27.8	22.2	16.7	25.0	0.0	0.0
市辺地区	35	20.0	8.6	17.1	14.3	25.7	37.1	11.4	37.1	0.0	0.0
玉緒地区	67	35.8	26.9	37.3	26.9	23.9	22.4	17.9	31.3	0.0	1.5
御園地区	63	31.7	20.6	30.2	12.7	23.8	31.7	15.9	27.0	0.0	0.0
建部地区	31	32.3	12.9	35.5	16.1	12.9	35.5	16.1	32.3	3.2	0.0
中野地区	56	42.9	21.4	39.3	23.2	8.9	23.2	14.3	21.4	3.6	1.8
八日市地区	157	34.4	15.3	28.7	13.4	14.0	23.6	13.4	35.0	1.3	0.6
南部地区	57	28.1	19.3	28.1	19.3	17.5	33.3	12.3	31.6	3.5	3.5
永源寺地区	69	26.1	15.9	27.5	18.8	21.7	30.4	7.2	34.8	1.4	0.0
五個荘地区	118	32.2	17.8	36.4	19.5	29.7	27.1	16.9	29.7	0.8	0.8
愛東地区	50	26.0	12.0	46.0	22.0	52.0	28.0	22.0	22.0	0.0	0.0
湖東地区	92	40.2	22.8	33.7	25.0	39.1	31.5	12.0	16.3	1.1	0.0
能登川地区	294	34.0	21.1	39.1	27.9	28.6	28.9	16.0	22.8	2.0	0.0
蒲生地区	159	36.5	19.5	32.7	17.6	19.5	19.5	9.4	27.7	1.3	0.6
わからない	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

(5) 子育てや教育関連の取組について

問 34 あなたは、東近江市は子育てをするのに良い環境だと思いますか。《○1つ》

4割以上が子育てをするのに良い環境だと思っている

- 東近江市が子育てをするのに良い環境かどうかについては、「そう思う」が7.3%、「どちらかといえばそう思う」が34.7%で、これらを合わせると42.0%となり、4割以上の人が子育てをするのに良い環境だと思っていると回答しています。
- 子育てをするのに良い環境だと思わないと回答した人（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）は1割未満ですが、半数近くは「わからない」又は「どちらともいえない」と回答しています。
- 過去の調査と比較すると、子育てをするのに良い環境だと思う人（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合は減少傾向にありましたが、今年度増加しました。
- 年代別では、子育てをするのに良い環境だと思う人（前述）は、40歳代で半数近くと多く見られます。一方、30～40歳代で子育てをするのに良い環境だと思わないと回答した人（前述）が2割近くとほかの世代より多く見られます。
- 居住地区別では、子育てをするのに良い環境だと思う人（前述）の割合が、中野地区で6割近く、能登川地区、五個荘地区、永源寺地区で半数近くと高い一方、市辺地区では3割未満と低くなっています。

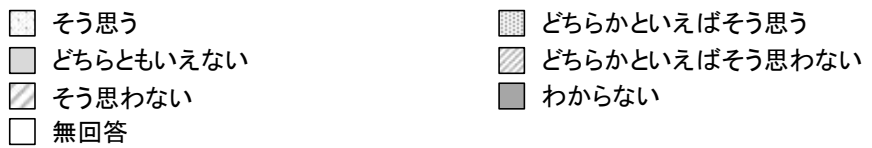


単位：%

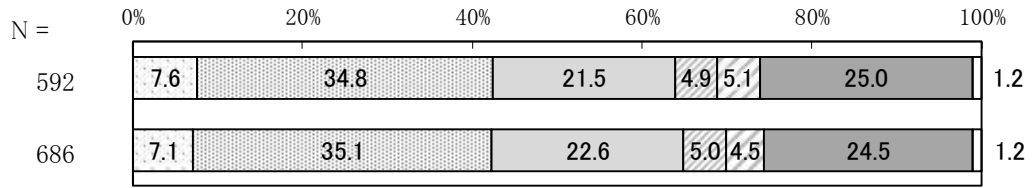
	そう思う*	そう思わない*	差
①今回調査(令和7年度)	42.0	9.6	32.4
②市民意識調査(令和6年度)	40.6	11.5	29.1
③市民意識調査(令和5年度)	43.4	9.7	33.7
④市民意識調査(令和4年度)	47.1	7.8	39.3
⑤市民意識調査(令和3年度)	51.2	7.8	43.4
①-⑤	-9.2	1.8	-11.0

* そう思う:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

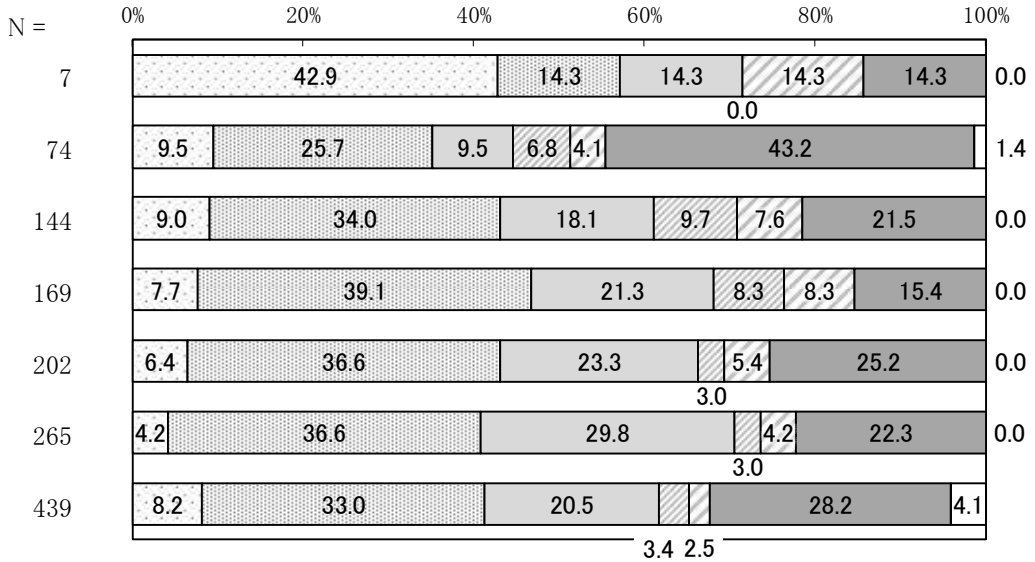
* そう思わない:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計



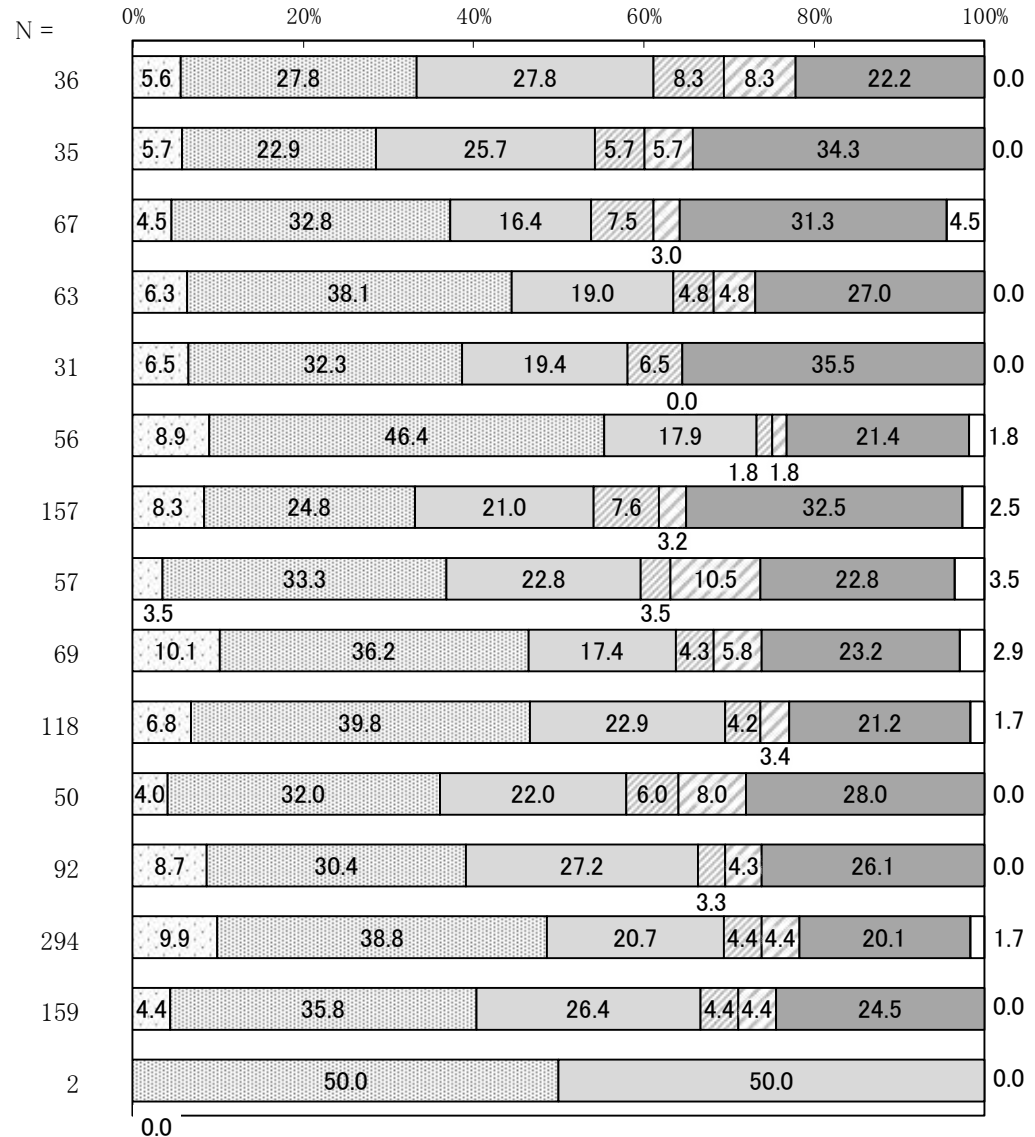
【性別】



【年代別】



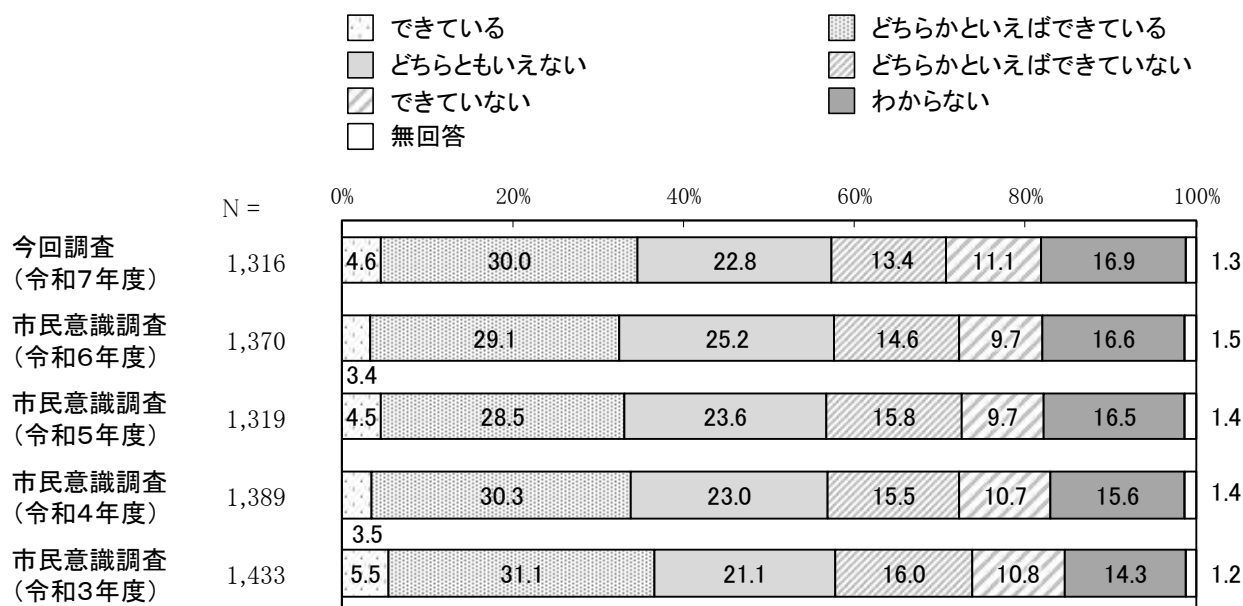
【居住地区別】



問 35 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

3割が通学路の安全は確保できている

- ・ 通学路の安全確保については、「できている」と「どちらかといえばできている」を合わせると34.6%となり、3割の人ができていると考えています。「どちらかといえばできていない」と「できていない」を合わせると24.5%であり、通学路の安全確保はできていると考えている人のほうが多くなっています。
- ・ 性別では、男性で通学路の安全確保ができている（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）と考えている人、できていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）と考えている人のいずれも女性より多く見られます。
- ・ 年代別では、30歳代で通学路の安全確保ができていない（前述）と考えている人が、できている（前述）と考えている人より多くなっています。一方、70歳以上で、通学路の安全確保ができている（前述）と考えている人が4割と多くなっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、能登川地区、南部地区で4割と、できている（前述）と考えている人が多い一方で、湖東地区、平田地区では、できていない（前述）と考えている人ができている（前述）と考える人より多くなっています。

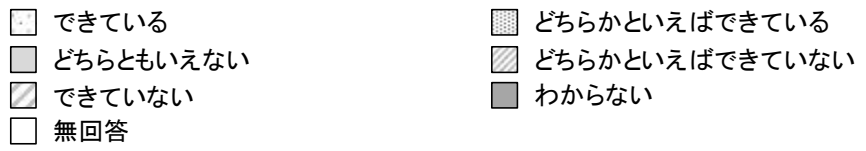


単位：%

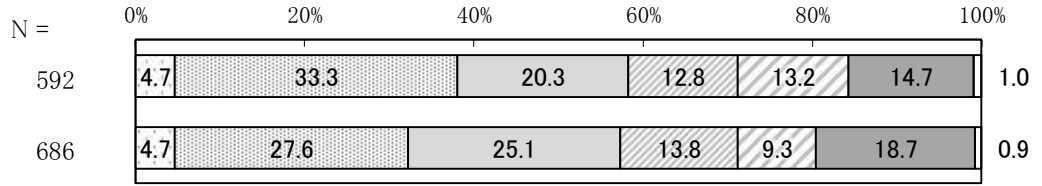
	できている*	できていない*	差
①今回調査(令和7年度)	34.6	24.5	10.1
②市民意識調査(令和6年度)	32.5	24.3	8.2
③市民意識調査(令和5年度)	33.0	25.5	7.5
④市民意識調査(令和4年度)	33.8	26.2	7.6
⑤市民意識調査(令和3年度)	36.6	26.8	9.8
①-⑤	-2.0	-2.3	0.3

* できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計

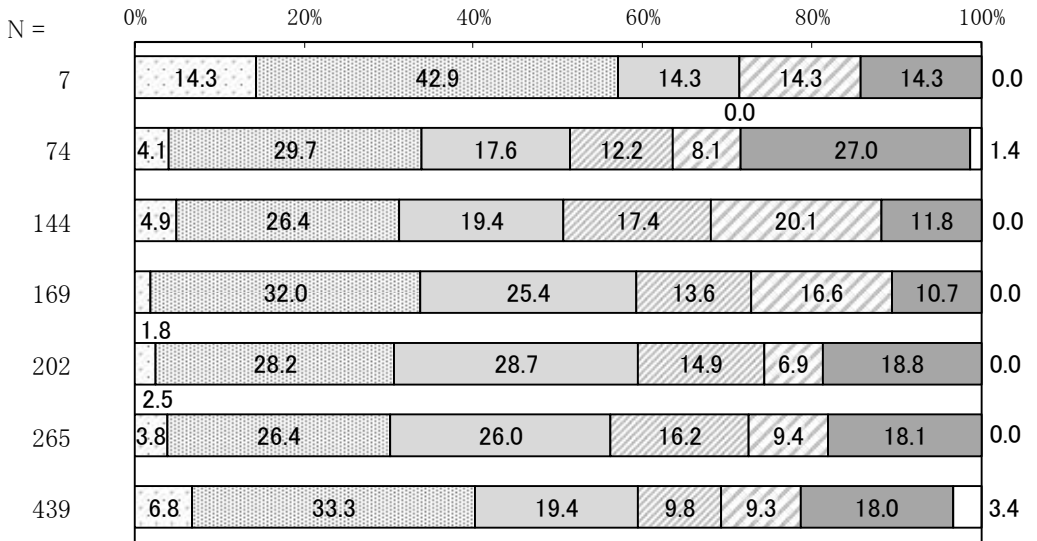
* できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計



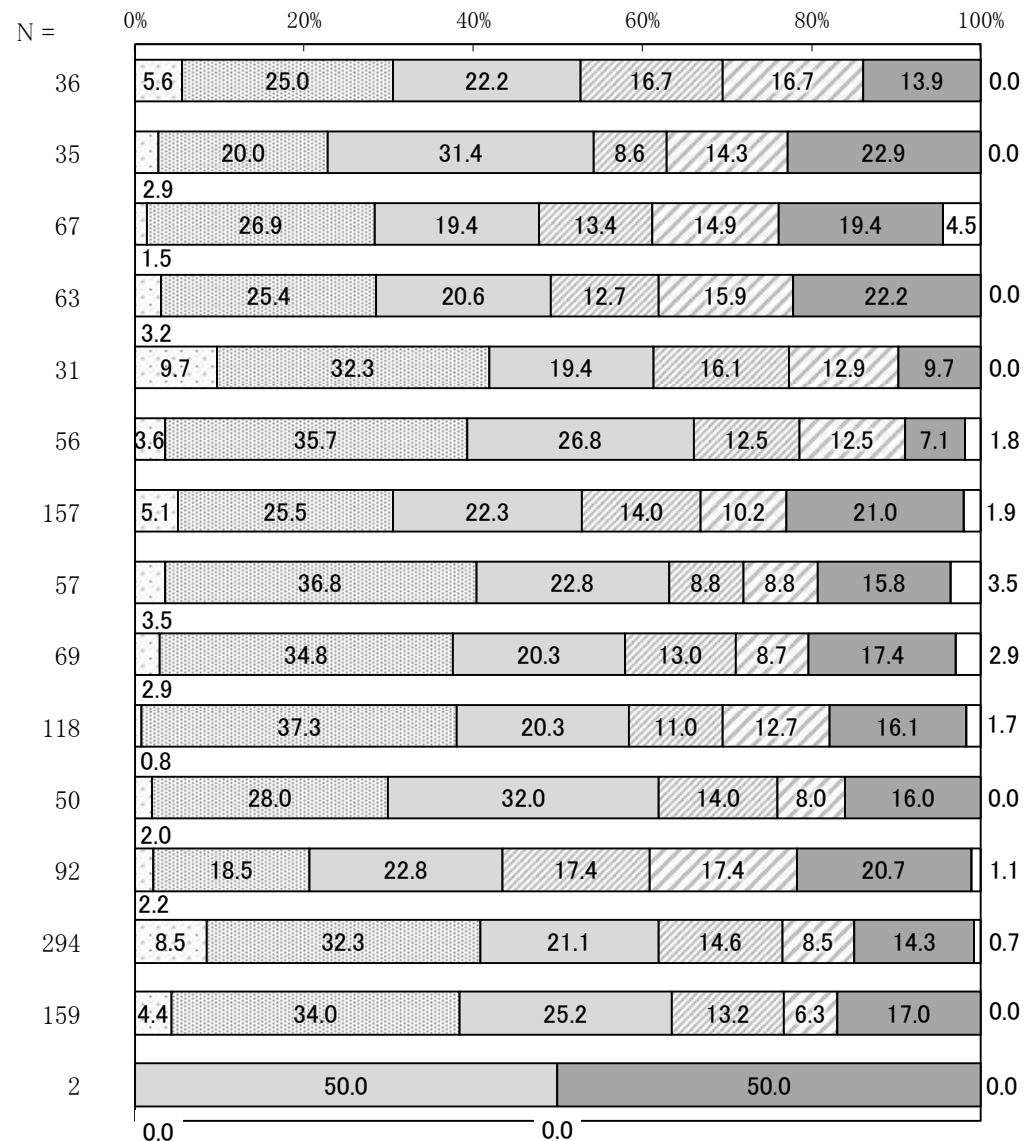
【性別】



【年代別】



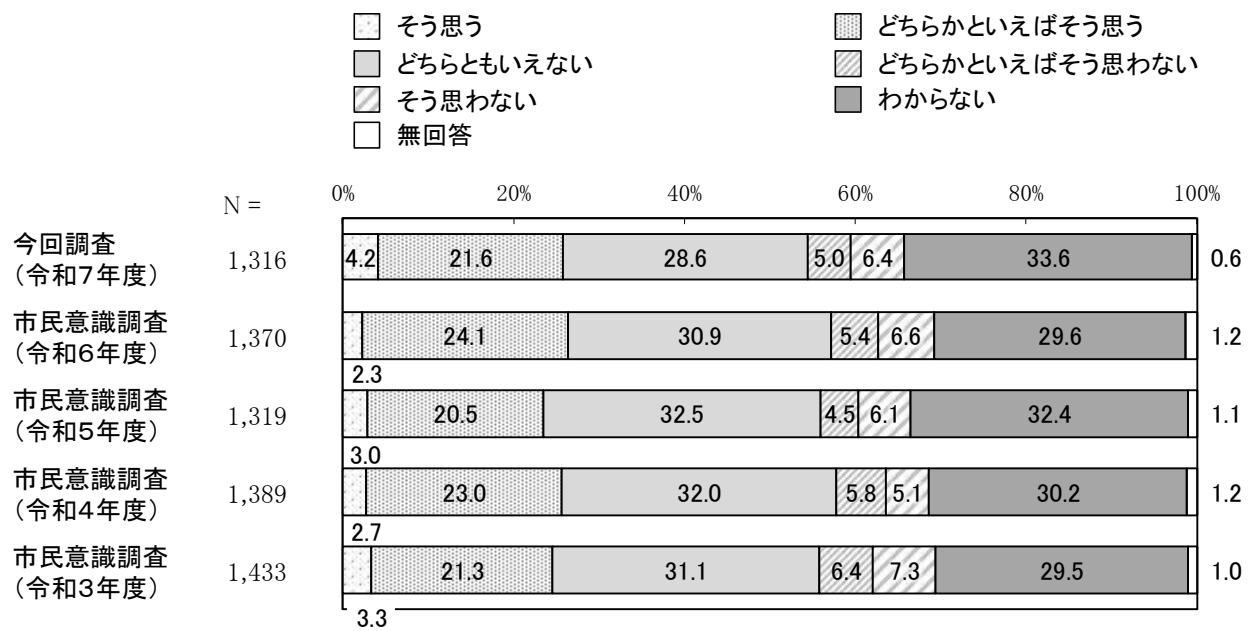
【居住地区別】



問 36 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

3割近くが「人権が尊重されるまちになっている」、6割が「わからない」又は「どちらともいえない」

- ・ 東近江市は人権が尊重されるまちになっていると思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）人の割合は25.8%で、そう思わない（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）人の割合の11.4%より高くなっています。一方、人権が尊重されるまちになっているかについて、「わからない」と回答した人は33.6%と最も多く、「どちらともいえない」と回答した人も28.6%見られ、これらを合計すると62.2%になります。
- ・ 性別では男性で3割、年代別では70歳以上で、居住地区別では中野地区、愛東地区でいずれも4割近くが、人権が尊重されるまちになっていると思う（前述）と回答しています。一方、年代別では30～40歳代で2割近く、居住地区別では市辺地区でそう思わない（前述）人の割合が2割と、やや高くなっています。

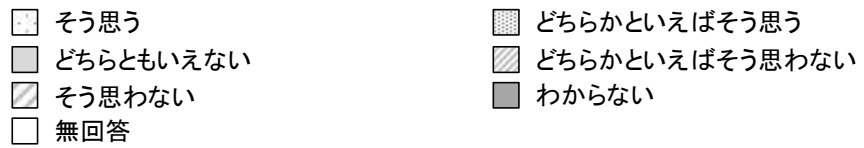


単位：%

	そう思う*	そう思わない*	差
①今回調査(令和7年度)	25.8	11.4	14.4
②市民意識調査(令和6年度)	26.4	12.0	14.4
③市民意識調査(令和5年度)	23.5	10.6	12.9
④市民意識調査(令和4年度)	25.7	10.9	14.8
⑤市民意識調査(令和3年度)	24.6	13.7	10.9
①-⑤	1.2	-2.3	3.5

* そう思う:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

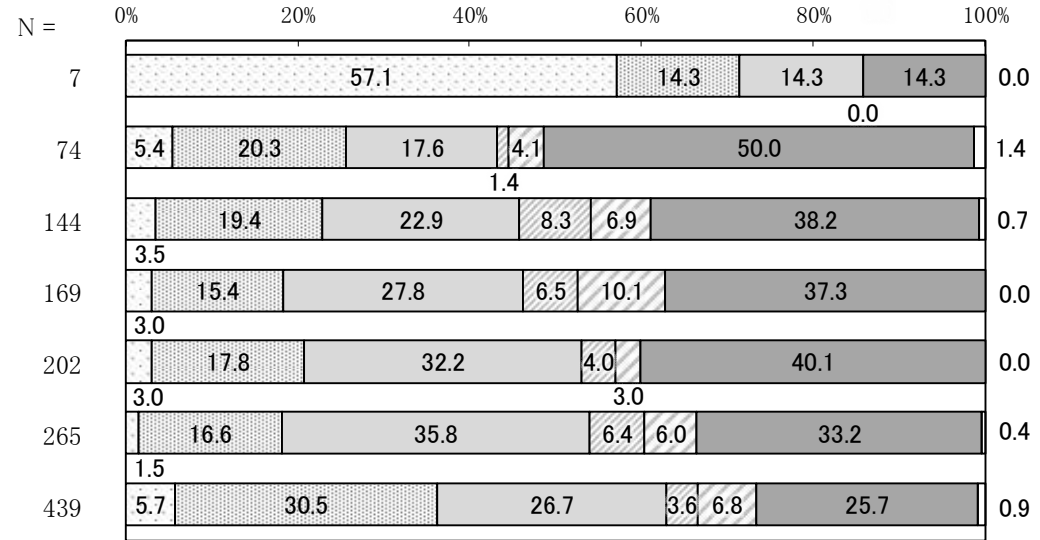
* そう思わない:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計



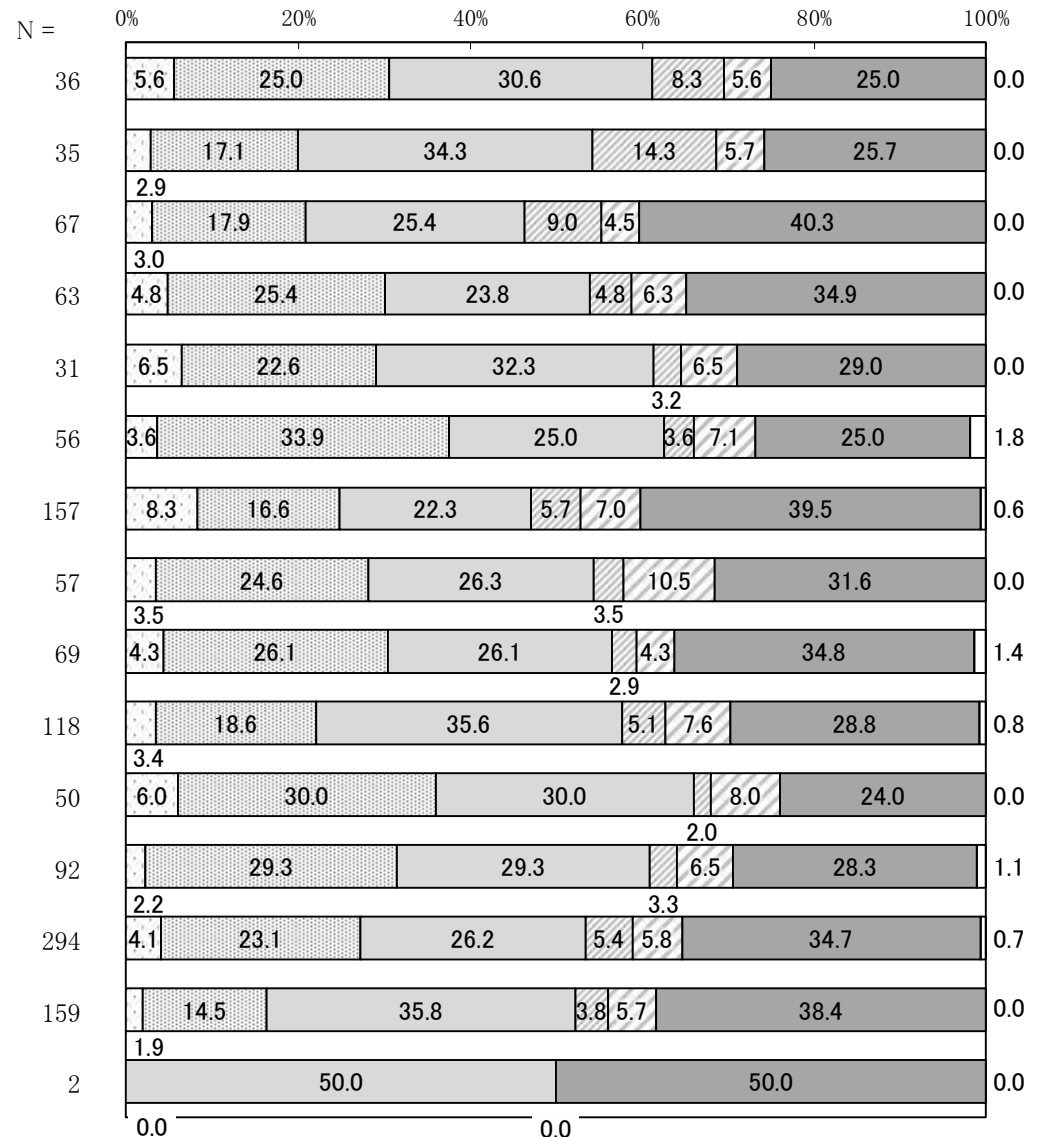
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

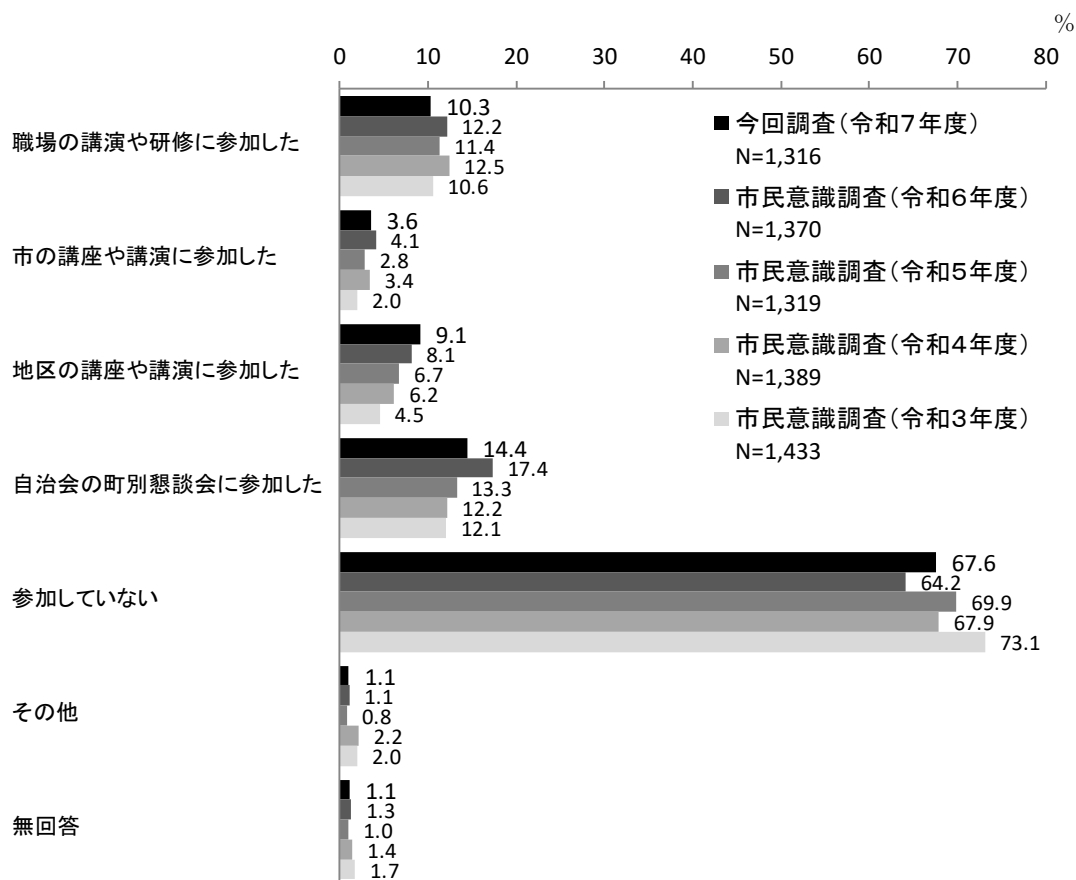


問 37 あなたは、この1年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

講座や講演、研修等に参加した人は3割以上

- この1年間に人権に関する講座や講演、研修等に参加したかどうかについては、参加した人の割合*は31.3%、「参加していない」が67.6%、無回答が1.1%となっています。参加した講座等の内容は、「自治会の町別懇談会」が14.4%と最も多く、次いで「職場の講演や研修」が10.3%と続きます。
- 過去の調査と比較すると、「参加していない」と回答した人の割合は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため講座等の開催が見送られた令和3年度をピークに、変動はあるもののこの5年間で減少しています。
- 性別、年代別、居住地区別のいずれも、「参加していない」が最も多くなっています。
- 性別では、男性で人権に関する講座等に参加した人の割合が高く、「自治会の町別懇談会」などへの参加が女性より多くあげられています。
- 年代別では、30歳以上で年齢が上がるほど、人権に関する講座等に参加した人の割合が高くなる傾向があり、特に「自治会の町別懇談会」や「地区の講座や講演」などへの参加割合が高くなる傾向があります。また、20歳代や40歳代で「職場の講演や研修」への参加がほかの年代と比べ多くあげられています。

*有効回答数(1,316件)に対する「参加していない」と「無回答」を除いた412件の割合



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	職場の講演や研修に参加した	市の講座や講演に参加した	地区の講座や講演に参加した	自治会の町別懇談会に参加した	参加していない	その他	無回答
男性	592	10.5	2.9	10.8	18.2	64.4	1.0	0.3
女性	686	10.3	4.2	7.6	11.4	70.7	1.0	1.3

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	職場の講演や研修に参加した	市の講座や講演に参加した	地区の講座や講演に参加した	自治会の町別懇談会に参加した	参加していない	その他	無回答
10歳代	7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
20歳代	74	20.3	1.4	1.4	0.0	77.0	0.0	1.4
30歳代	144	11.8	1.4	2.8	4.2	79.9	1.4	1.4
40歳代	169	16.0	3.0	4.7	7.1	73.4	0.6	0.0
50歳代	202	13.9	2.5	7.9	5.9	72.8	0.0	0.5
60歳代	265	14.3	4.5	9.8	17.0	61.5	0.8	0.4
70歳以上	439	2.1	5.0	14.1	25.7	60.8	2.1	2.1

【居住地区別】

※「わからない」は、有効回答数が2件のため最大値を網掛けしていない。 単位:%

区分	有効回答数(件)	職場の講演や研修に参加した	市の講座や講演に参加した	地区の講座や講演に参加した	自治会の町別懇談会に参加した	参加していない	その他	無回答
平田地区	36	5.6	5.6	22.2	33.3	38.9	2.8	0.0
市辺地区	35	5.7	5.7	5.7	14.3	77.1	0.0	0.0
玉緒地区	67	4.5	4.5	4.5	14.9	70.1	0.0	1.5
御園地区	63	7.9	3.2	9.5	17.5	66.7	0.0	0.0
建部地区	31	12.9	6.5	3.2	16.1	64.5	3.2	3.2
中野地区	56	10.7	1.8	14.3	17.9	60.7	1.8	1.8
八日市地区	157	13.4	3.8	7.0	5.7	75.2	0.6	0.0
南部地区	57	10.5	0.0	5.3	5.3	80.7	0.0	0.0
永源寺地区	69	8.7	0.0	10.1	11.6	72.5	0.0	2.9
五個荘地区	118	12.7	3.4	5.1	11.9	69.5	0.8	1.7
愛東地区	50	12.0	2.0	16.0	28.0	56.0	2.0	0.0
湖東地区	92	9.8	2.2	13.0	25.0	58.7	2.2	2.2
能登川地区	294	10.2	5.1	10.2	15.3	66.3	1.4	1.0
蒲生地区	159	10.7	3.1	8.8	10.7	69.2	1.3	1.3
わからない	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

(6) 都市整備について

問 38 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

総合評価は、主要幹線道路、河川、雨水排水、地域の生活道路、公園の順

- ・ 都市基盤の整備に対する満足度については、満足（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）の割合と、不満（「どちらかといえば不満」と「不満」の合計）の割合を比較すると、⑤公園の整備を除き、満足の割合が高くなっています。
- ・ 満足（前述）とする人が多い順に並べると、①主要幹線道路の整備、②地域の生活道路の整備、④雨水排水の整備、⑤公園の整備、③河川の整備となっています。一方、不満（前述）とする人が多い項目は、②地域の生活道路の整備、①主要幹線道路の整備及び⑤公園の整備となっています。
- ・ 満足と不満の両方から見た総合的な評価（加重平均）は、②地域の生活道路の整備、⑤公園の整備を除いてプラス評価となっています。その中でも評価が高い順に並べると、①主要幹線道路の整備、③河川の整備、④雨水排水の整備の順となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、総合評価では、①主要幹線道路の整備、②地域の生活道路の整備の評価が上がった一方、③河川の整備、④雨水排水の整備、⑤公園の整備で評価が下がっています。

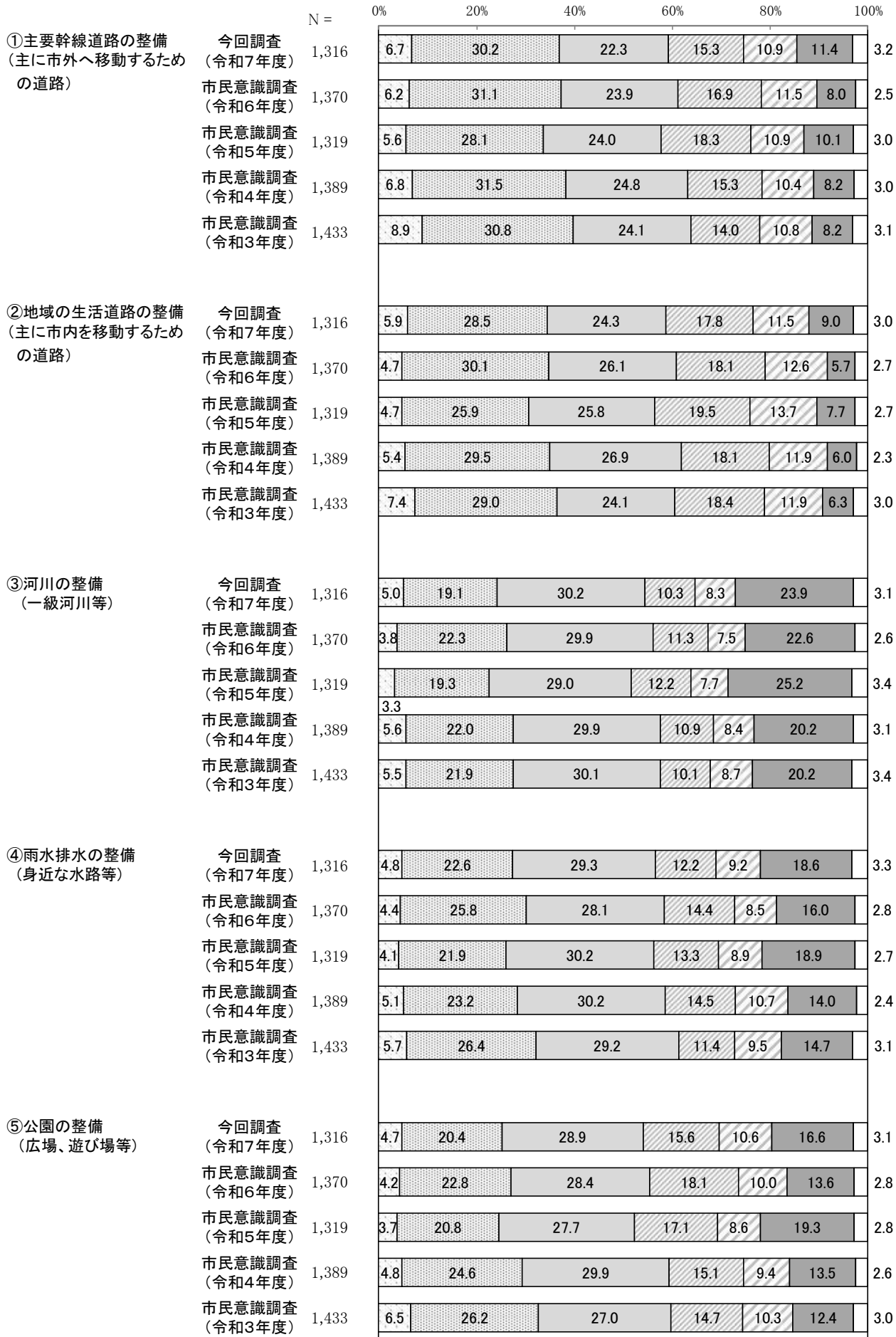
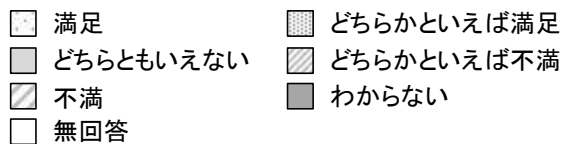
	満足*	不満*	加重平均*
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	36.9% (-0.4)	26.2% (-2.2)	0.064 (+0.028)
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	34.4% (-0.4)	29.3% (-1.4)	-0.005 (+0.034)
③河川の整備(一級河川等)	24.1% (-2.0)	18.6% (-0.2)	0.023 (-0.013)
④雨水排水の整備(身近な水路等)	27.4% (-2.8)	21.4% (-1.5)	0.015 (-0.016)
⑤公園の整備(広場、遊び場等)	25.1% (-1.9)	26.2% (-1.9)	-0.070 (-0.001)

* 満足:「満足」と「どちらかといえば満足」の合計

* 不満:「どちらかといえば不満」と「不満」の合計

* 加重平均:「満足」は+2点、「どちらかといえば満足」は+1点、「どちらかといえば不満」は-1点、「不満」は-2点、「どちらともいえない」と「わからない」は0点として加算し、その平均値を出したもの。値が大きいほど満足度が高く、値が小さいほど満足度が低いといえる。小数点以下第4位で四捨五入した値を表示。

※()内の数値は令和6年度との差を示している。



① 主要幹線道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度（加重平均による総合評価、以下同様）が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、40歳代までと70歳以上はプラス評価である一方、50～60歳代でマイナス評価となっています。
- ・ 居住地区別では、満足度が最も高い永源寺地区をはじめ蒲生地区、愛東地区、能登川地区などでプラス評価である一方、平田地区、市辺地区、御園地区、中野地区、南部地区などではマイナス評価となっています。

② 地域の生活道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、40歳代までと70歳以上はプラス評価である一方、50～60歳代はマイナス評価となっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、建部地区、永源寺地区などで満足度が高く、マイナス評価の地区の中でも特に平田地区、市辺地区、中野地区などで満足度が低くなっています。

③ 河川の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、50歳代まではプラス評価ですが、60歳以上はマイナス評価となっています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区、中野地区、愛東地区などで満足度が高く、マイナス評価の地区の中でも特に平田地区、市辺地区などで満足度が低くなっています。

④ 雨水排水の整備

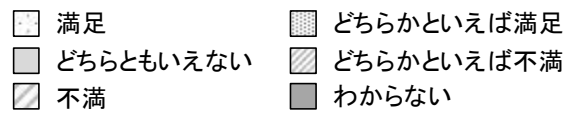
- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、40歳代までがプラス評価である一方、50歳以上ではマイナス評価となっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、湖東地区、永源寺地区などで満足度が高く、平田地区、中野地区、市辺地区などで満足度が低くなっています。

⑤ 公園の整備

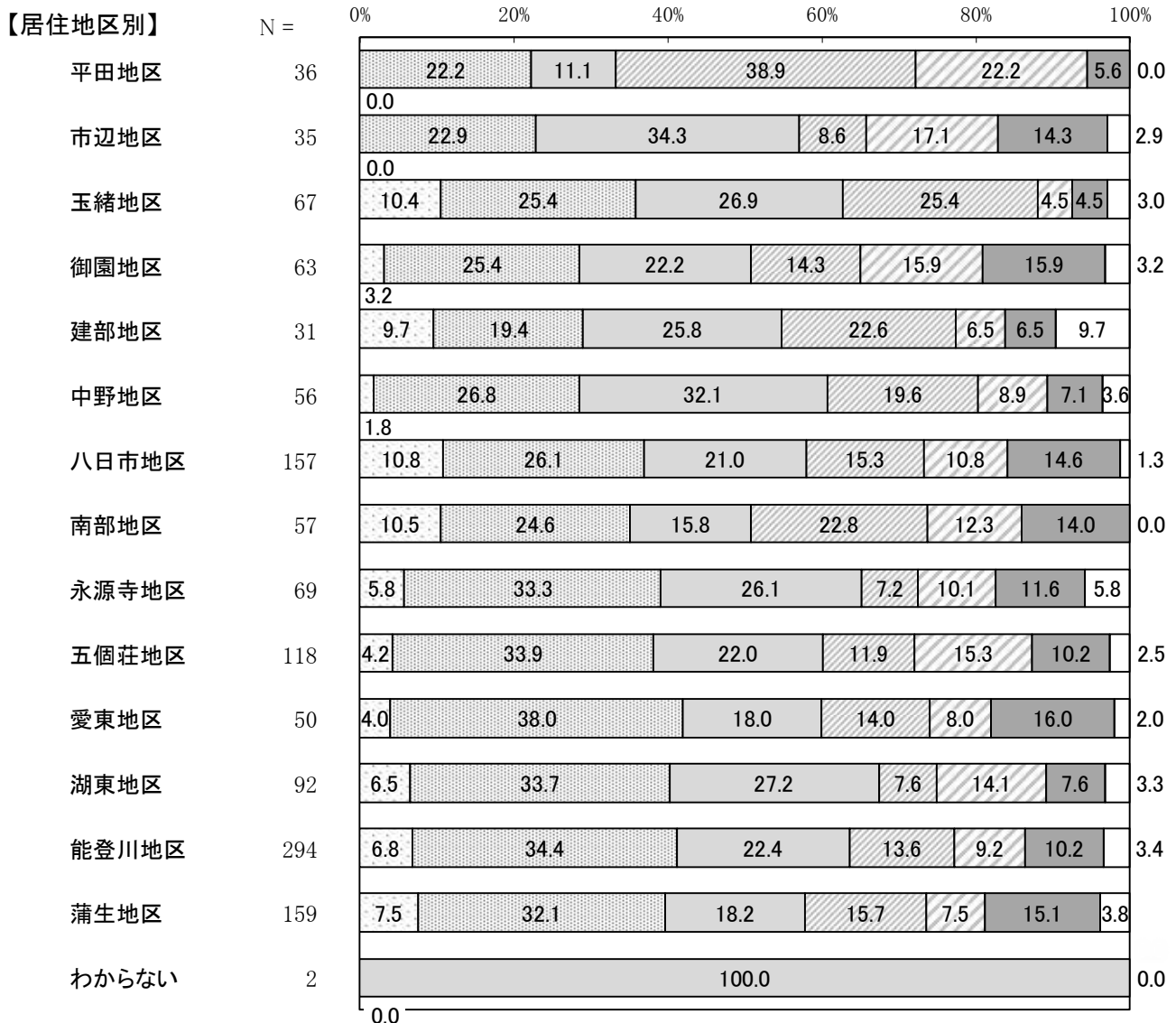
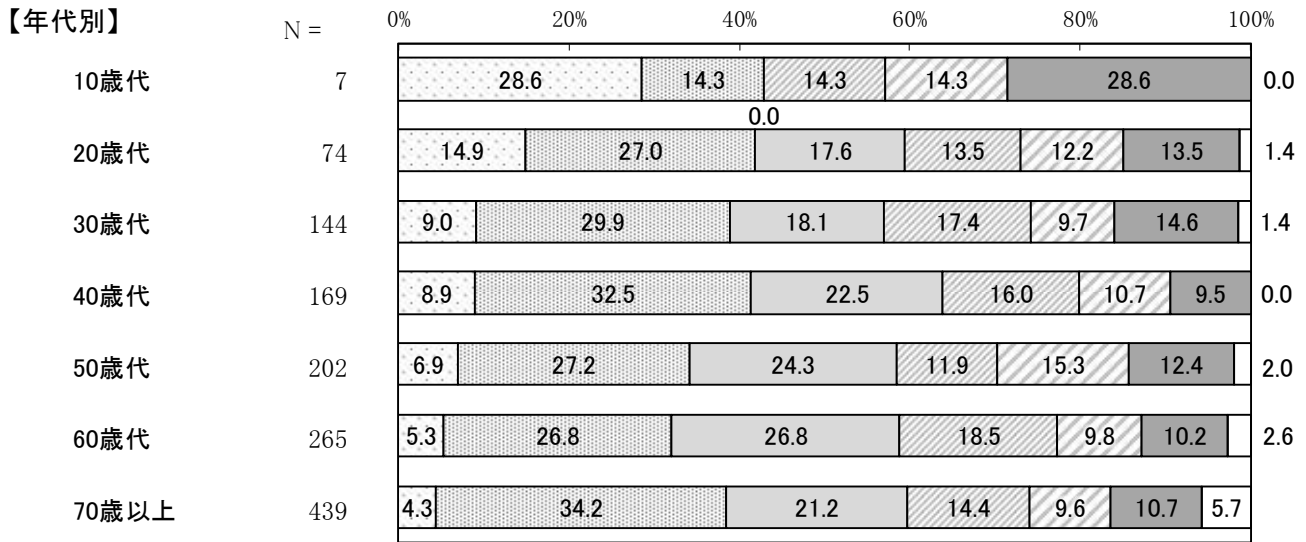
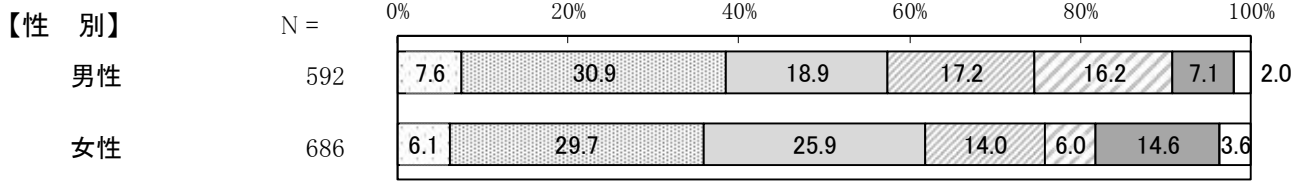
- ・ 性別では、男女ともにマイナス評価ですが、男性より女性の評価が高くなっています。
- ・ 年代別では、20歳代と40歳代はプラス評価である一方、ほかの年代はマイナス評価となっています。
- ・ 居住地区別では、五個荘地区、愛東地区などで満足度が高く、マイナス評価の地区の中でも特に平田地区、永源寺地区、市辺地区などで満足度が低くなっています。

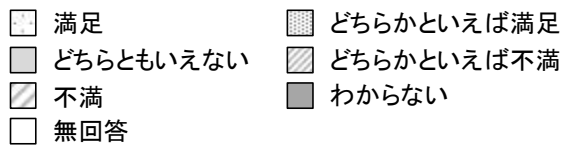
■性別・年代別・居住地区別の比較(加重平均)

	①主要幹線道路	②地域の生活道路	③河川	④雨水排水	⑤公園
全体	0.064	-0.005	0.023	0.015	-0.070
男性	-0.035	-0.095	-0.025	-0.017	-0.115
女性	0.160	0.080	0.067	0.035	-0.031
10歳代	0.286	0.571	0.714	0.714	-0.286
20歳代	0.189	0.122	0.243	0.365	0.068
30歳代	0.111	0.056	0.188	0.083	-0.174
40歳代	0.130	0.030	0.148	0.059	0.053
50歳代	-0.015	-0.109	0.045	-0.079	-0.089
60歳代	-0.008	-0.068	-0.075	-0.038	-0.136
70歳以上	0.093	0.023	-0.075	-0.027	-0.057
平田地区	-0.611	-0.528	-0.333	-0.472	-0.611
市辺地区	-0.200	-0.371	-0.143	-0.200	-0.257
玉緒地区	0.119	0.090	0.030	-0.015	-0.149
御園地区	-0.143	-0.111	-0.111	0.079	-0.063
建部地区	0.032	0.161	0.032	-0.032	0.032
中野地区	-0.071	-0.196	0.143	-0.268	-0.179
八日市地区	0.108	-0.045	0.083	0.051	-0.102
南部地区	-0.018	0.000	0.070	-0.105	-0.158
永源寺地区	0.174	0.130	0.145	0.116	-0.348
五個荘地区	0.000	0.085	0.068	0.042	0.288
愛東地区	0.160	0.180	0.140	0.400	0.180
湖東地区	0.109	-0.022	0.076	0.152	0.043
能登川地区	0.160	0.003	0.014	-0.007	-0.071
蒲生地区	0.164	0.094	-0.063	0.000	-0.126

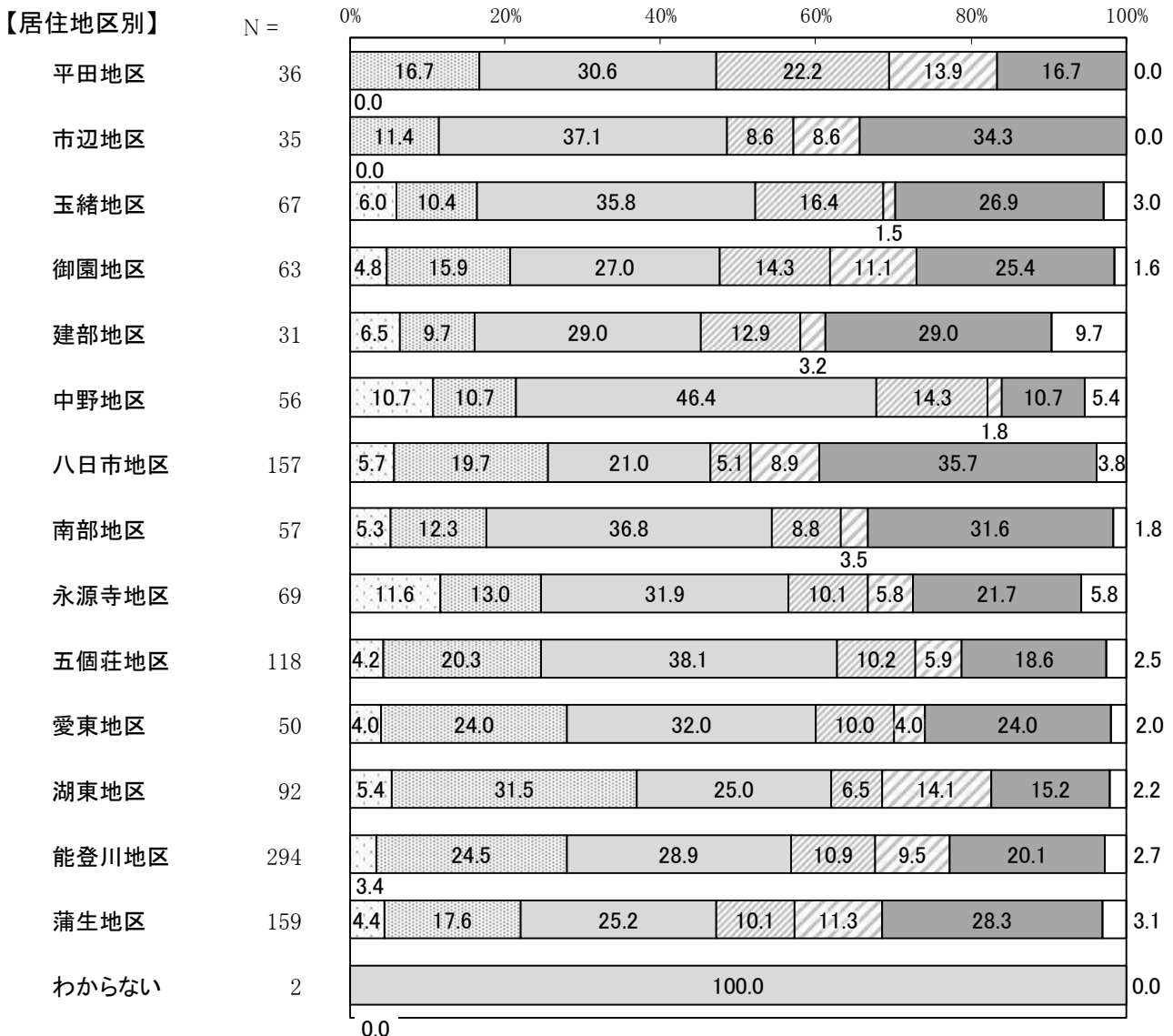
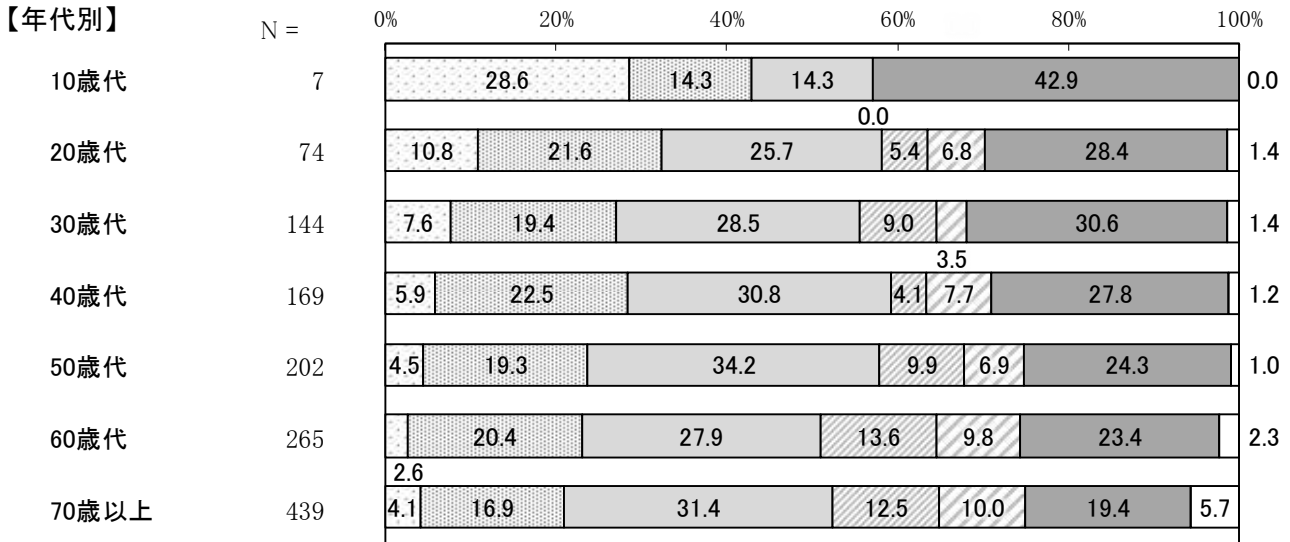
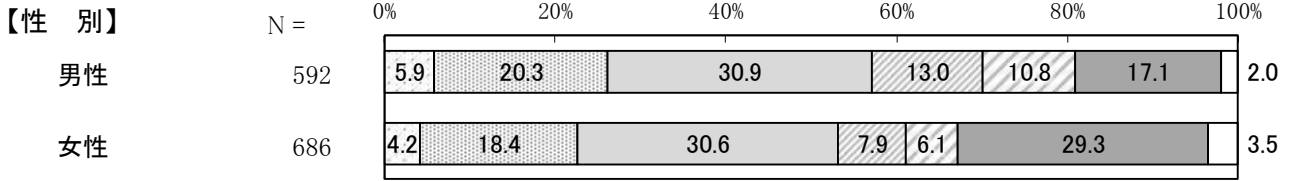


① 主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)





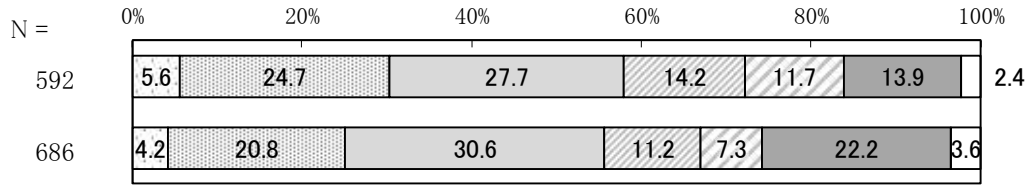
③ 河川の整備(一級河川等)



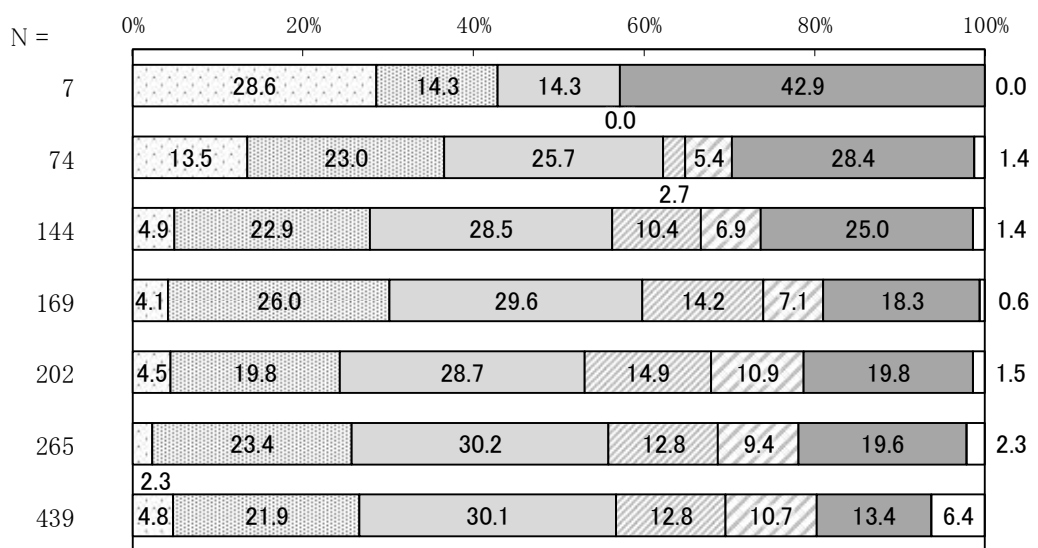
- 満足
- どちらともいえない
- 不満
- 無回答
- どちらかといえば満足
- どちらかといえば不満
- わからない

④ 雨水排水の整備(身近な水路等)

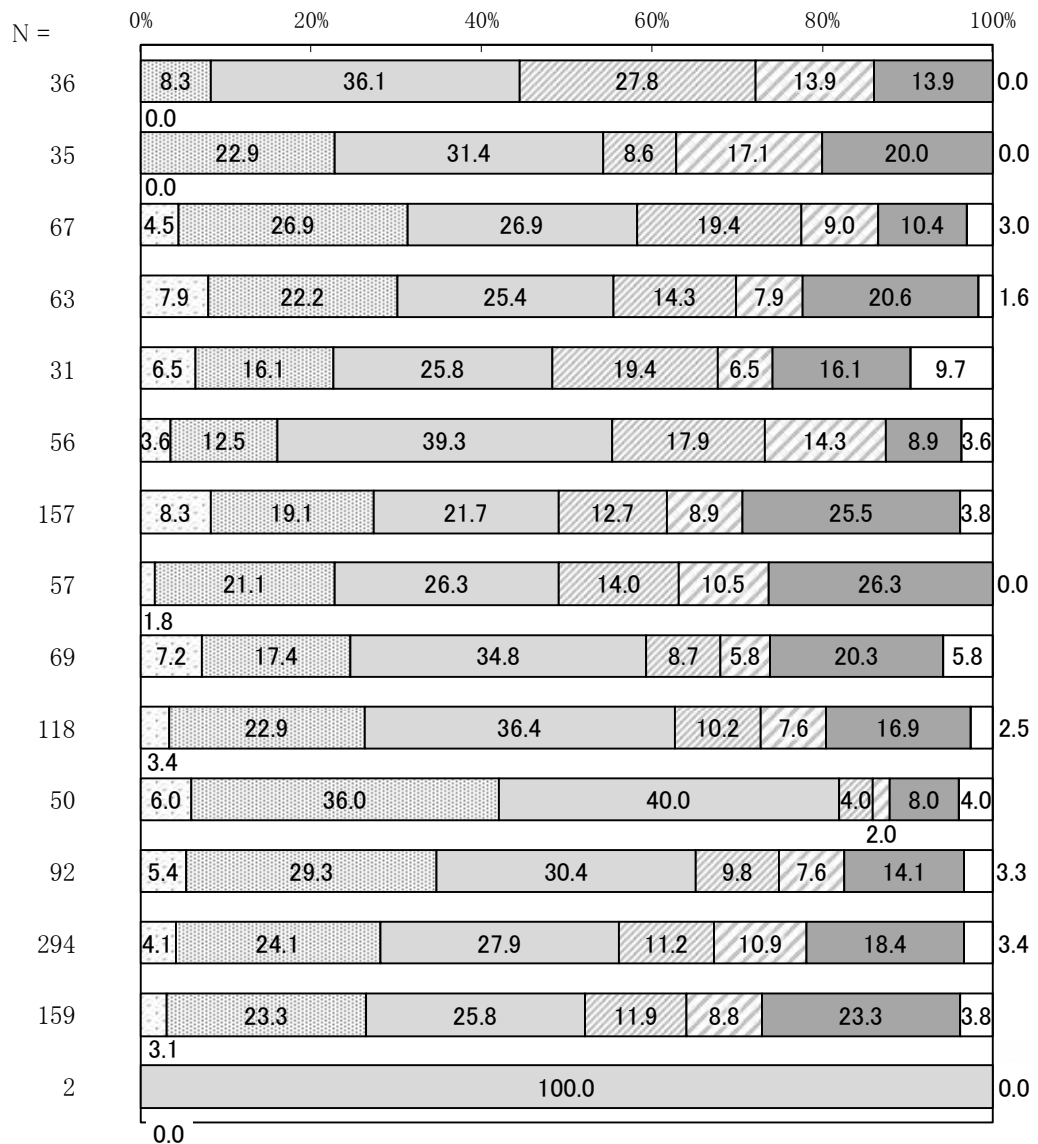
【性別】

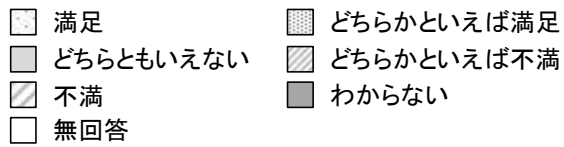


【年代別】

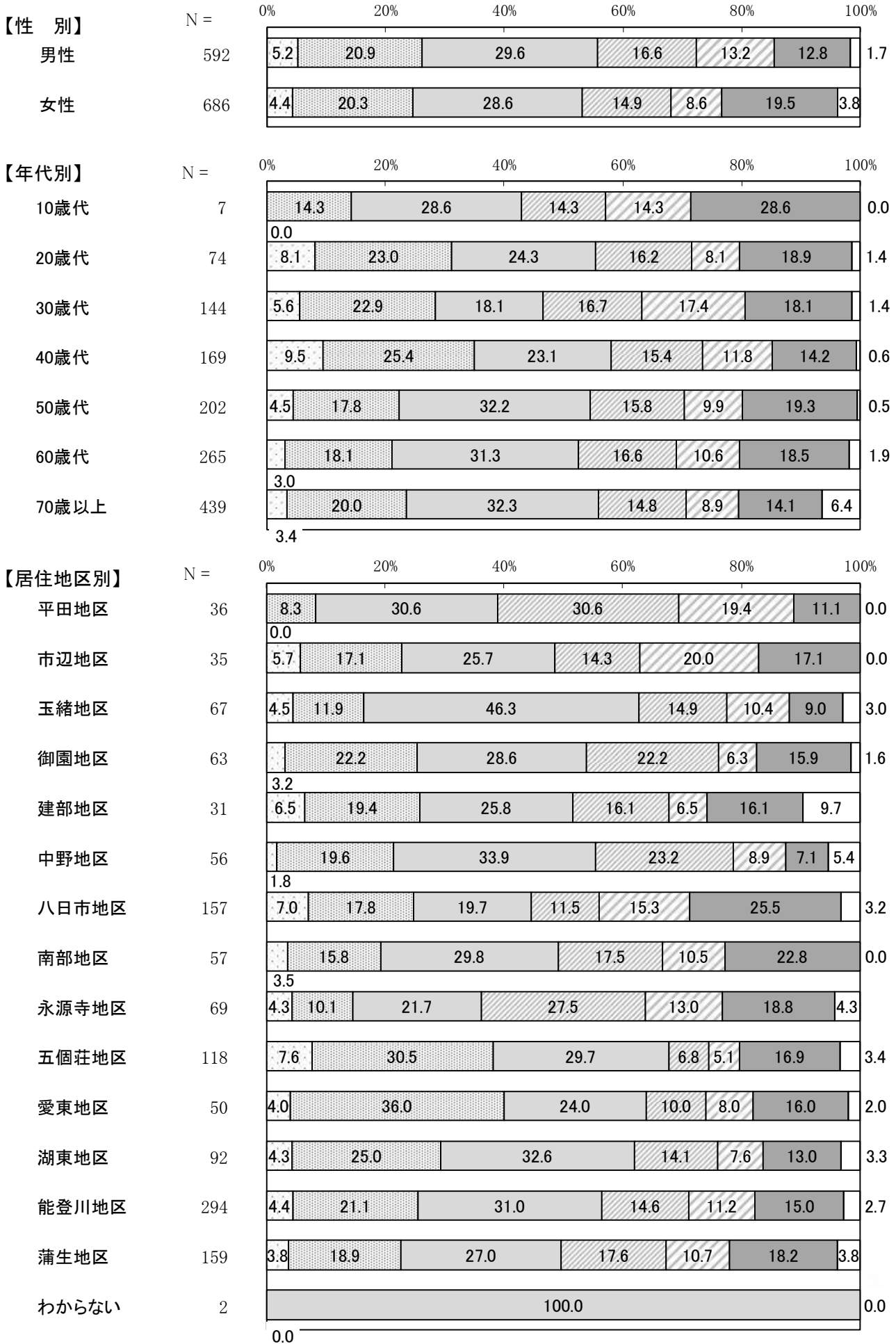


【居住地区別】





⑤ 公園の整備(広場、遊び場等)



(7) 購買状況等について

問 39 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入しますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

食品は8割以上、日用雑貨品は8割近くが市内で購入、衣料品は4割近くが市外で購入

- ・ 食品、日用雑貨品、衣料品の購入先は、主に「東近江市内」で購入している人が①食品は83.8%で8割以上、②日用雑貨品は76.1%で8割近くとなっています。
- ・ 一方、③衣料品については、4割近くが市外（カタログ通販やネットショッピング、その他を除く）で購入しており、その内訳としては「その他県内市町村」が16.2%、「近江八幡市」が8.0%、「彦根市」が6.7%などとなっています。また、「ネットショッピング」と回答した人は11.5%と1割見られます。
- ・ 過去の調査と比較すると、すべての品目の購入先で「市内」と回答した人の割合が増加しています。一方、特に「近江八幡市」で③衣料品を購入している人の割合が減少し、5年間で半分となっています。

単位：%

		全 体	市 内	近江八幡市	彦根市	甲賀市	その他 県内市町	県外	カタログ 通販	ネット ショッピング	その他	無回答
①食品	今回調査 (令和7年度)	1,316	83.8	4.0	1.8	1.4	4.0	0.5	0.6	0.4	1.2	2.4
	市民意識調査 (令和6年度)	1,370	79.1	4.5	2.6	2.6	5.0	0.2	0.7	0.3	1.7	3.5
	市民意識調査 (令和5年度)	1,319	80.1	5.2	2.2	2.3	5.0	0.3	0.6	0.3	1.4	2.6
	市民意識調査 (令和4年度)	1,389	81.7	4.0	2.5	2.4	4.8	0.2	0.4	0.4	0.9	2.6
	市民意識調査 (令和3年度)	1,433	81.5	4.2	2.4	2.5	5.2	0.0	0.3	0.4	1.1	2.4

②日用雑貨品	今回調査 (令和7年度)	1,316	76.1	5.4	2.7	1.4	5.6	0.5	0.7	4.0	1.0	2.6
	市民意識調査 (令和6年度)	1,370	69.7	5.4	5.1	2.7	7.0	0.8	0.1	4.5	0.9	3.7
	市民意識調査 (令和5年度)	1,319	72.1	7.3	2.2	2.5	6.7	0.5	0.5	4.4	0.9	3.0
	市民意識調査 (令和4年度)	1,389	71.6	7.3	2.9	2.8	6.0	0.8	0.6	4.2	0.6	3.1
	市民意識調査 (令和3年度)	1,433	73.6	6.3	3.3	2.7	6.6	0.3	0.2	3.7	0.8	2.6

③衣料品	今回調査 (令和7年度)	1,316	44.5	8.0	6.7	1.7	16.2	4.3	2.0	11.5	1.2	4.1
	市民意識調査 (令和6年度)	1,370	33.6	10.7	7.9	2.4	17.5	5.3	2.2	14.2	2.1	4.0
	市民意識調査 (令和5年度)	1,319	37.8	13.9	5.7	2.1	15.5	5.5	2.1	11.8	1.0	4.4
	市民意識調査 (令和4年度)	1,389	37.1	15.5	5.8	1.9	14.5	4.1	2.9	11.7	1.5	5.0
	市民意識調査 (令和3年度)	1,433	38.0	16.6	5.2	2.8	14.8	4.4	2.7	9.4	1.4	4.7

① 食品

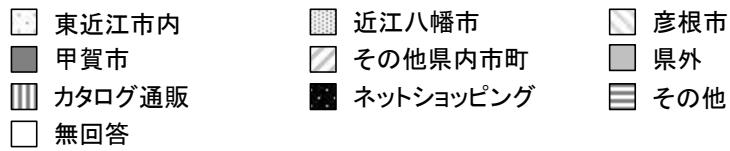
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも「市内」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、市内で購入している人の割合が、20歳代や70歳以上で9割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、市内で購入している人の割合が、玉緒地区で100%近く、八日市地区、南部地区、中野地区、市辺地区、御園地区、建部地区で9割以上となっています。そのほか、平田地区で「近江八幡市」が4割、また蒲生地区で「甲賀市」、蒲生地区、永源寺地区、湖東地区で「その他県内市町」がそれぞれ1割近くと、ほかの地区より多くあげられています。

② 日用雑貨品

- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも「市内」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、市内で購入している人の割合が、30歳代、60歳以上は8割前後と高くなっています。
- ・ 居住地区別では、市内で購入している人の割合が、建部地区で100%近く、玉緒地区、市辺地区で9割以上と高くなっています。そのほか、平田地区で「近江八幡市」が4割近く、蒲生地区で「その他県内市町」や「甲賀市」が1割以上とほかの地区より多くあげられています。

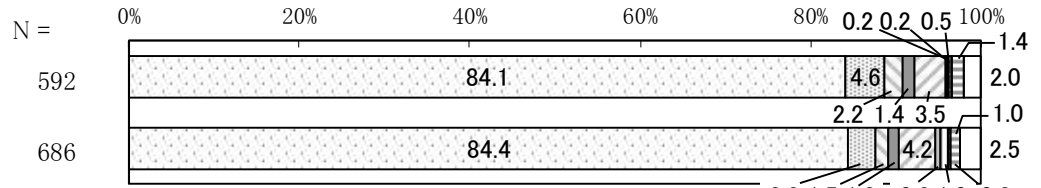
③ 衣料品

- ・ 年代別では、30～40歳代で「ネットショッピング」が、そのほかの年代で「市内」が最も多くなっています。40歳以上で年齢が上がるほど市内の割合が高くなる傾向があり、70歳以上は6割以上となっています。
- ・ 居住地区別では、いずれも「市内」が最も多くなっていますが、玉緒地区、市辺地区で6割以上と高くなっています。そのほか、平田地区で「近江八幡市」が3割、能登川地区で「彦根市」が2割近く、蒲生地区で「その他県内市町」が3割近く、「甲賀市」が1割近く、八日市地区で「ネットショッピング」が2割近くとほかの地区より多くあげられています。

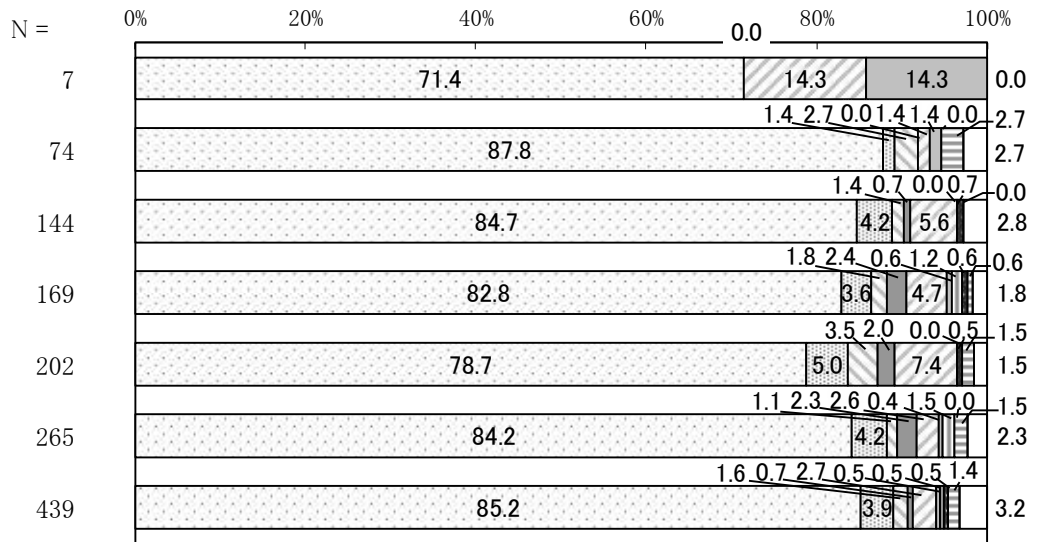


① 食品

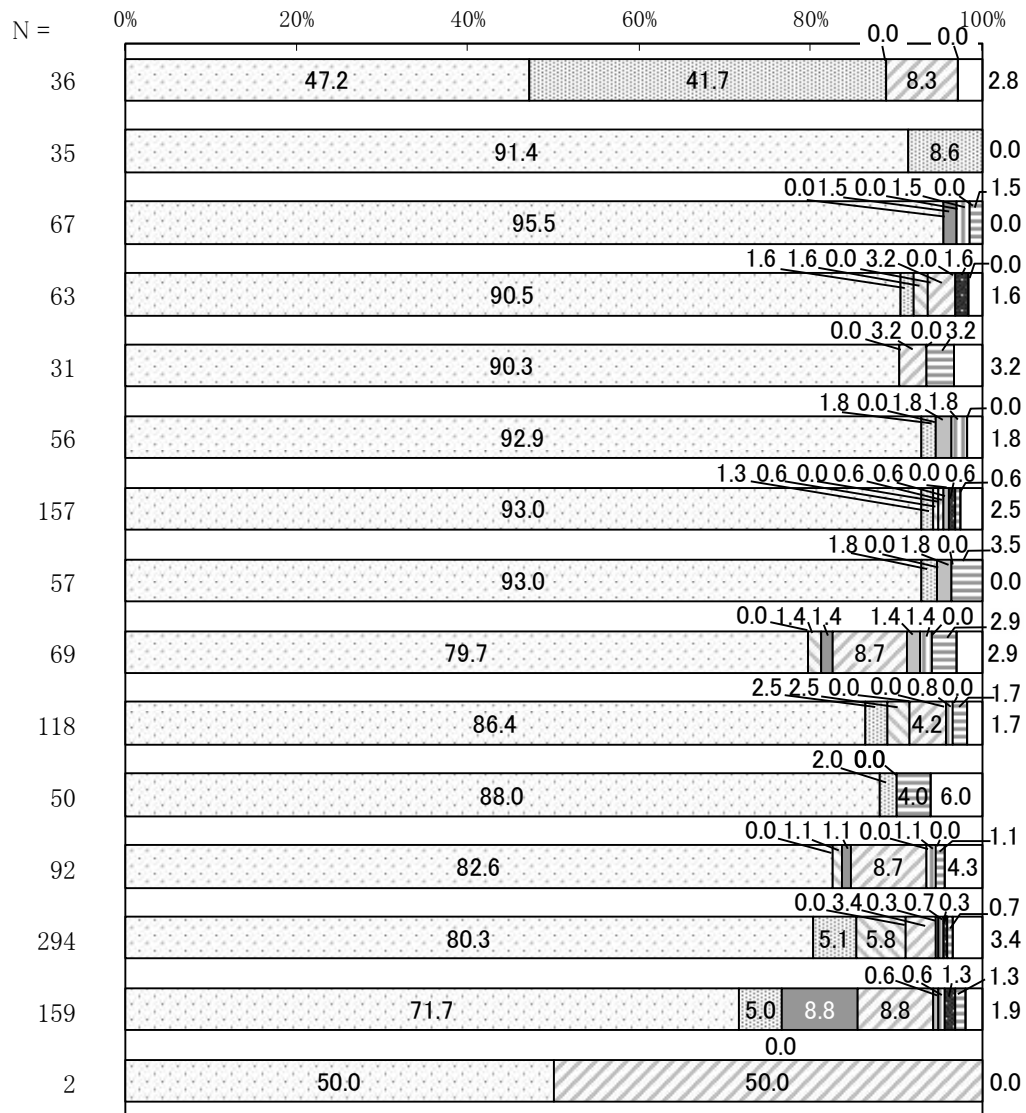
【性別】

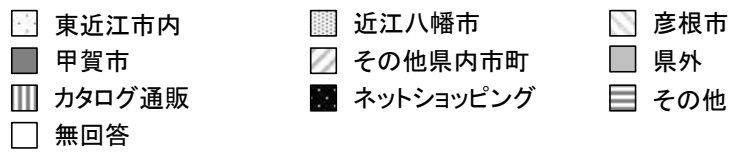


【年代別】



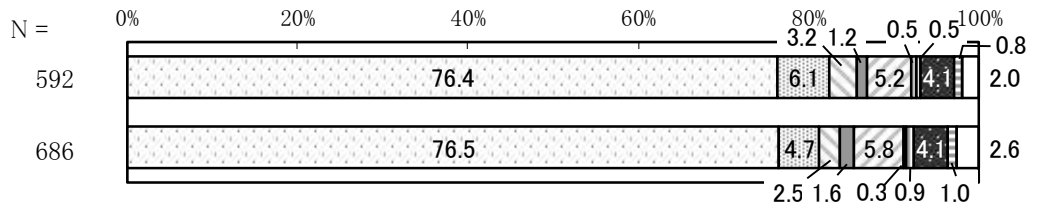
【居住地区別】



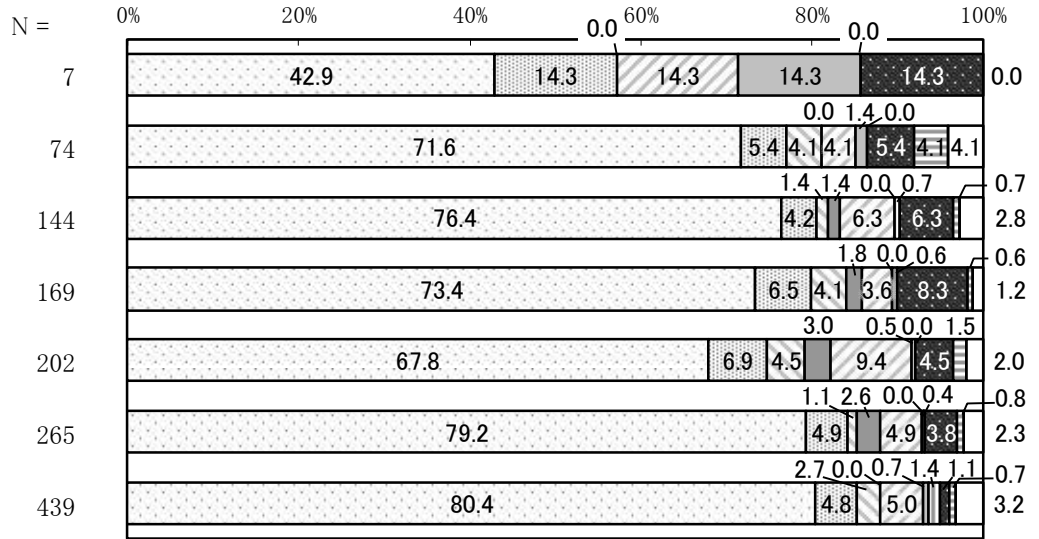


② 日用雑貨品

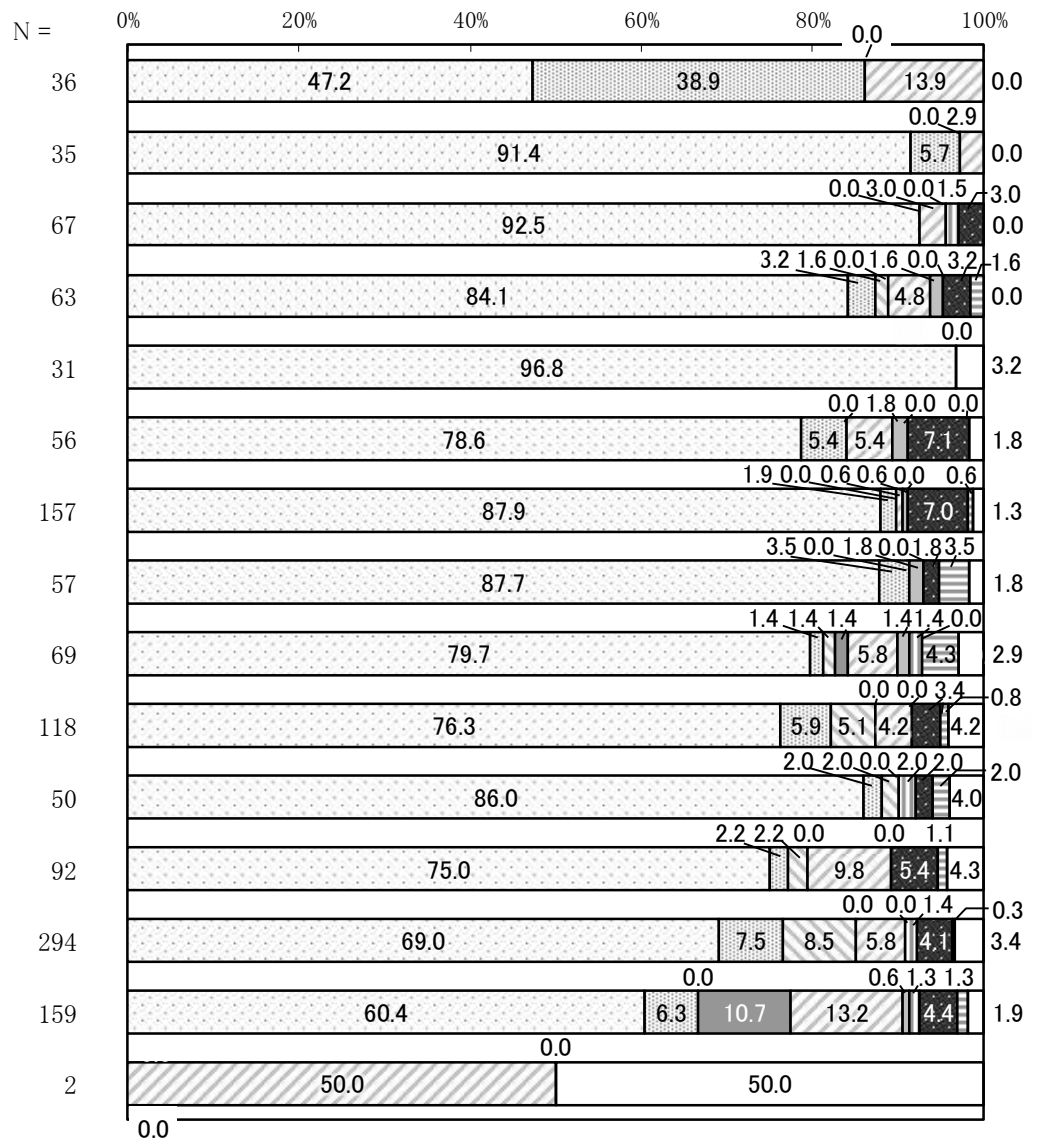
【性別】

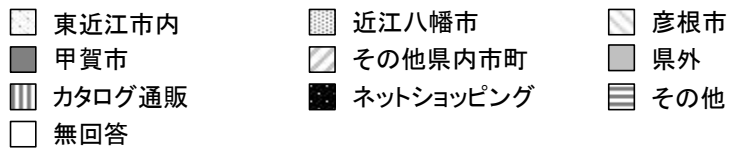


【年代別】



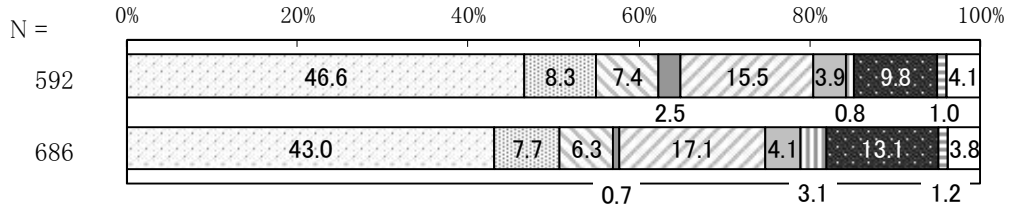
【居住地区別】



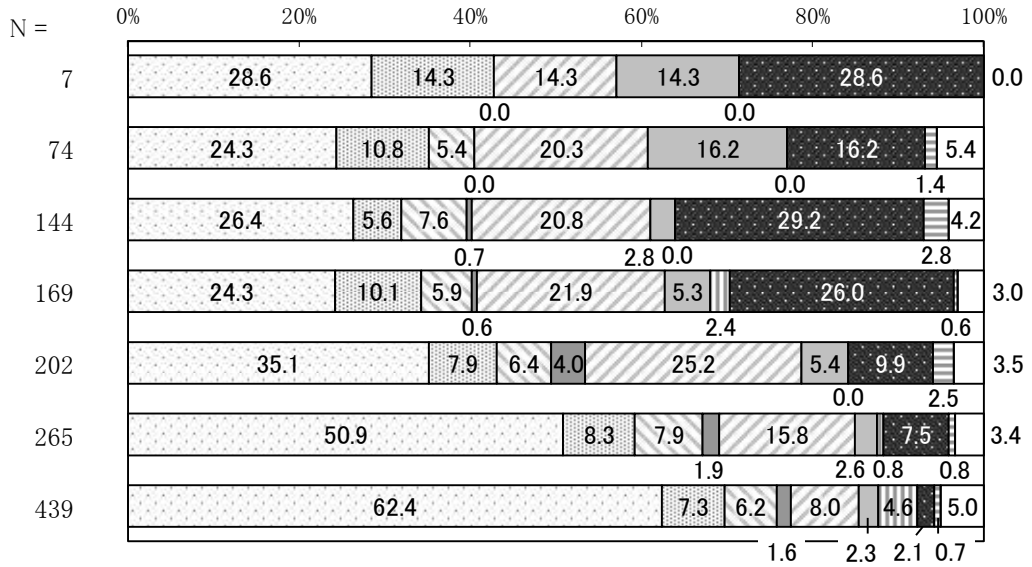


③ 衣料品

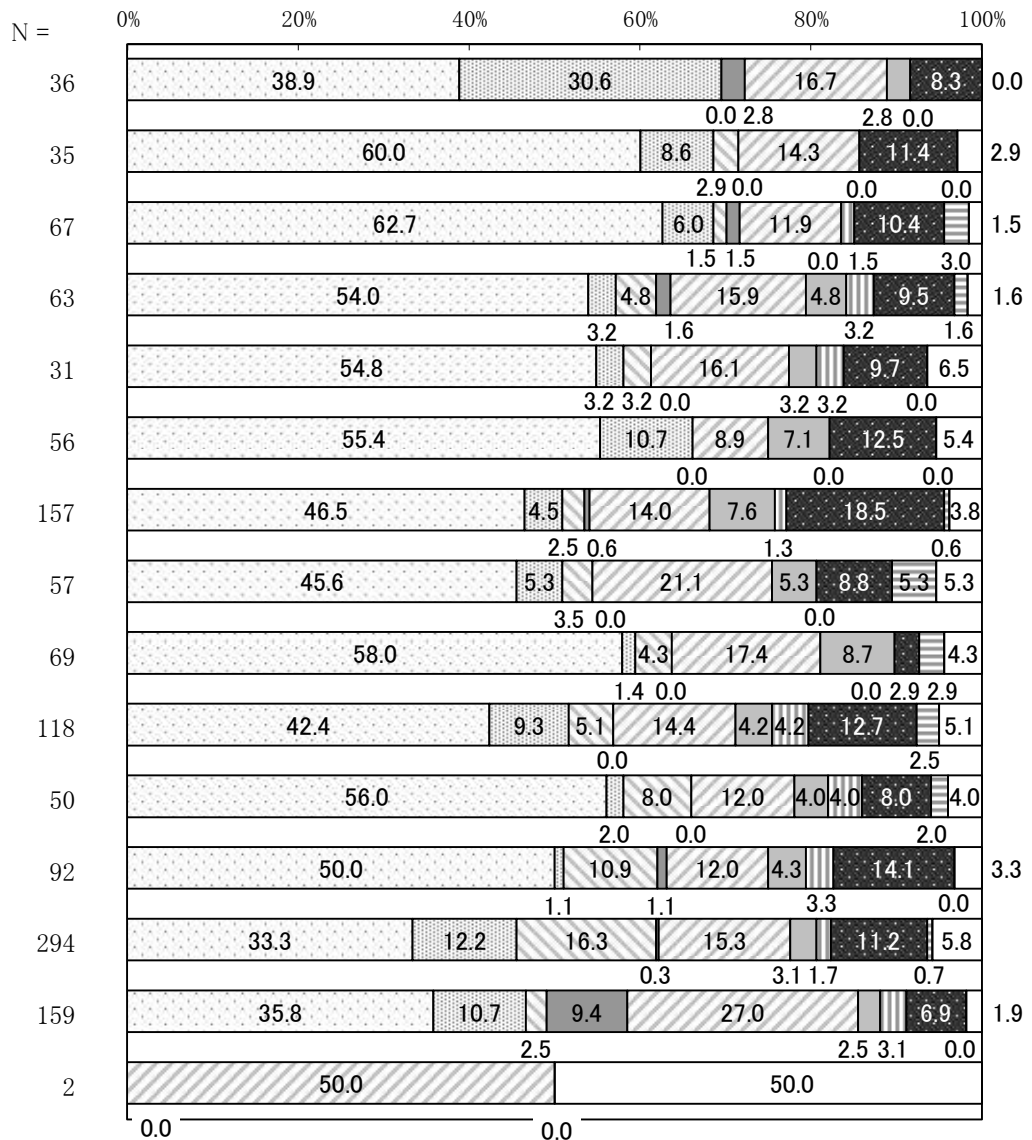
【性別】



【年代別】



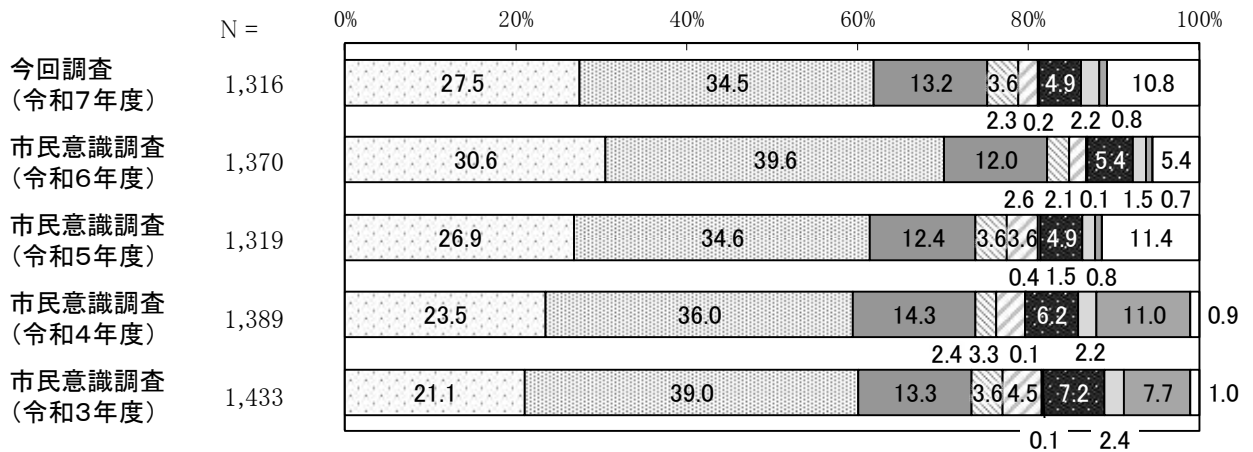
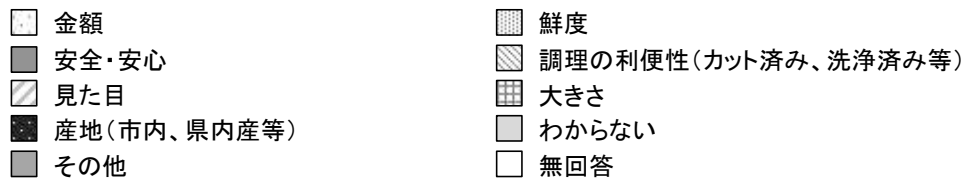
【居住地区別】



問 40 あなたの家庭では野菜等を購入するとき、主に何を基準に選んでいますか（自作している方も不足する野菜を購入する場合）。《〇1つ》

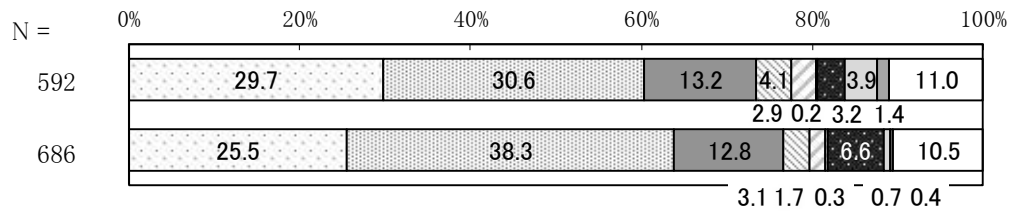
野菜等を購入する際の基準は「鮮度」、「金額」、「安全・安心」

- ・ 野菜等を購入する際の基準としては、「鮮度」が34.5%と最も多く、次いで「金額」が27.5%、「安全・安心」が13.2%と続きます。調理の利便性や見た目より、これらが重視されていることがわかります。
- ・ 過去の調査と比較すると、この5年間で、変動はあるものの「金額」を重視する人の割合が増加しています。
- ・ 性別では、男女ともに「鮮度」が最も多くあげられていますが、女性はその割合が男性より高くなっています。
- ・ 年代別では、40歳代までは「金額」が、50歳以上は「鮮度」が最も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区、市辺地区で「金額」が、そのほかの地区で「鮮度」が最も多くなっています。

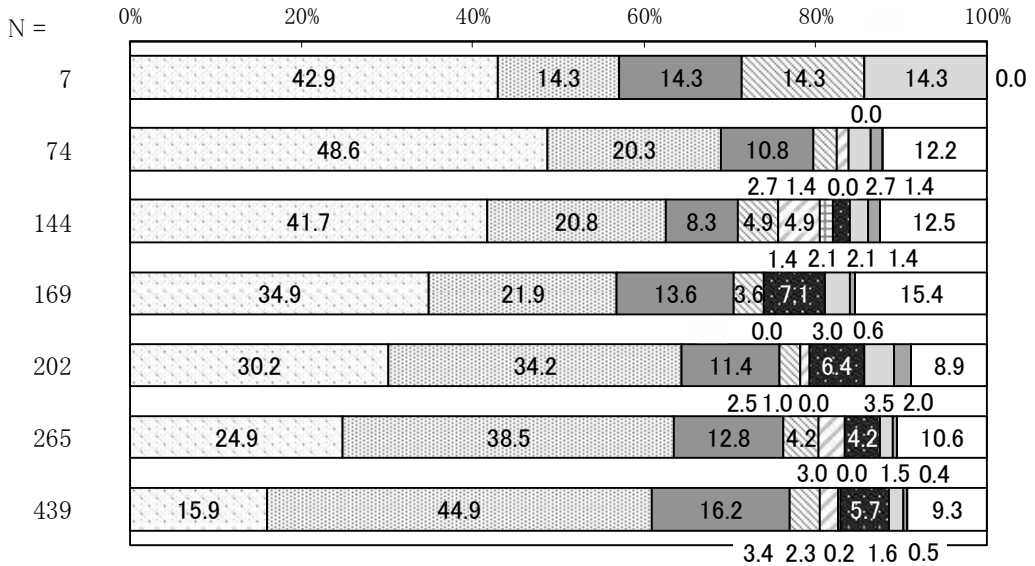




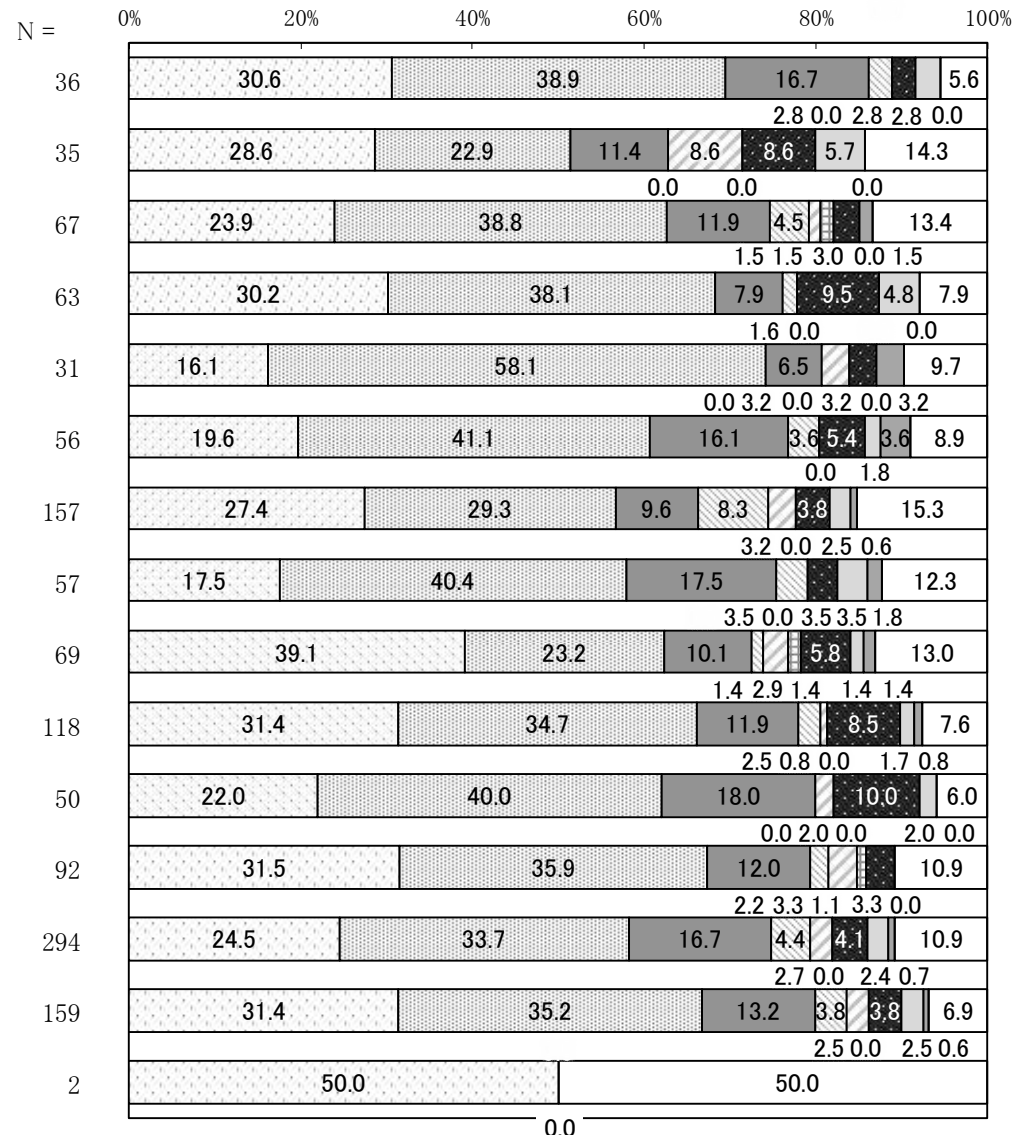
【性別】



【年代別】



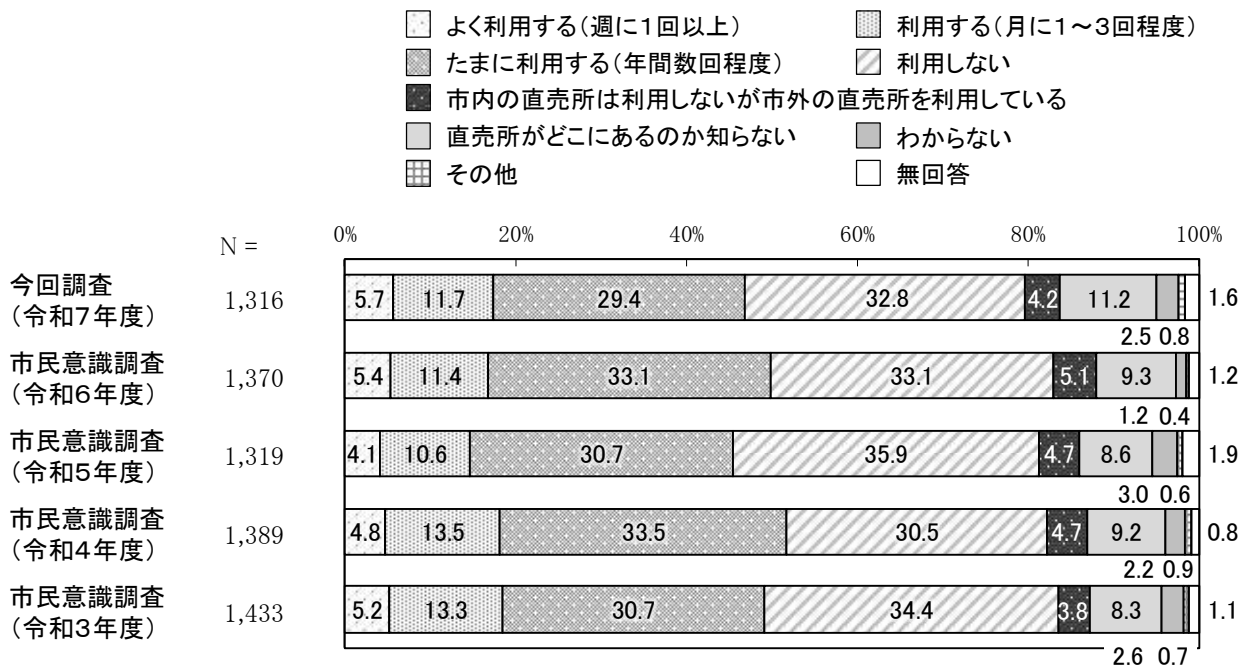
【居住地区別】



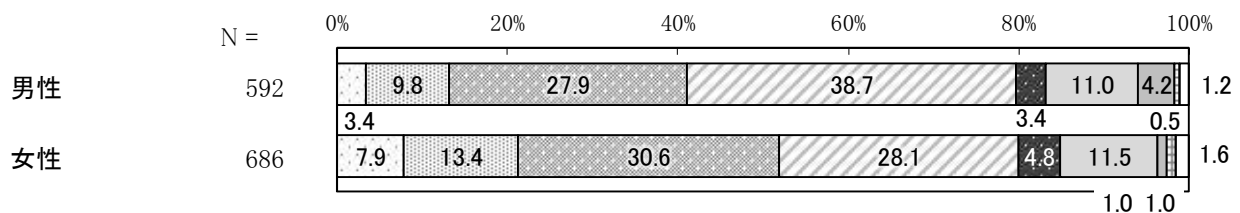
問 41 あなたの家庭では、市内の農産物直売所（青空市、無人販売所を含む。）を利用しますか。《○1つ》

半数近くが市内の直売所を利用、年間数回程度の利用が最も多い

- ・ 市内の農産物直売所の利用状況については、「利用しない」が32.8%と最も多くなっているものの、利用している人（市内の直売所を年間数回以上利用している人）の合計は46.8%と半数近くで、市外も含めると農産物直売所の利用率は51.0%になります。
- ・ 利用頻度としては、「たまに利用する（年間数回程度）」と回答した人が29.4%と最も多くなっています。
- ・ 一方、「直売所がどこにあるのか知らない」と回答した人は11.2%と1割以上見られます。
- ・ 過去の調査と比較すると、市内の直売所利用率は、変動はあるものの、5割前後で推移しています。
- ・ 性別では女性で、年代別では60歳以上で利用している人（前述）が半数以上見られます。一方、20歳代では「利用しない」人が利用している人（前述）より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、利用している人（前述）が愛東地区、湖東地区で7割前後と高くなっています。一方、市辺地区、南部地区では「利用しない」人が利用している人（前述）よりも多く見られます。

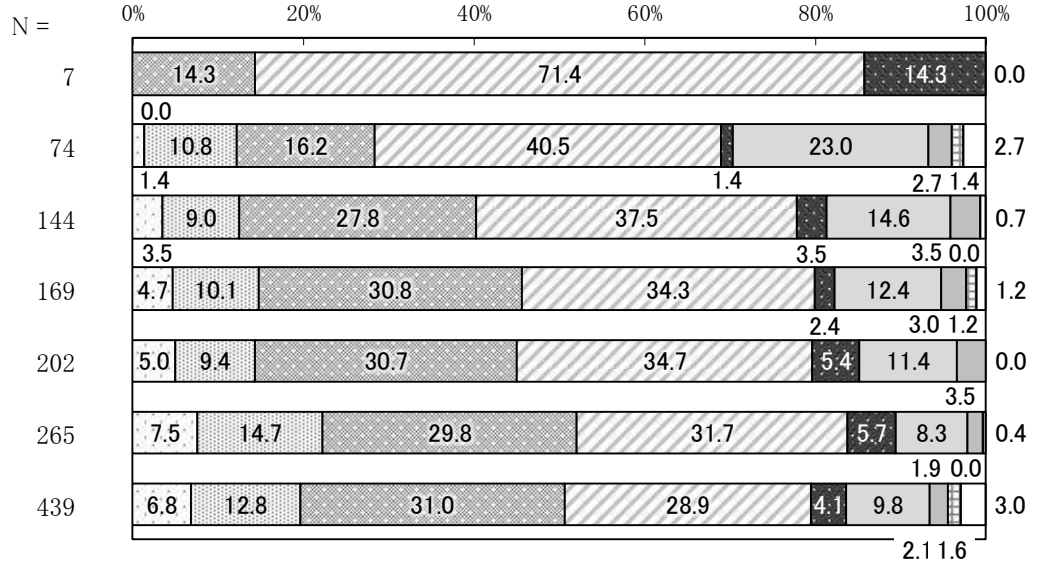


【性別】

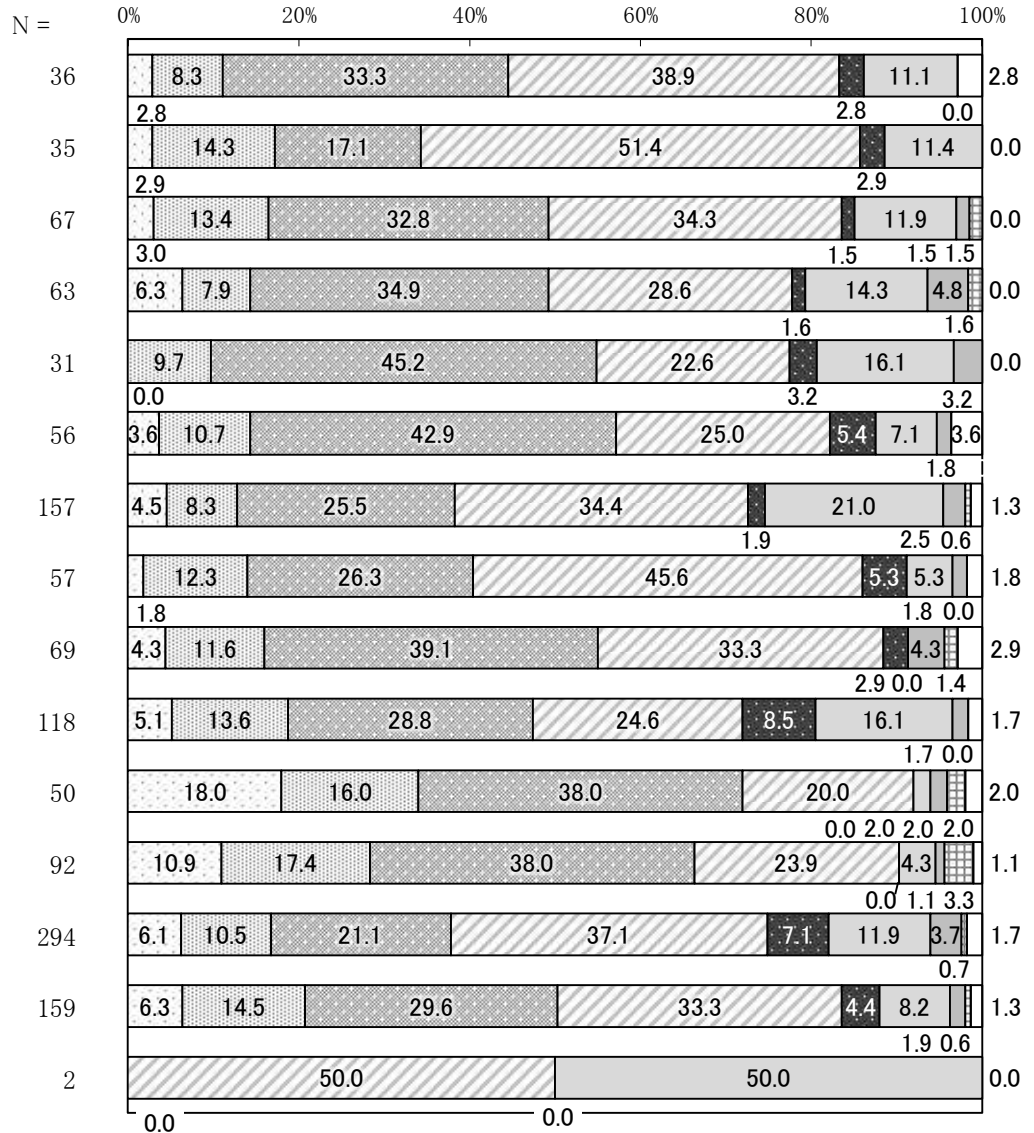


- よく利用する(週に1回以上)
- 利用する(月に1~3回程度)
- たまに利用する(年間数回程度)
- 利用しない
- 市内の直売所は利用しないが市外の直売所を利用している
- 直売所がどこにあるのか知らない
- わからない
- その他
- 無回答

【年代別】



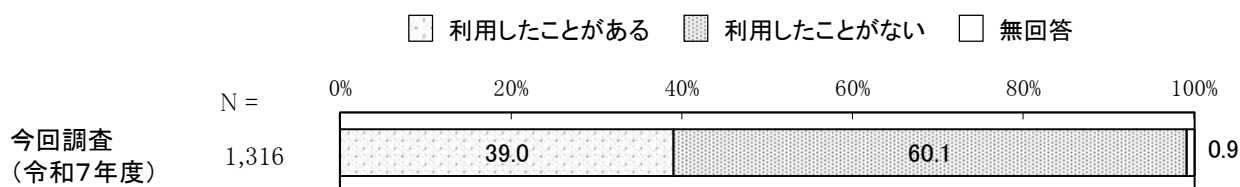
【居住地区別】



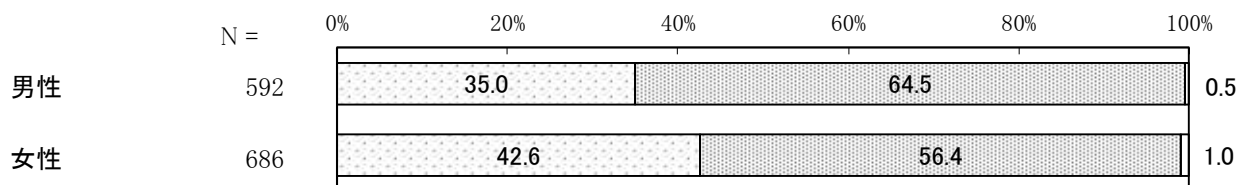
問 42 あなたはこれまでに東近江市三方よし商品券（地域商品券）を利用したことがありますか。《○1つ》

4割近くが利用したことがある

- ・ 東近江市三方よし商品券（地域商品券）の利用状況としては、「利用したことがある」が39.0%と4割近くがこれまでに利用したことがあると回答しています。
- ・ 一方、「利用したことがない」は60.1%で、6割がまだ利用したことがない状況です。
- ・ 性別では女性で、年代別では40歳以上で、「利用したことがある」と回答した人の割合が4割前後となっています。一方、20～30歳代で「利用したことがない」と回答した人の割合が高く、20歳代では8割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区、玉緒地区で「利用したことがある」と回答した人の割合が半数以上みられる一方、八日市地区で「利用したことがない」と回答した人の割合が7割近くと高くなっています。

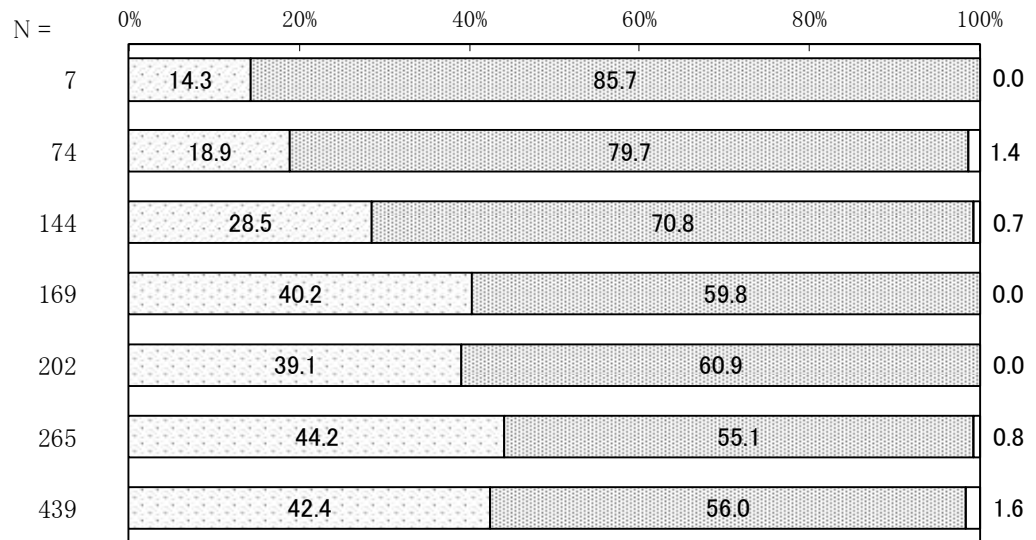


【性別】

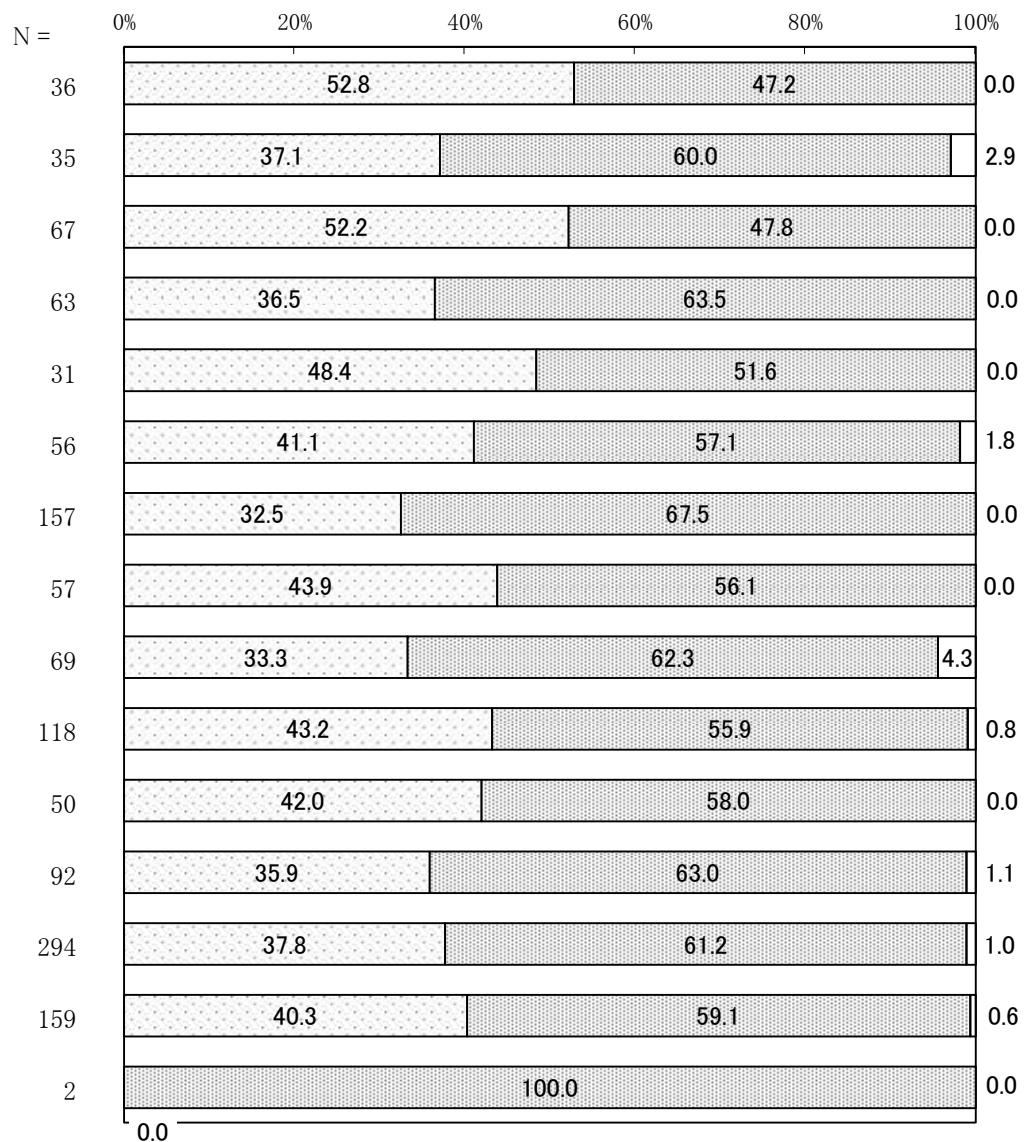


【年代別】

■ 利用したことがある ■ 利用したことがない □ 無回答



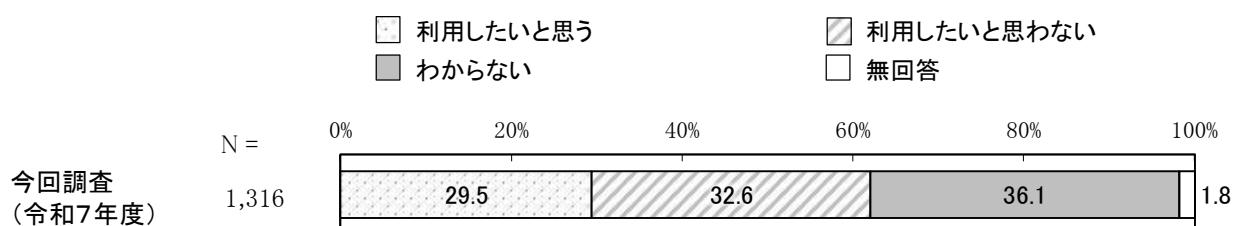
【居住地区別】



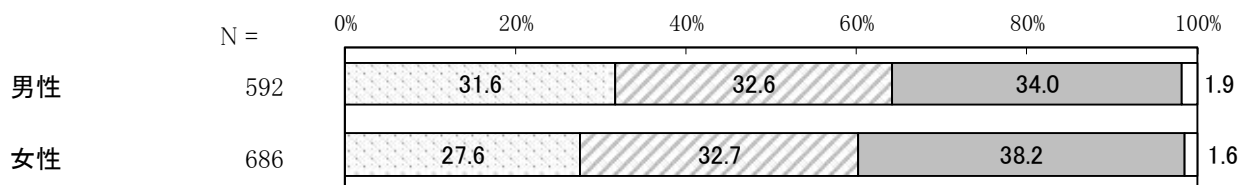
問 43 東近江市三方よし商品券が電子支払い（専用のスマホアプリ）も可能となった場合、利用したいと思いますか。《○1つ》

4割近くが「わからない」、「利用したいと思う」は3割近く

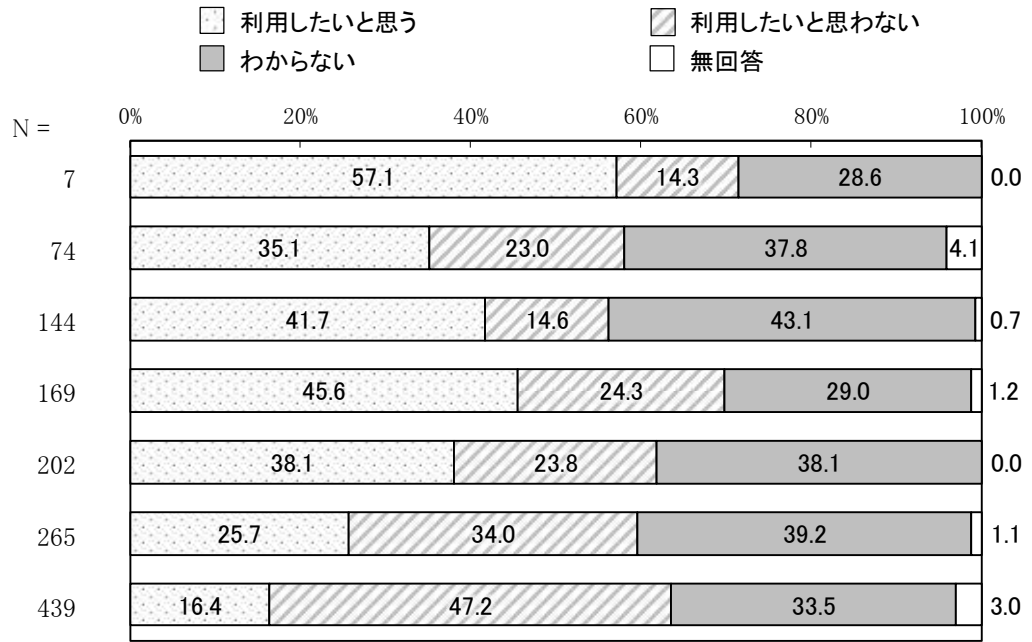
- ・ 東近江市三方よし商品券が電子支払い（専用のスマホアプリ）も可能となった場合、利用したいかについては、「わからない」が36.1%と最も多く、次いで「利用したいと思わない」が32.6%、「利用したいと思う」が29.5%で、利用したいと思わない人のほうがやや多くなっています。
- ・ 年代別では、「利用したいと思う」と回答した人の割合は、40歳代が半数近くと最も高く、40歳代以上では年齢が上がるほどその割合は低下し、70歳以上では2割近くと最も低くなっています。
- ・ 居住地区別では、「利用したいと思う」と回答した人の割合は中野地区で4割近くと高い一方、平田地区では「利用したいと思わない」と回答した人の割合が半数となっています。



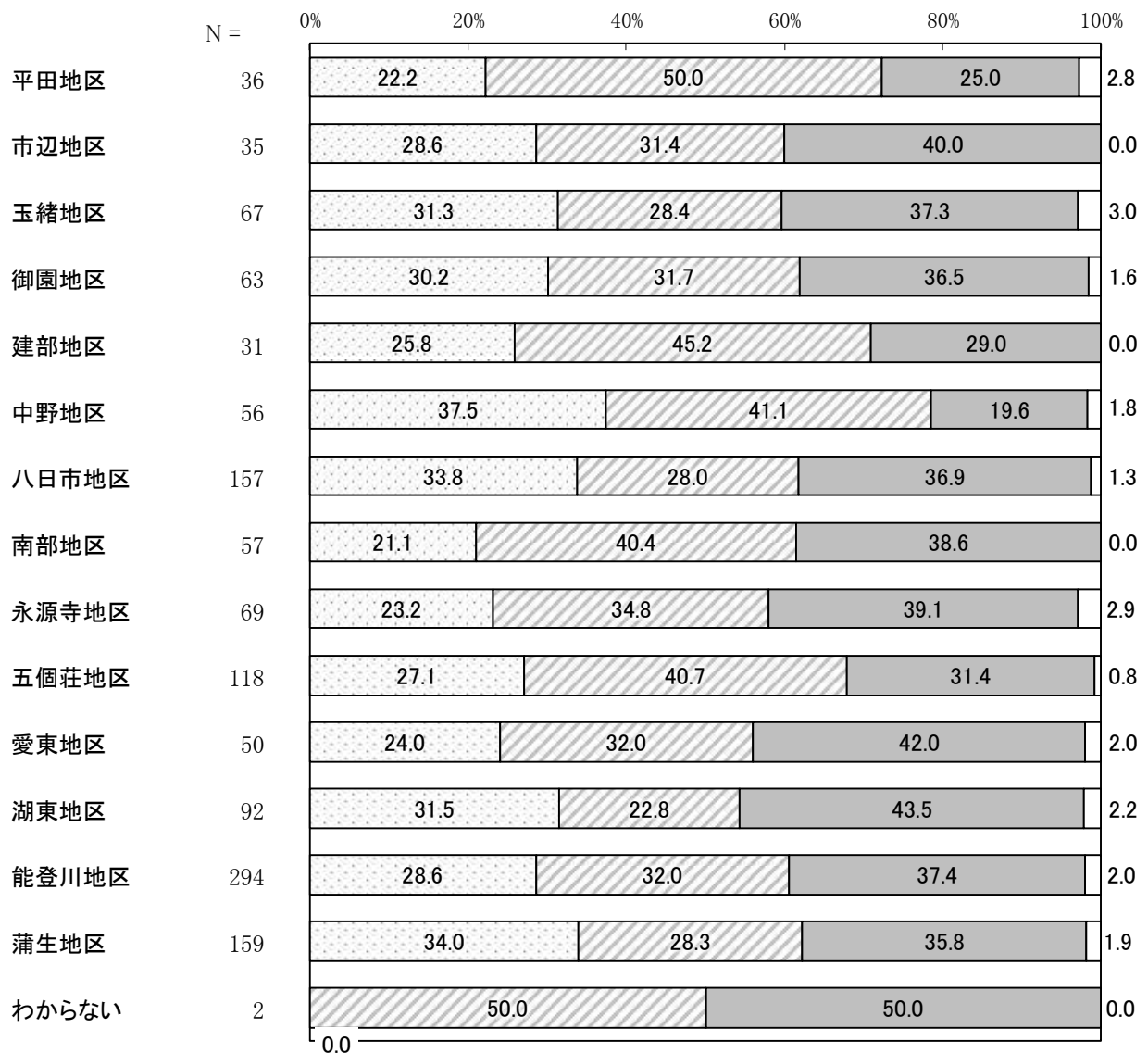
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



問 44 あなたは、次のキャッシュレス決済をどの程度利用していますか。《①～⑥それぞれの項目に○1つ》

流通系電子マネーやQR/バーコード決済は3割、クレジットカードは3割近くが週1回以上利用

- ・ キャッシュレス決済を週1回以上利用する人の割合は、「④流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）」が 31.9%と最も高く、次いで「③QR/バーコード決済（PayPay など）」が 30.6%、「①クレジットカード」が 28.8%、「⑤交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）」が 6.6%、「②デビットカード」が 1.4%となっています。
- ・ 「月に1～3回程度」や「年に数回程度」の利用も含めた利用している人の割合は、「①クレジットカード」が 69.6%で最も高く、次いで「③QR/バーコード決済（PayPay など）」が 48.6%、「④流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）」が 47.4%、「⑤交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）」が 33.4%、「②デビットカード」が 5.5%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、この5年間で特に「③QR/バーコード決済（PayPay、LINE Pay など）」の利用率の向上が顕著となっています。

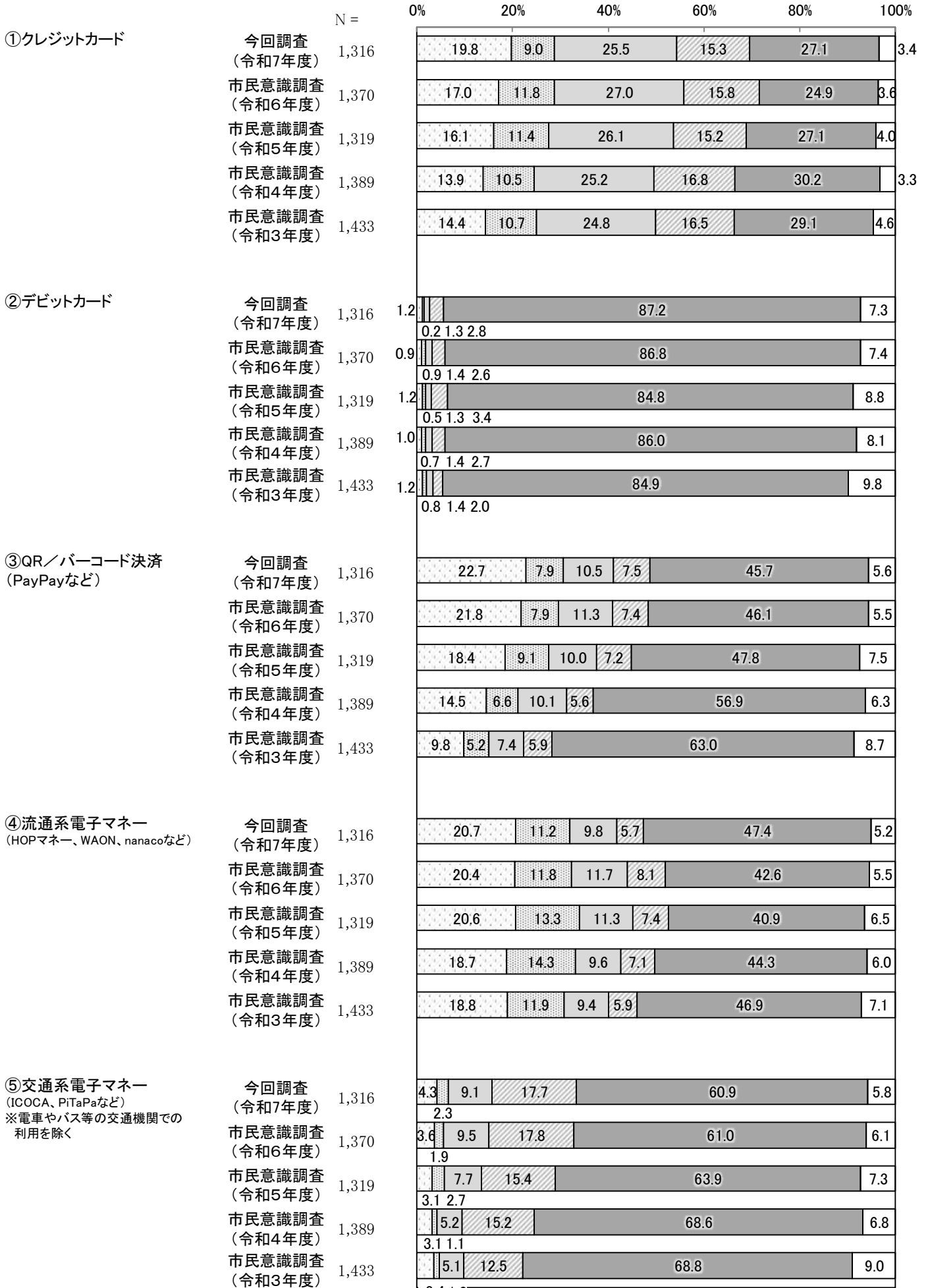
単位：%

	週1回以上 利用	利用している	利用して いない
①クレジットカード	28.8% (±0.0)	69.6% (-2.0)	27.1% (+2.2)
②デビットカード	1.4% (-0.4)	5.5% (-0.3)	87.2% (+0.4)
③QR/バーコード決済(PayPay など)	30.6% (+0.9)	48.6% (+0.2)	45.7% (-0.4)
④流通系電子マネー(HOP マネー、WAON、nanaco など)	31.9% (-0.3)	47.4% (-4.6)	47.4% (+4.8)
⑤交通系電子マネー(ICOCA、PiTaPa など) ※電車やバス等の交通機関での利用を除く	6.6% (±1.1)	33.4% (+0.6)	60.9% (-0.1)

※()内の数値は令和6年度との差を示している。

「⑥その他」の内訳（現金などキャッシュレス決済以外のものや設問内に示されたものを除くと8件）

週2回以上	クイックペイ、ID、ガソリンのプリペイドカード
週に1回程度	ID
月に1～3回程度	ネット銀行、プリペイドカード
年に数回程度	dポイント、ETC



① クレジットカード

- ・年代別では、利用率（年数回程度でも利用している人の割合）は、30～40歳代で9割前後と高くなっています。また利用頻度は、週1回以上が20～30歳代で半数近く、週2回以上が30歳代で4割近くと高くなっています。一方、70歳以上では半数近くが利用していません。
- ・居住地区別では、利用率（前述）は、八日市地区で8割近くと高くなっています。また利用頻度は、週2回以上が御園地区や八日市地区で3割近くとほかの地区と比べ高くなっています。一方、市辺地区、永源寺地区では4割近くが利用していません。

② デビットカード

- ・性別、年代別、居住地区別のいずれも、利用率（前述）は1割未満にとどまっており、利用頻度も高くありません。

③ QR／バーコード決済（PayPay など）

- ・年代別では、利用率（前述）は、40歳代までで7割以上（特に20歳代は8割以上）と高い一方で、年齢が上がるほど利用率は低下しており、70歳以上は2割となっています。また利用頻度は、週に2回以上が20歳代で半数以上となっており、利用率・利用頻度ともに20歳代で高くなっています。
- ・居住地区別では、八日市地区で利用率（前述）が6割、利用頻度は週2回以上が3割とほかの地区より高くなっています。

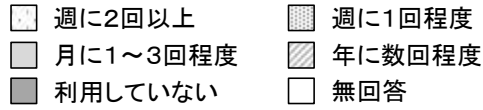
④ 流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）

- ・性別では、利用率（前述）は、女性で6割近くと、男性の4割近くを大きく上回っています。また利用頻度も、週2回以上が女性で3割近くと高くなっています。
- ・年代別では、利用率（前述）は、50～60歳代で6割前後と高くなっています。また利用頻度は、週2回以上が50～60歳代で3割近くと高くなっています。
- ・居住地区別では、利用率（前述）は、建部地区、五個荘地区で6割近くと高くなっています。また利用頻度は、平田地区、能登川地区で週2回以上が3割近くと、ほかの地区より高くなっています。

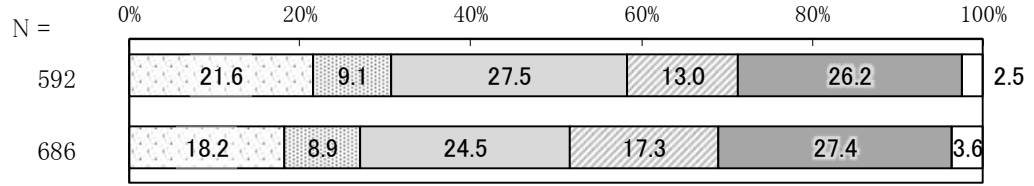
⑤ 交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）

- ・年代別では、利用率（前述）は、20歳代で6割近くと高くなっています。利用頻度は、いずれの年代もあまり高くありません。
- ・居住地区別では、利用率（前述）は、能登川地区、八日市地区、南部地区で4割近くとほかの地区より高くなっていますが、利用率はいずれの地区もあまり高くありません。

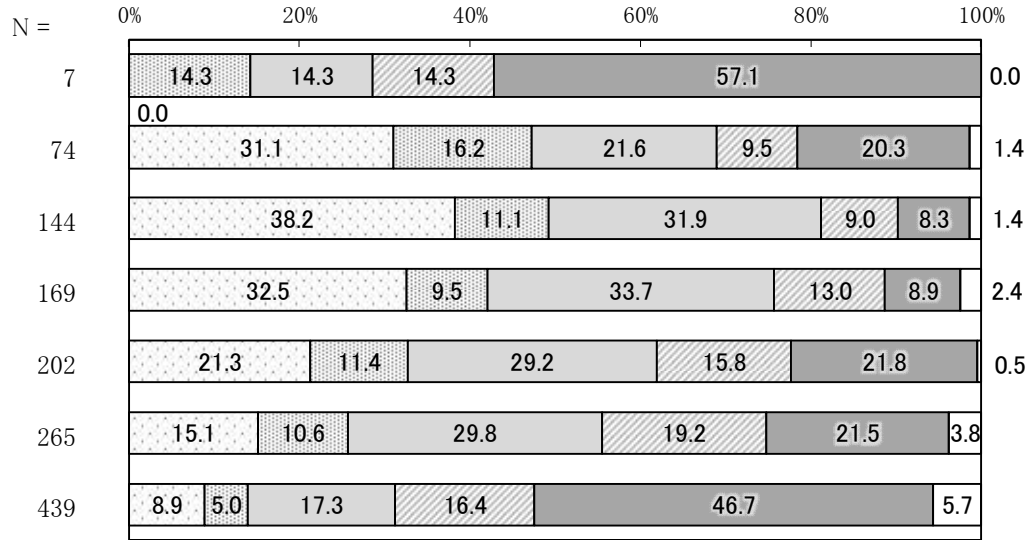
① クレジットカード



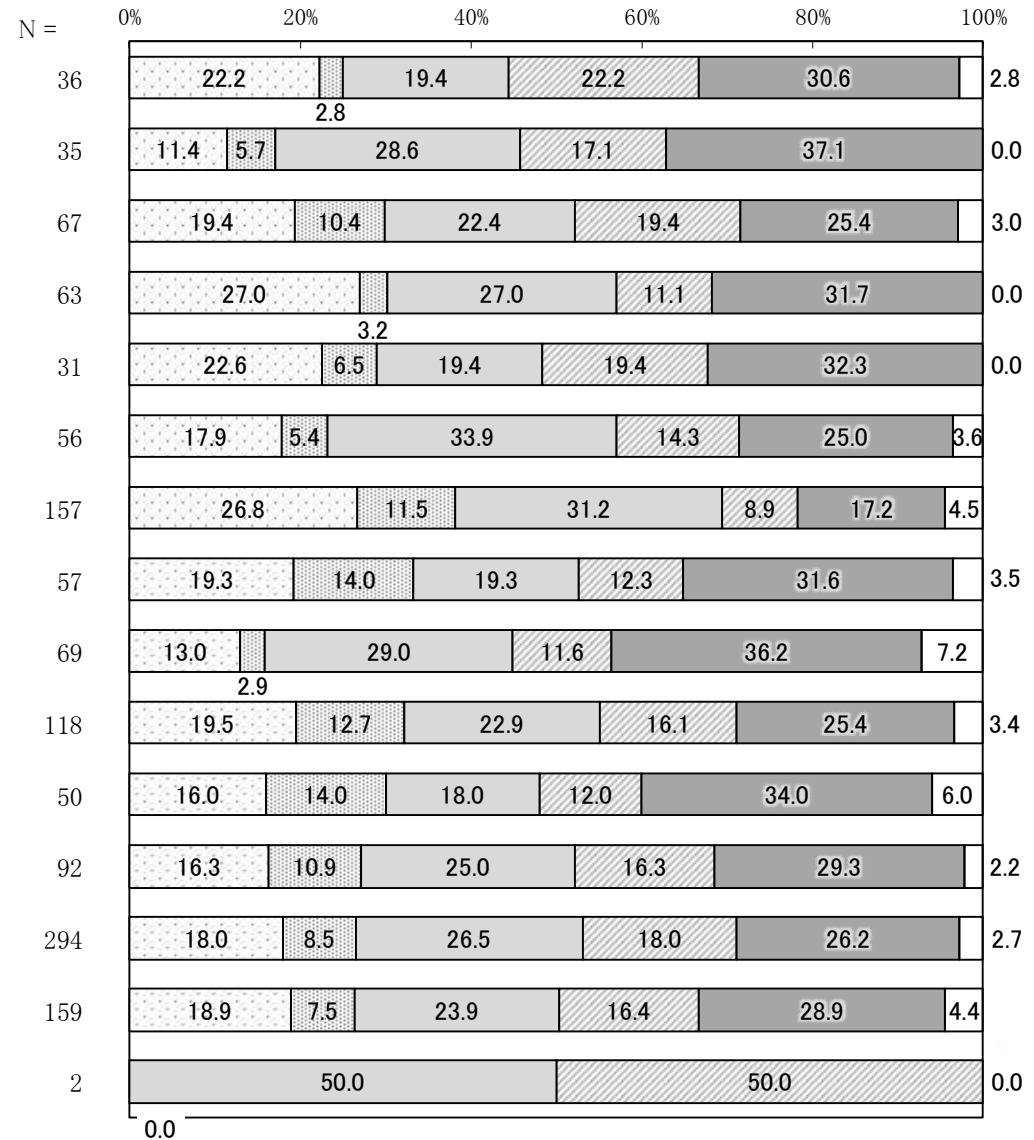
【性別】



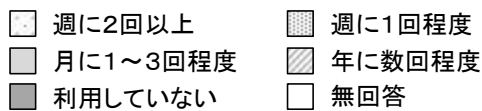
【年代別】



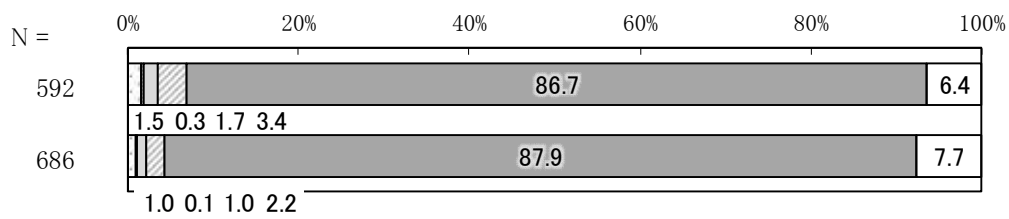
【居住地区別】



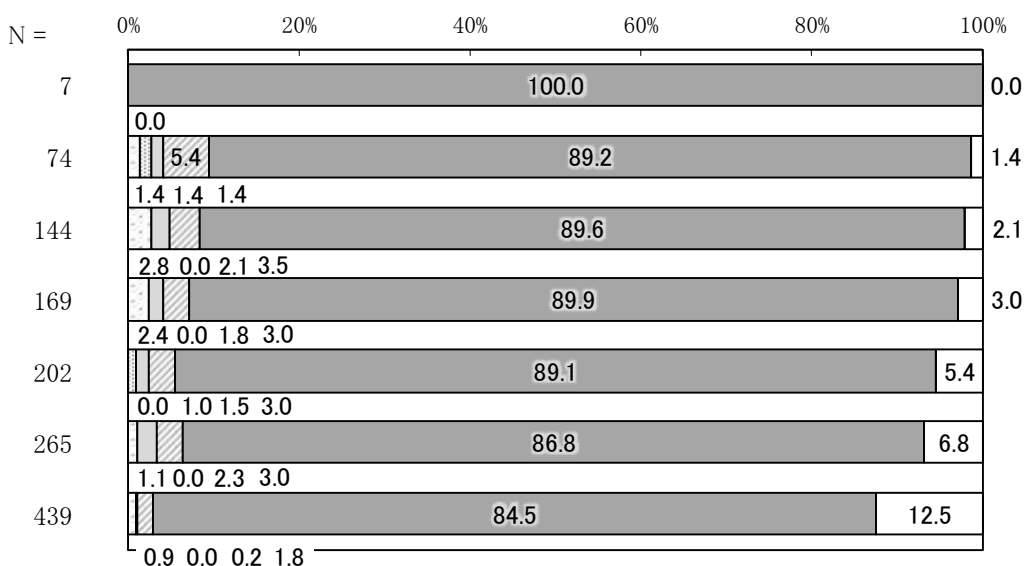
② デビットカード



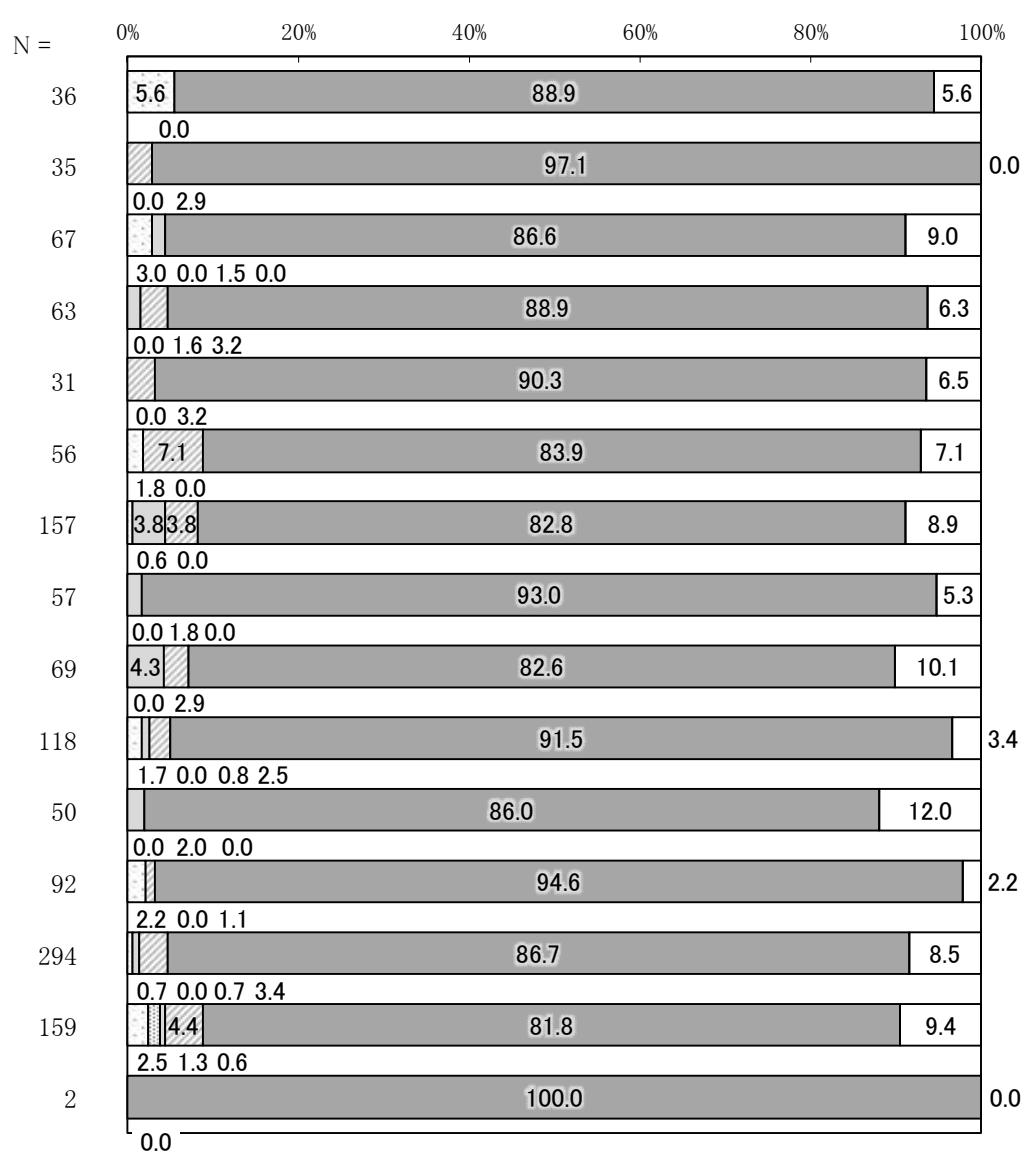
【性別】



【年代別】

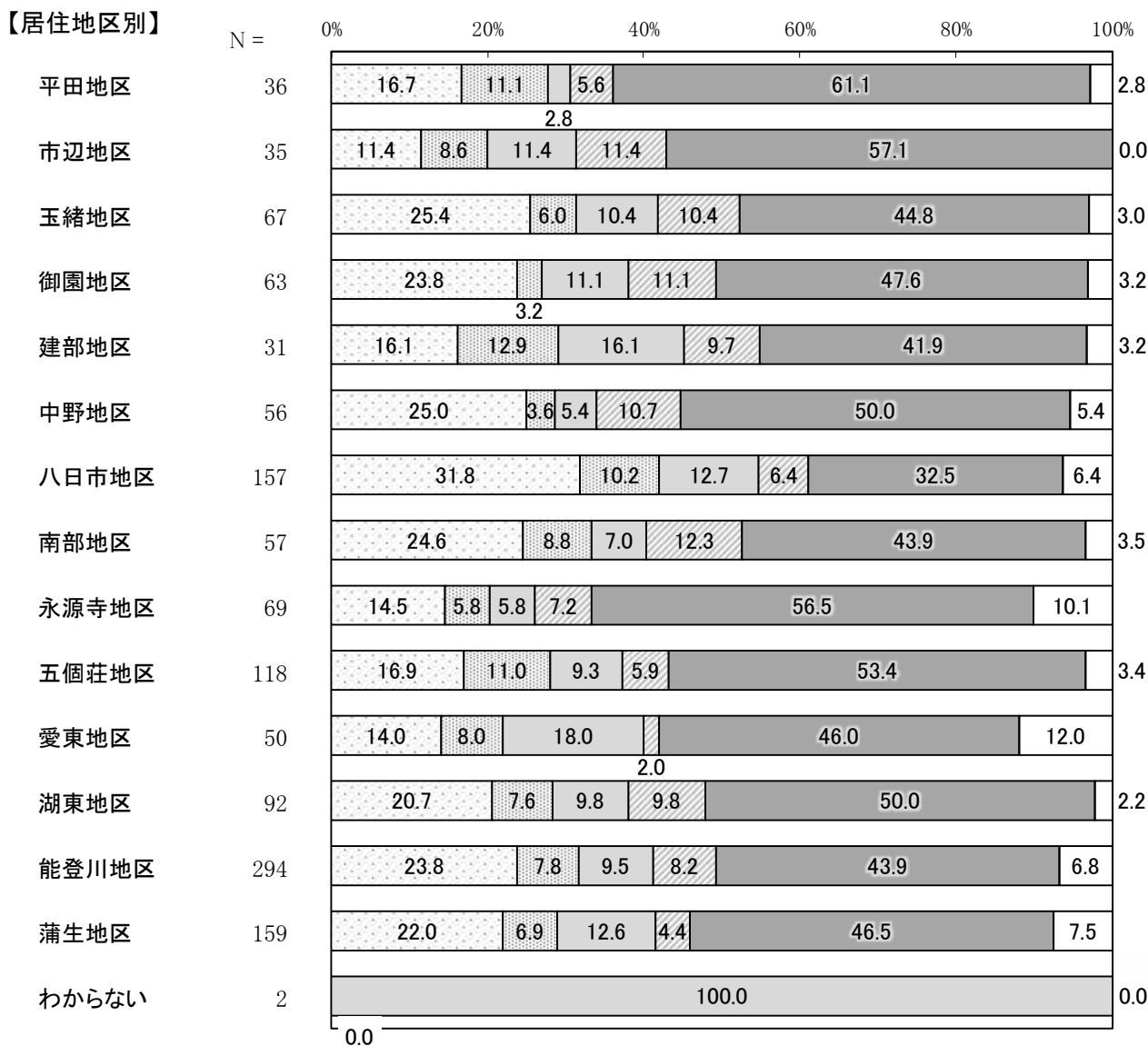
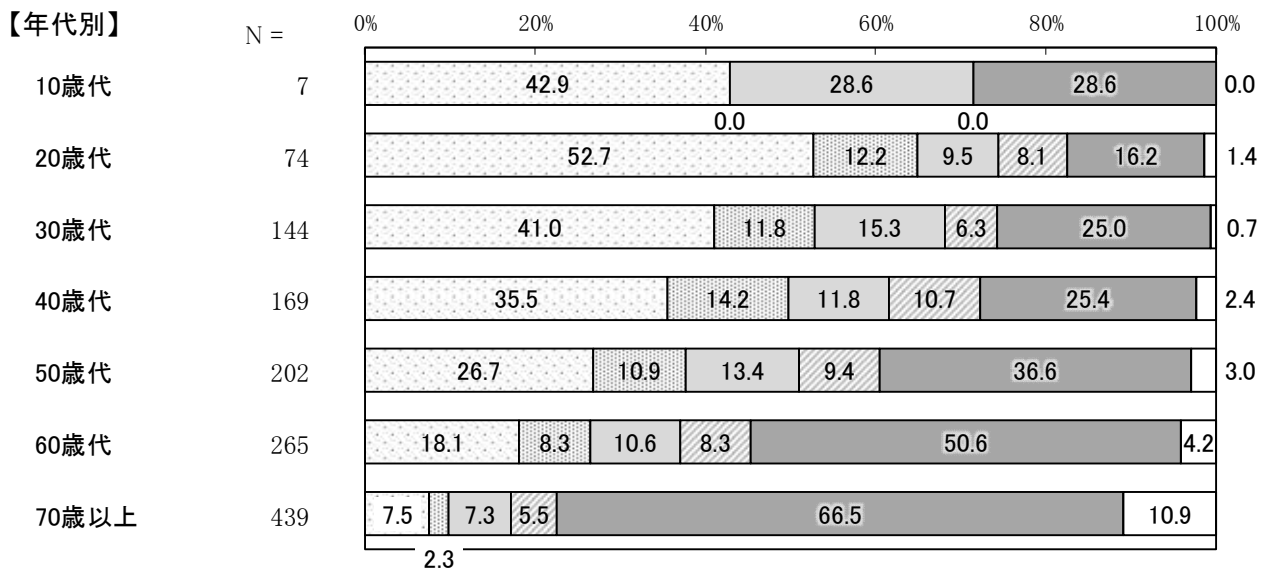
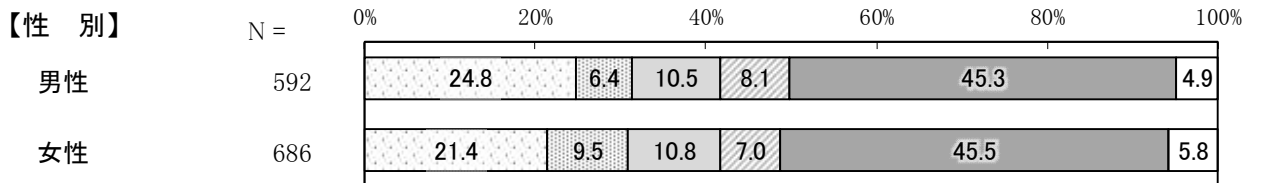


【居住地区別】



③ QR／バーコード決済 (PayPay など)

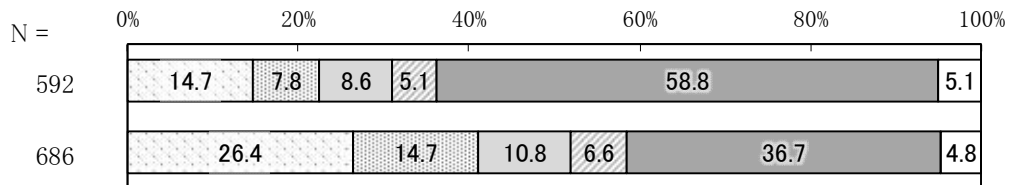
週に2回以上 週に1回程度
 月に1～3回程度 年に数回程度
 利用していない 無回答



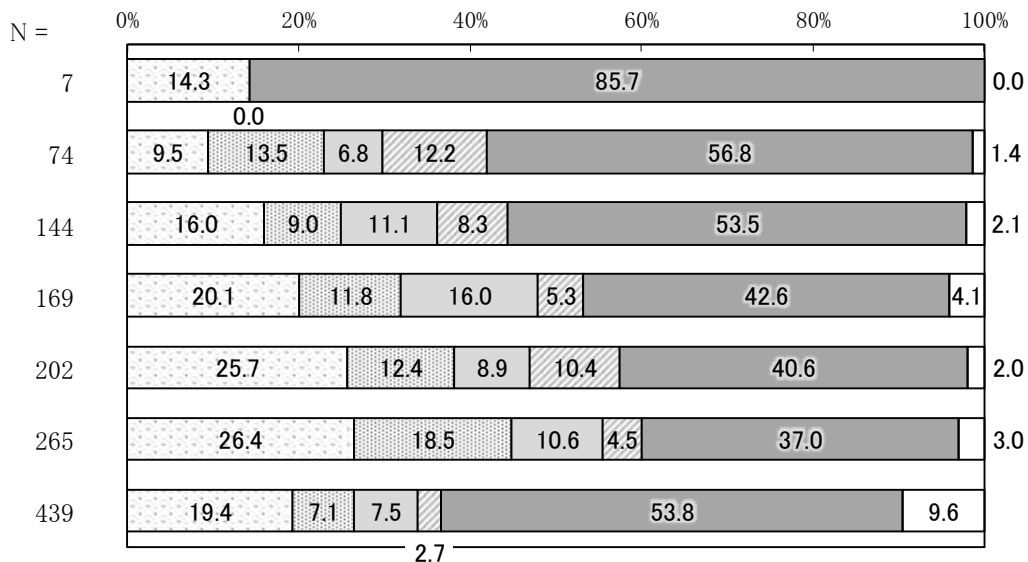
④ 流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）

- 週に2回以上
- 週に1回程度
- 月に1～3回程度
- 年に数回程度
- 利用していない
- 無回答

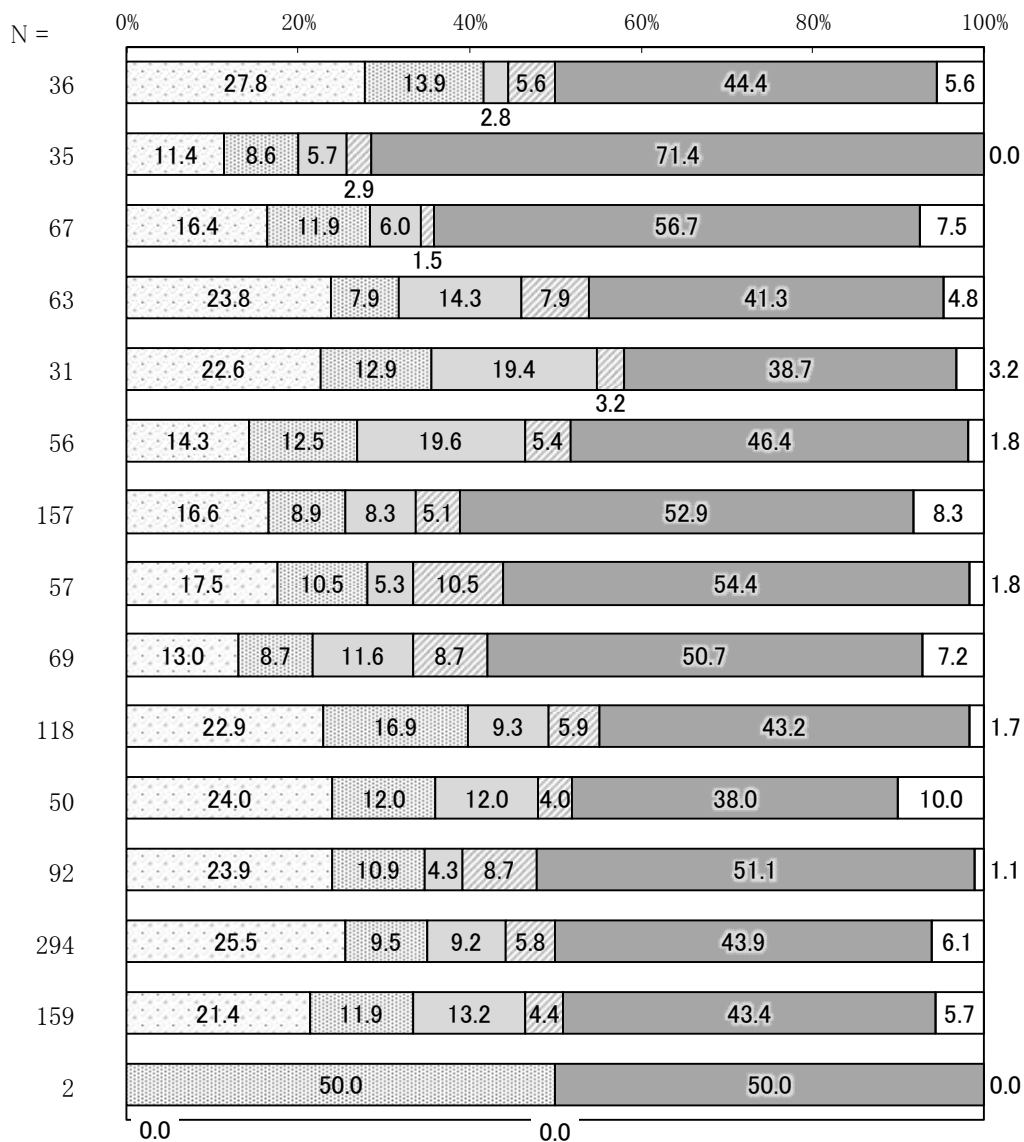
【性別】



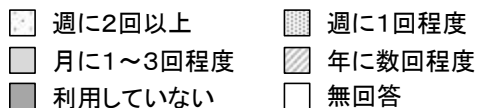
【年代別】



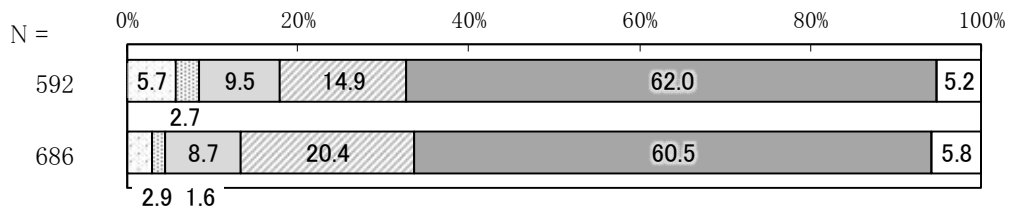
【居住地区別】



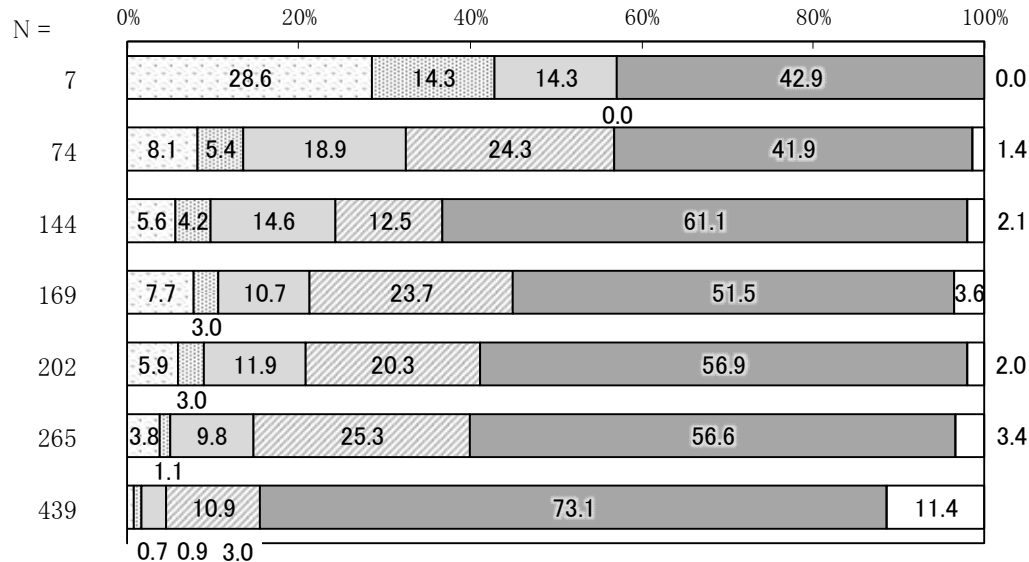
⑤ 交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）



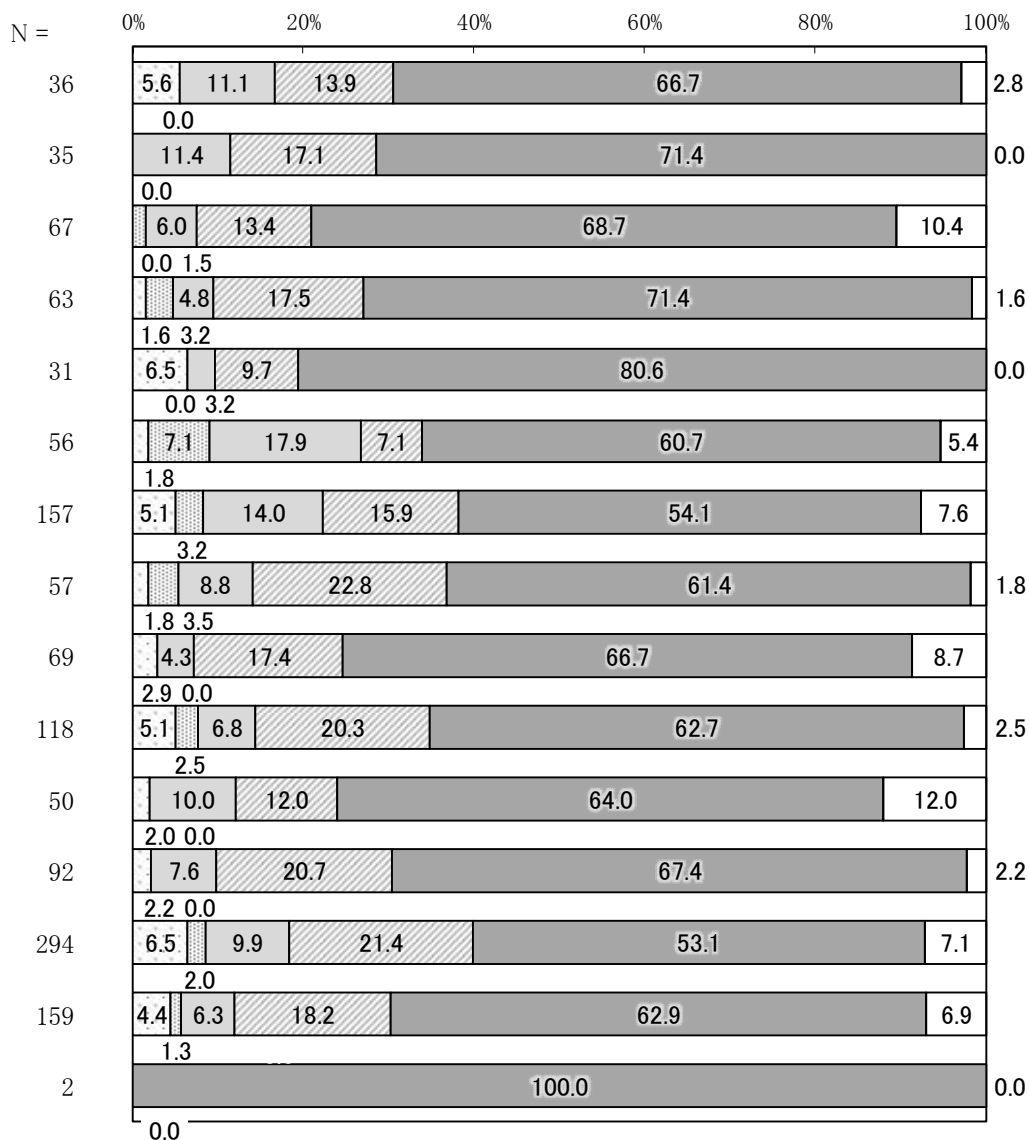
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

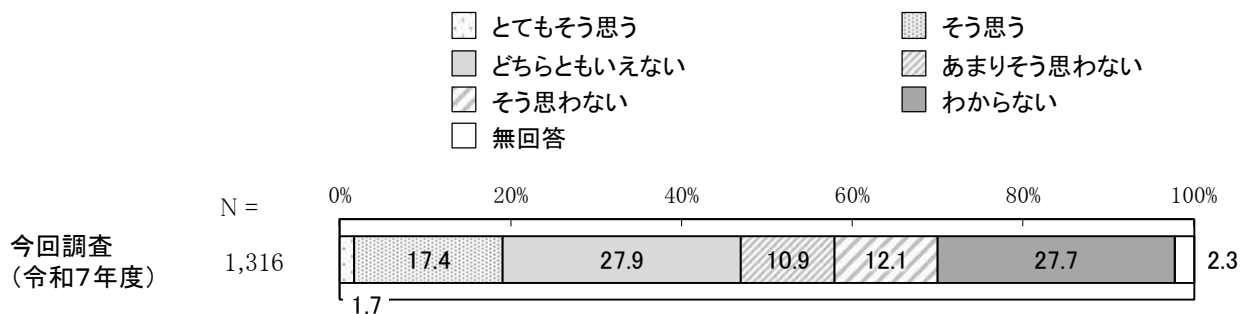


(8) 協働のまちづくりについて

問 45 あなたは、市民や行政、地域の人たちが、このまちをより良くしていくために、一緒に話し合ったり、協力して活動したりすることができていると感じますか。《○1つ》

協働のまちづくりができていると思う人は2割近く

- ・ 協働のまちづくりができていると思うかについては、できていると思う（「とてもそう思う」と「そう思う」の合計）人の割合は19.1%で、できていると思わない（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計）人の割合（23.0%）より下回っています。また、「どちらともいえない」が27.9%、「わからない」が27.7%となっています。
- ・ 性別では、できていると思わない（前述）人の割合は、男性で3割近くと女性より高く、男女ともにできていると思う（前述）人より多くなっています。
- ・ 年代別では、できていると思う（前述）人が、60歳以上で2割以上となっています。一方、50歳代までは、できていると思わない（前述）人ができていると思う（前述）人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、市辺地区でできていると思う（前述）人が3割前後となっています。愛東地区、湖東地区、御園地区、市辺地区では、できていると思う（前述）人ができていると思わない（前述）人より多くなっています。



※今年度から選択肢を大きく変更したため、単純比較はできない。

参考：令和6年度までの設問文・選択肢と調査結果

あなたは、東近江市では市民、企業、行政等が共に考え、力を合わせた協働のまちづくりができていると思いますか。《○1つ》

- ・ できている
- ・ ある程度できている
- ・ どちらともいえない
- ・ あまりできていない
- ・ できていない
- ・ わからない
- ・ 無回答

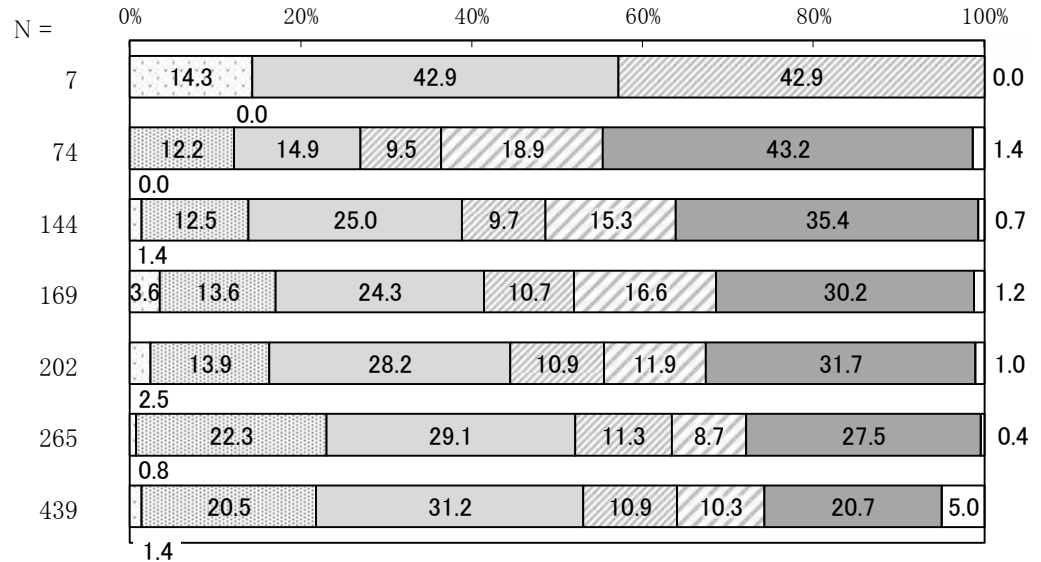




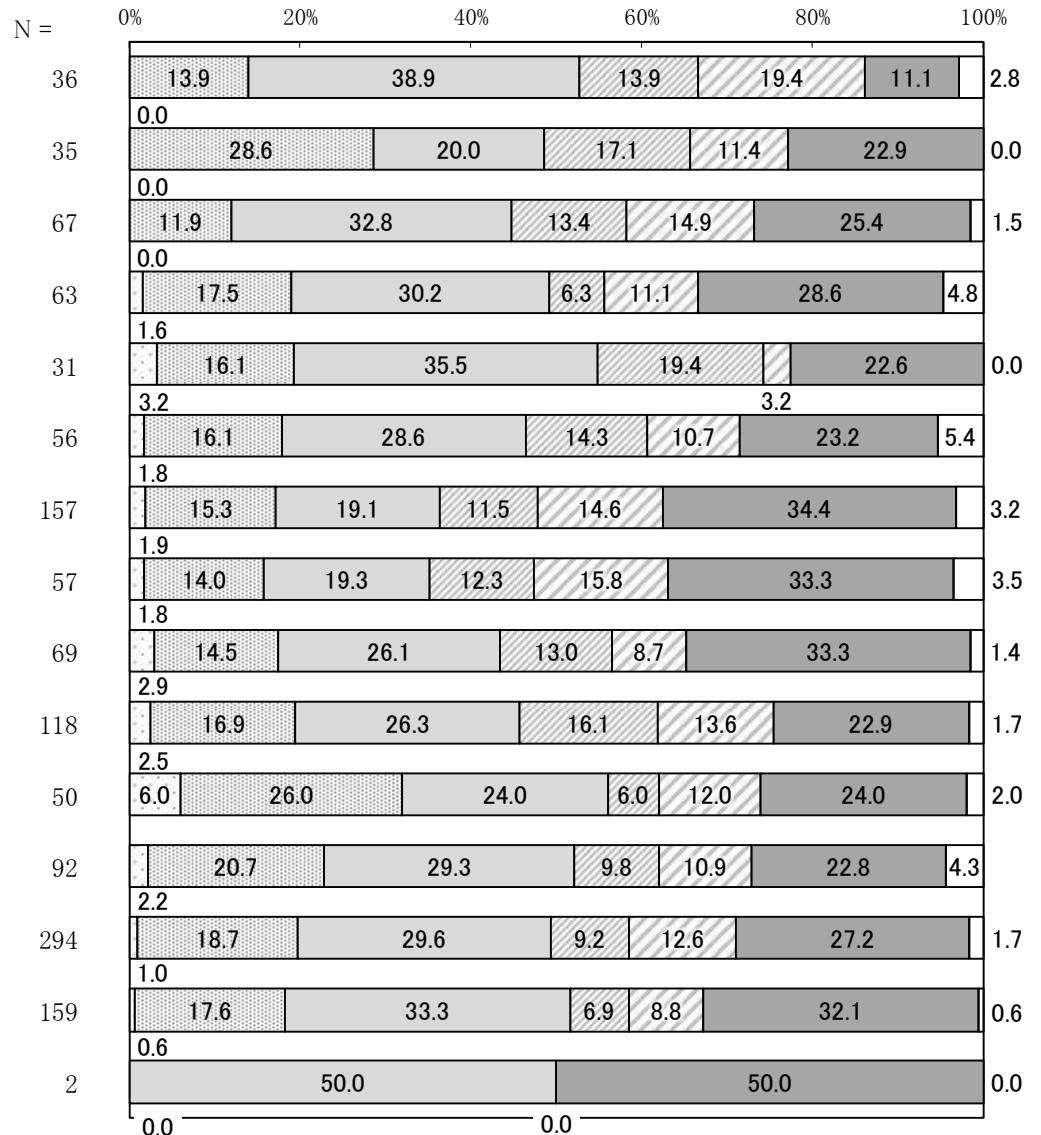
【性別】



【年代別】



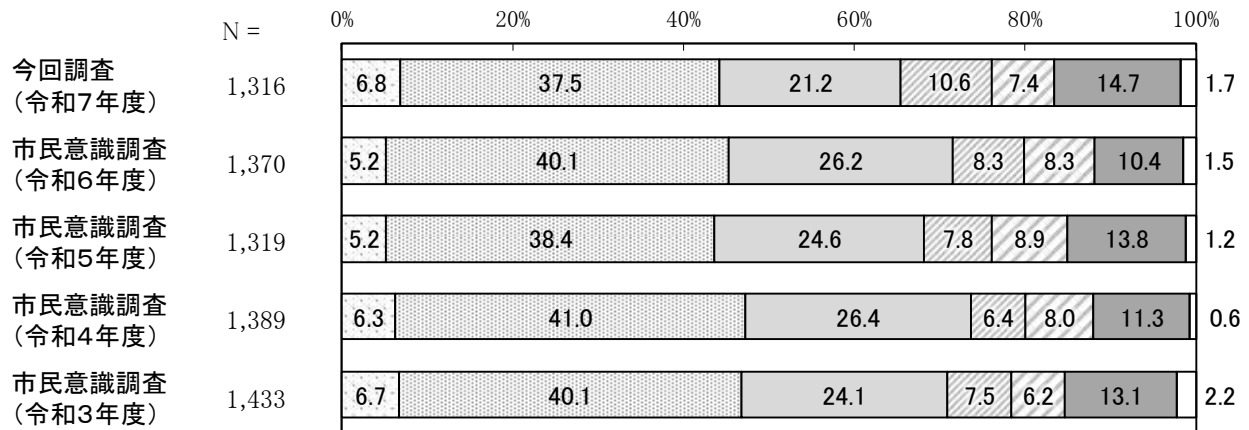
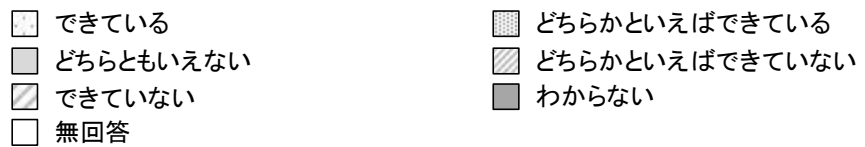
【居住地区別】



問 46 あなたの身近な地域では、住民同士の助け合いができていますか。《○1つ》

4割以上が住民同士の助け合いはできている

- ・ 地域での住民同士の助け合いができていると思うかについては、「どちらかといえばできている」が37.5%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が21.2%と続きます。できている（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）と思う人の割合が44.3%で、できていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）と思う人の割合（18.0%）より高くなっています。
- ・ 性別では男性が半数近く、年代別では60歳以上で半数前後、居住地区別では愛東地区で7割と、住民同士の助け合いができている（前述）と思う人が多く見られます。
- ・ 一方、年代別では30～40歳代で、居住地区別では平田地区、市辺地区で、できていない（前述）と思う人が多く見られます。

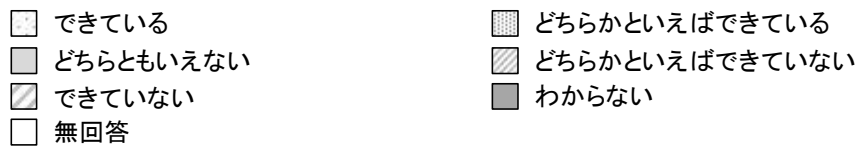


単位：%

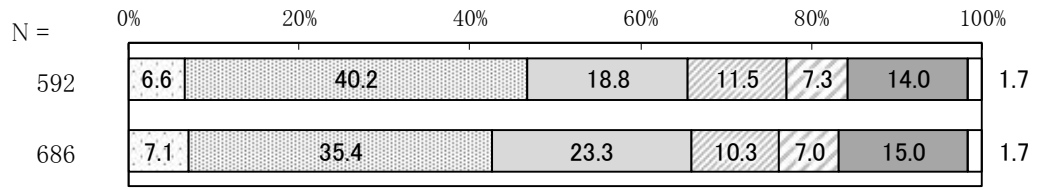
	できている*	できていない*	差
①今回調査(令和7年度)	44.3	18.0	26.3
②市民意識調査(令和6年度)	45.3	16.6	28.7
③市民意識調査(令和5年度)	43.6	16.7	26.9
④市民意識調査(令和4年度)	47.3	14.4	32.9
⑤市民意識調査(令和3年度)	46.8	13.7	33.1
①-⑤	-2.5	4.3	-6.8

* できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計

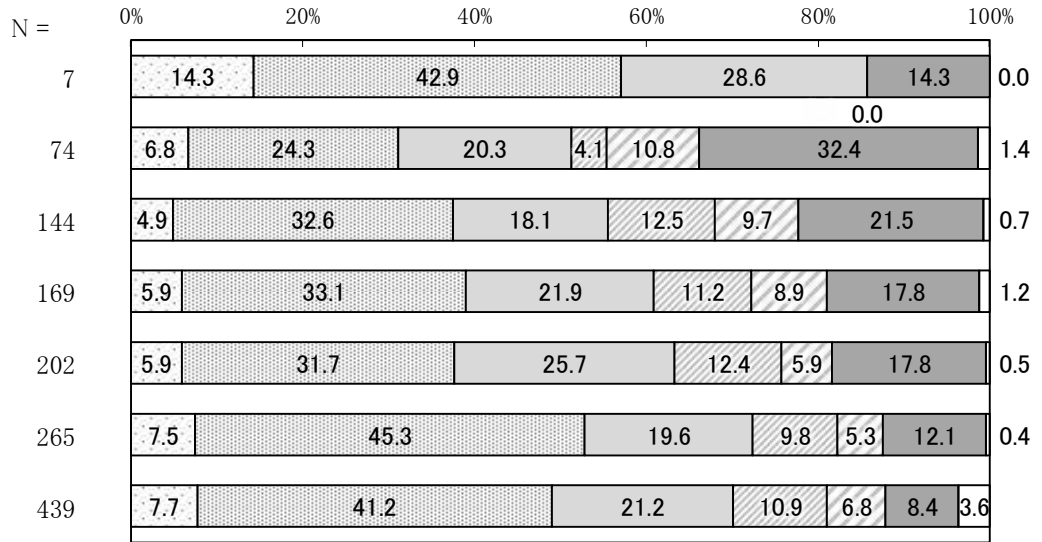
* できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計



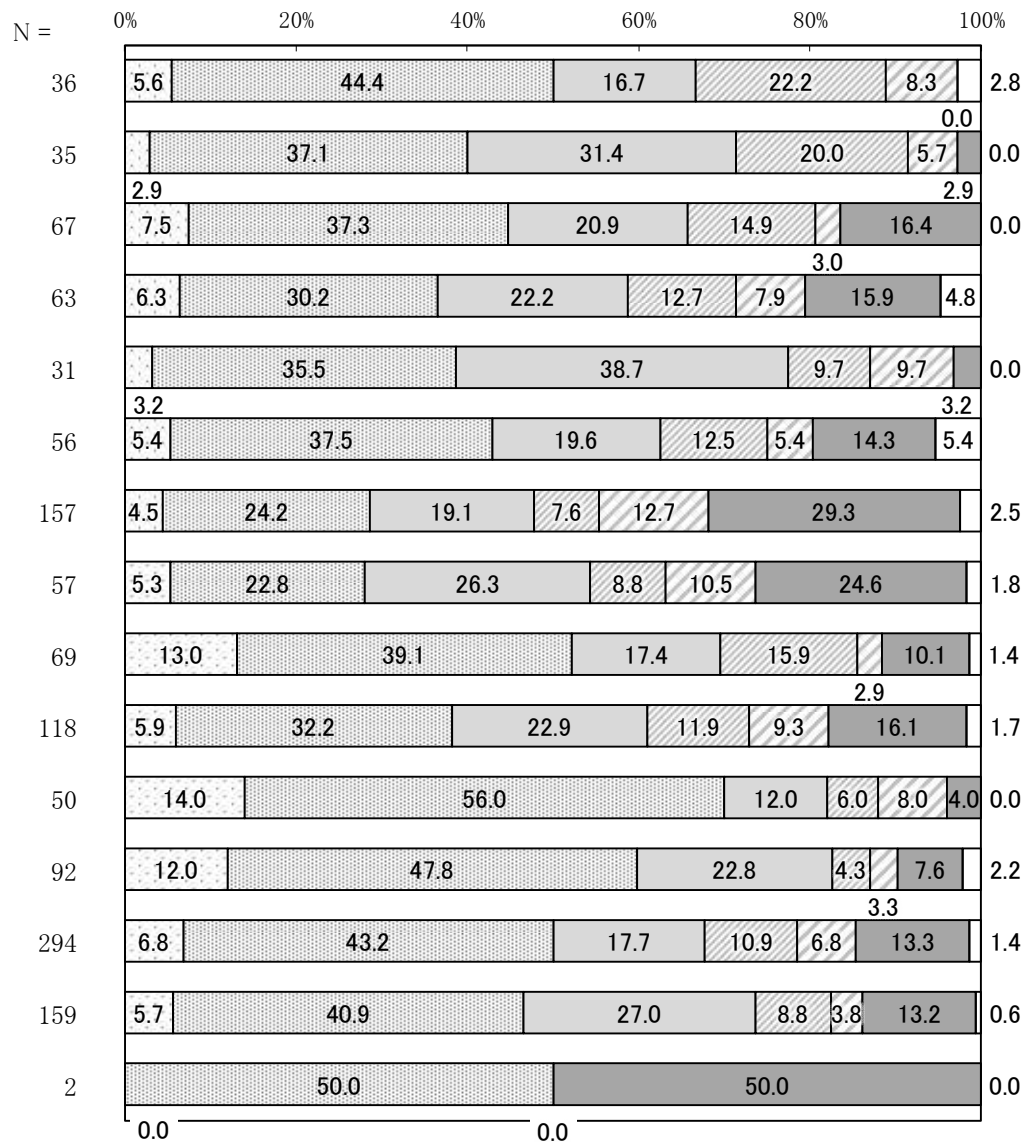
【性別】



【年代別】



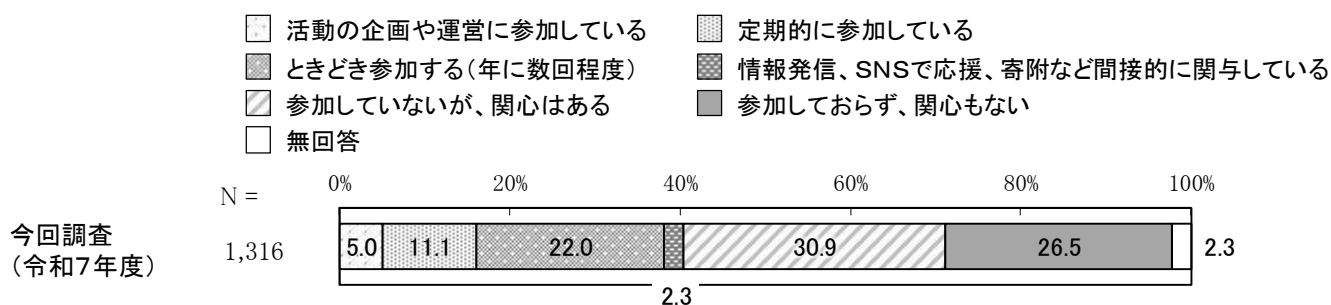
【居住地区別】



問 47 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

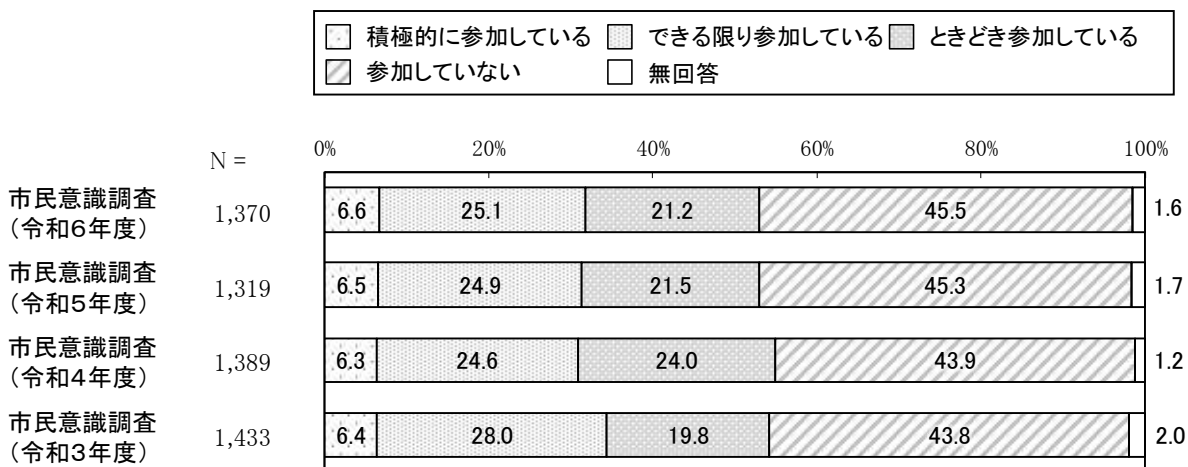
4割が活動に参加、関心がある人も加えると7割に

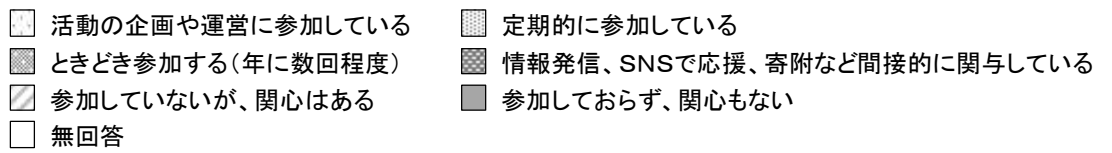
- ・ 地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加頻度については、参加している人が40.4%と4割で、その内訳は、回答が多い順に「ときどき参加する(年に数回程度)」が22.0%、「定期的に参加している」が11.1%、「活動の企画や運営に参加している」が5.0%、「情報発信、SNSで応援、寄附など間接的に関与している」が2.3%で、2割近くの人が定期的な参加や活動の企画・運営への参加など積極的に関与しています。
- ・ 一方、57.4%の人が参加しておらず、その内訳は「参加していないが、関心はある」が30.9%、「参加しておらず、関心もない」が26.5%となっています。
- ・ 参加している人に、現在は参加していないものの関心がある3割を加えると、7割が関心をもっていることになります。
- ・ 性別では男性で、年代別では60歳以上でそれぞれ半数近く、居住地区別では愛東地区、湖東地区、建部地区、平田地区で参加している人が半数以上見られます。
- ・ また、参加していない人の割合は、性別では女性で6割、年代別では20歳代で9割、居住地区別では八日市地区で7割と多くなっています。



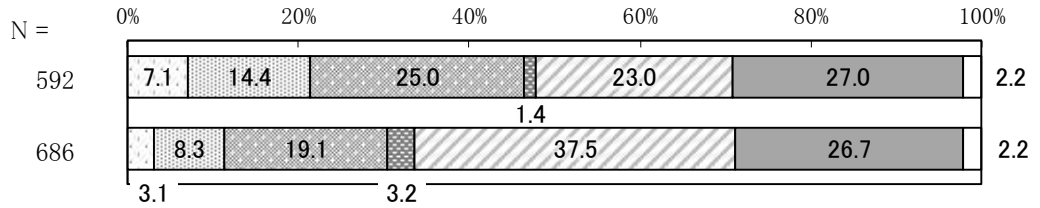
※今年度から選択肢を大きく変更したため、単純比較はできない。

参考：令和6年度までの選択肢と調査結果

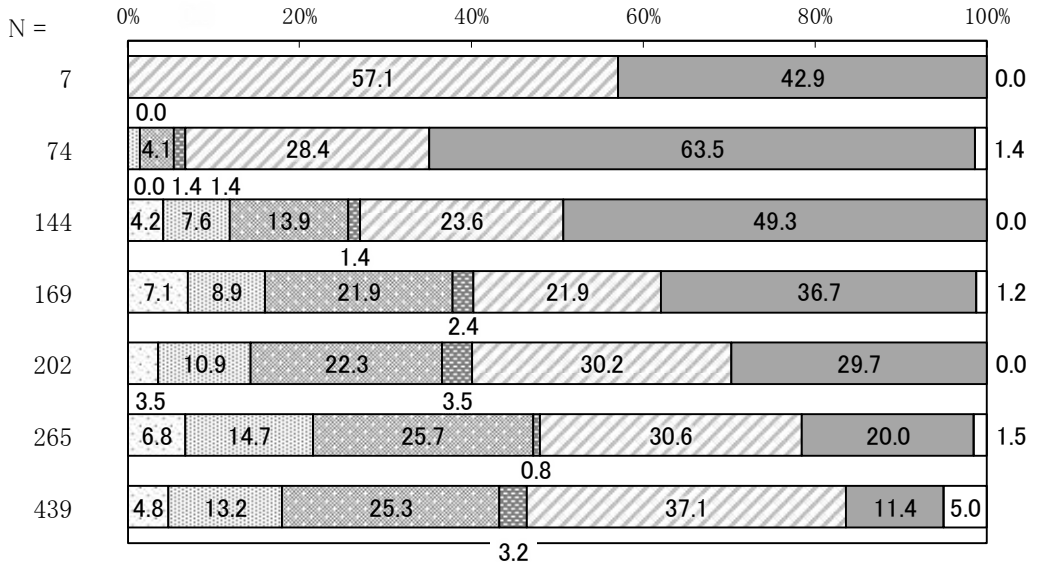




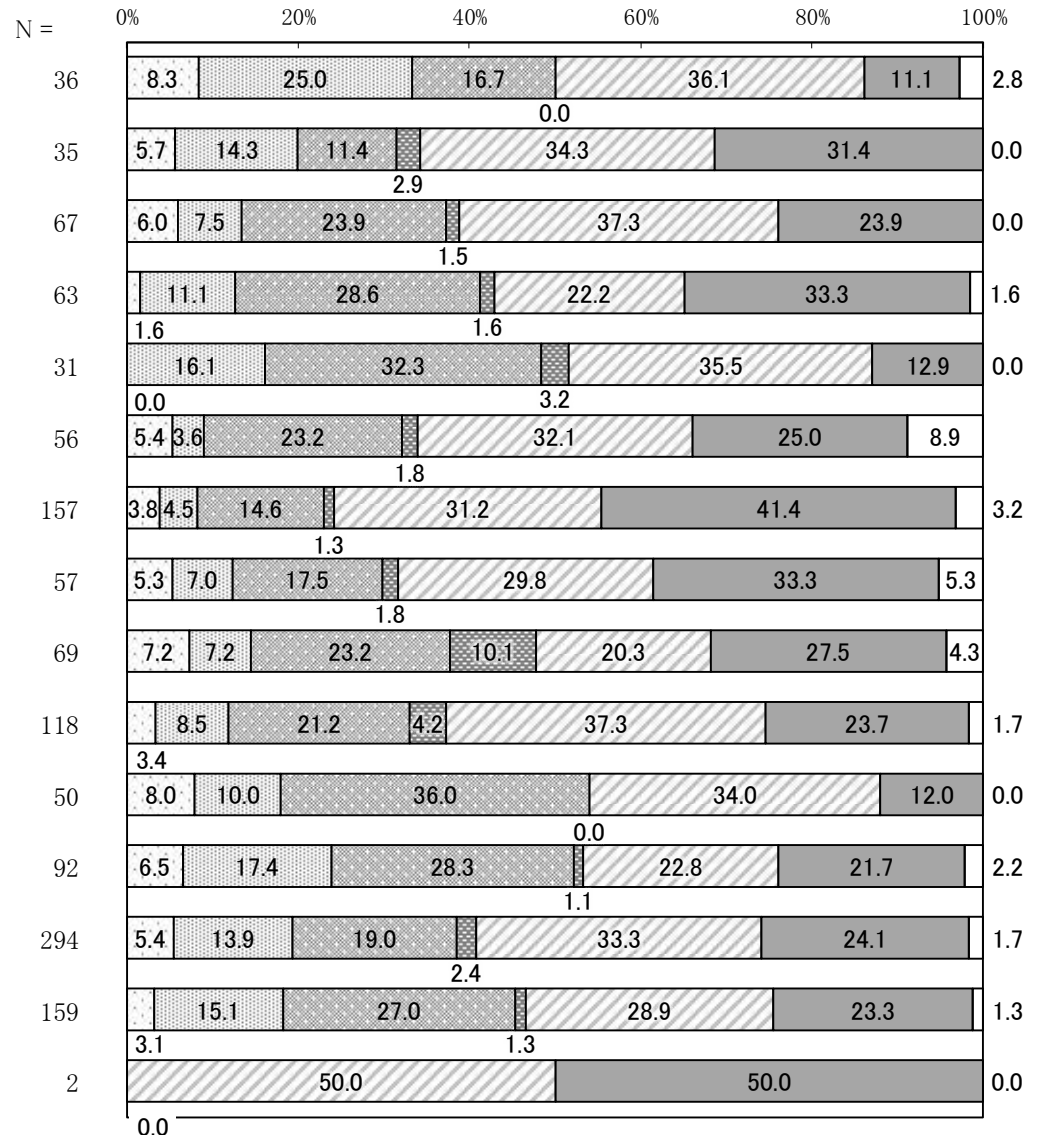
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

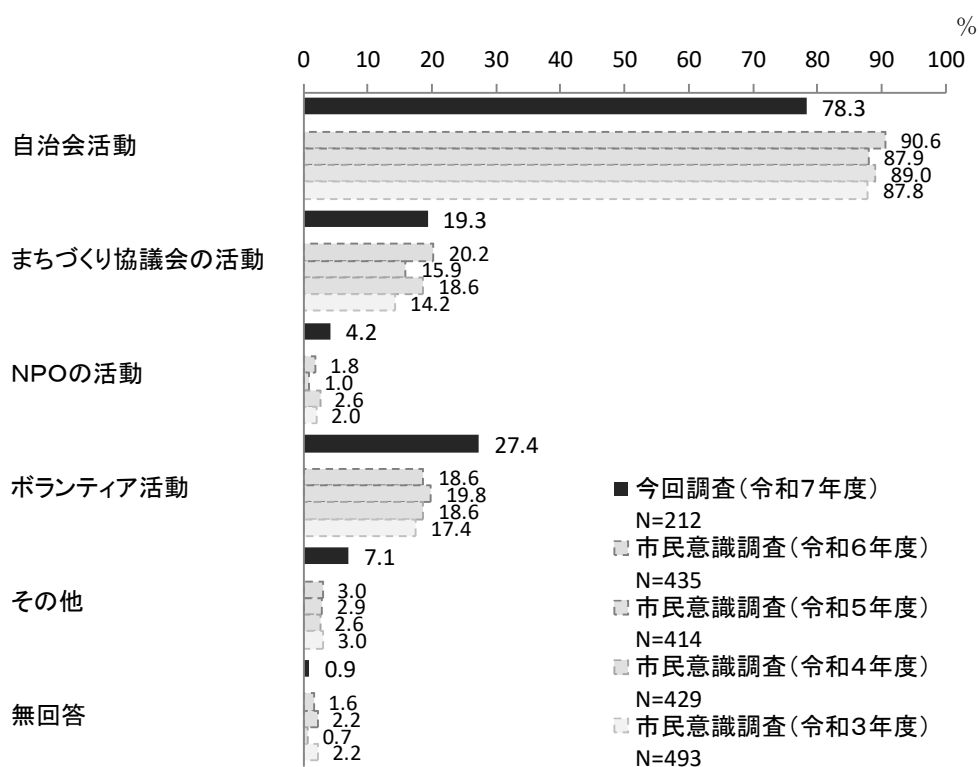


問 47-1 問 47 で「1. 活動の企画や運営に参加している」「2. 定期的に参加している」とお答えの方におたずねします。

この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

8割近くが自治会活動、3割近くがボランティア活動に参加

- ・ この1年間にどのような活動に参加したかについては、「自治会活動」が78.3%と最も多く、次いで「ボランティア活動」が27.4%、「まちづくり協議会の活動」が19.3%となっています。
- ・ 性別、年代別、中野地区を除いた居住地区別のいずれも「自治会活動」が最も多くあげられています（20歳代は有効回答数が1なので、評価対象外）。中野地区は、「まちづくり協議会の活動」が最も多くなっています。
- ・ そのほか、性別では、女性で「ボランティア活動」が男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、サンプル数が少ないため単純比較はできませんが、70歳以上で「ボランティア活動」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、中野地区、御園地区で「ボランティア活動」がほかの地区より多くあげられています。



※今年度から、問 47 の選択肢を大幅に変更したことにより本設問の結果を単純比較できないため、参考値として令和6年度以前の結果を掲載している。

【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
男性	127	82.7	17.3	3.1	17.3	7.9	1.6
女性	78	74.4	23.1	6.4	41.0	6.4	0.0

【年代別】

※20歳代は、有効回答数が1のため最大値を網掛けしていない。 単位:%

区分	有効回答数(件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
10歳代	0	-	-	-	-	-	-
20歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	17	82.4	5.9	0.0	5.9	11.8	0.0
40歳代	27	81.5	7.4	11.1	7.4	7.4	0.0
50歳代	29	86.2	24.1	3.4	6.9	6.9	3.4
60歳代	57	93.0	17.5	1.8	26.3	5.3	0.0
70歳以上	79	64.6	26.6	5.1	45.6	7.6	1.3

【居住地区別】

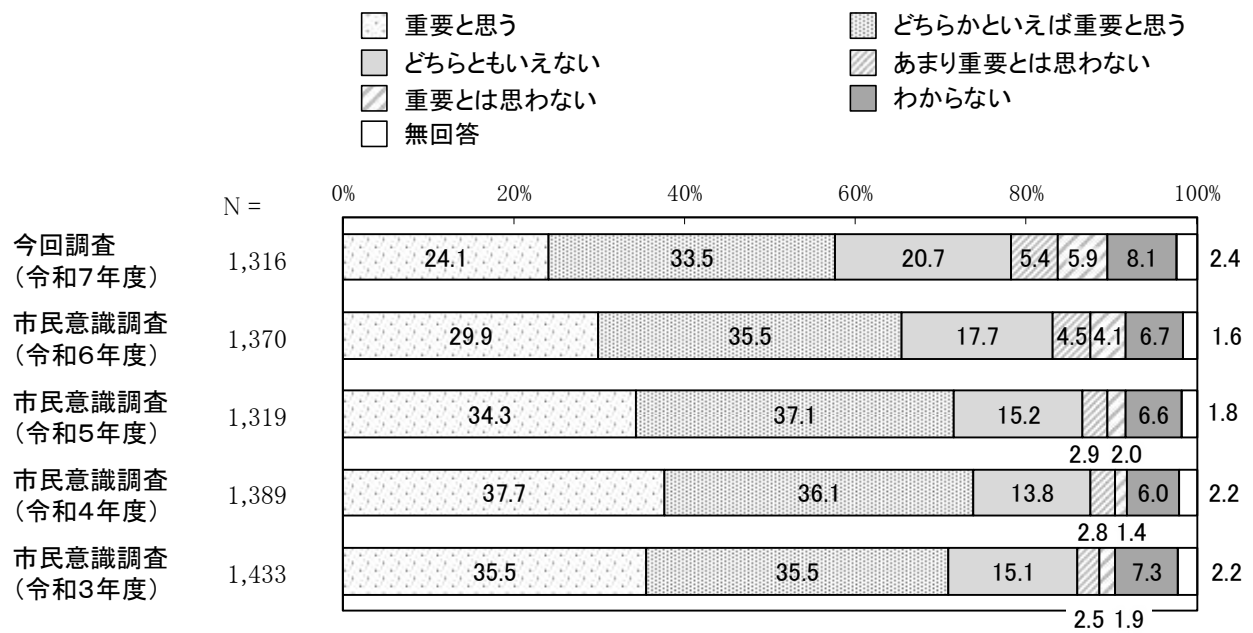
単位:%

区分	有効回答数(件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
平田地区	12	66.7	25.0	0.0	33.3	8.3	0.0
市辺地区	7	100.0	42.9	14.3	28.6	0.0	0.0
玉緒地区	9	77.8	22.2	0.0	33.3	0.0	0.0
御園地区	8	100.0	25.0	0.0	37.5	0.0	0.0
建部地区	5	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中野地区	5	40.0	60.0	0.0	40.0	20.0	0.0
八日市地区	13	84.6	15.4	7.7	15.4	7.7	0.0
南部地区	7	85.7	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0
永源寺地区	10	90.0	30.0	0.0	20.0	10.0	0.0
五個荘地区	14	85.7	14.3	0.0	28.6	7.1	0.0
愛東地区	9	88.9	33.3	11.1	33.3	0.0	11.1
湖東地区	22	72.7	22.7	9.1	27.3	0.0	0.0
能登川地区	57	75.4	10.5	5.3	33.3	12.3	1.8
蒲生地区	29	79.3	24.1	0.0	13.8	6.9	0.0
わからない	0	-	-	-	-	-	-

問 48 あなたは、国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現についてどう思いますか。《○1つ》

6割近くが重要だと思っている

- ・ 国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現については、「重要と思う」が24.1%、「どちらかといえば重要と思う」が33.5%で、これらを合わせると57.6%となり、6割近くの人が重要だと思っています。
- ・ 過去の調査と比較すると、重要と思う（「重要と思う」と「どちらかといえば重要と思う」の合計）と回答した人の割合が令和4年度をピークに減少傾向にあり、重要とは思わない（「あまり重要とは思わない」と「重要とは思わない」の合計）の割合は、変動はあるものの増加傾向にあります。
- ・ 性別では女性で、年代別では40歳代で重要と思う（前述）と回答した人の割合が高くなっています。一方、性別では男性、年代別では30歳代までで重要とは思わない（前述）と回答した人の割合がほかと比べて高くなっています。
- ・ 居住地区別では、重要と思う（前述）と回答した人の割合が、建部地区で7割近くとなっています。

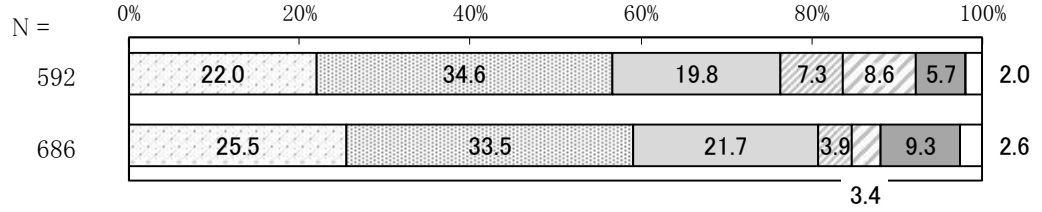


	重要と思う*	重要とは思わない*	差
①今回調査(令和7年度)	57.6	11.3	46.3
②市民意識調査(令和6年度)	65.4	8.6	56.8
③市民意識調査(令和5年度)	71.4	4.0	66.5
④市民意識調査(令和4年度)	73.8	4.2	69.6
⑤市民意識調査(令和3年度)	71.0	4.4	66.6
①-⑤	-13.4	6.9	-20.3

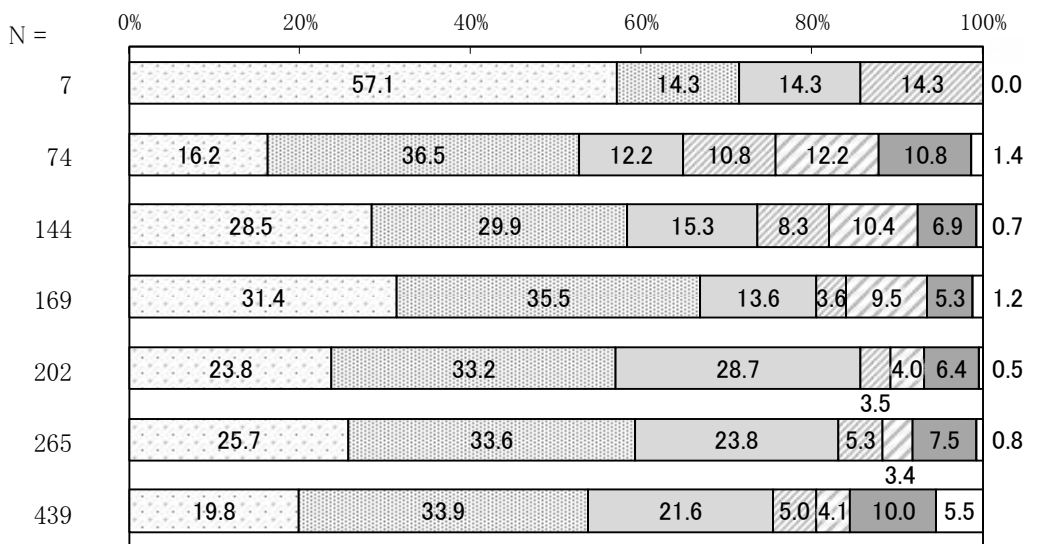
* 重要と思う:「重要と思う」と「どちらかといえば重要と思う」の合計
 * 重要とは思わない:「あまり重要とは思わない」と「重要とは思わない」の合計

- 重要と思う
- どちらともいえない
- 重要とは思わない
- 無回答
- どちらかといえば重要と思う
- あまり重要とは思わない
- わからない

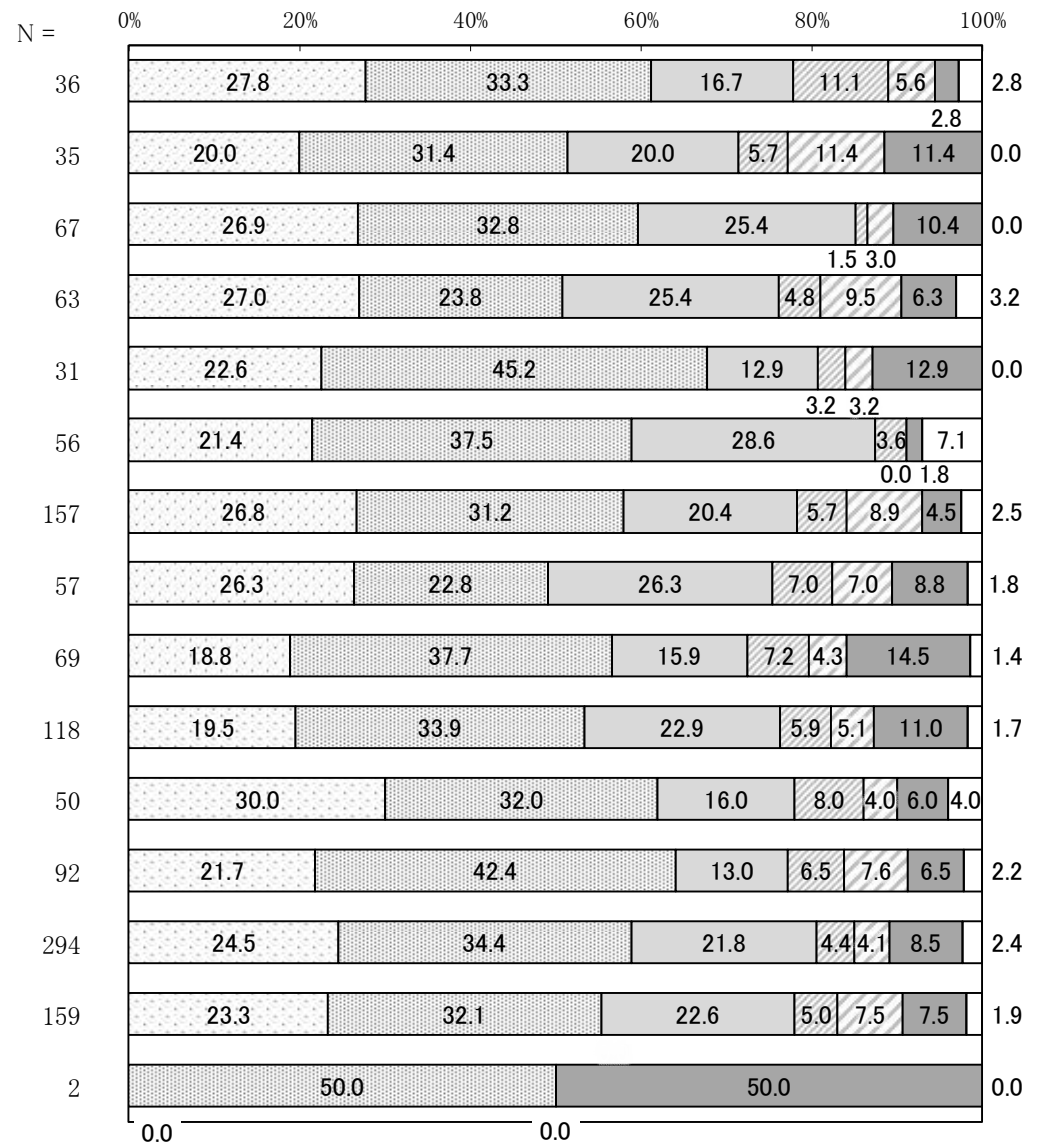
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

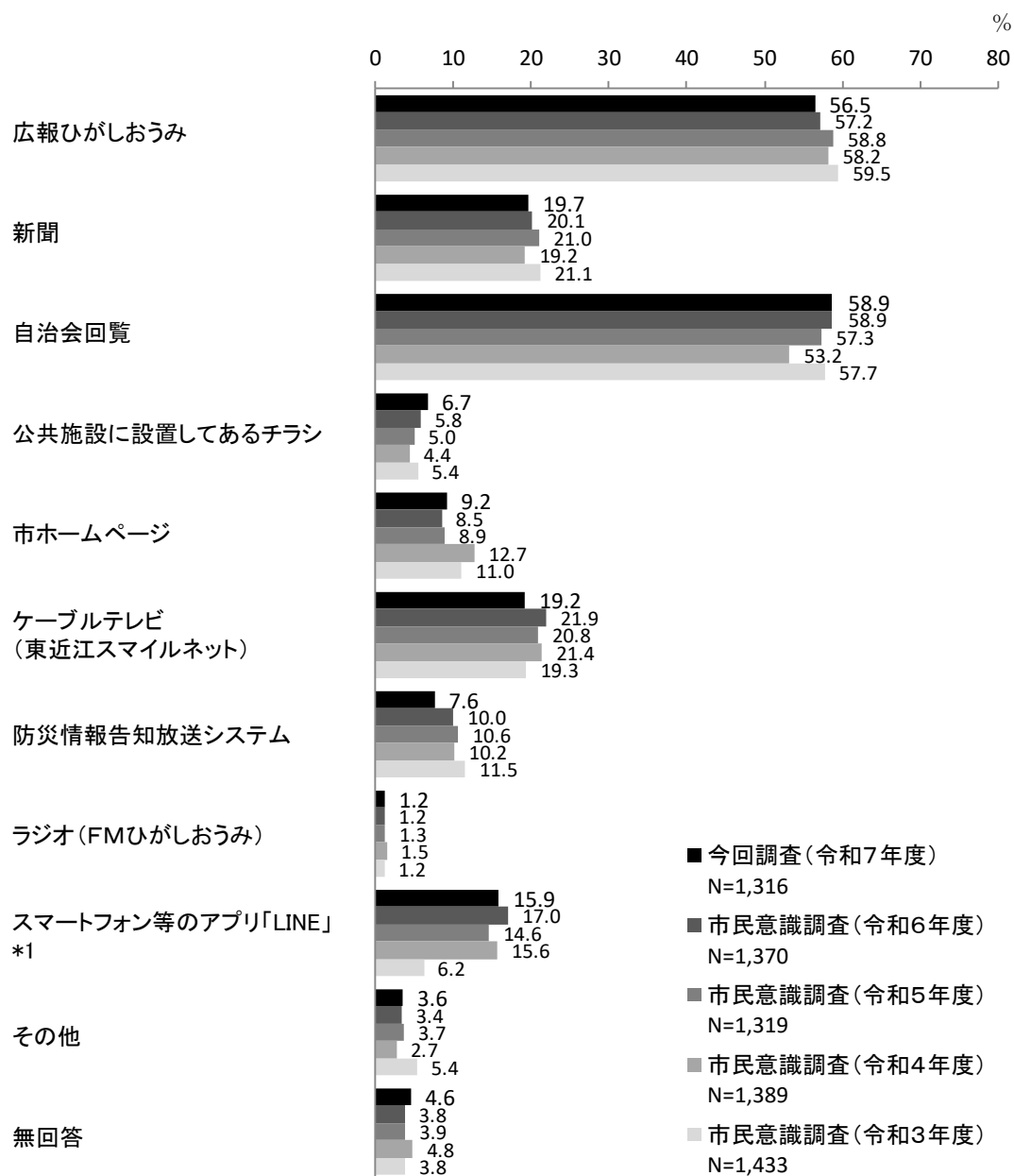


(9) 広報等の情報について

問 49 あなたは、市の情報（お知らせ）を主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

6割近くが「自治会回覧」や「広報ひがしおうみ」で市の情報を取得

- ・ 市の情報（お知らせ）の主な取得方法については、「自治会回覧」が58.9%と最も多く、次いで「広報ひがしおうみ」が56.5%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、「広報ひがしおうみ」の割合は減少傾向にあり、「自治会回覧」の割合は令和4年度以降増加傾向にあります。
- ・ 性別では、男女ともに「自治会回覧」が最も多くなっています。また、女性で「広報ひがしおうみ」や「スマートフォン等のアプリ「LINE」」をあげる人の割合が男性より高くなっています。
- ・ 年代別では、20歳代で「スマートフォン等のアプリ「LINE」」が、そのほかの年代で「自治会回覧」が最も多くあげられています。そのほか、「新聞」が70歳以上で、「市ホームページ」が20～30歳代で、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」が60歳以上でほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、建部地区、中野地区、永源寺地区、八日市地区は「広報ひがしおうみ」が、そのほかの地区では「自治会回覧」が最も多くあげられています。建部地区では「自治会回覧」も同率で最も多くあげられています。そのほか、建部地区、中野地区で「新聞」が、永源寺地区、愛東地区で「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」が、八日市地区で「スマートフォン等のアプリ「LINE」」がほかの地区より多くあげられています。



【性別】 *この設問の表については、選択数である上位3つまでの回答も薄く網掛けしています。

単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	ケーブルテレビ(東近江スマイルネット)	防災情報告知放送システム	ラジオ(FMひがしおうみ)	スマートフォン等のアプリ	その他	無回答
男性	592	53.0	19.9	56.9	6.3	9.5	21.5	7.3	2.4	13.2	3.7	4.7
女性	686	59.5	19.8	60.8	6.7	9.5	18.1	8.0	0.1	18.5	3.2	4.2

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	ケーブルテレビ(東近江スマイルネット)	防災情報告知放送システム	ラジオ(FMひがしおうみ)	スマートフォン等のアプリ	その他	無回答
10歳代	7	28.6	28.6	71.4	0.0	14.3	42.9	14.3	14.3	71.4	0.0	0.0
20歳代	74	21.6	13.5	23.0	14.9	20.3	16.2	9.5	2.7	39.2	12.2	4.1
30歳代	144	38.2	6.3	43.8	9.0	18.1	13.9	5.6	1.4	29.9	9.7	3.5
40歳代	169	46.7	8.3	52.1	8.3	11.2	12.4	9.5	1.2	18.9	8.9	5.9
50歳代	202	56.4	14.9	62.4	8.4	13.4	19.3	14.4	0.5	24.3	2.5	4.5
60歳代	265	63.0	21.5	85.3	6.0	9.1	44.5	11.7	2.6	14.7	1.1	3.4
70歳以上	439	69.2	30.8	82.2	8.4	8.7	42.6	13.4	2.1	27.3	1.8	5.2

【居住地区別】 ※「わからない」は、有効回答数が2件のため、上位3つまでの網掛けをしていない。

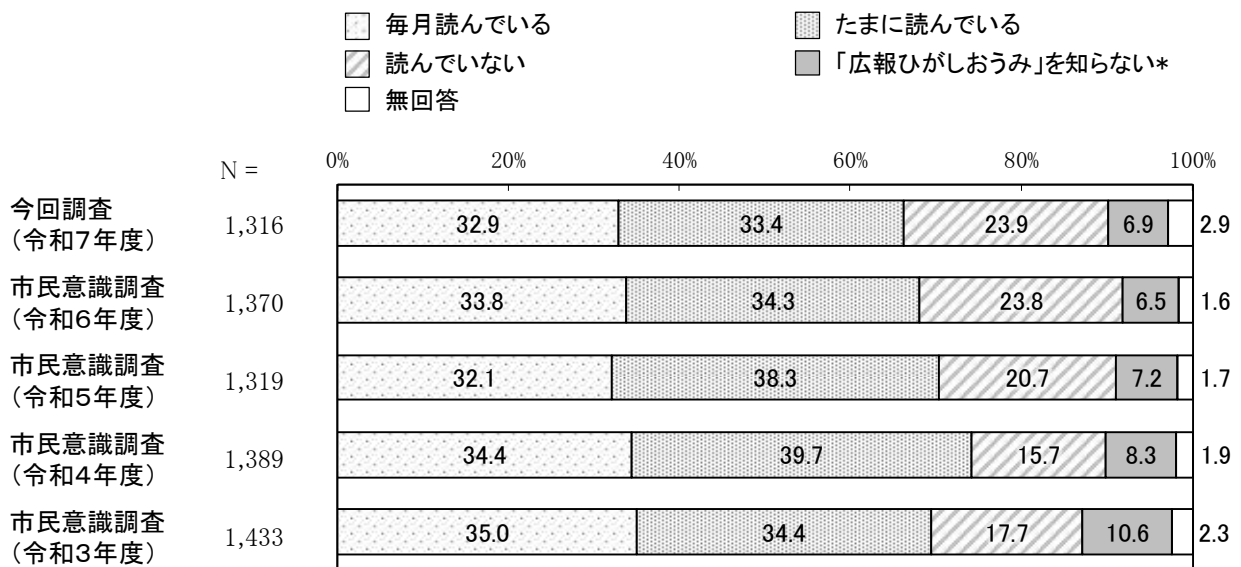
単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	ケーブルテレビ(東近江スマイルネット)	防災情報告知放送システム	ラジオ(FMひがしおうみ)	スマートフォン等のアプリ	その他	無回答
平田地区	36	69.4	22.2	77.8	5.6	13.9	33.3	5.6	0.0	11.1	0.0	2.8
市辺地区	35	60.0	22.9	62.9	5.7	11.4	31.4	11.4	0.0	17.1	2.9	0.0
玉緒地区	67	55.2	19.4	70.1	4.5	9.0	23.9	4.5	1.5	14.9	3.0	0.0
御園地区	63	58.7	22.2	61.9	3.2	11.1	12.7	9.5	0.0	17.5	4.8	6.3
建部地区	31	58.1	32.3	58.1	3.2	9.7	19.4	6.5	3.2	9.7	0.0	9.7
中野地区	56	53.6	32.1	48.2	7.1	8.9	21.4	3.6	1.8	17.9	3.6	8.9
八日市地区	157	42.7	14.0	37.6	8.3	8.3	7.0	11.5	1.9	22.9	5.7	8.9
南部地区	57	50.9	26.3	52.6	15.8	15.8	14.0	3.5	0.0	12.3	5.3	3.5
永源寺地区	69	53.6	17.4	49.3	7.2	13.0	42.0	7.2	2.9	7.2	1.4	1.4
五個荘地区	118	56.8	16.9	66.9	5.9	6.8	22.0	5.9	0.8	12.7	3.4	4.2
愛東地区	50	66.0	16.0	58.0	4.0	12.0	38.0	12.0	2.0	6.0	0.0	6.0
湖東地区	92	62.0	19.6	65.2	5.4	12.0	31.5	6.5	1.1	16.3	2.2	2.2
能登川地区	294	60.2	19.0	61.9	6.8	6.8	14.3	8.5	1.0	19.4	3.4	3.7
蒲生地区	159	61.6	20.1	66.0	6.3	6.9	11.9	7.5	0.6	15.1	5.0	3.8
わからない	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

問 50 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

7割近くが広報紙を読んでおり、3割は「毎月読んでいる」

- ・ 「広報ひがしおうみ」については、「たまに読んでいる」が33.4%と最も多く、「毎月読んでいる」の32.9%と合わせると66.3%となり、7割近くの人を読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が23.9%、「「広報ひがしおうみ」を知らない」が6.9%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、広報ひがしおうみを読んでいる人（「毎月読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計）の割合は令和4年度をピークに減少傾向にあります。
- ・ 広報紙を「毎月読んでいる」人の割合は、性別では女性で7割近く、年代別では年齢が上がるほど高くなる傾向があり、70歳以上で8割近くとなっています。一方、30歳代までは「読んでいない」又は「「広報ひがしおうみ」を知らない」人が、読んでいる人（前述）より多く見られます。
- ・ 居住地区別では、広報紙を読んでいる人（前述）が、平田地区、建部地区、愛東地区で8割以上見られます。



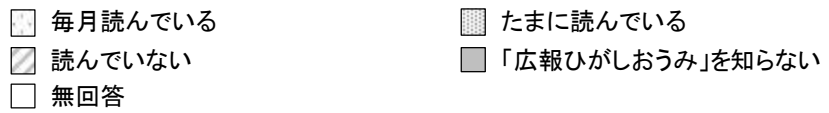
* 令和4年度までは「知らない」

単位：%

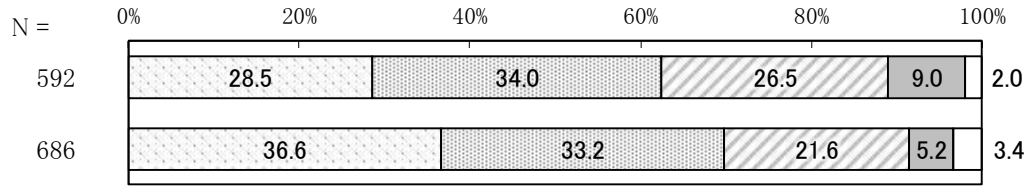
	読んでいる*	読んでいない・知らない*	差
①今回調査(令和7年度)	66.3	30.8	35.5
②市民意識調査(令和6年度)	68.1	30.3	37.8
③市民意識調査(令和5年度)	70.4	27.9	42.5
④市民意識調査(令和4年度)	74.1	24.0	50.1
⑤市民意識調査(令和3年度)	69.4	28.3	41.1
①-⑤	-3.1	2.5	-5.6

* 読んでいる:「毎月読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計

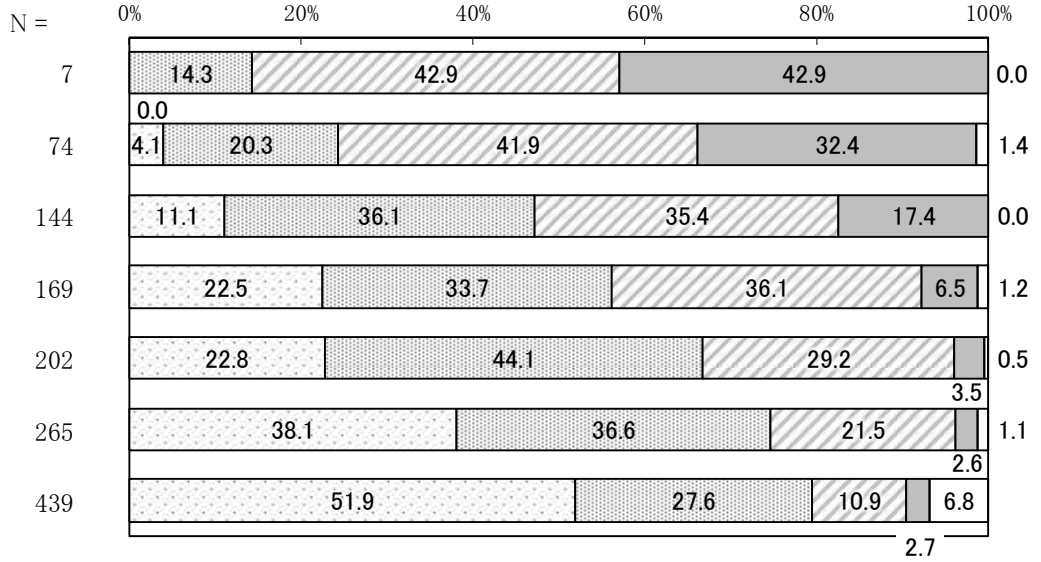
* 読んでいない・知らない:「読んでいない」と「「広報ひがしおうみ」を知らない」の合計



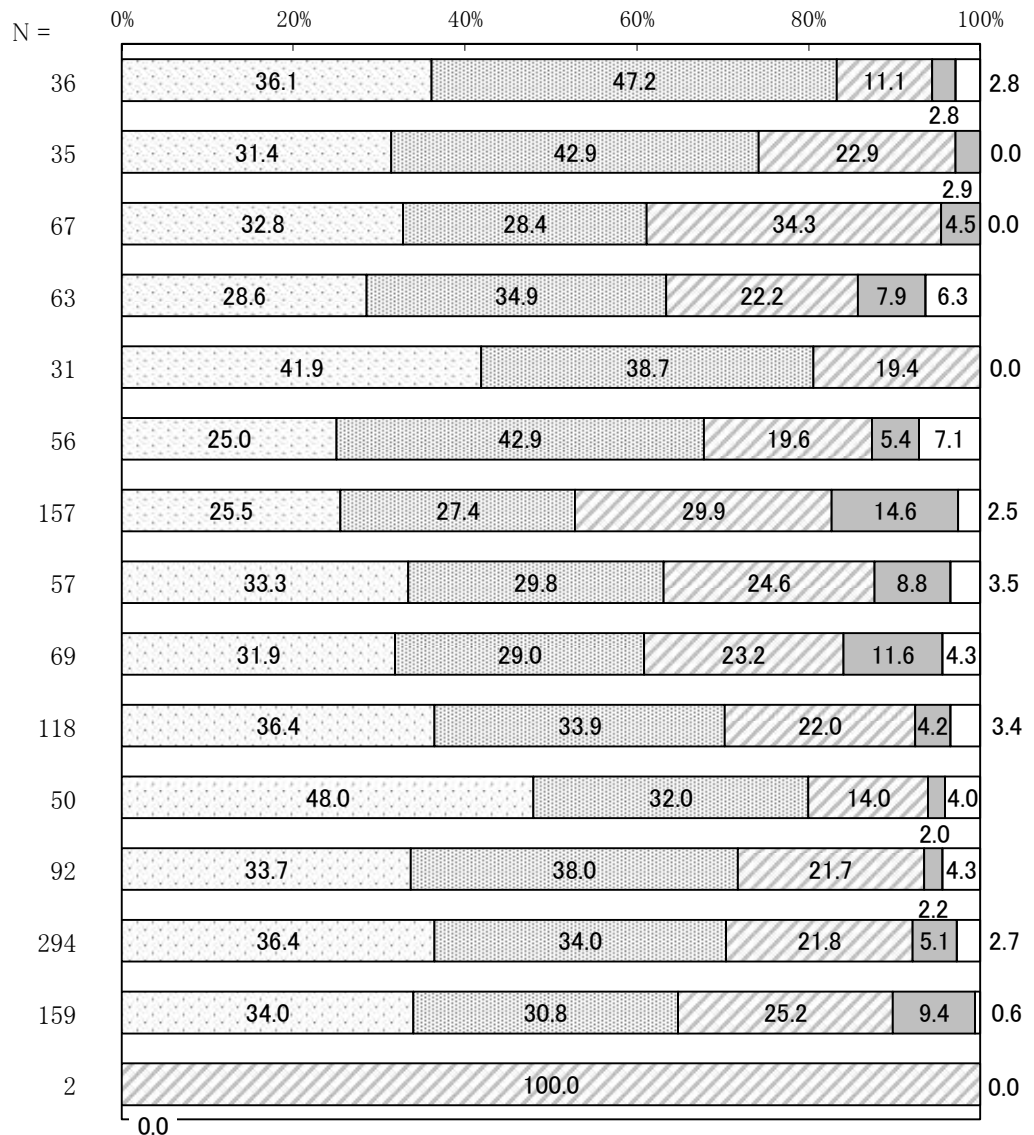
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

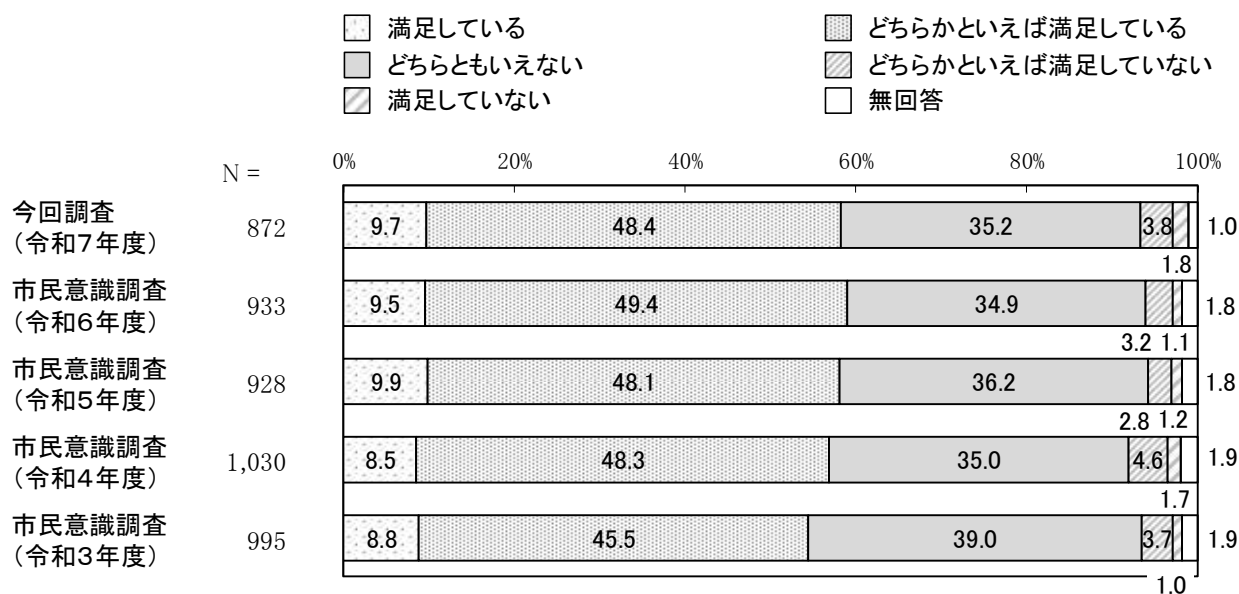


問 50-1 問 50 で「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方におたずねします。

あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

6割近くが満足、4割近くが「どちらともいえない」

- 「広報ひがしおうみ」の満足度について広報紙を読んでいる人に聞いたところ、「どちらかといえば満足している」が48.4%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が35.2%と続きます。満足している（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）が58.1%に対し、満足していない（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合は5.6%となっています。
- 過去の調査と比較すると、今年度やや減少したものの満足している人（前述）の割合は増加しています。
- 性別では女性で6割以上、年代別では20歳代で7割近く、居住地区別では玉緒地区で8割近くと、満足している人（前述）の割合がほかと比べ高くなっています。



単位：%

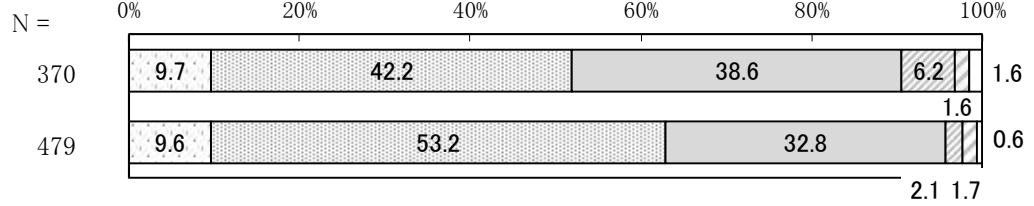
	満足*	不満*	差
①今回調査(令和7年度)	58.1	5.6	52.5
②市民意識調査(令和6年度)	58.9	4.3	54.6
③市民意識調査(令和5年度)	58.0	4.0	54.0
④市民意識調査(令和4年度)	56.8	6.3	50.5
⑤市民意識調査(令和3年度)	54.3	4.7	49.6
①-⑤	3.8	0.9	2.9

* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

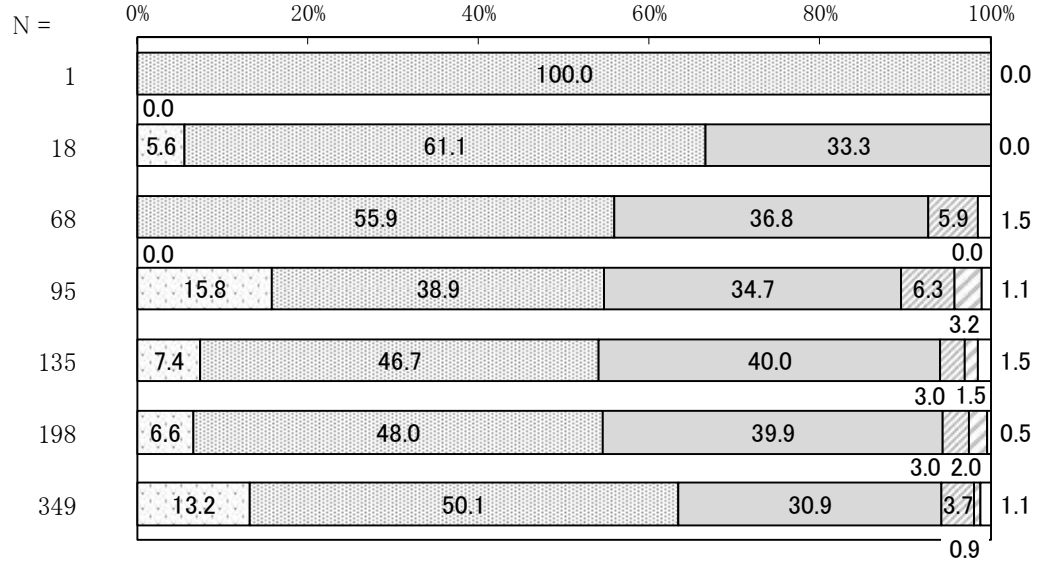
* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計



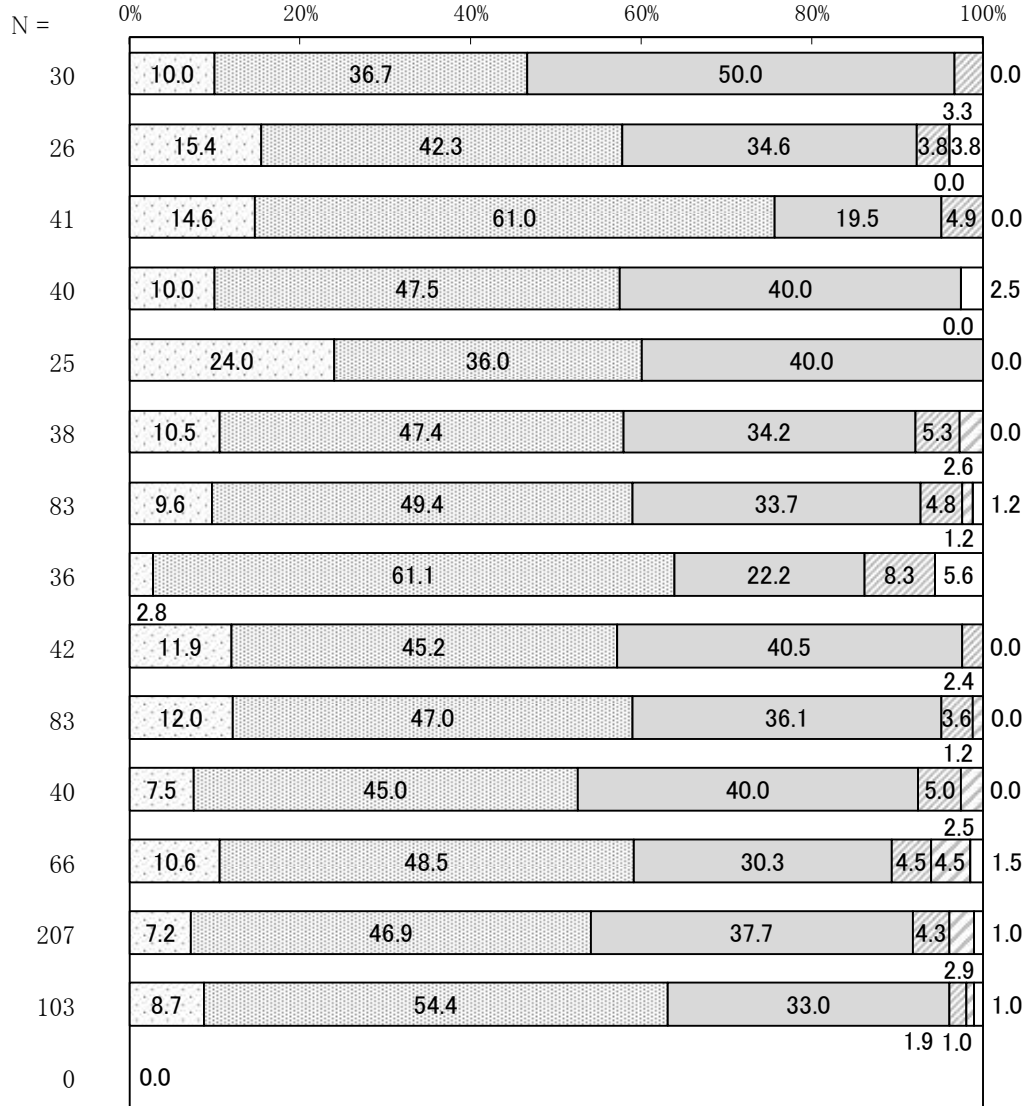
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



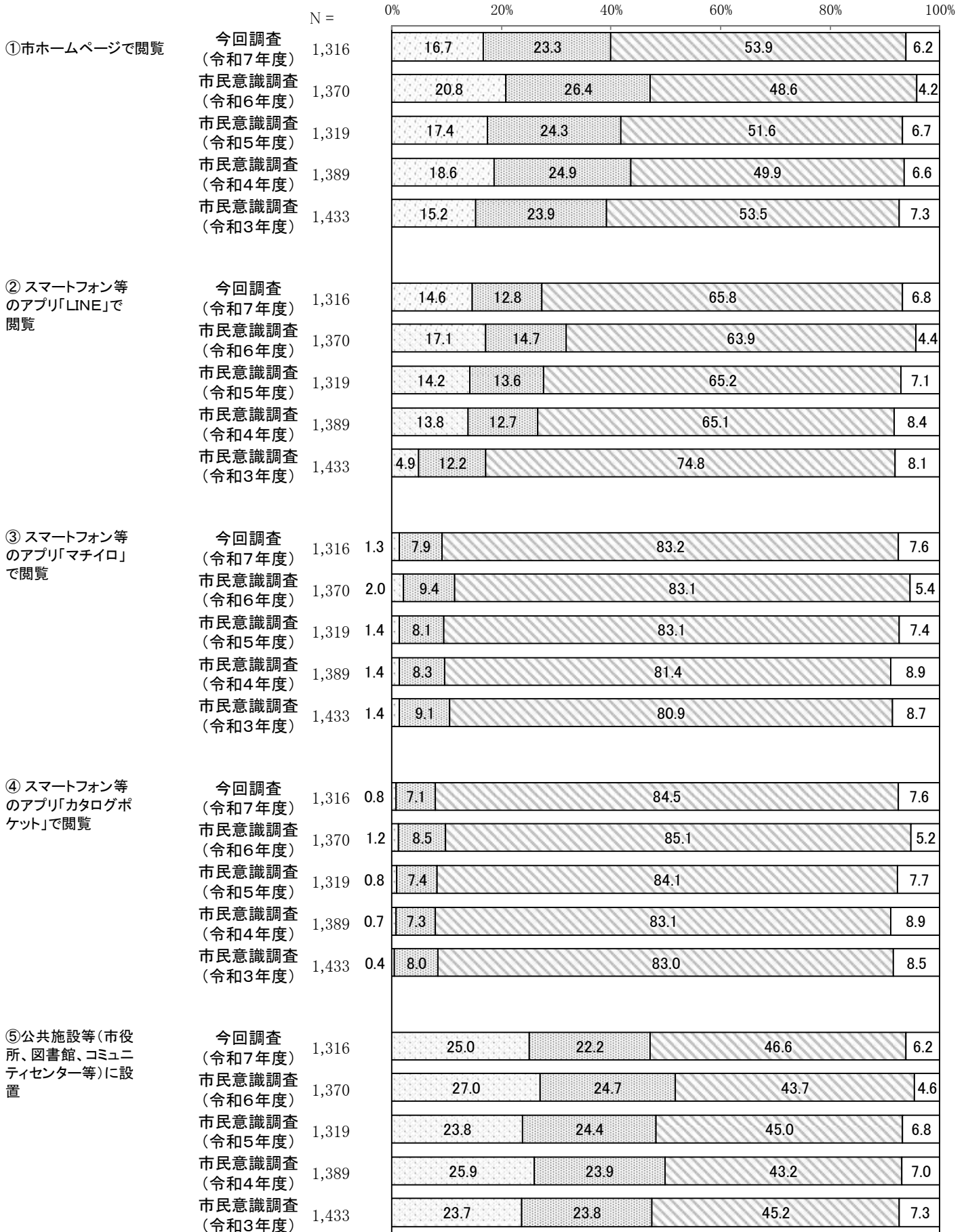
問 51 「広報ひがしおうみ」は、毎月新聞折込みによる配布のほかに次の方法で配信等を行っています。

あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《それぞれの項目に○1つ》

「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度は「公共施設等に設置」が最も高い

- ・ 「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度（「見たことがある」と「知っているが見たことはない」を合わせた割合）については、「⑤公共施設等に設置」が47.2%と最も高く、次いで「①市ホームページで閲覧」が40.0%、「②スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧」が27.4%となっています。一方、「③スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧」は9.2%、「④スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧」は7.9%で、1割前後と低くなっています。
- ・ 実際に「見たことがある」人が多かったのは、認知度と同様に「⑤公共施設等に設置」が25.0%、「①市ホームページで閲覧」が16.7%、「②スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧」が14.6%の順となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、今年度は低下したものの、この5年間で、おおむね「①市ホームページで閲覧」と「②スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧」の認知度（前述）は向上し、実際に「見たことがある」人の割合も増加傾向にあります。

見たことがある 知っているが見たことはない
 知らない 無回答



単位：％

		認知度*	知らない	差
①市ホームページで閲覧	今回調査(令和7年度)	40.0	53.9	-13.9
	市民意識調査(令和6年度)	47.2	48.6	-1.4
	市民意識調査(令和5年度)	41.7	51.6	-9.9
	市民意識調査(令和4年度)	43.5	49.9	-6.4
	市民意識調査(令和3年度)	39.1	53.5	-14.4
	差	0.9	0.4	0.5
②スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧	今回調査(令和7年度)	27.4	65.8	-38.4
	市民意識調査(令和6年度)	31.8	63.9	-32.1
	市民意識調査(令和5年度)	27.8	65.2	-37.4
	市民意識調査(令和4年度)	26.5	65.1	-38.6
	市民意識調査(令和3年度)	17.1	74.8	-57.7
	差	10.3	-9.0	19.3
③スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧	今回調査(令和7年度)	9.2	83.2	-74.0
	市民意識調査(令和6年度)	11.4	83.1	-71.7
	市民意識調査(令和5年度)	9.5	83.1	-73.6
	市民意識調査(令和4年度)	9.7	81.4	-71.7
	市民意識調査(令和3年度)	10.5	80.9	-70.4
	差	-1.3	2.3	-3.6
④スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧	今回調査(令和7年度)	7.9	84.5	-76.6
	市民意識調査(令和6年度)	9.7	85.1	-75.4
	市民意識調査(令和5年度)	8.2	84.1	-75.9
	市民意識調査(令和4年度)	8.0	83.1	-75.1
	市民意識調査(令和3年度)	8.4	83.0	-74.6
	差	-0.5	1.5	-2.0
⑤公共施設等(市役所、図書館、コミュニティセンター等)に設置	今回調査(令和7年度)	47.2	46.6	0.6
	市民意識調査(令和6年度)	51.7	43.7	8.0
	市民意識調査(令和5年度)	48.2	45.0	3.2
	市民意識調査(令和4年度)	49.8	43.2	6.6
	市民意識調査(令和3年度)	47.5	45.2	2.3
	差	-0.3	1.4	-1.7

* 認知度:「見たことがある」「知っているが見たことはない」の合計

① 市ホームページで閲覧

- ・ 性別では、男性で「知らない」と回答した人の割合が女性より高くなっています。
- ・ 年代別では、60歳代までで年齢が上がるほどで認知度(前述)が高く、50～60歳代で半数近くとなっています。また、60歳代を除いてすべての年代で、知らない人が知っている人より多くなっています。実際に見たことがある人の割合は、20歳代と40歳代を除いて2割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区で認知度(前述)が半数と高くなっています。一方、八日市地区で知らない人が6割以上とほかの地区より高くなっています。実際に見たことがある人の割合は、愛東地区で3割と高くなっています。

② スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧

- ・ 性別では、男女いずれも知らない人が知っている人より多く、認知度（前述）は男性より女性で高くなっています。
- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多く、認知度（前述）は特に20歳代と70歳以上で2割と低くなっています。実際に見たことがある人の割合は、30～60歳代で2割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で知らない人が知っている人より多く、特に市辺地区、南部地区、玉緒地区で知らない人が7割以上となっています。認知度（前述）は、平田地区で4割と高くなっています。また、実際に見たことがある人の割合は、御園地区で2割以上となっています。

③ スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧

- ・ 性別では、男女いずれも知らない人が知っている人より多く、「知らない」と回答した人の割合が女性より男性で高くなっています。
- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多くなっています。認知度（前述）は、60歳以上で1割を超えるも、ほかの年代は1割未満となっています。実際に見たことがある人の割合はすべての年代で1割未満となっています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で知らない人が知っている人より多くなっています。認知度（前述）は、平田地区で2割近くとほかの地区と比べて高くなっています。

④ スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧

- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多くなっています。認知度（前述）は、70歳以上で1割を超えるも、ほかの年代は1割未満となっています。実際に見たことがある人の割合はすべての年代で1割未満となっています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で知らない人が知っている人より多くなっています。認知度（前述）は、平田地区で2割近くとほかの地区と比べてやや高くなっています。

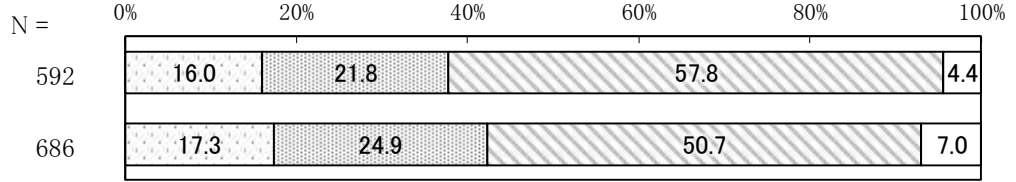
⑤ 公共施設等（市役所、図書館、コミュニティセンター等）に設置

- ・ 性別では、認知度（前述）は男性より女性で高く半数を超えている一方、男性は知らない人が半数を超えています。
- ・ 年代別では、40歳以上で認知度（前述）が半数前後と高くなっています。また、30歳代までと60歳代は知らない人が知っている人より多くなっています。実際に見たことがある人の割合は、40歳代で3割以上と高くなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区で6割以上と、認知度（前述）が高くなっています。一方、玉緒地区、八日市地区、五個荘地区では知らない人が半数を超えています。実際に見たことがある人の割合は、南部地区で4割近くと高くなっています。

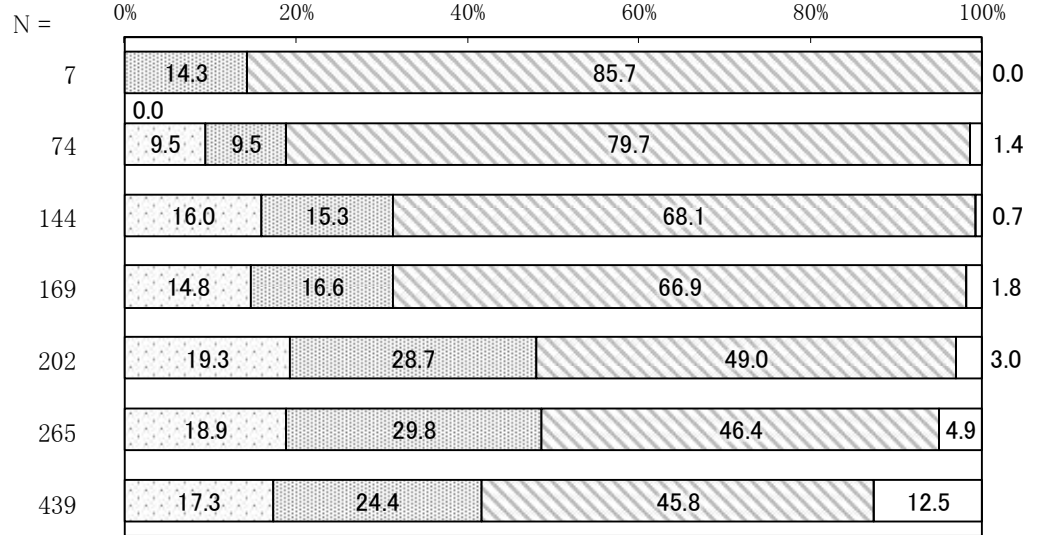
① 市ホームページで閲覧

見たことがある
 知っているが見たことはない
 知らない
 無回答

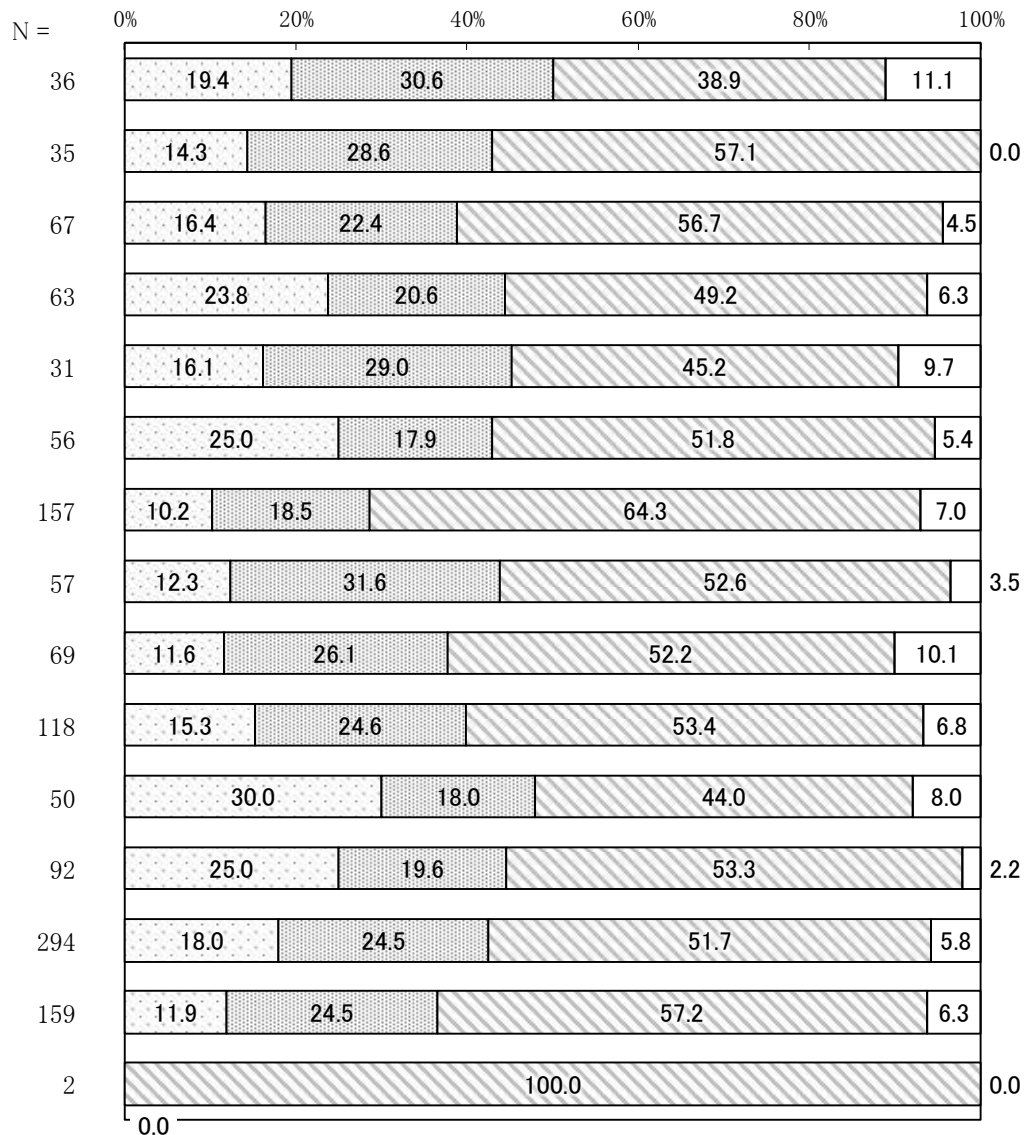
【性別】



【年代別】



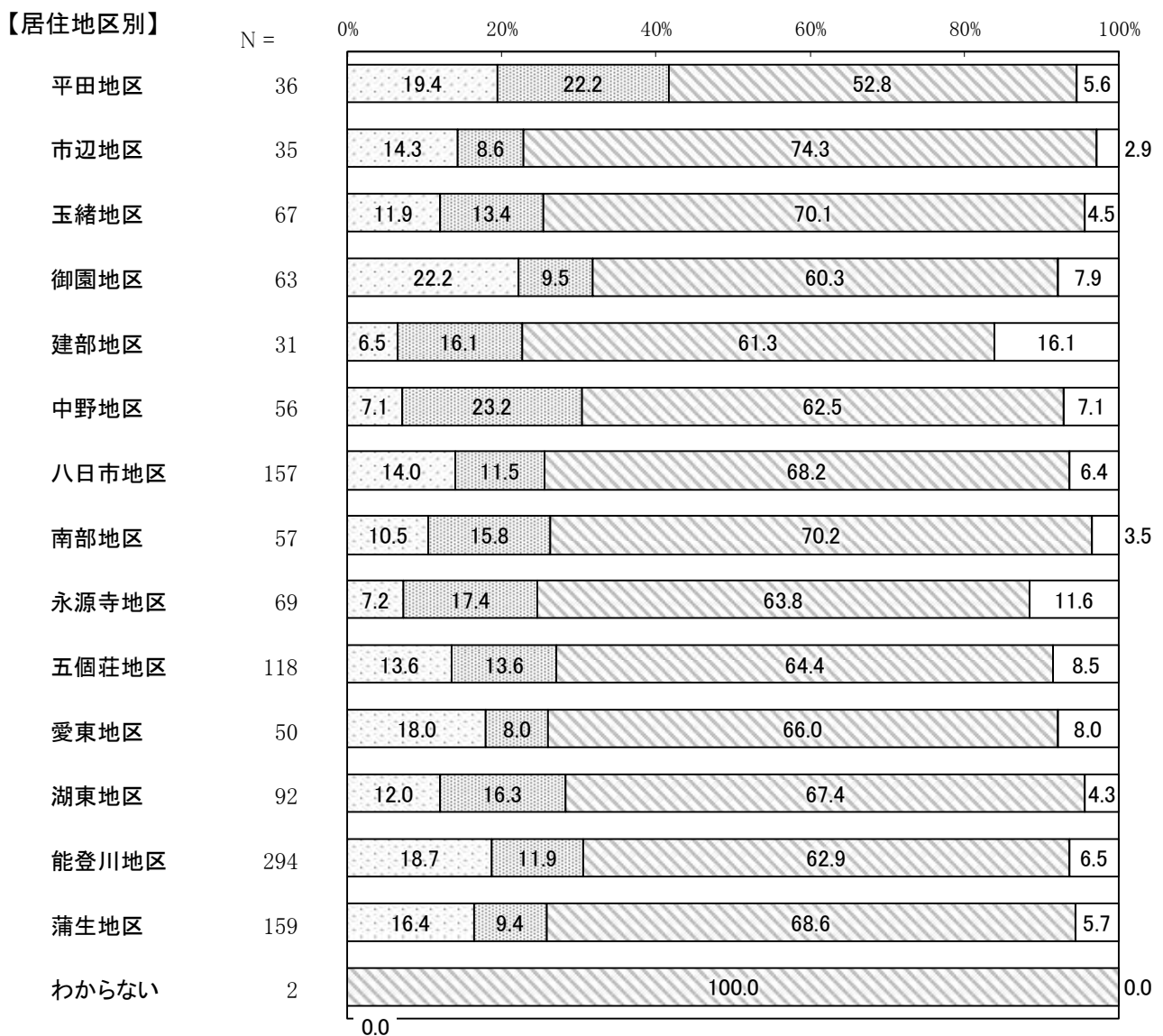
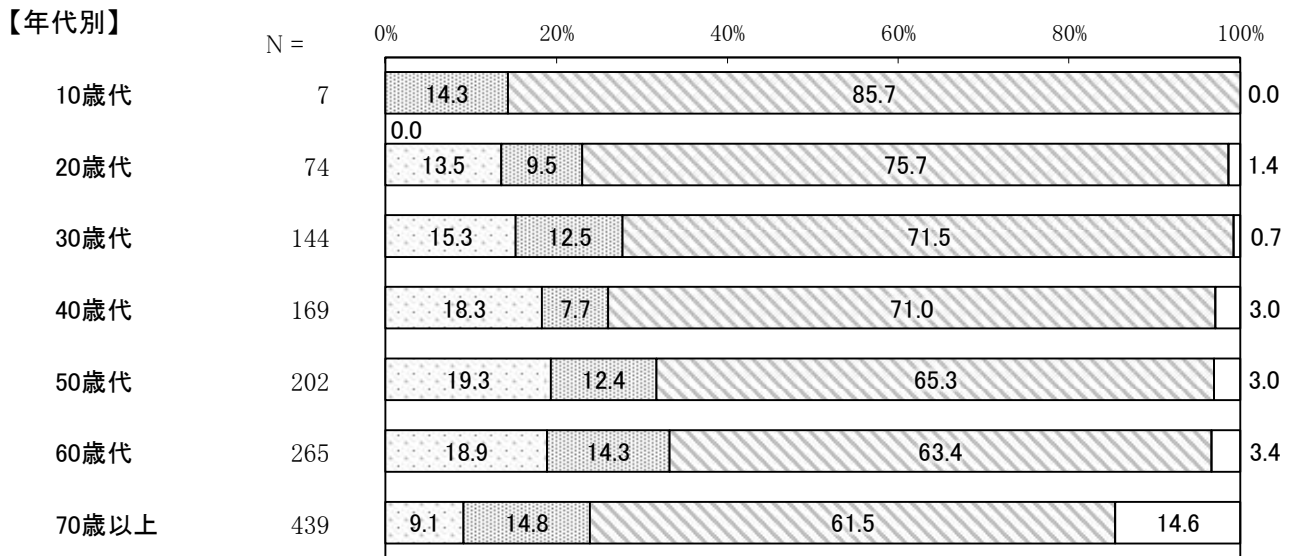
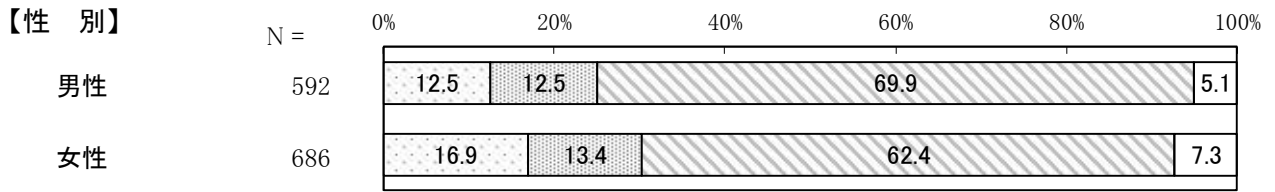
【居住地区別】



② スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧

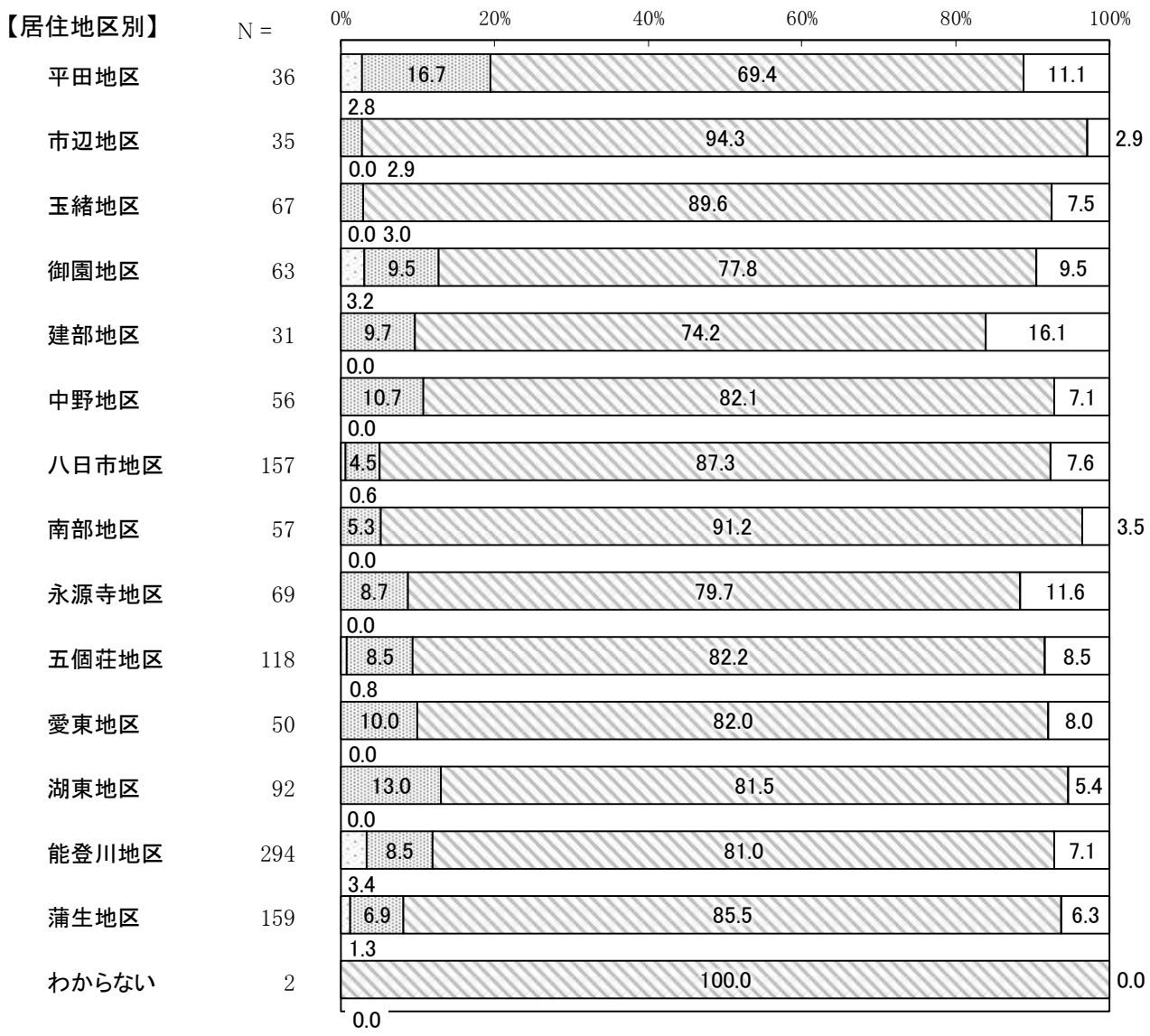
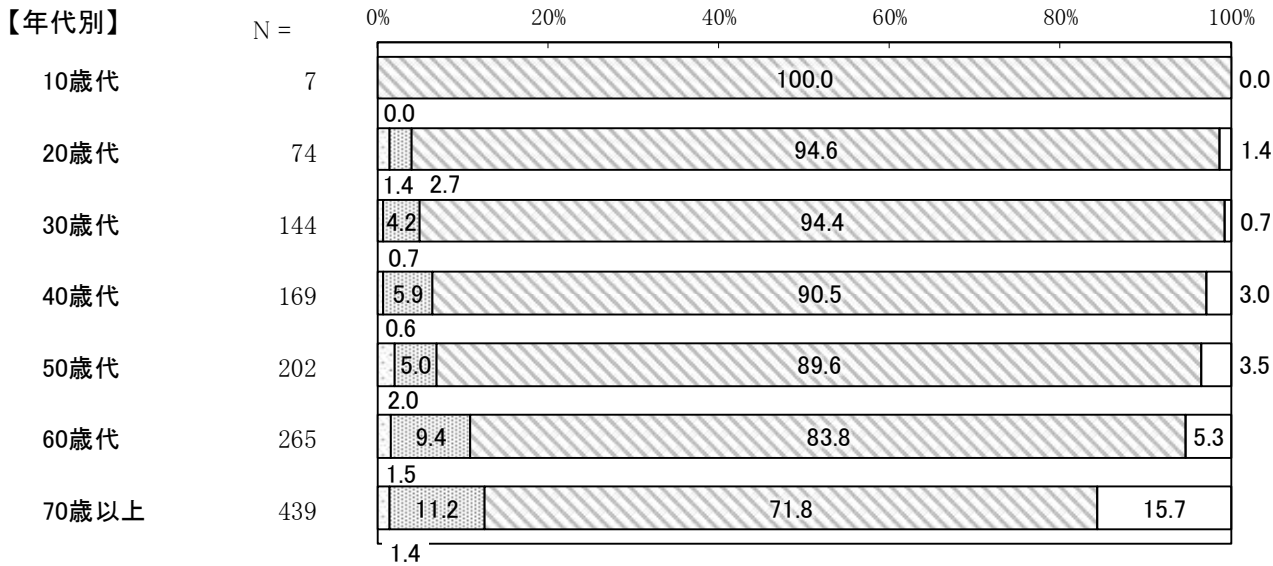
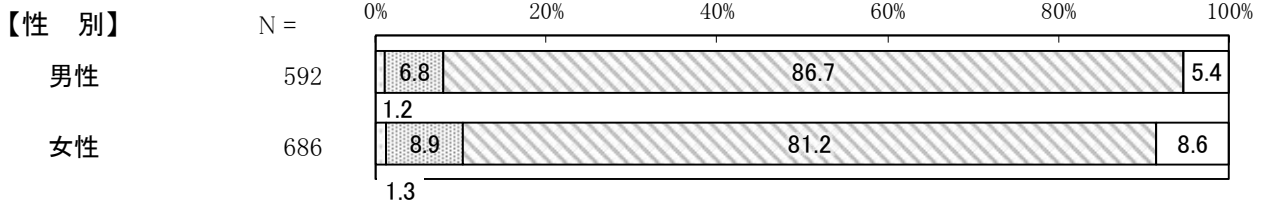
■ 見たことがある
■ 知らない

■ 知っているが見たことはない
□ 無回答



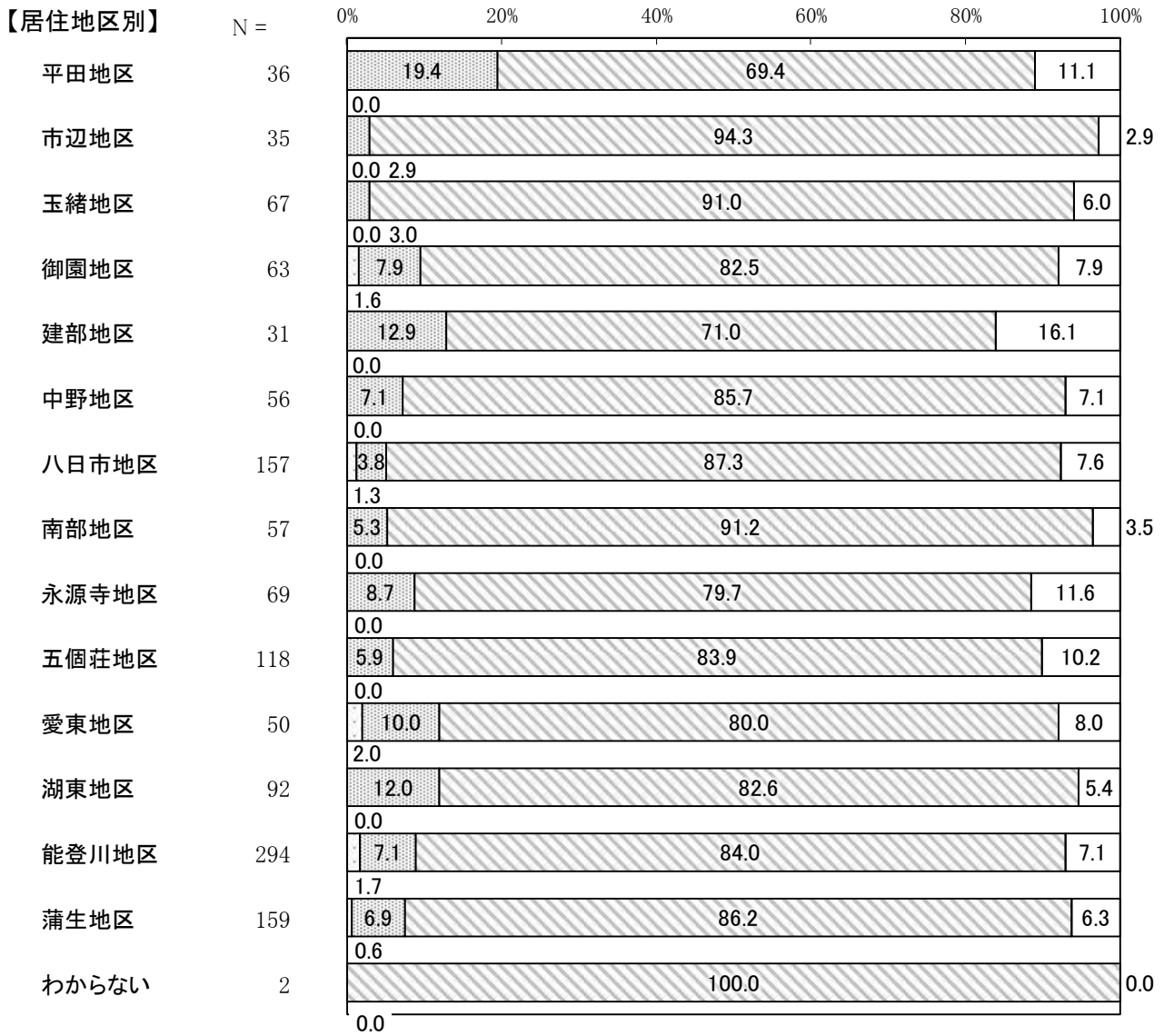
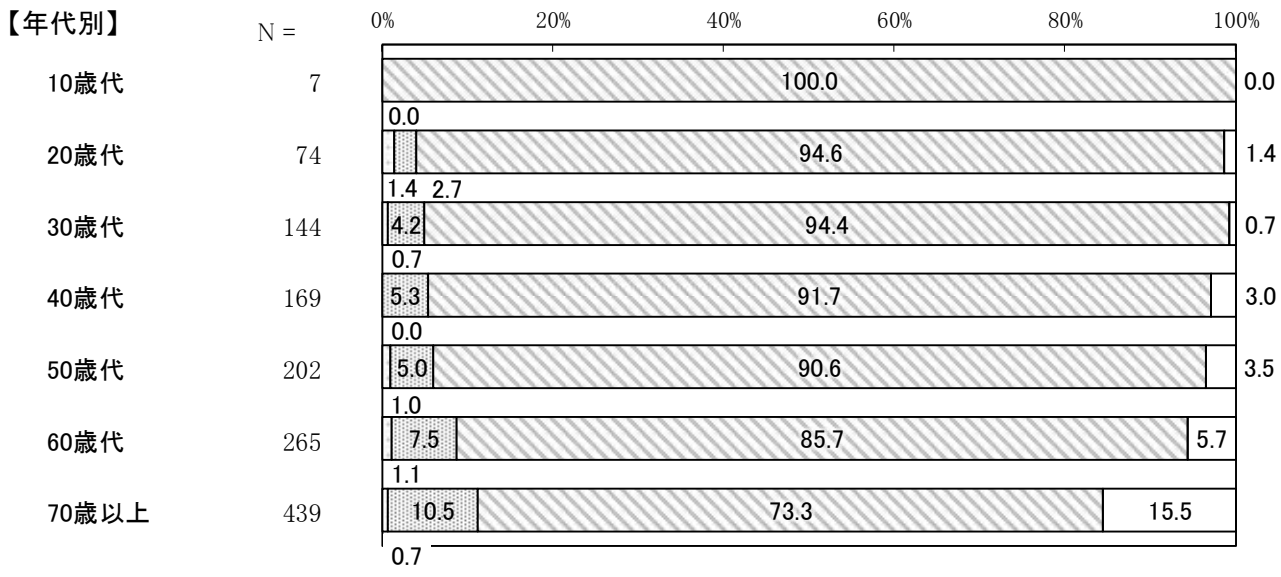
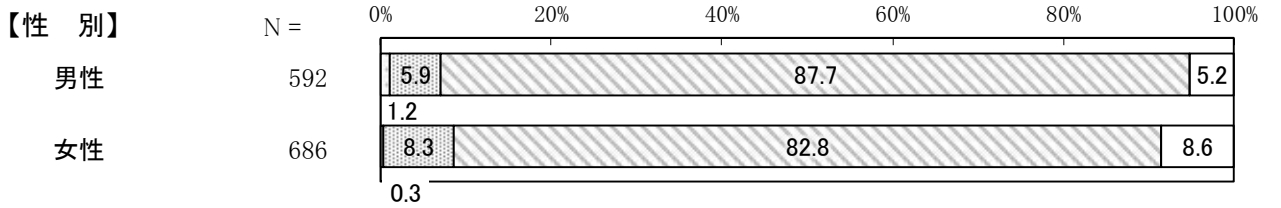
③ スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧

見たことがある 知っているが見たことはない
 知らない 無回答



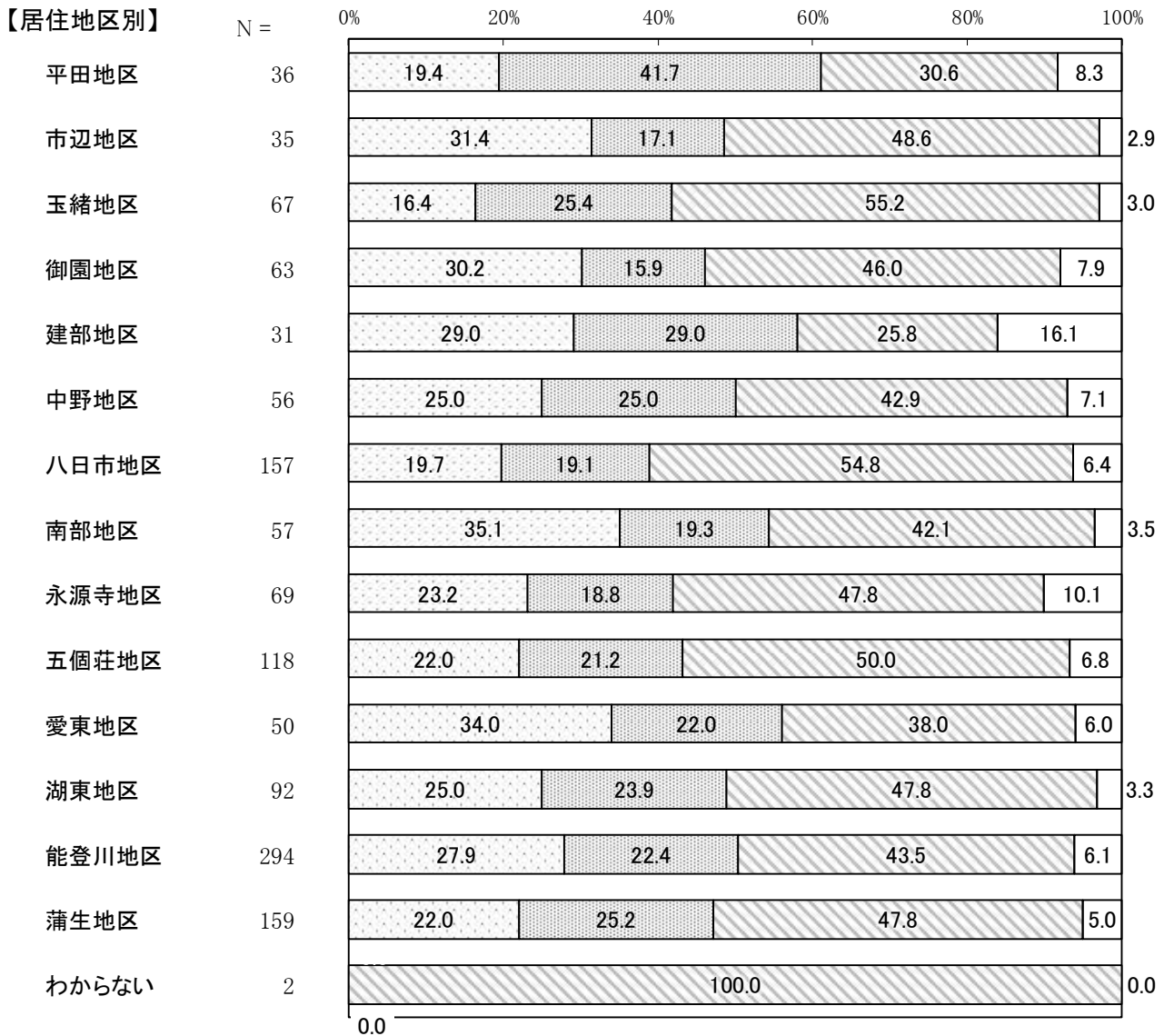
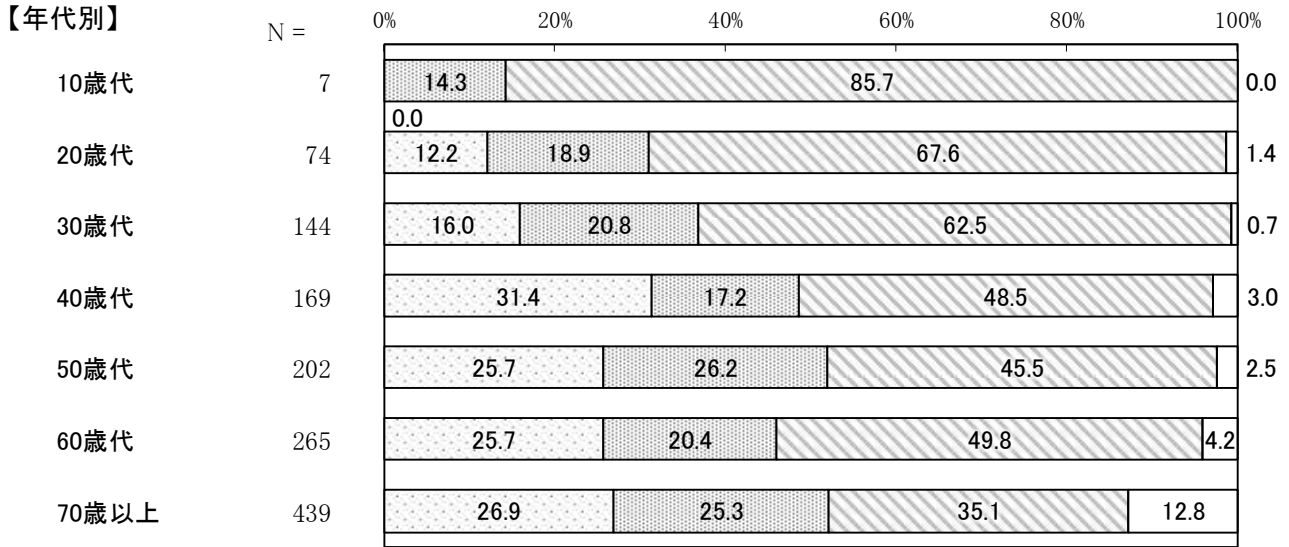
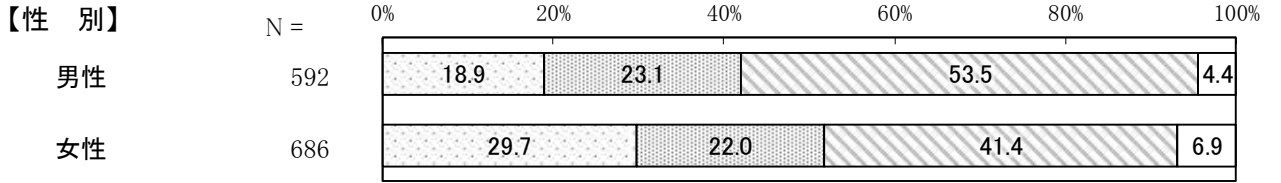
④ スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧

見たことがある
 知っているが見たことはない
 知らない
 無回答



⑤ 公共施設等に設置

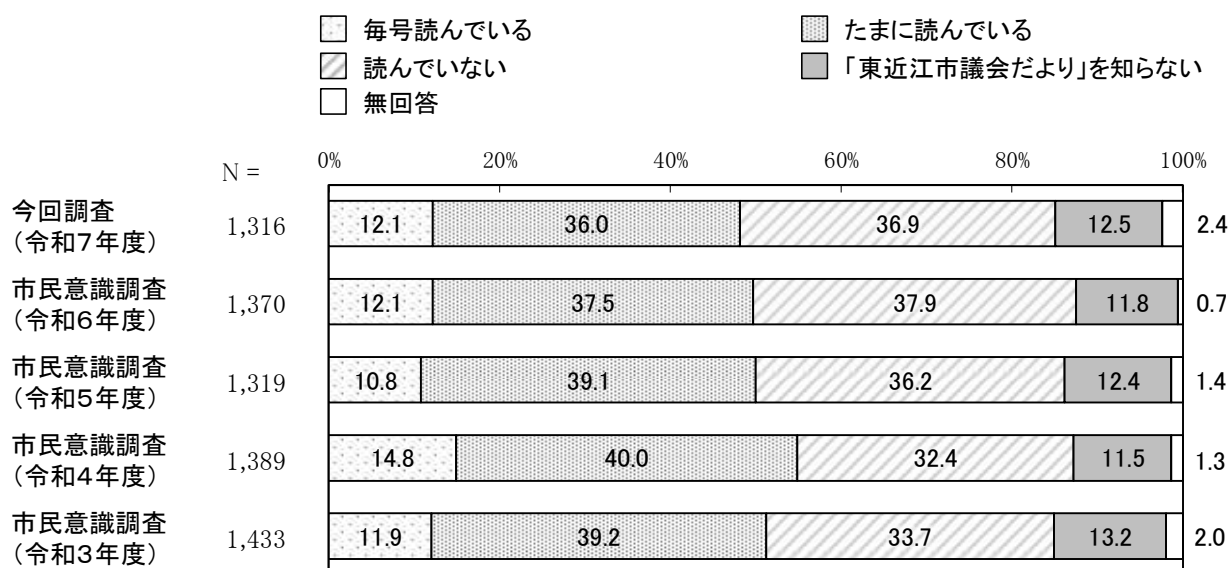
見たことがある 知っているが見たことはない
 知らない 無回答



問 52 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

半数近くが「東近江市議会だより」を読んでいる

- ・ 「東近江市議会だより」については、「毎号読んでいる」が12.1%、「たまに読んでいる」が36.0%で、これらを合わせると48.1%となり、半数近くの人が読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が36.9%、「東近江市議会だより」を知らない」が12.5%となっています。
- ・ 年代別では、年齢が上がるほど、「東近江市議会だより」を読んでいる人（前述）が多く見られ、70歳以上は7割近くとなっています。一方、50歳代までは、読んでいない又は知らない人が、読んでいる人（前述）より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区で「東近江市議会だより」を読んでいる人（前述）が多く見られます。一方、八日市地区、御園地区、永源寺地区、湖東地区、玉緒荘地区では、読んでいない又は知らない人が、読んでいる人（前述）より多くなっています。



単位：%

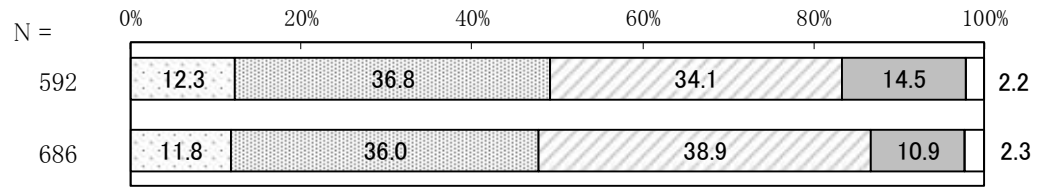
	読んでいる*	読んでいない・知らない*	差
①今回調査(令和7年度)	48.1	49.4	-1.3
②市民意識調査(令和6年度)	49.6	49.7	-0.1
③市民意識調査(令和5年度)	49.9	48.6	1.3
④市民意識調査(令和4年度)	54.8	43.9	10.9
⑤市民意識調査(令和3年度)	51.1	46.9	4.2
①-⑤	-3.0	2.5	-5.5

* 読んでいる:「毎号読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計

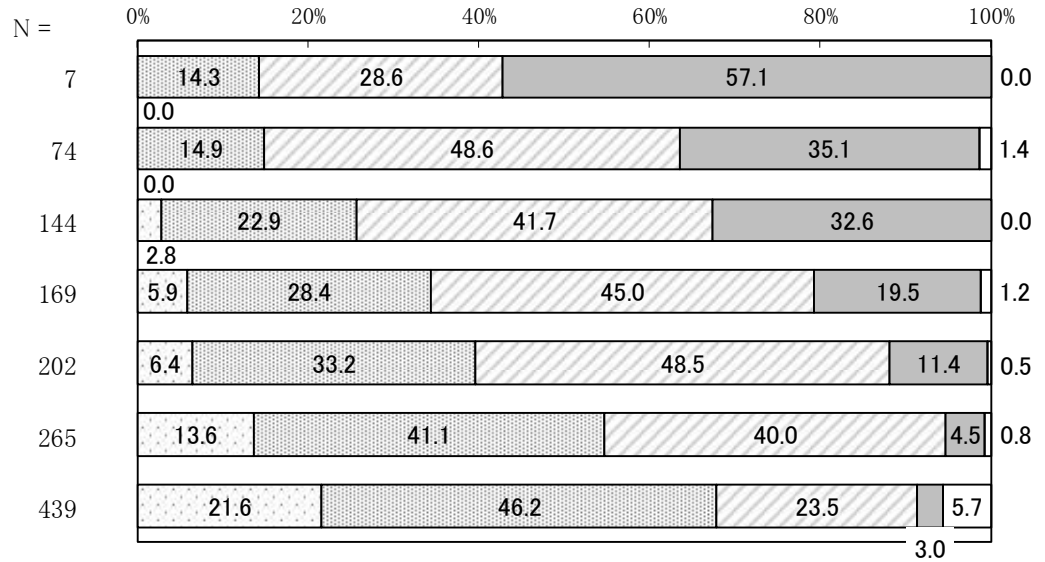
* 読んでいない・知らない:「読んでいない」と「東近江市議会だより」を知らない」の合計

毎号読んでいる
 たまに読んでいる
 読んでいない
 「東近江市議会だより」を知らない
 無回答

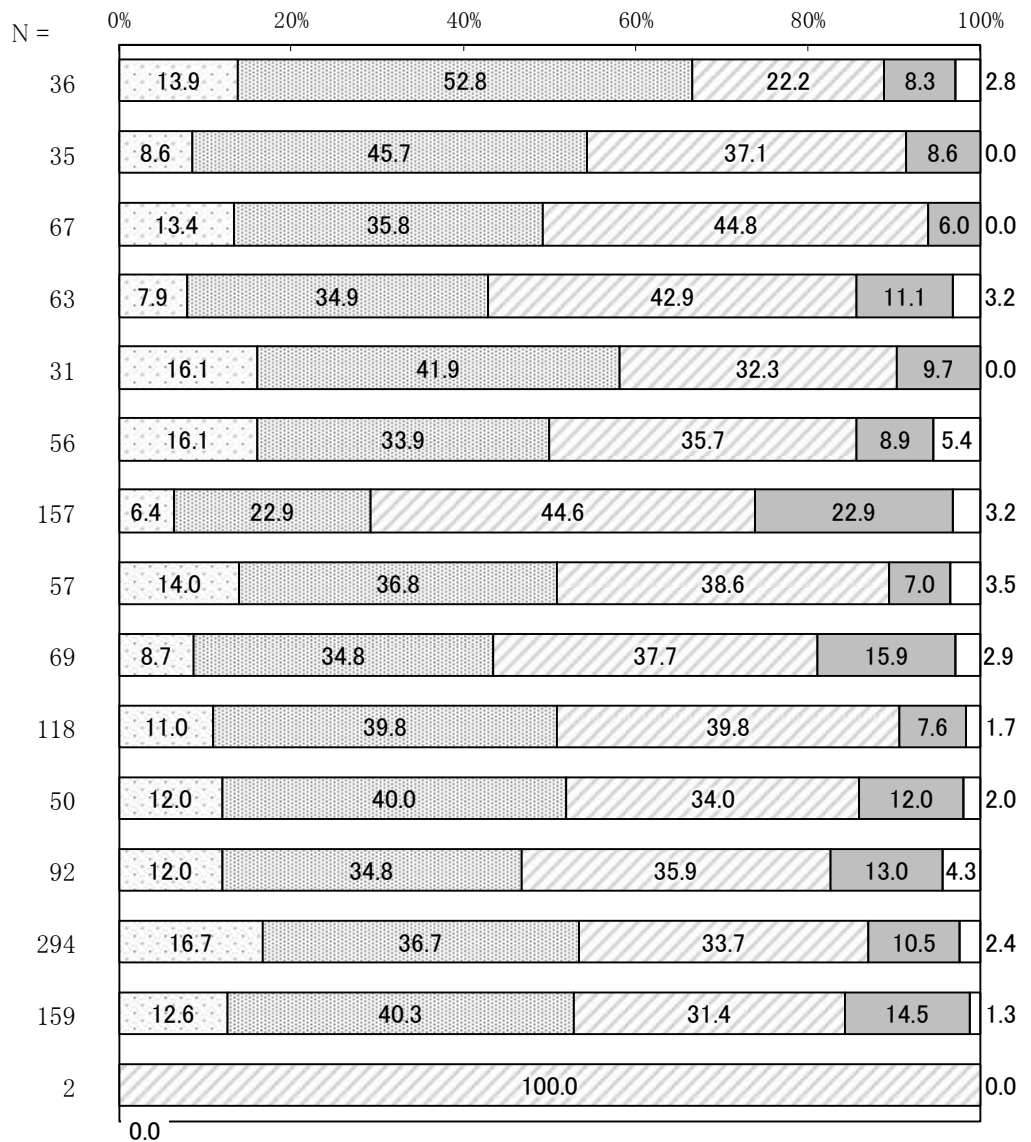
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

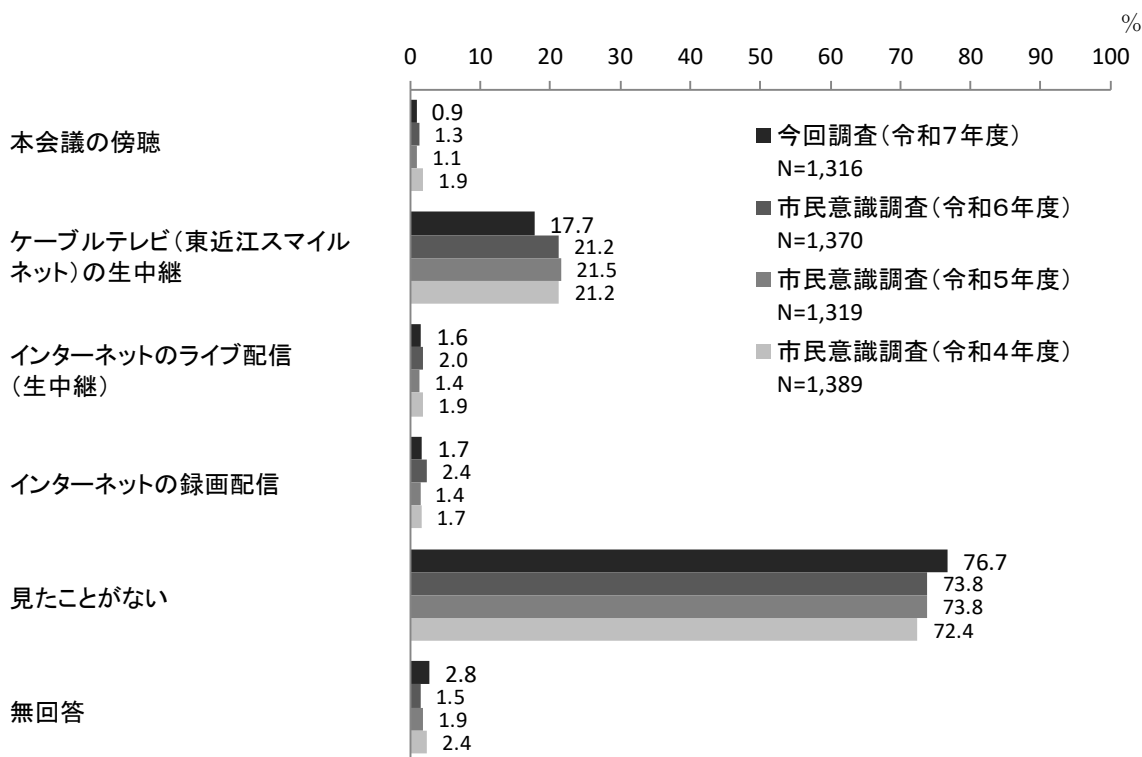


問 53 あなたは、「市議会本会議」の様子を次のいずれかの方法で見たことがありますか。《あてはまるものすべてに○》

8割近くが「市議会本会議」の様子を見たことがない

- ・ 「市議会本会議」の様子を見たことがあるかについては、「見たことがない」が76.7%と最も多くなっています。一方、見たことがある人の割合*は20.4%で、具体的な方法としては「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）の生中継」は17.7%と2割近く見られますが、ほかの方法は、1割未満となっています。
- ・ 性別、年代別居住地区別のいずれも、「見たことがない」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、20～30歳代や50歳代で「見たことがない」人の割合が高く9割前後となっています。「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）の生中継」は、70歳以上で3割と高くなっています。
- ・ 居住地区別では、「見たことがない」人の割合は、蒲生地区、八日市地区で9割近く、五個荘地区、南部地区で8割以上と高く、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）の生中継」は、愛東地区、湖東地区で4割前後と高くなっています。

*有効回答数（1,316件）に対する「見たことがない」と「無回答」を除いた269件の割合



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	本会議の傍聴	生中継	江スミルネット(東の近)	ケイブイ(東の近)	ブ配信(生中継)	インターネットのライ	配信	インターネットの録画	見たことがない	無回答
男性	592	0.7	18.6	1.9	1.7	76.2	2.4				
女性	686	0.9	17.6	1.5	1.9	77.1	2.8				

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	本会議の傍聴	生中継	江スミルネット(東の近)	ケイブイ(東の近)	ブ配信(生中継)	インターネットのライ	配信	インターネットの録画	見たことがない	無回答
10歳代	7	0.0	14.3	0.0	0.0	85.7	0.0				
20歳代	74	1.4	1.4	1.4	2.7	91.9	2.7				
30歳代	144	0.0	6.9	2.8	0.7	89.6	0.0				
40歳代	169	1.2	13.6	2.4	2.4	81.1	1.2				
50歳代	202	0.0	8.9	2.5	2.5	88.1	0.5				
60歳代	265	0.8	15.5	1.1	1.1	81.5	0.8				
70歳以上	439	1.6	31.4	0.9	1.8	59.7	6.6				

【居住地区別】

※「わからない」は、有効回答数が2件のため最大値を網掛けしていない。単位:%

区分	有効回答数(件)	本会議の傍聴	生中継	江スミルネット(東の近)	ケイブイ(東の近)	ブ配信(生中継)	インターネットのライ	配信	インターネットの録画	見たことがない	無回答
平田地区	36	2.8	33.3	0.0	0.0	63.9	2.8				
市辺地区	35	0.0	31.4	0.0	0.0	68.6	0.0				
玉緒地区	67	1.5	19.4	3.0	3.0	76.1	0.0				
御園地区	63	1.6	15.9	4.8	3.2	73.0	6.3				
建部地区	31	0.0	22.6	3.2	3.2	71.0	0.0				
中野地区	56	0.0	25.0	1.8	1.8	66.1	5.4				
八日市地区	157	0.6	4.5	2.5	1.3	87.3	4.5				
南部地区	57	0.0	10.5	3.5	1.8	80.7	5.3				
永源寺地区	69	0.0	30.4	0.0	1.4	65.2	2.9				
五個荘地区	118	0.0	15.3	0.0	0.8	81.4	2.5				
愛東地区	50	2.0	42.0	2.0	2.0	52.0	2.0				
湖東地区	92	2.2	35.9	2.2	1.1	57.6	4.3				
能登川地区	294	1.7	14.6	1.0	2.7	79.9	2.4				
蒲生地区	159	0.0	9.4	1.3	1.3	88.1	0.6				
わからない	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0				

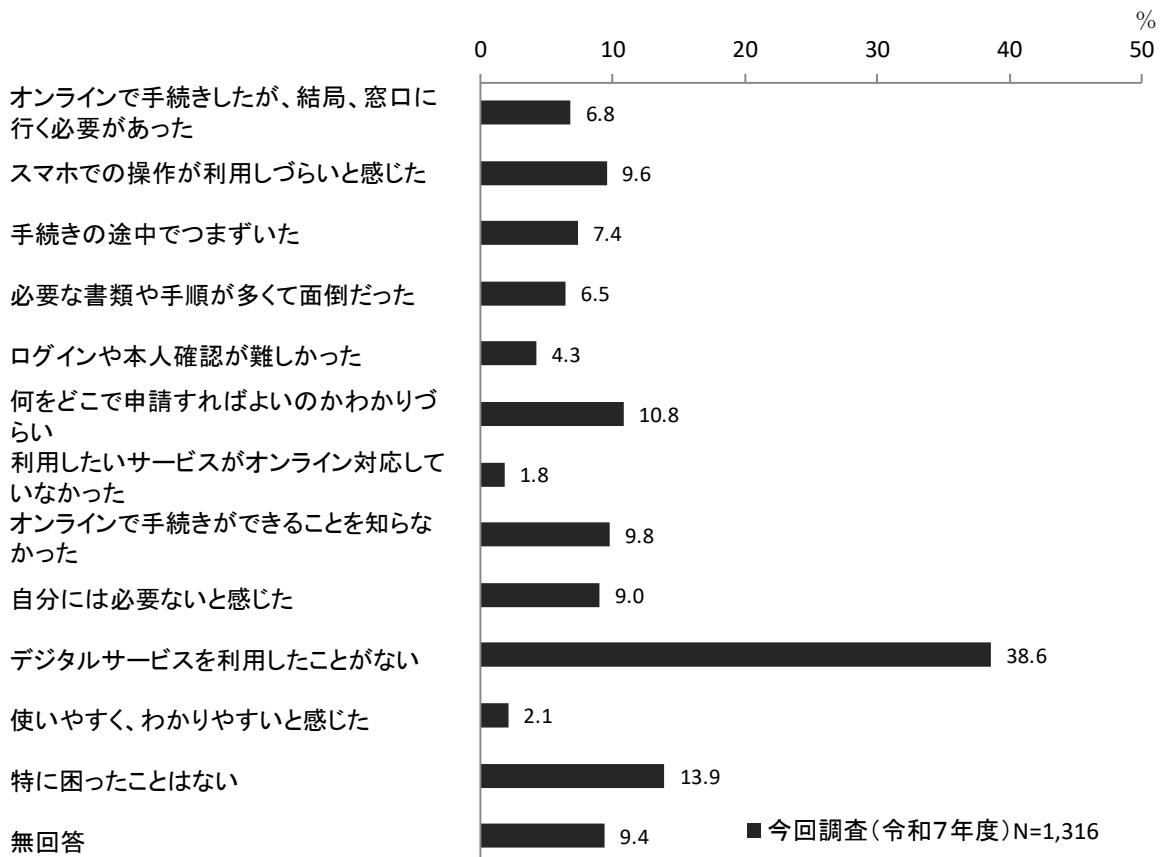
(10) 市役所のサービスに関して

問 54 市役所のオンライン手続きや予約、LINE・ホームページなどのデジタルサービスについて、あてはまるものをすべて選んでください。《あてはまるものすべてに○》

半数近くがデジタルサービスを利用、そのうち3割が何らかの問題・課題を感じている

- 市役所のオンライン手続きや予約、LINE・ホームページなどのデジタルサービスについては、「デジタルサービスを利用したことがない」が38.6%で最も多く、4割近くとなっています。「オンラインで手続きができることを知らなかった」は9.8%で、1割未満です。
- 一方、利用したことがある人の割合*1は45.1%で、そのうち、「特に困ったことはない」と回答した人の割合は13.9%です。
- また、何らかの問題等があると回答した人の割合*2は31.2%と3割で、その内容としては「何をどこで申請すればよいのかわかりづらい」が10.8%、「スマホでの操作が利用しづらいと感じた」が9.6%、「手続きの途中でつまづいた」が7.4%などとなっています。
- 性別、年代別、居住地区別のいずれも「デジタルサービスを利用したことがない」が最も多くなっています。
- そのほか年代別では、20歳代で「必要な書類や手順が多くて面倒だった」が、50歳以上で「何をどこで申請すればよいのかわかりづらい」が、60歳以上で「スマホでの操作が利用しづらいと感じた」がほかの年代より高く、年代別に課題・問題点が異なっています。また、20歳代で「オンラインで手続きができることを知らなかった」が2割近く、30歳代で「特に困ったことはない」が3割近くと高くなっています。

*1 有効回答数(1,316件)に対する「オンラインで手続きができることを知らなかった」又は「デジタルサービスを利用したことがない」と「無回答」を除いた593件の割合
 *2 有効回答数(1,316件)に対する「オンラインで手続きができることを知らなかった」又は「デジタルサービスを利用したことがない」と「特に困ったことはない」と「無回答」を除いた410件の割合



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	くたが、結局、窓口に行	オンラインで手続きし	スマホでの操作が利用	しづらいと感	いた	手続きの途中でつま	く必要書類や手順が多	面倒だった	難しい	ログインや本人確認が	何をどこで申請すれば	よいかわかりづら	なかった	オンライン対応してい	利用したいサービスが	できなかった	オンラインで手続きが	自分には必要ないと感	デジタルサービスを利	使いやすいと感	特に困ったことはない	無回答
男性	592	6.1	9.5	7.1	6.8	5.1	11.3	1.7	9.1	10.6	35.8	1.5	18.2	7.4									
女性	686	7.3	9.5	7.4	6.1	3.6	10.1	1.9	10.3	7.9	42.0	2.8	10.2	10.1									

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	くたが、結局、窓口に行	オンラインで手続きし	スマホでの操作が利用	しづらいと感	いた	手続きの途中でつま	く必要書類や手順が多	面倒だった	難しい	ログインや本人確認が	何をどこで申請すれば	よいかわかりづら	なかった	オンライン対応してい	利用したいサービスが	できなかった	オンラインで手続きが	自分には必要ないと感	デジタルサービスを利	使いやすいと感	特に困ったことはない	無回答
10歳代	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	42.9	0.0	42.9	0.0	
20歳代	74	6.8	2.7	1.4	10.8	1.4	8.1	2.7	16.2	0.0	40.5	4.1	21.6	4.1									
30歳代	144	7.6	6.3	6.3	4.2	4.9	8.3	3.5	10.4	1.4	40.3	2.1	29.9	1.4									
40歳代	169	10.1	5.3	4.1	5.9	3.0	7.7	3.0	12.4	5.3	39.1	6.5	16.6	4.1									
50歳代	202	7.9	9.9	8.4	6.4	5.9	10.4	4.0	10.9	6.4	38.6	1.0	12.9	4.5									
60歳代	265	7.5	14.3	8.7	6.8	4.2	10.9	0.8	12.1	10.2	40.4	1.5	11.3	7.9									
70歳以上	439	4.6	10.7	9.1	6.2	4.6	13.2	0.5	5.9	15.3	37.1	1.1	7.3	18.2									

【居住地区別】

※「わからない」は、有効回答数が2件のため最大値を網掛けしていない。

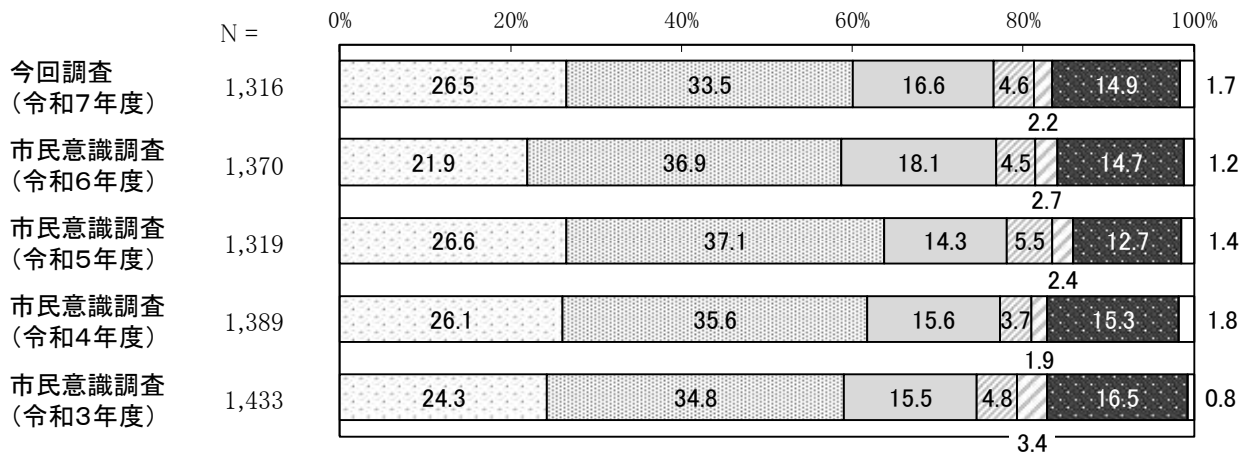
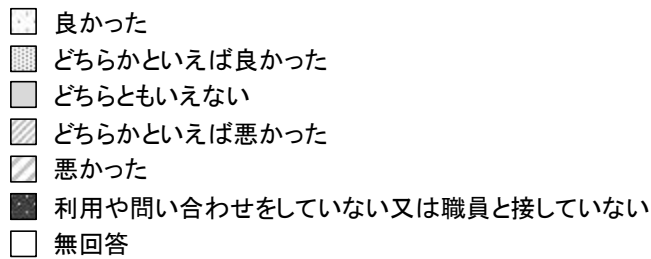
単位:%

区分	有効回答数(件)	くたが、結局、窓口に行	オンラインで手続きし	スマホでの操作が利用	しづらいと感	いた	手続きの途中でつま	く必要書類や手順が多	面倒だった	難しい	ログインや本人確認が	何をどこで申請すれば	よいかわかりづら	なかった	オンライン対応してい	利用したいサービスが	できなかった	オンラインで手続きが	自分には必要ないと感	デジタルサービスを利	使いやすいと感	特に困ったことはない	無回答
平田地区	36	2.8	11.1	2.8	2.8	2.8	8.3	0.0	16.7	5.6	50.0	2.8	11.1	5.6									
市辺地区	35	8.6	11.4	2.9	2.9	5.7	8.6	2.9	2.9	14.3	37.1	0.0	17.1	11.4									
玉緒地区	67	13.4	13.4	11.9	7.5	9.0	13.4	1.5	7.5	9.0	35.8	3.0	6.0	11.9									
御園地区	63	3.2	11.1	9.5	6.3	6.3	7.9	1.6	11.1	9.5	41.3	1.6	9.5	11.1									
建部地区	31	9.7	12.9	12.9	3.2	3.2	16.1	3.2	3.2	12.9	32.3	0.0	12.9	9.7									
中野地区	56	10.7	12.5	1.8	12.5	7.1	16.1	3.6	10.7	8.9	33.9	3.6	17.9	5.4									
八日市地区	157	7.6	9.6	6.4	5.1	2.5	10.2	2.5	5.7	6.4	41.4	3.2	21.0	3.2									
南部地区	57	7.0	5.3	5.3	3.5	1.8	15.8	3.5	5.3	15.8	43.9	1.8	8.8	5.3									
永源寺地区	69	7.2	5.8	10.1	11.6	4.3	17.4	1.4	7.2	7.2	36.2	2.9	11.6	13.0									
五個荘地区	118	4.2	10.2	6.8	5.1	5.9	8.5	1.7	10.2	9.3	37.3	3.4	15.3	11.0									
愛東地区	50	8.0	4.0	8.0	8.0	4.0	6.0	0.0	8.0	10.0	40.0	2.0	16.0	12.0									
湖東地区	92	8.7	12.0	8.7	9.8	2.2	10.9	2.2	17.4	12.0	45.7	1.1	5.4	7.6									
能登川地区	294	6.8	7.8	7.8	6.8	3.7	11.2	2.0	12.6	9.2	34.0	1.4	14.6	11.6									
蒲生地区	159	3.8	11.3	8.2	3.8	4.4	6.9	0.0	9.4	7.5	43.4	1.9	13.2	8.8									
わからない	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0									

問 55 この1年間に、市役所（支所・出張所を含む）の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応はどのように感じましたか。《○1つ》

6割が市役所職員の対応は良かった

- ・ 市役所職員の対応の印象については、「良かった」が26.5%、「どちらかといえば良かった」が33.5%で、これらを合わせると60.0%となり、6割が良かったと回答しています。一方、悪かった（「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計）の割合は6.8%と、1割未満となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動はあるものの「良かった」の割合は、微増しています。
- ・ 「利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない」（N=196）を母数から除いて集計すると、「良かった」が31.2%、「どちらかといえば良かった」が39.4%となり、これらを合わせると70.6%となります。一方、悪かった（前述）の割合は8.0%となっています。
- ・ 年代別では、20歳代と50歳代で「良かった」が、ほかの年代で「どちらかといえば良かった」が最も多くなっています。良かった（前述）の割合は70歳以上で7割近くと最も高く、「利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない」人は20歳代で3割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、良かった（前述）の割合が建部地区で9割近くと高くなっています。



単位：%

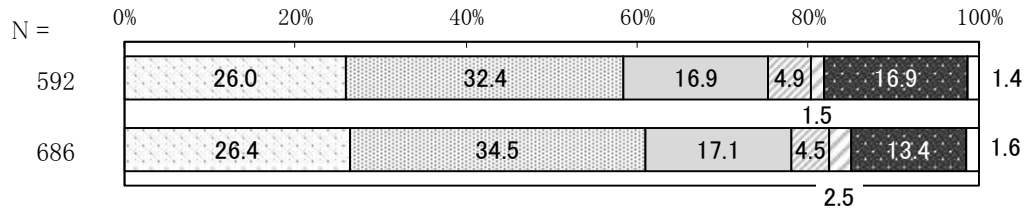
	良かった*	悪かった*	差
①今回調査(令和7年度)	60.0	6.8	53.2
②市民意識調査(令和6年度)	58.8	7.2	51.6
③市民意識調査(令和5年度)	63.7	7.9	55.8
④市民意識調査(令和4年度)	61.7	5.6	56.1
⑤市民意識調査(令和3年度)	59.1	8.2	50.9
①－⑤	0.9	-1.4	2.3

* 良かった:「良かった」と「どちらかといえば良かった」の合計

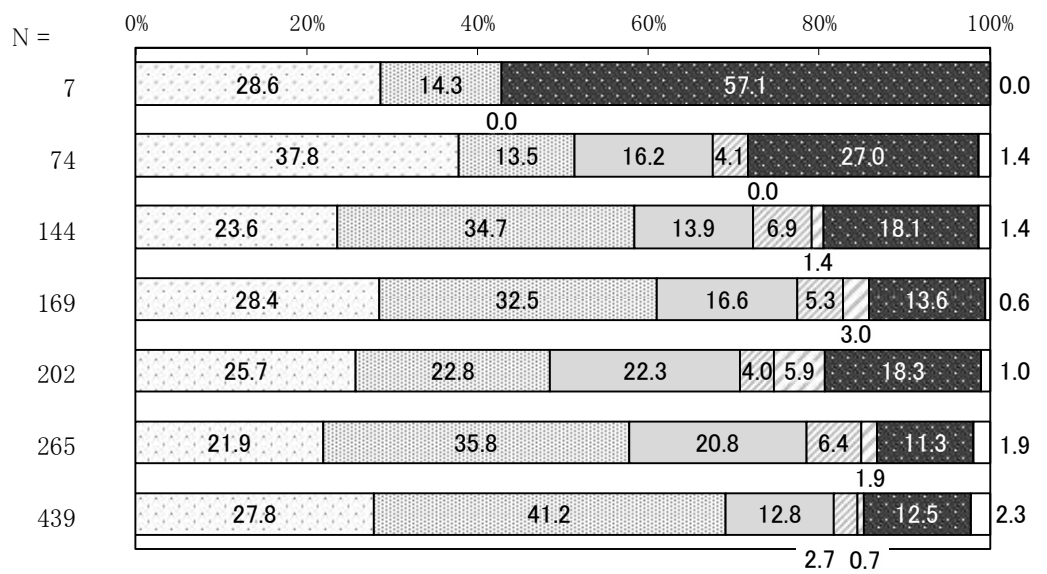
* 悪かった:「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計

良かった
 どちらかといえば良かった
 どちらともいえない
 どちらかといえば悪かった
 悪かった
 利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない
 無回答

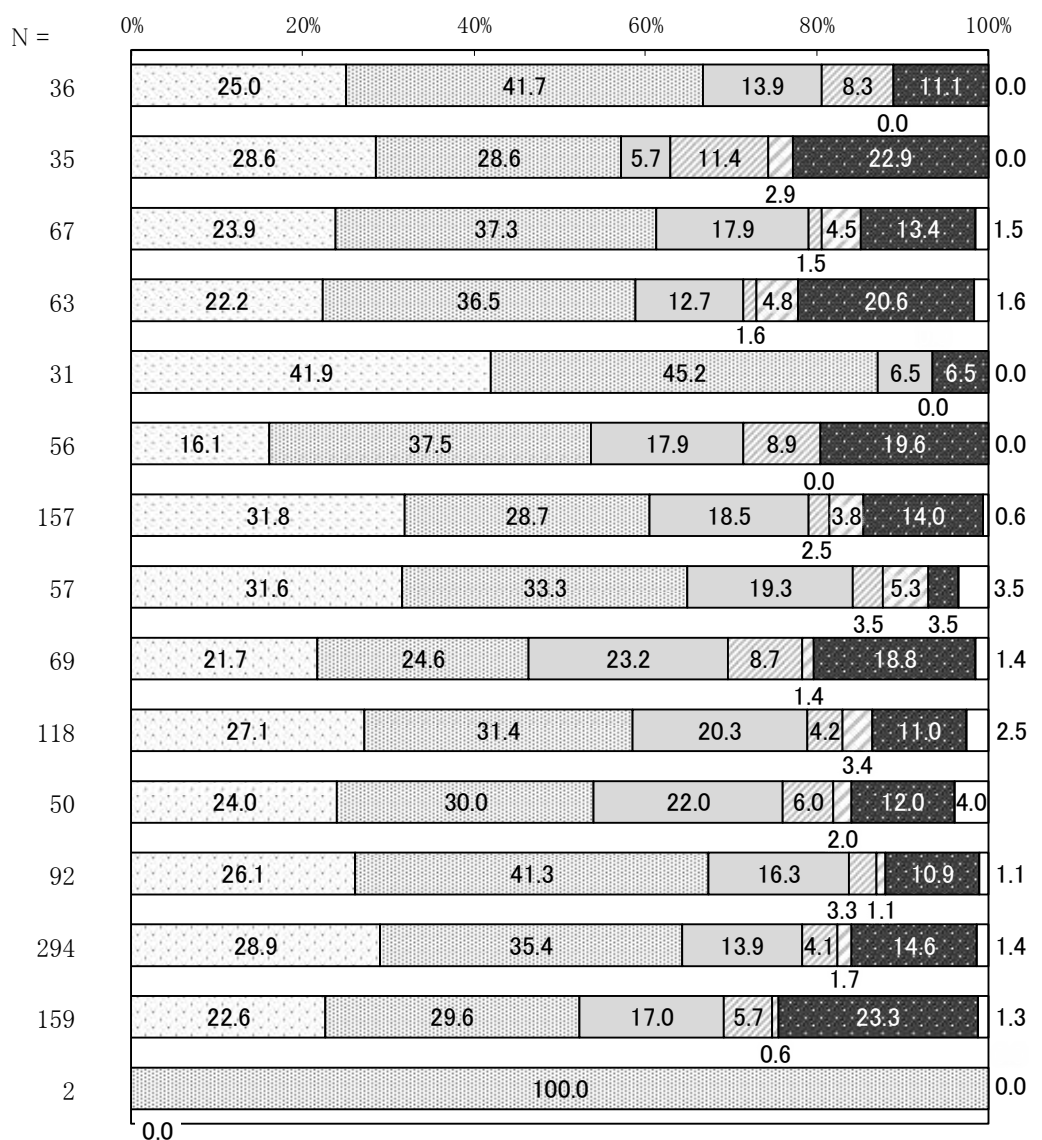
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



(11) まちづくりに対する意見等について

問 56 東近江市のまちづくりについて、意見や提案等がありましたら御記入ください。

- ・ 有効回収数 1,316 件のうち、自由記述への記入件数は 452 件 (34.3%) でした。これらの意見をおおむね本意識調査票の調査項目ごとに分類した件数は、次のとおりです。
- ・ なお、同じ人が複数の項目の意見を書かれているものも多いため、調査項目ごとに分類した件数の合計件数は 452 件以上となっています。

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
住みごこちや愛着等について	14 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ とても住みやすいまちだと思っています。(蒲生地区 60 歳代女性) ・ 東近江市で生まれ育って、一度転居はしたものの再度こちらに戻ってきました。自然もいっぱい JR もあり、能登川はすごく住みやすいと思います。(能登川地区 30 歳代女性) ・ 昨年、東近江市に移住して来ました。自然豊かで、なおかつ住みやすさを求め、決めました。市役所の職員の方も、いつも丁寧に案内して下さい、こちらに来てよかったと思います。(愛東地区 50 歳代女性)
東近江の将来について	9 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東近江市の区域は広大であるため、旧市町ごとの特色を活かした特区があっても良いと思う。八日市なら、ランドマークでもある「太郎坊さん」を借景とした文化施設(図書館、文化芸術会館の移設、美術館など)のゾーン、JR がある能登川はベッドタウン、五個荘は安土と連携した歴史文化ゾーン、湖東・蒲生・愛東は農業重点地域、永源寺は農林業もさることながら、広大な蒲生野を見渡せる立地を活かした施設といった構成が考えられる。(中野地区 50 歳代男性) ・ 子育て世代だけではなく、全ての世代(独身・高齢者)が住みやすい街になって欲しいです。(平田地区 30 歳代女性) ・ 農業や産業、伝統や文化など上手に次世代の継承がしていけるように、私も何か手伝っていければと思います。少なくなっている子どもたちの数ですが、それでもまだまだ子どもたちはたくさん住んでいます。その子たちが 1 人でもこの街に住み続けたい！よくしていきたい！と実感してくれるように育つ街であってほしいです。(湖東地区 40 歳代女性)
健康や福祉について	25 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと障害者に対する情報や、施設(病院)への専属とかしてほしい。県外の病院とかは通訳(手話)介助(盲の人)とかいた。(玉緒地区 50 歳代女性) ・ 高齢と病気によって運転免許を返納しました。今まで通院していた病院への交通の便がなくなり困っています。永源寺地区には開業医と診療所の 2ヶ所しかなく他町への通院は本当に大変です。誰もが東近江市の医療機関にかかっている訳ではないので何とかして頂きたいです。(永源寺地区 70 歳以上男性) ・ 市営のスポーツジムを増やしてほしい。(地区不明 30 歳代男性)

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
環境や暮らしについて	106 件	<ul style="list-style-type: none"> ・近江鉄道の話がありましたが、自分の年代のほとんどが中高世代の子供がおり、八日市から近江八幡行の鉄道を利用しているが、やはり高い運賃だと思う。（運賃が）高いから無理に自転車で通学させたり、親の送迎等で共働き世代の負担になっている。もう少し利用を呼びかけるなら、割引や多くの人に利用してもらえる整備事業が必要と感じる。市としても前向きに捉えて推進して下さい。（建部地区 40 歳代男性） ・自分の居住地から病院や買い物に行けるよう、帰れるような交通手段が選択できるように工夫してほしい。（御園地区 70 歳以上男性） ・仕事をしながら農業をしています。農業の機械（草刈機、管理機など）も高価なので、家計が大変です。補助金などがあれば助かるのですが。まちづくりと少し話が違うが、休日は忙しくて、イベント等を楽しむ余裕もないです。（愛東地区 60 歳代女性） ・河辺いきものの森のような、自然を身近に感じられる場所を守って下さい。（市辺地区 50 歳代女性）
子育てや教育について	59 件	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児達が遊べる公園、夏の暑い時期、室内で遊べる体を動かし健康的な施設がほしい。安心して外遊びができる公園がほしい。空地があるのに遊べる場所がない。（玉緒地区 70 歳代女性） ・学生の自習環境が整っていないように感じます。近隣の甲賀市にはまる一む、守山市には巨大な図書館があるにもかかわらず、東近江市、八日市にはそのような施設がありません。東近江市の図書館の席数が少なく、お年寄りの方が占領しています。私自身、良い自習環境が無かったため市外の塾に通っていました。（八日市地区 10 歳代男性） ・小さい子（未就学児）が遊べる公園を増やして欲しい。（五個荘地区 40 歳代男性）
都市整備について	110 件	<ul style="list-style-type: none"> ・片側 1 車線の道路両側に歩道の設置をしてください。他と比べて少なすぎる。（南部地区 50 歳代男性） ・広い道路の木の枝の伐採をしていただきたい。見極めるのに車が見えない。仕方ないですが道路が悪い。（建部地区 60 歳代女性） ・八日市駅前の再開発や森の文化博物館など公共事業への投資が目立ちますが、住民の暮らしが楽になる施策を望みます。（蒲生地区 30 歳代男性）
商業やにぎわいの創出について	72 件	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の活性化は進めるべきと思いますが、中心部に就労場所を生み出す動きが無いように感じる。駅周辺でビジネスマンが働く環境を整備する必要があると感じます。（八日市地区 30 歳代男性） ・もっと観光客を誘致する必要があると思う。本町商店街や金屋を再利用し、駐車場の拡充が必要。近江鉄道の路線見直し、駅施設の充実（トイレ、コンビニ等）歴史施設をもっと全国へアピール。旧街道、城跡、寺社等。カードや特別御朱印、県内の旧街道と連携して完歩証明を発行する等。（中野地区 40 歳代男性） ・必要最低限の生活はできると思いますが、おしゃれな洋服や雑貨、広い本屋など娯楽には欠けていて彦根や近江八幡まで出ないといけないのは少々不便ですね。（地区不明 20 歳代女性）

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
協働のまちづくりについて	29 件	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り（地区）について今までは地区の住人が色々出てイベント、屋台等出店していたが今はキッチンカー等出て、価格も高い。子供と大人達のコミュニケーションを取る機会だったが、子供の使える価格ではなく、「あそこのおっちゃんがしてはった」とかがない。隣人同士のコミュニケーションも取る機会がない。（中野地区 70 歳以上女性） ・にぎわうことよりも互いを思いやれる人がたくさん住むまちになってほしいです。（南部地区 50 歳代女性） ・自治会の活動は、少子高齢化もあり参加する人数が少なく、継続していくのが、難しく感じる。（町内の消防、青年団の活動）人数が毎年減っているのに、前年と同じ活動をしているため、規模を縮小したいが、その意見を言う場がないため、全員しかたなくやっている。もっと、意見を言える場がほしい。（湖東地区 20 歳代男性）
広報等の情報について	13 件	<ul style="list-style-type: none"> ・英語での発信をして欲しい（御園地区 50 歳代女性） ・市の広報誌等は昔みたいに自治会で配ってほしい（市辺地区 60 歳代女性） ・広報ひがしおうみについて。もっと若者に読んでもらう工夫や新しさを取り入れてほしい。毎号とも似たり寄ったりな一面がつつらと書いてあるだけという印象なので周知させたい情報が広がらないのではないのでしょうか。（能登川地区 30 歳代男性）
市役所のサービスについて	38 件	<ul style="list-style-type: none"> ・東近江市は介護認定申請から調査、結果が出るまでに時間がかかりすぎる。必要なサービスがすぐに利用出来ない。もう少し調査がスムーズに出来るように工夫や人員の整備が必要であると思う。（湖東地区 60 歳代女性） ・最近保障関連や転居手続き等で五個荘支所を利用しましたが、職員の皆様、対応が丁寧で詳しく説明してくださり、在住者としてありがたいばかりでした。一度県外に出て暮らしてみても、改めて五個荘の過ごしやすさに気づきました。（五個荘地区 20 歳代女性） ・役所などでもらえる資料などで、難しい書き方で説明等がされている書類は困ります。もっと簡単な説明をしてほしいです。（地区不明 20 歳代男性）
まちづくり全般について	60 件	<ul style="list-style-type: none"> ・このアンケートは八日市中心部に偏ったものに思いました。東近江市に合併後、各地域の特色があるのになぜか中心部ばかり気にしているように感じます。まちづくりは地域の伝統を守りながら、地道に良さをアピールして人が集まるようになればと感じます。各々の地域の良さを大切にしてほしいと願っています。（能登川地区 60 歳代男性） ・観光地としては、近江八幡には勝てないと思うので企業を誘致するなどして、財源を確保する方が良いかと思えます。市民ファーストの市政に期待します。（中野地区 30 歳代男性） ・他の市町村は、市民に対して色々な補助を打ち出しておられますが東近江はないのか（平田地区 30 歳代女性）
アンケートについて	17 件	<ul style="list-style-type: none"> ・このアンケート自体、表紙にQRコードを載せて、紙で返信してもいいし、オンラインで回答してもいいというような形にしてはどうでしょうか。（能登川地区 40 歳代男性） ・性別が2択である所に違和感を感じる時代になっているので対応した方が良いと思えます。（蒲生地区 50 歳代女性） ・アンケート調査の結果、市政にどの様に活かされているのか？（御園地区 70 代以上女性）
その他	27 件	<ul style="list-style-type: none"> ・その他（21 件） ・特になし（6 件）

3 総括

1. 回答者属性

- ・男女比は、女性が多くなっています。
- ・60歳以上が半数以上を占めています。
- ・居住地区は、2割が能登川地区、1割が蒲生地区、八日市地区となっています。旧八日市市8地区を合計すると4割近くとなっています。

2. 住みごこちや愛着等について

- ・8割が住みごこちが良く、6割以上が「住み続けたい」と回答しています。また7割近くが東近江市に対して愛着があると回答しています。定住意向は、おおむね年齢が上がるほど高くなる傾向が見られます。
- ・東近江市を自慢できるかについては、4割が自慢できるとする一方、4割が「どちらともいえない」としています。
- ・「鈴鹿10座」の認知度は2割を超え、70歳以上で3割、愛東地区、永源寺地区で4割を超えています。
- ・友人・知人に東近江市を紹介するところは、6割が「山や川、湖などの自然が楽しめる」と回答しています。五個荘地区では「歴史・文化にふれられるところ」が最も多くあげられています。
- ・近江鉄道八日市駅周辺（市役所周辺を含む。）への来訪頻度は、3割近くが週1回以上で、40歳代で最も高くなっています。また、中心市街地活性化に向けては、空店舗の解消、駐車場の整備などが必要と考えられています。若い世代では、おしゃれな雑貨店などの増加やイベントの定期開催等での活性化を望む声も多くあります。

3. 健康や福祉について

- ・6割以上が市内の医療機関にかかりつけ医がいると回答していますが、30歳代は4割がかかりつけ医がいないと回答しています。
- ・病院や救急時の医療体制は6割近くが満足していますが、30～40歳代の子育て世代では不満とする声も3割前後とやや高くなっています。
- ・健康づくりの取組は半数が取り組んでおり、年齢が上がるほど取り組んでいる人が多くなる傾向があります。また、その内容としては、運動、食事、睡眠などが多くあげられています。
- ・昨年度のがん検診の受診率（それぞれの被対象者に限定）は、高い順に大腸がん、乳がん、肺がん、胃がんでいずれも4割前後ですが、子宮頸がんは3割にとどまっています。大腸がん及び肺がんは60歳代、胃がんは50～60歳代、子宮頸がん及び乳がんは40歳代での受診率が高くなっています。
- ・朝食を毎日食べている人は9割近くで、その献立としては、主食は8割が、主菜は半数近く、副菜は4割近くが毎日食べています。朝食を毎日食べている人の割合は、年齢が上がるほど高くなる傾向があります。
- ・運動習慣については、半数以上の人が週1回以上の運動をしている一方、「ほとんどしていない」人も4割近く見られます。20～30歳代は、運動をほとんどしていない人が、週1回以上運動をしている人より多くなっています。
- ・7割近くが不安、悩み、ストレスを感じており（女性、30～40歳代で高い。）、そのうち半数近くの

人が「仕事のこと」を原因としてあげています。また、女性や60歳以上で「自分の健康」が1位にあげられるなど、それぞれの性別やライフステージに応じて多様化しています。

- ・不安、悩み、ストレスは、7割近くが解消できていると回答しています。ただし、50歳代は4割が解消できていません。
- ・東近江市民の障害者に対する理解は、「わからない」が4割近くと最も多く、理解を深めるために今後特に力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備における配慮のほか、子どもたちへの人権・福祉教育の充実なども求められています。

4. 環境や暮らしについて

- ・自然環境保全の取組への満足度は、3割近くが満足、6割が「わからない」又は「どちらともいえない」と回答しています。日々の営みの中で自然との関わりを感じている人は6割ですが、年齢が若いほど自然との関わりを感じていない人が多くなる傾向にあり、20歳代では3割近く見られます。
- ・節電や節水、太陽光発電等の設置、省エネ機器への買換えなどの環境にやさしい取組は7割以上が取り組んでいます。
- ・東近江市の働く場所（希望する業種・職種）については、3割近くが十分でないと考えており、半数以上が「どちらともいえない」又は「わからない」と回答しています。
- ・男女の地位の平等については、男性が優遇されていると考えている人が、職場の中では4割近く、地域社会の中では4割、社会全体の中では半数近く見られます。
- ・東近江市消費生活センターがあること及び市役所内の市民生活相談課で法律相談や登記・相続相談等が受けられることの認知度は4割前後となっています。
- ・公共交通に満足している人は2割近くいますが、半数近くが満足していません。
- ・近江鉄道は9割近くが重要と感じているものの、9割近くが利用していないと回答しています。また、半数近くが改善が必要だと感じています。
- ・7割以上が何らかの災害への備えをしています。年代によってその内容は異なり、30歳代と60歳代で非常持ち出し袋の準備、40～50歳代で水や食料を3日分以上備蓄、70歳以上で地域の防災訓練に参加が最も多くあげられています。20歳代は「特に何もしていない」が最も多くなっています。

5. 子育てや教育関連の取組について

- ・4割以上が子育てをするのに良い環境と感じています。また、3割が通学路の安全確保ができていると回答しています。
- ・人権が尊重されるまちになっていると思う人は3割近くで、6割が「わからない」又は「どちらともいえない」と回答しています。また、何らかの人権に関する講座や講演、研修等に参加した人は3割以上となっています。

6. 都市整備について

- ・都市基盤整備に対する満足度の総合評価(加重平均)は、評価が高い順に並べると、主要幹線道路、河川、雨水排水、地域の生活道路、公園の順で、地域の生活道路と公園はマイナス評価となっています。
- ・過去の調査(前回)と比較すると、道路整備は評価が上がったものの、河川、雨水排水、公園は評

価が下がっています。

7. 購買状況等について

- ・食品は8割以上、日用雑貨品は8割近くが市内で購入していますが、衣料品は4割近くが市外で購入しています。年代や居住地区によって購入場所が異なっています。
- ・野菜を購入する際の基準は、「鮮度」、「金額」、「安全・安心」が多くあげられています。
- ・農産物直売所は、半数近くが市内の直売所を利用しており、年間数回程度の利用が最も多くなっています（女性、愛東地区で利用者が多い。）。
- ・東近江市三方よし商品券（地域商品券）は4割近くが利用したことがあります（女性、40歳以上で4割前後）、電子支払い（専用のスマホアプリ）も可能となった場合に利用したいかについては4割近くがわからないと回答しています。
- ・キャッシュレス決済の利用状況について、週1回以上の利用が多いのはHOPマネーなどの流通系電子マネー（女性、50～60歳代中心）、PayPayなどのQR／バーコード決済（20歳代中心）やクレジットカード（30歳代中心）となっており、特にPayPayなどのQR／バーコード決済の普及率向上が顕著です。

8. 協働のまちづくりについて

- ・協働のまちづくりができていると思う人は2割近くで、できていると思わない人のほうが多くなっています。
- ・4割以上が、住民同士の助け合いはできていると回答しており、特に男性、60歳以上で半数前後と高くなっています。
- ・地域活動又はNPOやボランティア等の活動には、4割が何らかの形で参加していると回答しており、参加していないが関心はある人を加えると7割になります。年齢が上がるほど活動参加率や、参加していないが関心はある人の割合が向上する傾向があります。参加している活動内容としては、8割近くが自治会活動で、ボランティア活動も3割近く見られます。
- ・国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現については、6割近くが重要と回答しています。

9. 広報等の情報について

- ・市の情報の取得方法は、6割近くが「自治会回覧」や「広報ひがしおうみ」をあげています。
- ・「広報ひがしおうみ」は7割近くが読んでおり、3割は毎月読んでいます。年齢が上がるほど、読んでいる人の割合や読む頻度も上がる傾向があります。また、6割近くがその内容に満足しています。
- ・「広報ひがしおうみ」の配信方法は、「公共施設等に設置」が最もよく知られており、スマートフォン等のアプリ「マチイロ」や「カタログポケット」での閲覧はほとんど知られていません。実際に見たことがある人は、公共施設等に設置が3割近く、市ホームページが2割近く、スマートフォンアプリLINEが1割で、そのほかは1割未満となっています。
- ・「東近江市議会だより」は半数近くが読んでおり、年齢が上がるほど、読んでいる人の割合が高くなる傾向があります。
- ・「市議会本会議」の様子を見たことがある人は2割で、8割近くが「見たことがない」と回答して

います。視聴方法は、ケーブルテレビの生中継を視聴する人が2割近くとなっています。

10. 市役所のサービスに関して

- ・半数近くがデジタルサービスを利用したことがあり、そのうち3割は申請手続きがわかりづらい、操作が難しい・面倒などの問題点を感じていますが、その内容は年代別に異なっています。
- ・市役所職員の対応については、6割が良かったと回答しています。

4 調査票

令和7年度 東近江市 市民意識調査

◆アンケート調査への御協力をお願い◆

平素は東近江市政に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本市では、「うるおいとにぎわいのまち東近江市」を目指し、平成28年度に策定した「第2次東近江市総合計画」に基づき、まちづくりを進めています。

住みよいまちづくりを実現するため、皆さまの意識や生活スタイルなどの幅広い項目について御意見を聞かせいただきたく、市内にお住まいの18歳以上の市民の中から約3,000名を無作為に抽出し、アンケート調査を毎年実施しています。

また、「第2次東近江市総合計画」の計画期間が令和8年3月末で終了することから、現在、新たなまちづくりの指針となる次期総合計画の策定に向け取り組んでいるところです。その策定に当たっては、市民の皆さまの本市に対する思いを把握することが極めて重要と考えています。

皆さまにおかれましては御多用のことと存じますが、本調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、お答えいただきました内容につきましては、統計的に処理し、個人情報保護に関する法律に基づき適切に取り扱います。

令和7年7月

東近江市長 小椋 正清

アンケートの記入・返信について

- ・調査の回答は、封筒宛名の本人が記入してください。本人による回答(記入)が難しい場合は、家族の方が本人の意思を反映して、記入してください。
- ・回答は、質問にしたがって、あてはまる番号に○をつけてください。
- ・選択肢の中で「その他」に回答された場合は、()内に具体的な内容を記入してください。
- ・記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、令和7年8月4日(月)までに郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

アンケートに関する問い合わせ

東近江市企画部政策推進課

〒527-8527 東近江市八日市緑町10番5号

IP電話:050-5802-9950 電話:0748-24-5628

FAX:0748-24-1457

Eメール: seisui@city.higashiomi.lg.jp

※宛先は、令和7年7月1日現在の住民基本台帳から抽出しました。



令和7年度 東近江市 市民意識調査 調査票

1 あなた自身のことについておたずねします。

問1 性別《○1つ》	1. 男性	2. 女性		
問2 年齢《○1つ》	1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
	5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳以上	
問3 居住地区 《○1つ》	1. 平田地区	2. 市辺地区	3. 玉緒地区	
	4. 御園地区	5. 建部地区	6. 中野地区	
	7. 八日市地区	8. 南部地区	9. 永源寺地区	
	10. 五個荘地区	11. 愛東地区	12. 湖東地区	
	13. 能登川地区	14. 蒲生地区	15. わからない(町・丁目名)	

2 住みごちや愛着等についておたずねします。

問4 あなたは、東近江市の住みごちをどう思いますか。《○1つ》

1. 良い	2. どちらかといえば良い	3. どちらかといえば悪い
4. 悪い	5. わからない	

問5 あなたは、東近江市にずっと住み続けたいと思いますか。《○1つ》

1. 住み続けたい	2. 市外に転出したい	3. わからない
-----------	-------------	----------

問6 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

1. とても愛着がある	2. やや愛着がある	3. どちらともいえない
4. あまり愛着がない	5. 愛着がない	

問7 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

1. とても自慢できる	2. やや自慢できる	3. どちらともいえない
4. あまり自慢できない	5. 自慢できない	

問8 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山々から「鈴鹿10座」を選定し、鈴鹿山脈のすばらしさと存在意義を広く周知するとともに、市の知名度アップに取り組んでいます。

あなたは、「鈴鹿10座」を知っていますか。《○1つ》

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問9 あなたは、友人・知人に東近江市を紹介する場合、どのようなところを紹介しますか。《あてはまるものすべてに○》

1. 山や川、湖などの自然が楽しめるところ	2. 町なみ景観が楽しめるところ
3. 歴史・文化にふれられるところ	4. 食事や買い物が楽しめるところ
5. 観光農園や農業体験ができるところ	6. スポーツ施設や子どもが遊べる公園
7. その他()	

問 10 あなたは、この1年間で近江鉄道八日市駅周辺(市役所周辺を含む。)にどの程度訪れましたか。
《○1つ》

- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2～3回程度 | 3. 週に1回程度 |
| 4. 月に数回程度 | 5. 年に数回程度 | 6. 訪れていない |

問 11 あなたは、八日市駅周辺の中心市街地が活性化するには、どのようなお店や施設、イベントなどの開催が必要だと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1. 空店舗に新しい店が入る | 2. おしゃれな雑貨店が増える |
| 3. 駅前や歩道等の空間をオープンカフェなどに活用する | 4. 魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする |
| 5. マルシェなどのイベントを定期的で開催する | 6. イベントホールやテナントが入るビルをつくる |
| 7. 自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる | 8. 観光客が地元の名産品を買えるようにする |
| 9. 延命公園や清水川などの自然をいかして癒しの空間にする | 10. その他() |

3 健康や福祉についておたずねします。

問 12 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん(かかりつけ医)はいますか。《○1つ》

- | | | |
|---------------|---------------|--------|
| 1. 市内の医療機関にいる | 2. 市外の医療機関にいる | 3. いない |
|---------------|---------------|--------|

問 13 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

- | | | |
|------------|-------------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している | 3. どちらかといえば満足していない |
| 4. 満足していない | 5. わからない | |

問 14 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

- | | | |
|---------------|-----------------|-----------|
| 1. 取り組んでいる | 2. 取り組みたいと思っている | →問 14-1 へ |
| 3. 取り組むつもりはない | →問 14-2 へ | |

問 14-1 問 14 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方におたずねします。具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 運動をする | 2. 趣味(運動以外)の時間をつくる |
| 3. 休養を十分にとる | 4. 食事の量や質に注意する |
| 5. 睡眠を十分にとる | 6. 定期的に健康診査やがん検診を受ける |
| 7. 規則正しい生活をする | 8. たばこを控える又はやめる |
| 9. アルコールを控える又はやめる | 10. その他() |

問 14-2 問 14 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方におたずねします。その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. どのように取り組んだらよいかわからない | 2. 自分の健康づくりに興味、関心がない |
| 3. 取り組んでも効果が期待できない | 4. その他() |

問 15 あなたは、昨年度次の5つのがん検診を受診しましたか。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

	市の検診を受けた	職場の検診を受けた	個人的に受けた (人間ドックなど)	受けなかった	検診の対象ではなかった
① 大腸がん検診 (40 歳以上の男女、1年に1回)	1	2	3	4	5
② 肺がん検診 (40 歳以上の男女、1年に1回)	1	2	3	4	5
③ 胃がん検診 (50 歳以上の男女、2年に1回)	1	2	3	4	5
④ 子宮頸がん検診 (20 歳以上の女性、2年に1回)	1	2	3	4	5
⑤ 乳がん検診 (40 歳以上の女性、2年に1回)	1	2	3	4	5

※厚生労働省のがん検診実施のための指針に基づく対象者と実施回数を記載しています。

問 16 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

1. 毎日食べる	2. 週4～5日食べる	→問 16-1 へ
3. 週2～3日食べる	4. ほとんど食べない	

問 16-1 問 16 で「2. 週4～5日食べる」「3. 週2～3日食べる」「4. ほとんど食べない」とお答えの方におたずねします。

食べない日がある理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

1. 食欲がないから	2. 太りたくないから
3. 食べる時間がないから	4. 以前から食べる習慣がないから
5. 朝食を用意するのが面倒だから	6. その他()

問 17 あなたは、朝食で「①主食」「②主菜」「③副菜」を食べることが週にどの程度ありますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

	ほぼ毎日食べる	週に4～5日食べる	週に2～3日食べる	ほとんど食べない
① 主食 (ごはん、パン、めんなどの料理)	1	2	3	4
② 主菜 (魚介類、肉類、卵類、大豆、大豆製品を主材料にした料理)	1	2	3	4
③ 副菜 (野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理)	1	2	3	4

問18 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか(運動には、散歩やラジオ体操といった簡単に体を動かすものも含まれます。)。《○1つ》

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 週3回以上 | 2. 週1～2回 |
| 3. 月1～2回程度 | 4. ほとんどしていない |

問19 あなたはこの1箇月間に、不安、悩み、ストレスを感じましたか。《○1つ》

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1. 大いにある | 2. 多少ある | →問19-1へ |
| 3. あまりない | 4. まったくない | 5. わからない |

問19-1 問19で「1. 大いにある」「2. 多少ある」とお答えの方におたずねします。
あなたの不安、悩み、ストレスの原因は何ですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | | |
|-----------|-------------|---------------|
| 1. 経済的なこと | 2. 仕事のこと | 3. 人間関係(家族以外) |
| 4. 家族関係 | 5. 子育てに関する事 | 6. 親の介護に関する事 |
| 7. 自分の健康 | 8. 家族の健康 | 9. その他() |

問20 あなたの不安や悩み、ストレスは解消できていますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. うまくできている | 2. ある程度できている |
| 3. あまりできていない | 4. まったくできていない |

問21 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|--------------|--------------|
| 1. かなり進んできた | 2. ある程度進んできた | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり進んできたとは思わない | 5. 進んでいない | 6. わからない |

問22 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. スポーツや文化活動で地域交流を深める | 2. 障害者に関するイベントを充実する |
| 3. 市民対象の福祉講座や講演会を開催する | 4. 福祉施設を地域に開放し交流を図る |
| 5. グループホームを地域の中につくる | 6. 子どもたちへの人権・福祉教育を充実する |
| 7. 障害者団体や関係グループの活動をPRする | 8. ボランティアの育成を図る |
| 9. 障害者も使いやすい施設をつくる | 10. 障害者がまちに出かけやすい整備を進める |
| 11. わからない | 12. その他() |

4 環境や暮らしについておたずねします。

問 23 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない | 6. わからない |

問 24 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然との関わりを感じていますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. 感じている | 2. どちらかといえば感じている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば感じていない | 5. 感じていない | 6. わからない |

問 25 あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか(節電や節水、太陽光発電等の設置、省エネ機器への買換え、自転車や公共交通機関の利用等)。《○1つ》

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 常に取り組んでいる | 2. ときどき取り組んでいる |
| 3. 取り組んでいない | 4. 取り組もうと思わない |
| 5. わからない | |

問 26 あなたは、東近江市の働く場所(希望する業種・職種)について、どのように考えていますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 十分にある | 2. どちらかといえば十分にある |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば十分でない |
| 5. 十分でない | 6. わからない |

問 27 あなたは次のような分野で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
① 職場の中で	1	2	3	4	5	6
② 地域社会の中で	1	2	3	4	5	6
③ 社会全体の中で	1	2	3	4	5	6

問 28 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれたときや、多重債務に陥ったときの相談窓口として、東近江市消費生活センターがあることを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 29 あなたは、市役所内の市民生活相談課で、暮らしの困りごとに関して弁護士による法律相談や司法書士による登記・相続相談等を受けられることを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 30 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない | 6. わからない |

問 31 市内には近江鉄道の駅が13箇所あり、全線を将来にわたって存続させていくために、令和6年4月1日から公有民営方式による上下分離の新たな運行形態に移行しました。
あなたは、近江鉄道線についてどう感じていますか。《○1つ》

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 重要であると感じる | 2. 重要でないと感じる |
| 3. 重要であるが利便性等の改善が必要と感じる | 4. その他() |

問 32 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

- | | | | |
|--------------|--------------|----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週1～2日 | 3. 月1～2日 | →問 32-1 へ |
| 4. ほとんど利用しない | 5. 利用したことはない | | |

問 32-1 問 32 で「1. ほぼ毎日」「2. 週1～2日」「3. 月1～2日」とお答えの方におたずねします。
近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○1つ》

- | | | | |
|----------|-------|-----------|-------|
| 1. 通勤・通学 | 2. 仕事 | 3. 買物 | 4. 通院 |
| 5. 遊び・趣味 | 6. 観光 | 7. その他() | |

問 33 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 水や食料を3日以上備蓄 | 2. 携帯トイレや衛生用品等を3日以上備蓄 |
| 3. 非常持ち出し袋の準備 | 4. 家具の転倒防止 |
| 5. 地域の防災訓練に参加 | 6. 一時集合場所や避難所を家族で確認 |
| 7. 安否連絡方法を家族で確認 | 8. 特に何もしていない |
| 9. その他() | |

5 子育てや教育についておたずねします。

問 34 あなたは、東近江市は子育てをするのに良い環境であると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 5. そう思わない | 6. わからない |

問 35 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. できている | 2. どちらかといえばできている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 36 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない	5. そう思わない	6. わからない

問 37 あなたは、この1年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

1. 職場の講演や研修に参加した	2. 市の講座や講演に参加した
3. 地区の講座や講演に参加した	4. 自治会の町別懇談会に参加した
5. 参加していない	6. その他()

6 都市整備についておたずねします。

問 38 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

	満足	どちらかとい えば満足	どちらとも いえない	どちらかとい えば不満	不満	わからない
① 主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
② 地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
③ 河川の整備(一級河川等)	1	2	3	4	5	6
④ 雨水排水の整備(身近な水路等)	1	2	3	4	5	6
⑤ 公園の整備(広場、遊び場等)	1	2	3	4	5	6

7 購買状況等についておたずねします。

問 39 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入しますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

	東 近 江 市 内	近 江 八 幡 市	彦 根 市	甲 賀 市	県 内 市 町 其 他	県 外	カ タ ロ グ 通 販	シ ョ ッ ピ ン グ ネ ッ ト	其 他
① 食品	1	2	3	4	5	6	7	8	9
② 日用雑貨品	1	2	3	4	5	6	7	8	9
③ 衣料品	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問 40 あなたの家庭では野菜等を購入するとき、主に何を基準に選んでいますか(自作している方も不足する野菜を購入する場合)。《○1つ》

1. 金額	2. 鮮度	3. 安全・安心
4. 調理の利便性(カット済み、洗浄済み等)	5. 見た目	6. 大きさ
7. 産地(市内、県内産等)	8. わからない	9. その他()

問 41 あなたの家庭では、市内の農産物直売所(青空市、無人販売所を含む。)を利用しますか。《○1つ》

1. よく利用する(週に1回以上)	2. 利用する(月に1~3回程度)
3. たまに利用する(年間数回程度)	4. 利用しない
5. 市内の直売所は利用しないが市外の直売所を利用している	6. 直売所がどこにあるのか知らない
7. わからない	8. その他()

問 42 あなたはこれまでに東近江市三方よし商品券(地域商品券)を利用したことがありますか。《○1つ》

1. 利用したことがある	2. 利用したことがない
--------------	--------------

問 43 東近江市三方よし商品券が電子支払い(専用のスマホアプリ)も可能となった場合、利用したいと思いますか。《○1つ》

1. 利用したいと思います	2. 利用したいと思わない	3. わからない
---------------	---------------	----------

問 44 あなたは、次のキャッシュレス決済をどの程度利用していますか。《①~⑥それぞれの項目に○1つ》

	週に2回以上	週に1回程度	月に1~3回程度	年に数回程度	利用していない
① クレジットカード	1	2	3	4	5
② デビットカード	1	2	3	4	5
③ QR/バーコード決済(PayPay など)	1	2	3	4	5
④ 流通系電子マネー(HOP マネー、WAON、nanaco など)	1	2	3	4	5
⑤ 交通系電子マネー(ICOCA、PiTaPa など) ※電車やバス等の交通機関での利用を除く	1	2	3	4	5
⑥ その他()	1	2	3	4	5

8 協働のまちづくりについておたずねします。

問 45 あなたは、市民や行政、地域の人たちが、このまちをより良くしていくために、一緒に話し合ったり、協力して活動したりすることができていると感じますか。《○1つ》

- | | | |
|--------------|-----------|--------------|
| 1. とてもそう思う | 2. そう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまりそう思わない | 5. そう思わない | 6. わからない |

問 46 あなたの身近な地域では、住民同士の助け合いができていますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. できている | 2. どちらかといえばできている |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばできていない |
| 5. できていない | 6. わからない |

問 47 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

- | | |
|---------------------|-----------------------------------|
| 1. 活動の企画や運営に参加している | 2. 定期的に参加している →問 47-1 へ |
| 3. ときどき参加する(年に数回程度) | 4. 情報発信、SNSで応援、寄附など間接的に
関与している |
| 5. 参加していないが、関心はある | 6. 参加しておらず、関心もない |

問 47-1 問 47 で「1. 活動の企画や運営に参加している」「2. 定期的に参加している」とお答えの方におたずねします。この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 自治会活動 | 2. まちづくり協議会の活動 |
| 3. NPOの活動 | 4. ボランティア活動 |
| 5. その他() | |

問 48 あなたは、国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現についてどう思いますか。《○1つ》

- | | | |
|----------------|------------------|--------------|
| 1. 重要と思う | 2. どちらかといえば重要と思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり重要とは思わない | 5. 重要とは思わない | 6. わからない |

9 広報等の情報についておたずねします。

問 49 あなたは、市の情報(お知らせ)を主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 広報ひがしおうみ | 2. 新聞 |
| 3. 自治会回覧 | 4. 公共施設に設置してあるチラシ |
| 5. 市ホームページ | 6. ケーブルテレビ(東近江スマイルネット) |
| 7. 防災情報告知放送システム | 8. ラジオ(FMひがしおうみ) |
| 9. スマートフォン等のアプリ「LINE」 | 10. その他() |

問 50 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

- | | | |
|------------|--------------------|-----------|
| 1. 毎月読んでいる | 2. たまに読んでいる | →問 50-1 へ |
| 3. 読んでいない | 4. 「広報ひがしおうみ」を知らない | |

問 50-1 問 50 で「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方におたずねします。
あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない | |

問 51 「広報ひがしおうみ」は、毎月新聞折込みによる配布のほかに次の方法で配信等を行っています。
あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

	見たことがある	知っているが 見たことはない	知らない
① 市ホームページで閲覧	1	2	3
② スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧	1	2	3
③ スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧	1	2	3
④ スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧	1	2	3
⑤ 公共施設等(市役所、図書館、コミュニティセンター等)に設置	1	2	3

問 52 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. 毎号読んでいる | 2. たまに読んでいる |
| 3. 読んでいない | 4. 「東近江市議会だより」を知らない |

問 53 あなたは、「市議会本会議」の様子を次のいずれかの方法で見たことがありますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1. 本会議の傍聴 | 2. ケーブルテレビ(東近江スマイルネット)の生中継 |
| 3. インターネットのライブ配信(生中継) | 4. インターネットの録画配信 |
| 5. 見たことがない | |

10 市役所のサービスに関しておたずねします。

問 54 市役所のオンライン手続きや予約、LINE・ホームページなどのデジタルサービスについて、あてはまるものをすべて選んでください。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1. オンラインで手続きしたが、結局、窓口に行く必要があった | 2. スマホでの操作が利用しづらいと感じた |
| 3. 手続きの途中でつまずいた | 4. 必要な書類や手順が多くて面倒だった |
| 5. ログインや本人確認が難しかった | 6. 何をどこで申請すればよいのかわかりづらい |
| 7. 利用したいサービスがオンライン対応していなかった | 8. オンラインで手続きができることを知らなかった |
| 9. 自分には必要ないと感じた | 10. デジタルサービスを利用したことがない |
| 11. 使いやすく、わかりやすいと感じた | 12. 特に困ったことはない |

問 55 この1年間に、市役所(支所・出張所を含む)の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応はどのように感じましたか。《○1つ》

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 1. 良かった | 2. どちらかといえば良かった |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば悪かった |
| 5. 悪かった | 6. 利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない |

11 まちづくりに対する意見等についておたずねします。

問 56 東近江市のまちづくりについて、意見や提案等がありましたら御記入ください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

調査に御協力いただき、ありがとうございました。
調査票を返信用封筒に入れ、8月4日(月)までにポストに投函してください。

令和7年度 市民意識調査結果報告書

発行年月 令和8年3月

発行 東近江市 企画部 政策推進課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町 10 番5号

IP電話:050-5802-9950 電話:0748-24-5628